

第3章

介護人財の確保・定着等に関する

アンケート調査

第1節 介護サービス事業所調査

第3章

第1節 介護サービス事業所調査

1. 調査の概要

(1) 目的

介護分野の事業所を対象に、介護労働者の雇用管理の状況、事業所運営上の課題、市への要望等を把握し、介護人財の確保・定着等の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。（注：三鷹市では「人材」ではなく、「人財」と表記している。）

(2) 調査対象

令和7年（2025年）10月1日時点で三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する介護サービス事業所及び市内の地域密着型サービス事業所を対象とした。ただし、福祉用具貸与・販売又は居宅療養管理指導のみを実施する事業所は、対象から除外した。同一法人が同一敷地内で複数の介護サービスを実施している場合は、それらを全て合わせて一つの事業所として回答してもらった。上記の選定基準により、対象となった事業所数は、150事業所であった。

(3) 調査方法

郵送により依頼状の配付を行い、インターネットで回収を行った。インターネットでの回答が難しい事業所に対しては郵送により調査票の配付・回収を行った。調査票の回答・記入は、管理者等、事業所の状況を熟知している者に依頼した。

(4) 実施期間

令和7年（2025年）10月20日～11月17日（11月24日までの回答分は回収に含めた。）

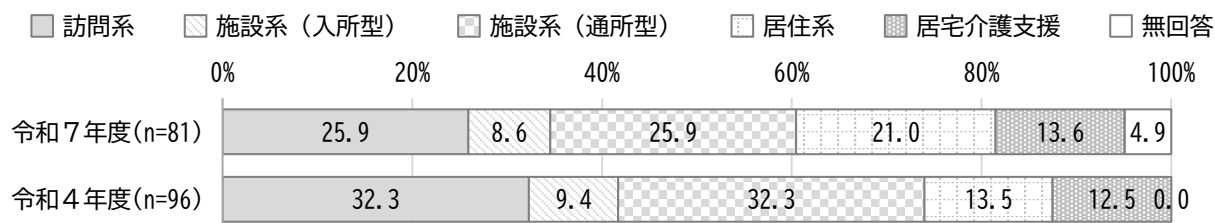
(5) 回収状況

有効回収数： 81票 （回収率 54.0%）

2. 回答事業所の属性

令和7年度では、「訪問系」「施設系（通所型）」が25.9%で最も高く、次いで、「居住系」が21.0%となっている。「居住系」は、令和4年度の13.5%より7.5ポイント増加している。

（複数回答）



注) 介護保険サービス系別の区分

本報告書では、事業所を主な介護サービスの種類によって「介護労働実態調査」における「介護保険サービス系型」に則して分類した。「介護労働実態調査」とは、公益財団法人介護労働安定センターが実施する令和6年度介護労働実態調査で、本調査結果の比較対照として参照した。

「介護労働実態調査」における「介護保険サービス系型」を下記に示す。

訪問系	訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護
施設系（入所型）	短期入所生活介護、短期入所療養介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院（介護療養型医療施設）
施設系（通所型）	通所介護、通所リハビリテーション、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護
居住系	特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護
居宅介護支援	居宅介護支援

3. 三鷹市への要望

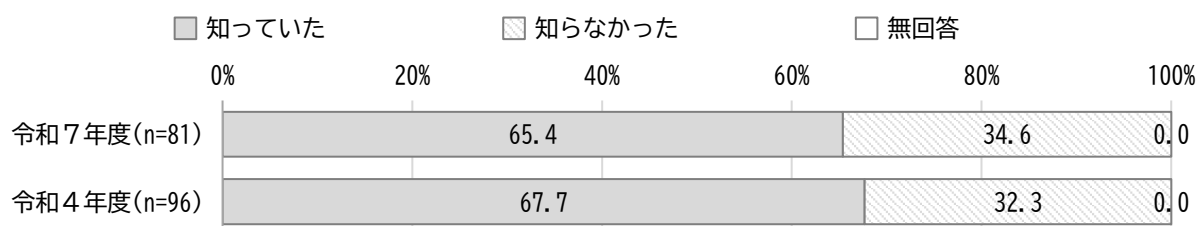
(1) 市の事業の周知度、意見

問1 介護人材の確保・定着・育成のためのこれらの事業をご存知でしたか。貴事業所の介護人材確保・定着・育成に役に立つと思いますか。

1. 介護職員初任者研修費補助事業

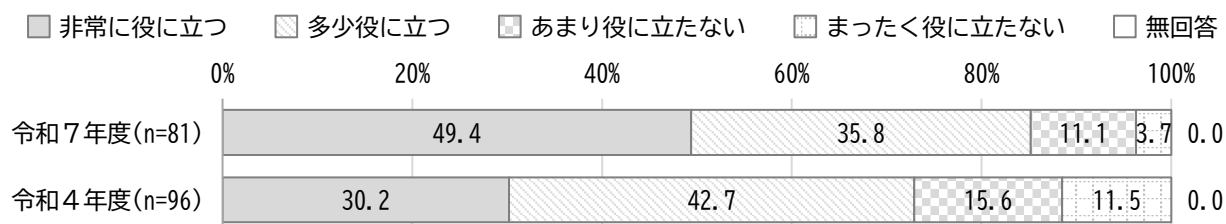
【認知度】(単数回答)

令和7年度では、「知っていた」が65.4%、「知らなかった」が34.6%であった。



【有用度】(単数回答)

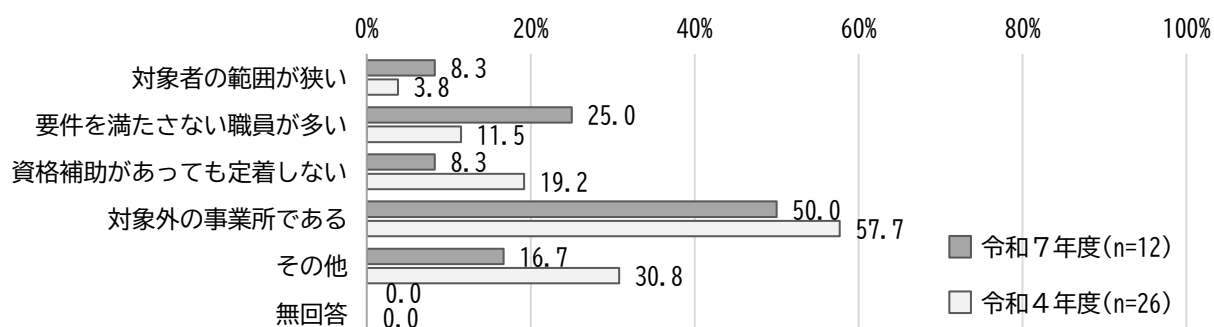
令和7年度では、「非常に役に立つ」が49.4%で最も高く、次いで、「多少役に立つ」が35.8%、「あまり役に立たない」が11.1%となっている。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	49.4%	35.8%	11.1%	3.7%	0.0%
訪問系	21	33.3%	47.6%	9.5%	9.5%	0.0%
施設系(入所型)	7	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	21	57.1%	23.8%	19.0%	0.0%	0.0%
居住系	17	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	63.6%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%

【役に立たない理由】(複数回答)

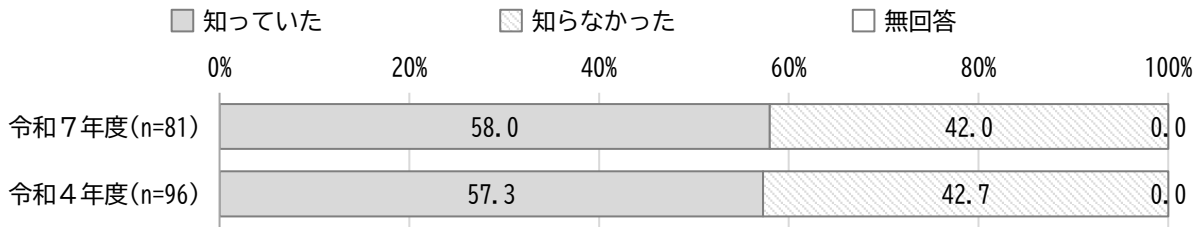
令和7年度(n=12)では、「対象外の事業所である」が50.0%で最も高く、次いで、「要件を満たさない職員が多い」が25.0%、「その他」が16.7%となっている。



2. 介護福祉士実務者研修費補助事業

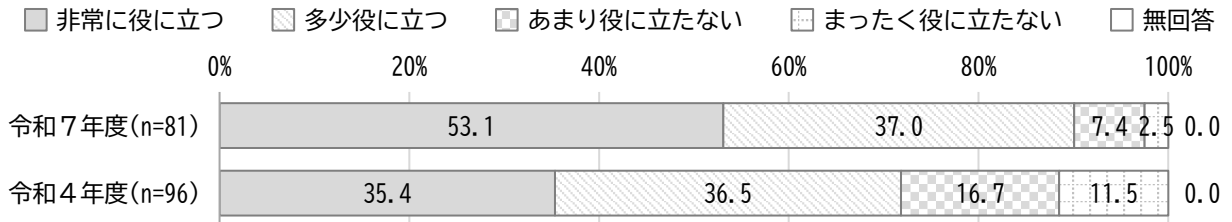
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が58.0%、「知らなかった」が42.0%であった。



【有用度】（単数回答）

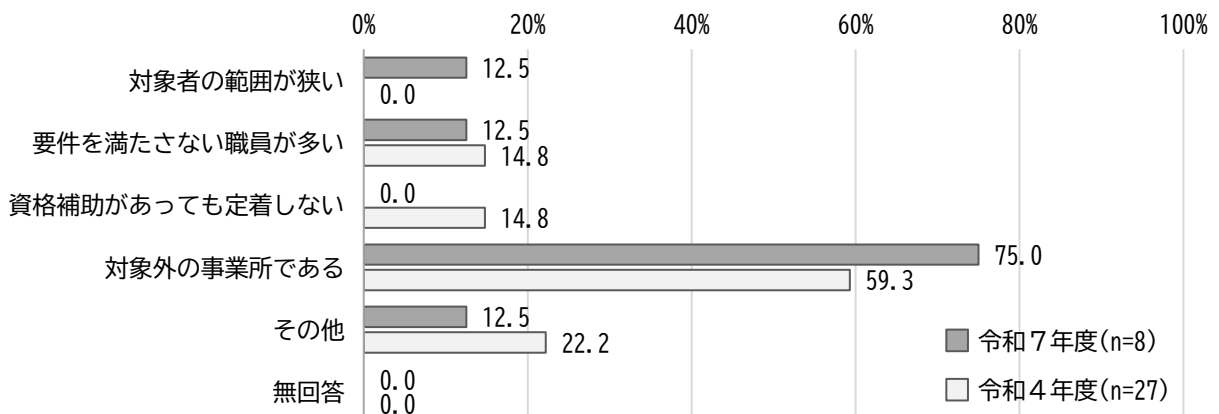
令和7年度では、「非常に役に立つ」が53.1%で最も高く、次いで「多少役に立つ」が37.0%、「あまり役に立たない」が7.4%となっている。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	53.1%	37.0%	7.4%	2.5%	0.0%
訪問系	21	42.9%	42.9%	4.8%	9.5%	0.0%
施設系（入所型）	7	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	21	61.9%	33.3%	4.8%	0.0%	0.0%
居住系	17	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

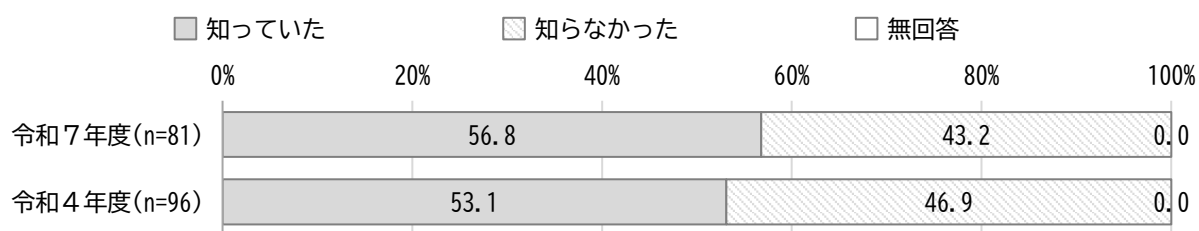
令和7年度(n=8)では、「対象外の事業所である」が75.0%で最も高く、次いで、「対象者の範囲が狭い」「要件を満たさない職員が多い」が12.5%となっている。



3. 介護福祉士資格取得費補助事業

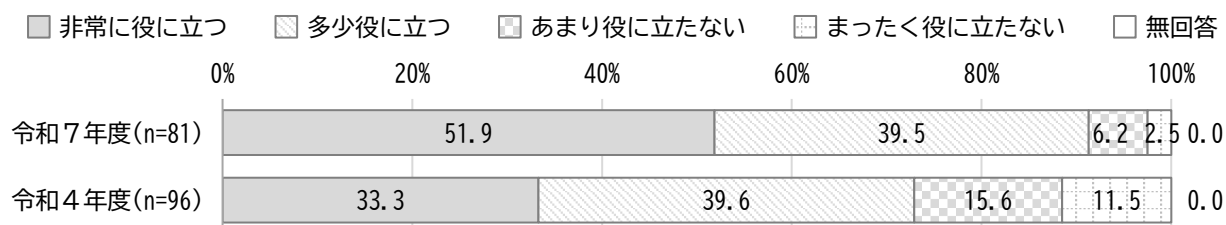
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が56.8%、「知らなかった」が43.2%であった。



【有用度】（単数回答）

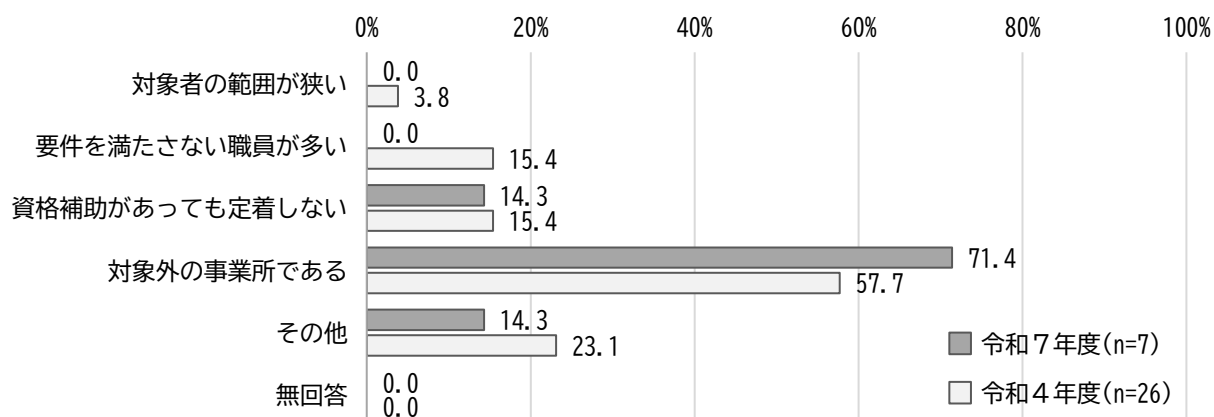
令和7年度では、「非常に役に立つ」が51.9%で最も高く、次いで、「多少役に立つ」が39.5%、「あまり役に立たない」が6.2%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	51.9%	39.5%	6.2%	2.5%	0.0%
訪問系	21	38.1%	47.6%	4.8%	9.5%	0.0%
施設系（入所型）	7	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	21	61.9%	33.3%	4.8%	0.0%	0.0%
居住系	17	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

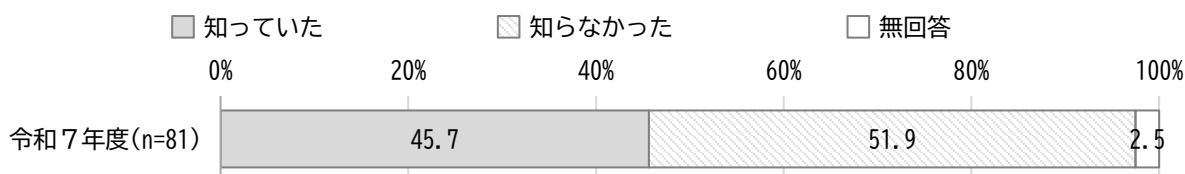
令和7年度(n=7)では、「対象外の事業所である」が71.4%で最も高く、次いで、「資格補助があっても定着しない」「その他」が14.3%であった。



4. 居宅介護支援事業所等人財確保・定着支援事業

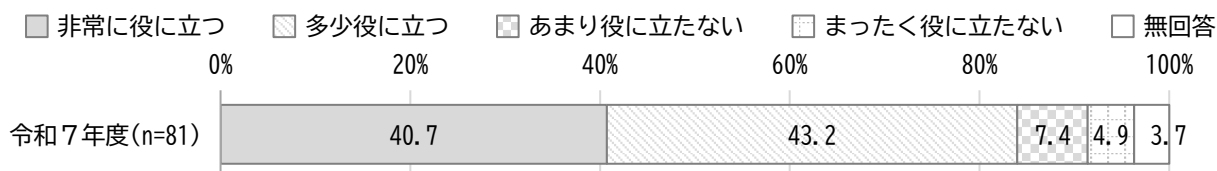
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が45.7%、「知らなかった」が51.9%であった。



【有用度】（単数回答）

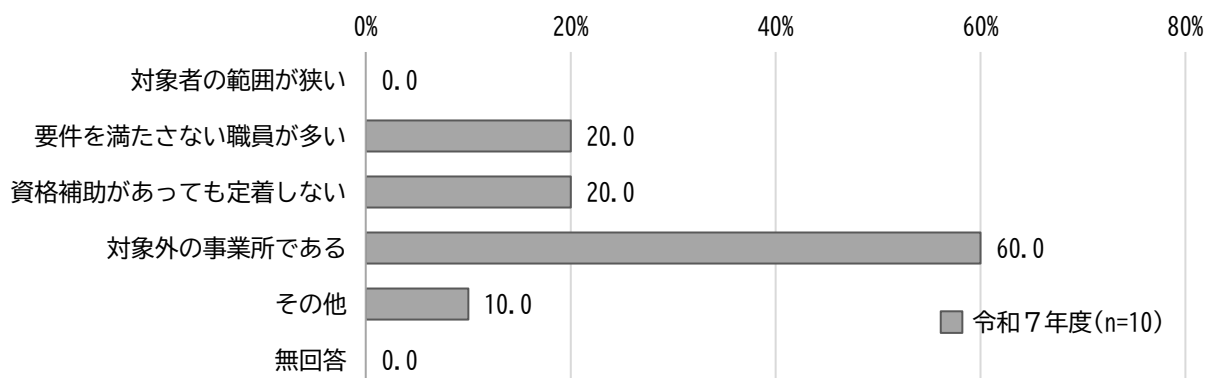
令和7年度では、「多少役に立つ」が43.2%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が40.7%、「あまり役に立たない」が7.4%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	40.7%	43.2%	7.4%	4.9%	3.7%
訪問系	21	38.1%	42.9%	4.8%	14.3%	0.0%
施設系（入所型）	7	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	21	42.9%	38.1%	9.5%	4.8%	4.8%
居住系	17	41.2%	41.2%	5.9%	0.0%	11.8%
居宅介護支援	11	36.4%	45.5%	18.2%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

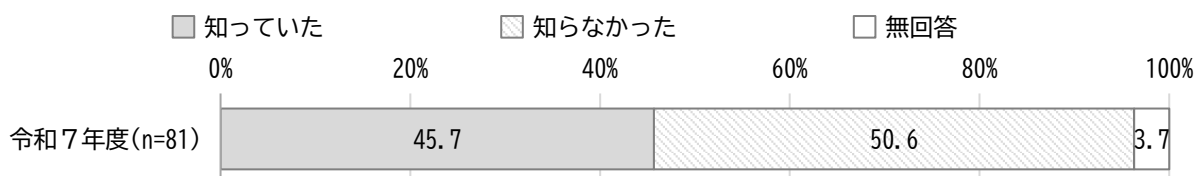
令和7年度(n=10)では、「対象外の事業所である」が60.0%で最も高く、次いで、「要件を満たさない職員が多い」「資格補助があっても定着しない」が20.0%であった。



5. 居宅介護支援事業所等人財育成支援事業

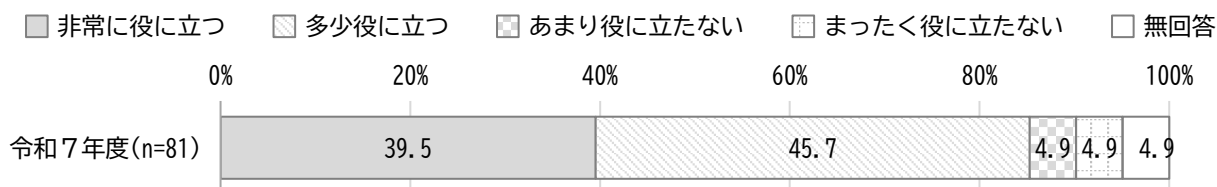
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が45.7%、「知らなかった」が50.6%であった。



【有用度】（単数回答）

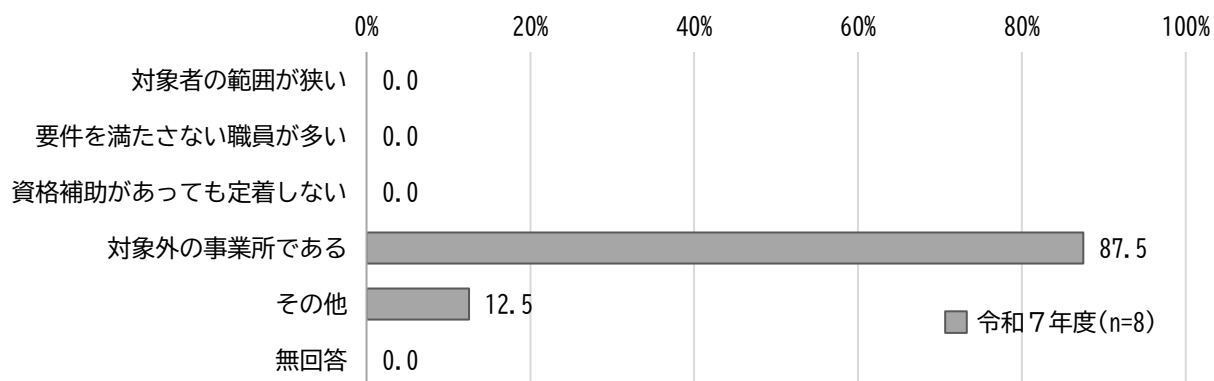
令和7年度では、「多少役に立つ」が45.7%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が39.5%、「あまり役に立たない」が4.9%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	39.5%	45.7%	4.9%	4.9%	4.9%
訪問系	21	42.9%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%
施設系（入所型）	7	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	47.6%	33.3%	9.5%	4.8%	4.8%
居住系	17	29.4%	52.9%	5.9%	0.0%	11.8%
居宅介護支援	11	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

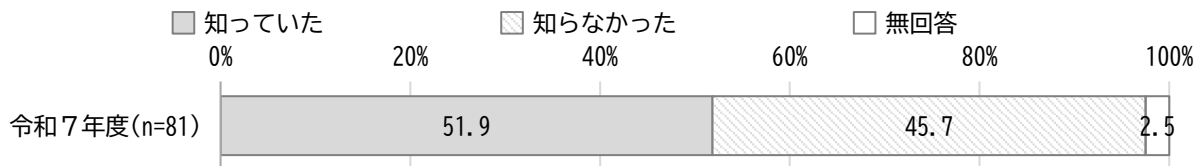
令和7年度(n=8)では、「対象外の事業所である」が87.5%で最も高く、次いで、「その他」が12.5%であった。



6. 介護事業者地域連携推進事業

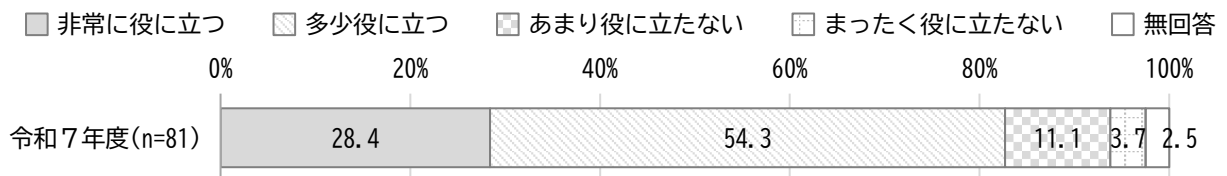
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が51.9%、「知らなかった」が45.7%であった。



【有用度】（単数回答）

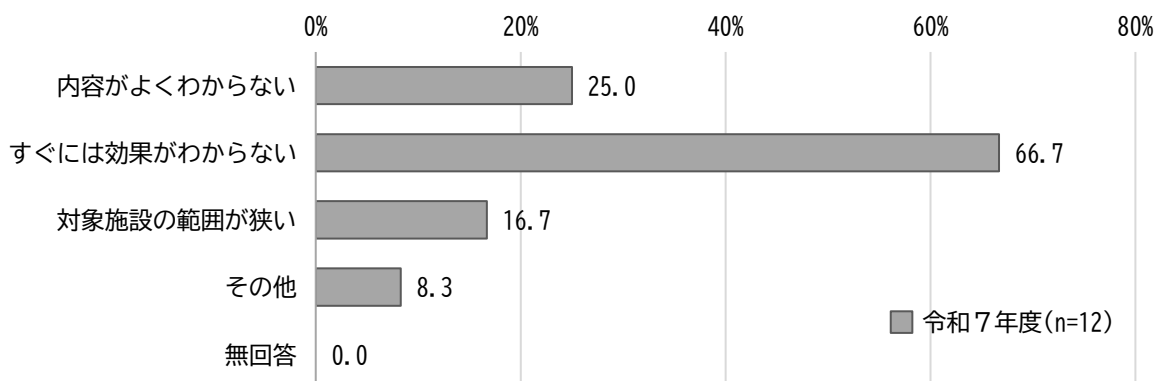
令和7年度では、「多少役に立つ」が54.3%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が28.4%、「あまり役に立たない」が11.1%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	28.4%	54.3%	11.1%	3.7%	2.5%
訪問系	21	23.8%	52.4%	14.3%	9.5%	0.0%
施設系（入所型）	7	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	23.8%	61.9%	14.3%	0.0%	0.0%
居住系	17	23.5%	58.8%	11.8%	0.0%	5.9%
居宅介護支援	11	45.5%	45.5%	0.0%	9.1%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

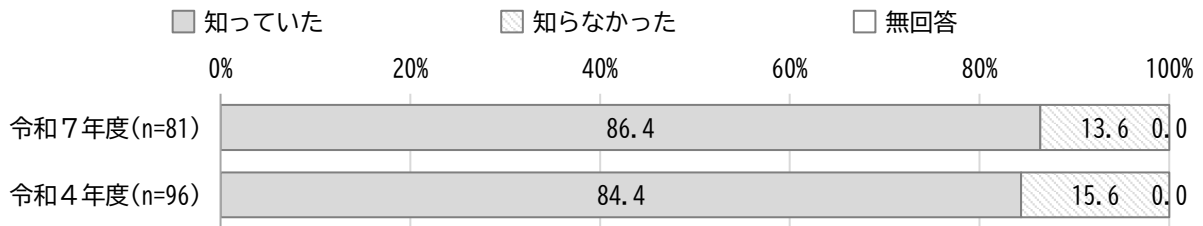
令和7年度(n=12)では、「すぐには効果がわからない」が66.7%で最も高く、次いで、「内容がよくわからない」が25.0%、「対象施設の範囲が狭い」が16.7%であった。



7. 介護職員等永年勤続表彰事業

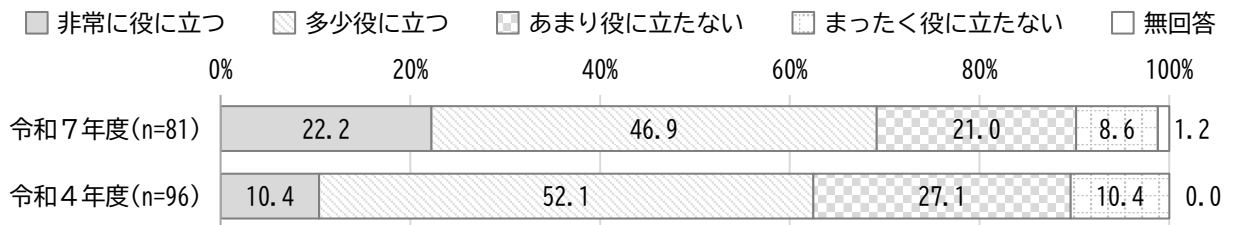
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が86.4%、「知らなかった」が13.6%であった。



【有用度】（単数回答）

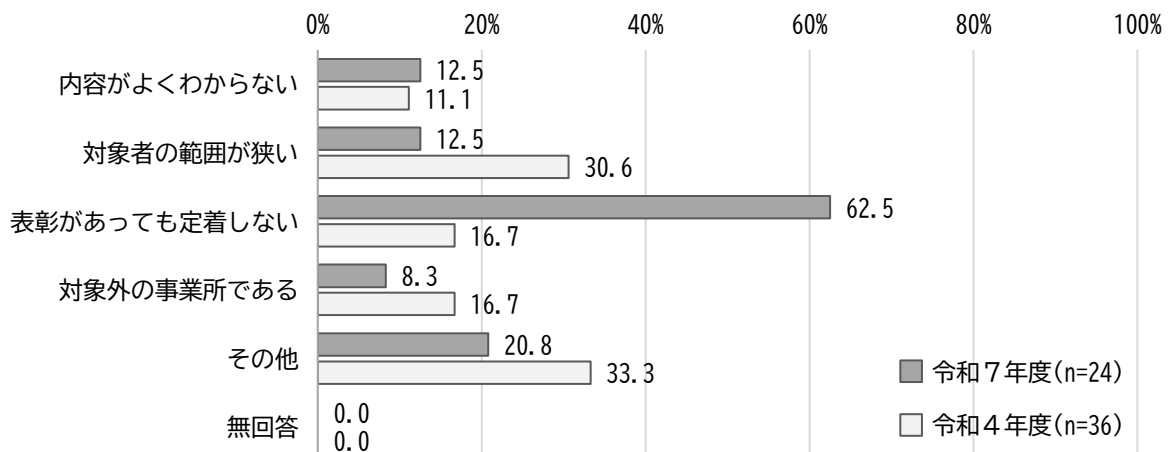
令和7年度では、「多少役に立つ」が46.9%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が22.2%、「あまり役に立たない」が21.0%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	22.2%	46.9%	21.0%	8.6%	1.2%
訪問系	21	23.8%	42.9%	19.0%	14.3%	0.0%
施設系（入所型）	7	42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	9.5%	57.1%	28.6%	4.8%	0.0%
居住系	17	29.4%	41.2%	23.5%	5.9%	0.0%
居宅介護支援	11	18.2%	45.5%	18.2%	18.2%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

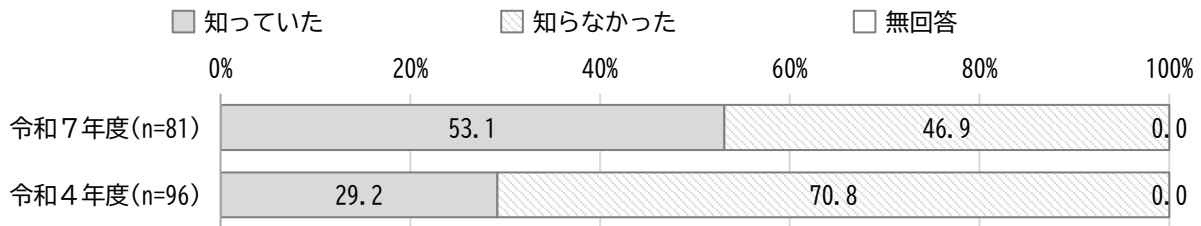
令和7年度(n=24)では、「表彰があっても定着しない」が62.5%で最も高く、次いで、「その他」が20.8%、「内容がよくわからない」「対象者の範囲が狭い」が12.5%であった。



8. 夏休み介護施設等体験事業

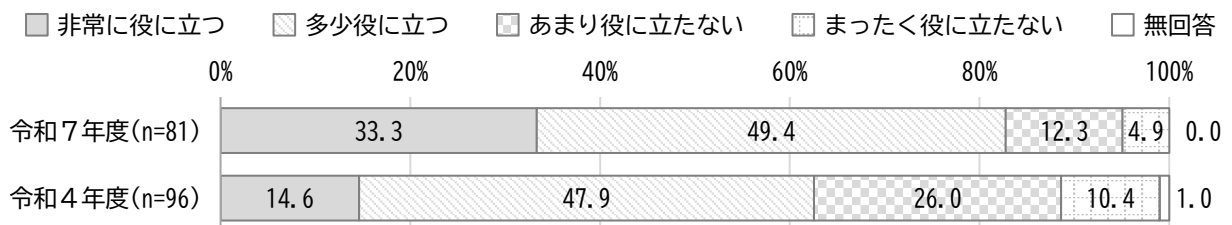
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が53.1%、「知らなかった」が46.9%であった。



【有用度】（単数回答）

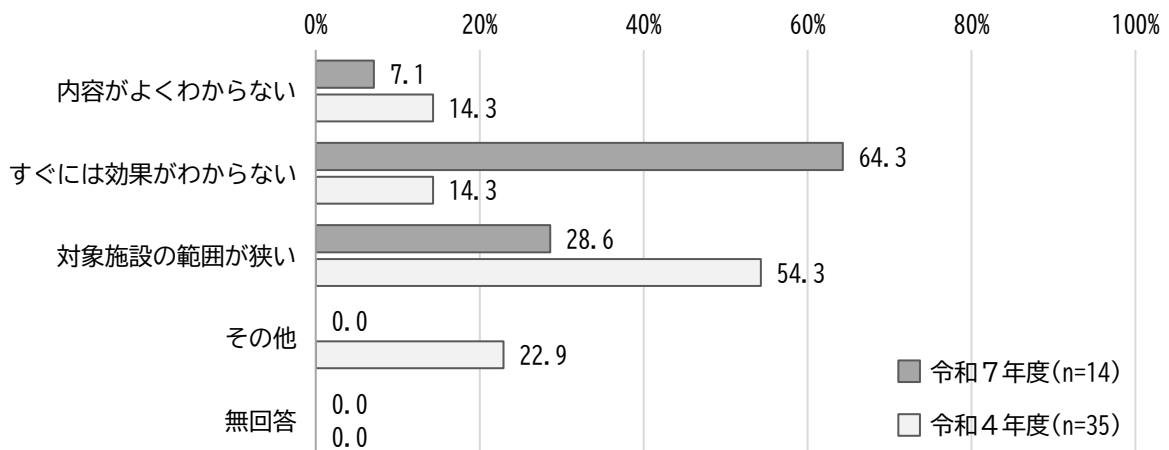
令和7年度では、「多少役に立つ」が49.4%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が33.3%、「あまり役に立たない」が12.3%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	33.3%	49.4%	12.3%	4.9%	0.0%
訪問系	21	23.8%	57.1%	0.0%	19.0%	0.0%
施設系（入所型）	7	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	21	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%
居住系	17	52.9%	29.4%	17.6%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

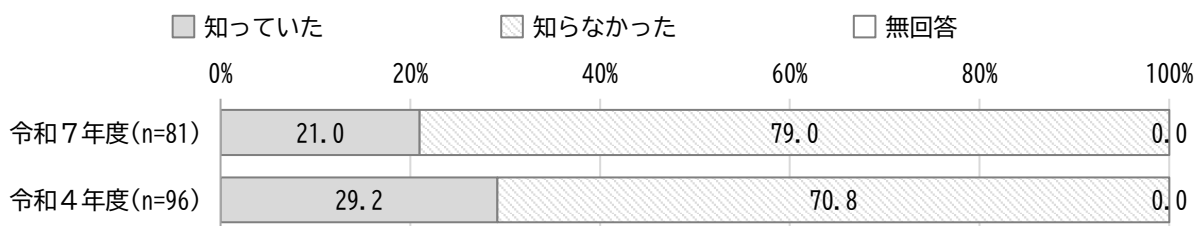
令和7年度(n=14)では、「すぐには効果がわからない」が64.3%で最も高く、次いで、「対象施設の範囲が狭い」が28.6%、「内容がよくわからない」が7.1%であった。



9. 保育園優先入所

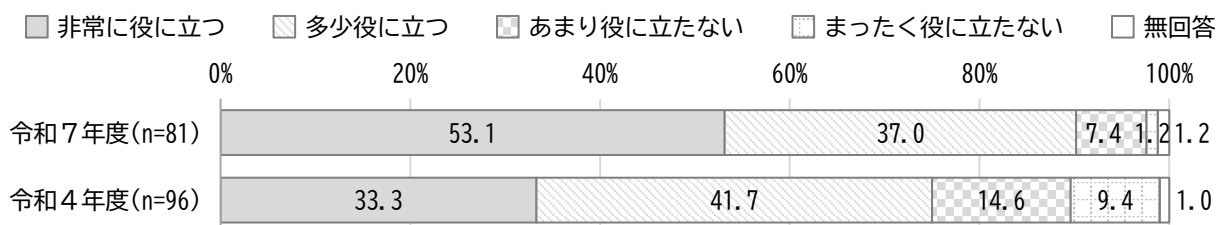
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が21.0%、「知らなかった」が79.0%であった。



【有用度】（単数回答）

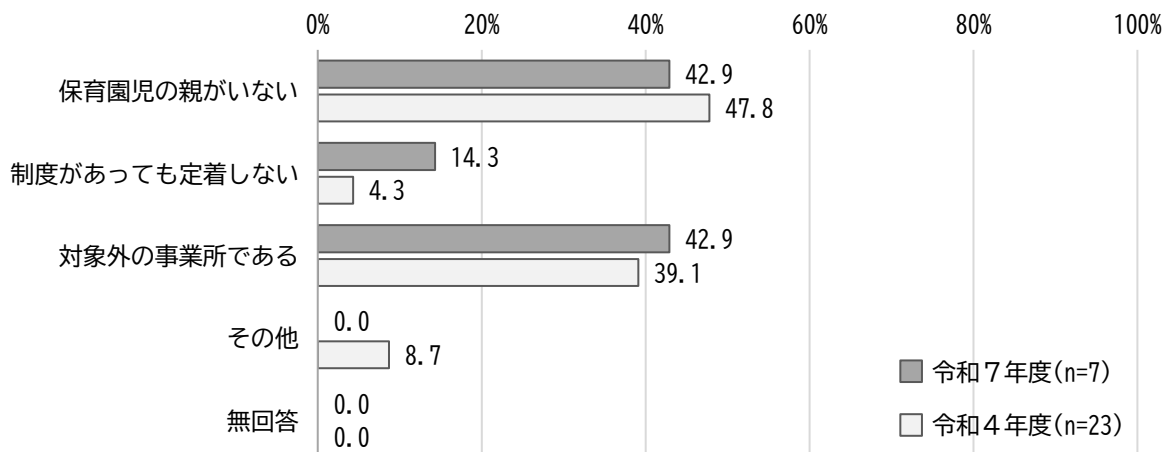
令和7年度では、「非常に役に立つ」が53.1%で最も高く、次いで、「多少役に立つ」が37.0%、「あまり役に立たない」が7.4%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	53.1%	37.0%	7.4%	1.2%	1.2%
訪問系	21	38.1%	47.6%	9.5%	4.8%	0.0%
施設系（入所型）	7	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
居住系	17	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

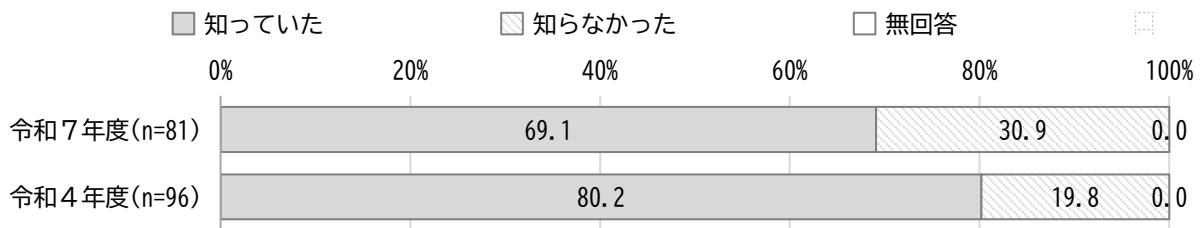
令和7年度(n=7)では、「保育園児の親がない」「対象外の事業所である」が42.9%で最も高く、次いで、「制度があっても定着しない」が14.3%であった。



10. 介護職員向け研修事業

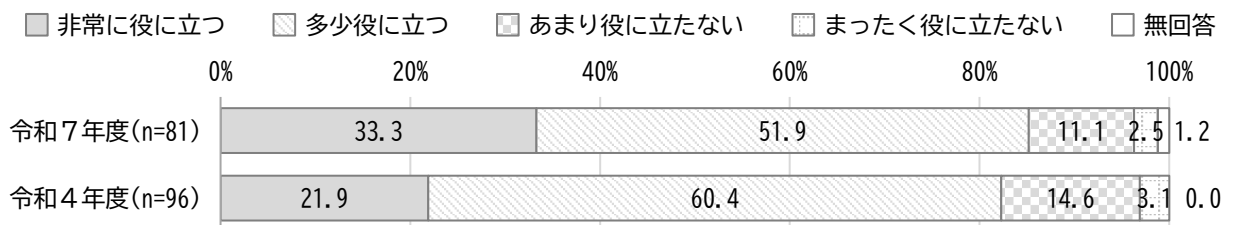
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が69.1%、「知らなかった」が30.9%であった。



【有用度】（単数回答）

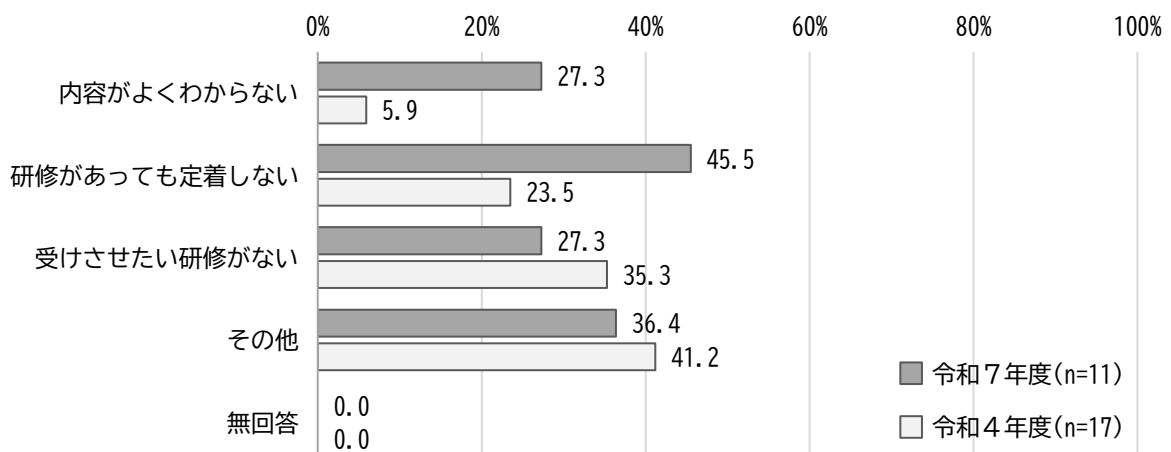
令和7年度では、「多少役に立つ」が51.9%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が33.3%、「あまり役に立たない」が11.1%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	33.3%	51.9%	11.1%	2.5%	1.2%
訪問系	21	19.0%	61.9%	9.5%	9.5%	0.0%
施設系（入所型）	7	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	28.6%	47.6%	23.8%	0.0%	0.0%
居住系	17	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	45.5%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

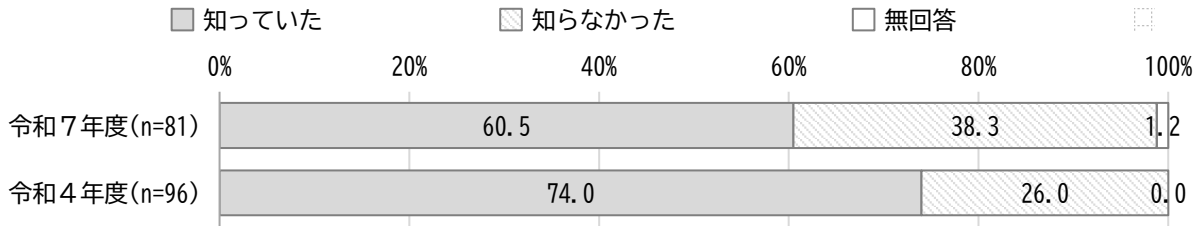
令和7年度(n=11)では、「研修があっても定着しない」が45.5%で最も高く、次いで、「その他」が36.4%、「内容がよくわからない」「受けさせたい研修がない」が27.3%であった。



11. 介護ロボット等導入支援事業

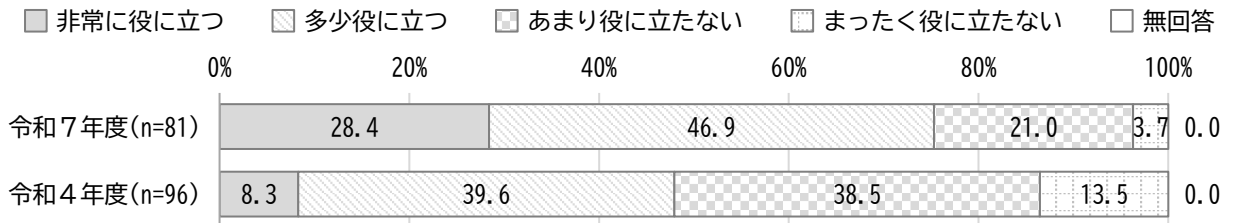
【認知度】（単数回答）

令和7年度では、「知っていた」が60.5%、「知らなかった」が38.3%であった。



【有用度】（単数回答）

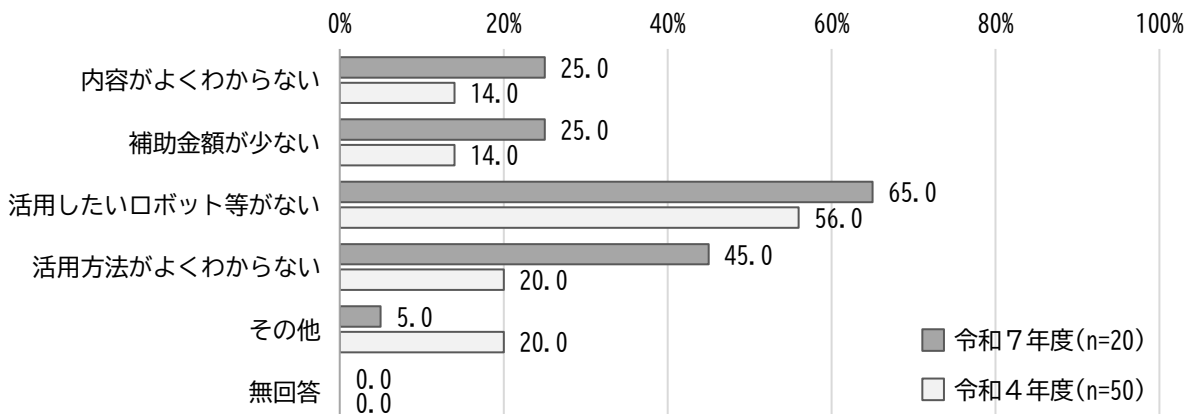
令和7年度では、「多少役に立つ」が46.9%で最も高く、次いで、「非常に役に立つ」が28.4%、「あまり役に立たない」が21.0%であった。



	事業所数	非常に役に立つ	多少役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	無回答
全体	81	28.4%	46.9%	21.0%	3.7%	0.0%
訪問系	21	23.8%	57.1%	4.8%	14.3%	0.0%
施設系（入所型）	7	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	21	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%
居住系	17	41.2%	41.2%	17.6%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%	0.0%

【役に立たない理由】（複数回答）

令和7年度(n=20)では、「活用したいロボット等がない」が65.0%で最も高く、次いで、「活用方法がよくわからない」が45.0%、「内容がよくわからない」「補助金額が少ない」が25.0%であった。



(2) 市への要望

問2 介護人材の確保・定着・育成のために、三鷹市に取り組んで欲しいことは何ですか。
(複数回答)

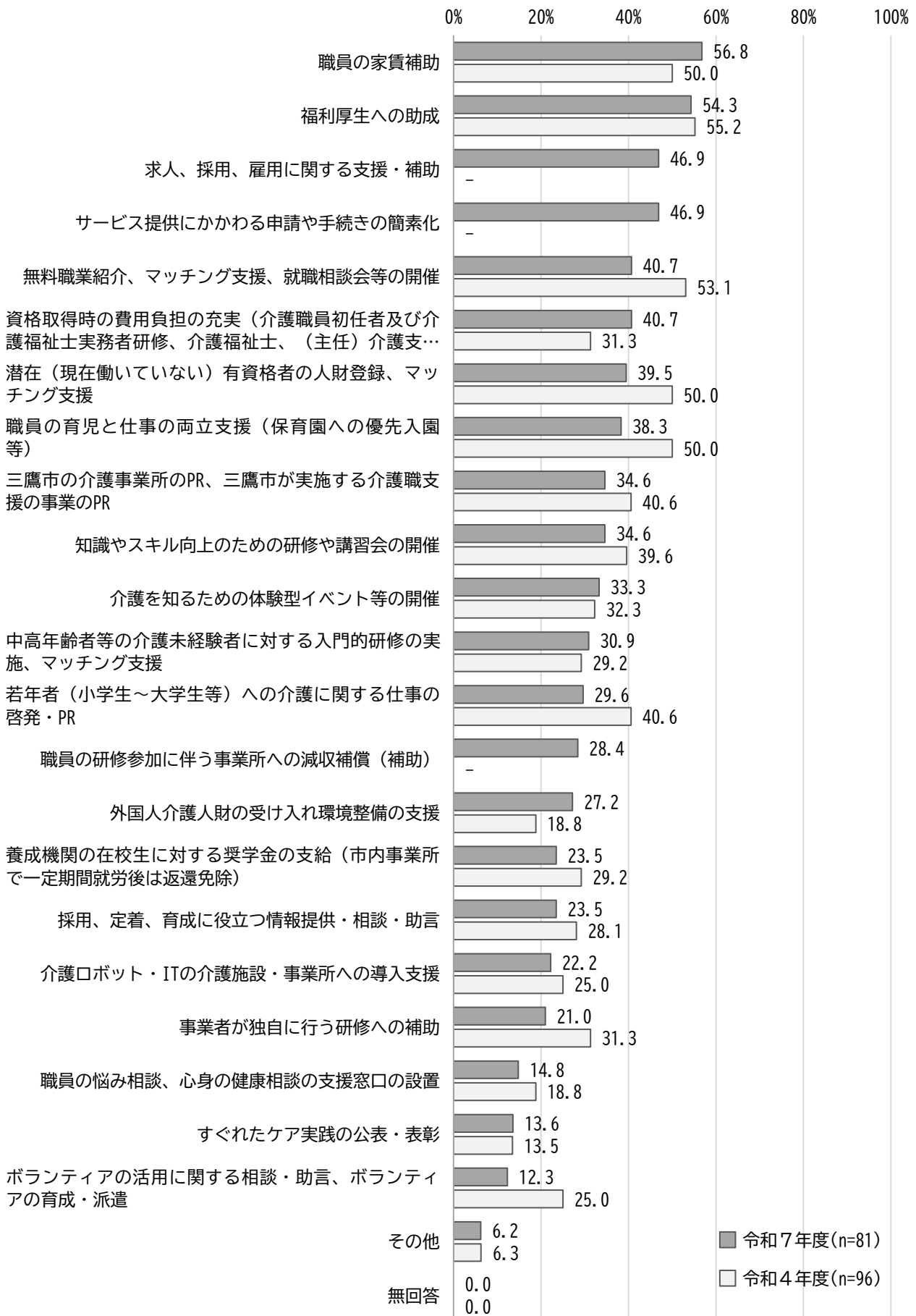
令和7年度では、「職員の家賃補助」が56.8%で最も高く、次いで、「福利厚生への助成」が54.3%、「求人、採用、雇用に関する支援・補助」「サービス提供にかかわる申請や手続きの簡素化」が46.9%であった。「ボランティアの活用に関する相談・助言、ボランティアの育成・派遣」は、令和4年度の25.0%より12.7ポイント減少している。

介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「福利厚生への助成」が52.4%で最も高く、次いで、「潜在（現在働いていない）有資格者の人材登録、マッチング支援」「職員の家賃補助」「事業者が独自に行う研修への補助」「サービス提供にかかわる申請や手続きの簡素化」が47.6%であった。施設系（入所型）では、「職員の家賃補助」「資格取得時の費用負担の充実（介護職員初任者及び介護福祉士実務者研修、介護福祉士、（主任）介護支援専門員資格取得・更新等以外にも拡大）」が85.7%で最も高く、次いで、「三鷹市の介護事業所のPR、三鷹市が実施する介護職支援の事業のPR」「求人、採用、雇用に関する支援・補助」が71.4%であった。施設系（通所型）では、「福利厚生への助成」が66.7%で最も高く、次いで、「職員の家賃補助」が61.9%であった。居住系では、「職員の家賃補助」が52.9%で最も高く、次いで、「サービス提供にかかわる申請や手続きの簡素化」が47.1%であった。居宅介護支援では、「サービス提供にかかわる申請や手続きの簡素化」が81.8%で最も高く、次いで、「資格取得時の費用負担の充実（介護職員初任者及び介護福祉士実務者研修、介護福祉士、（主任）介護支援専門員資格取得・更新等以外にも拡大）」が72.7%であった。

	事業所数	事業所のPR	若年者への仕事の啓発	体験イベント	奨学金の支給	無料職業紹介	潜在人材登録	未経験者研修	外国人材受入支援	職員の悩み相談	育児支援	職員の家賃補助	福利厚生への助成
全体	81	34.6%	29.6%	33.3%	23.5%	40.7%	39.5%	30.9%	27.2%	14.8%	38.3%	56.8%	54.3%
訪問系	21	23.8%	19.0%	28.6%	23.8%	38.1%	47.6%	28.6%	23.8%	14.3%	38.1%	47.6%	52.4%
施設系(入所型)	7	71.4%	57.1%	42.9%	57.1%	57.1%	57.1%	28.6%	57.1%	0.0%	57.1%	85.7%	57.1%
施設系(通所型)	21	23.8%	28.6%	28.6%	19.0%	52.4%	38.1%	33.3%	14.3%	0.0%	33.3%	61.9%	66.7%
居住系	17	29.4%	23.5%	29.4%	5.9%	23.5%	23.5%	17.6%	29.4%	17.6%	29.4%	52.9%	35.3%
居宅介護支援	11	36.4%	36.4%	45.5%	27.3%	36.4%	45.5%	36.4%	27.3%	36.4%	45.5%	63.6%	54.5%

	ボランティア活用	ロボット・IT導入	資格取得の費用負担	研修・講習会の開催	事業者の研修補助	優良事業所の表彰	情報提供・助言	求人、採用、雇用支援	研修に伴う減収補償	申請や手続きの簡素化	その他	無回答
全体	12.3%	22.2%	40.7%	34.6%	21.0%	13.6%	23.5%	46.9%	28.4%	46.9%	6.2%	0.0%
訪問系	9.5%	19.0%	23.8%	33.3%	47.6%	14.3%	19.0%	38.1%	42.9%	47.6%	9.5%	0.0%
施設系(入所型)	14.3%	57.1%	85.7%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	71.4%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%
施設系(通所型)	14.3%	14.3%	33.3%	28.6%	4.8%	9.5%	9.5%	52.4%	14.3%	42.9%	4.8%	0.0%
居住系	11.8%	11.8%	23.5%	35.3%	11.8%	11.8%	29.4%	35.3%	29.4%	47.1%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	18.2%	36.4%	72.7%	54.5%	9.1%	18.2%	27.3%	45.5%	27.3%	81.8%	0.0%	0.0%

■介護人財の確保・定着・育成のために、三鷹市に取り組んで欲しいこと

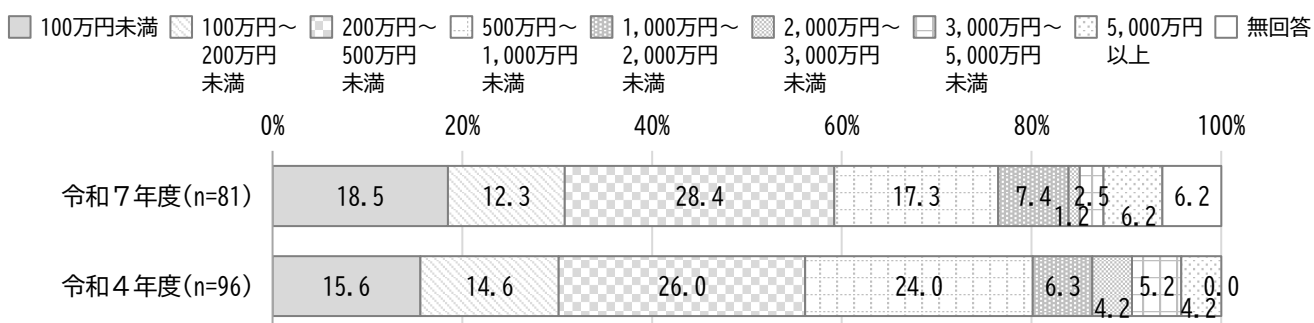


4. 事業所の現状と課題

(1) 財務の状況

問3 貴事業所（1施設・事業所当たり）の月間介護料収入（直近の請求ベース、概算）は次のどれに該当しますか。（単数回答）

令和7年度では、「200万円～500万円未満」が28.4%で最も高く、次いで、「100万円未満」が18.5%、「500万円～1,000万円未満」が17.3%であった。「500万円～1,000万円未満」は、令和4年度の24.0%より6.7ポイント減少している。

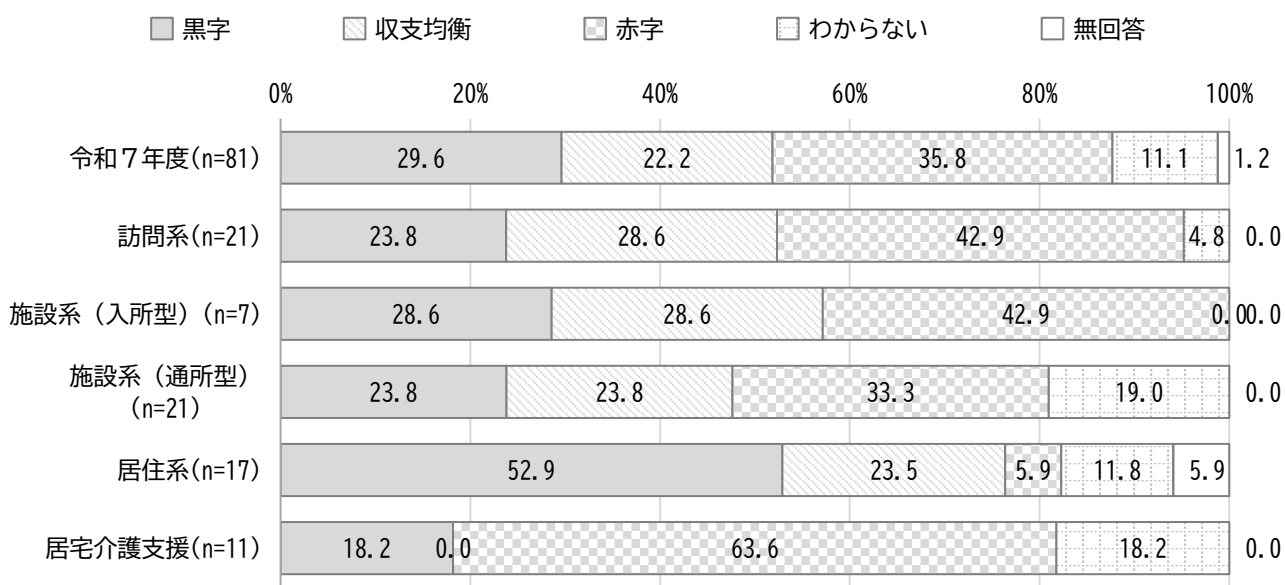


介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「200万円～500万円未満」が47.6%で最も高く、次いで、「100万円～200万円未満」が23.8%であった。施設系（入所型）では、「5,000万円以上」が71.4%で最も高く、次いで、「3,000万円～5,000万円未満」が28.6%であった。施設系（通所型）では、「200万円～500万円未満」が42.9%で最も高く、次いで、「500万円～1,000万円未満」が33.3%であった。居住系では、「500万円～1,000万円未満」が35.3%で最も高く、次いで、「1,000万円～2,000万円未満」が29.4%であった。居宅介護支援では、「100万円未満」が81.8%で最も高く、次いで、「100万円～200万円未満」「200万円～500万円未満」が9.1%であった。

	事業所数	100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～500万円未満	500万円～1,000万円未満	1,000万円～2,000万円未満	2,000万円～3,000万円未満	3,000万円～5,000万円未満	5,000万円以上	無回答
全体	81	18.5%	12.3%	28.4%	17.3%	7.4%	1.2%	2.5%	6.2%	6.2%
訪問系	21	14.3%	23.8%	47.6%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%
施設系(入所型)	7	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%
施設系(通所型)	21	0.0%	19.0%	42.9%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
居住系	17	0.0%	0.0%	17.6%	35.3%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	11.8%
居宅介護支援	11	81.8%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問4 貴事業所の、前年度の収支状況はどうでしたか。(単数回答)

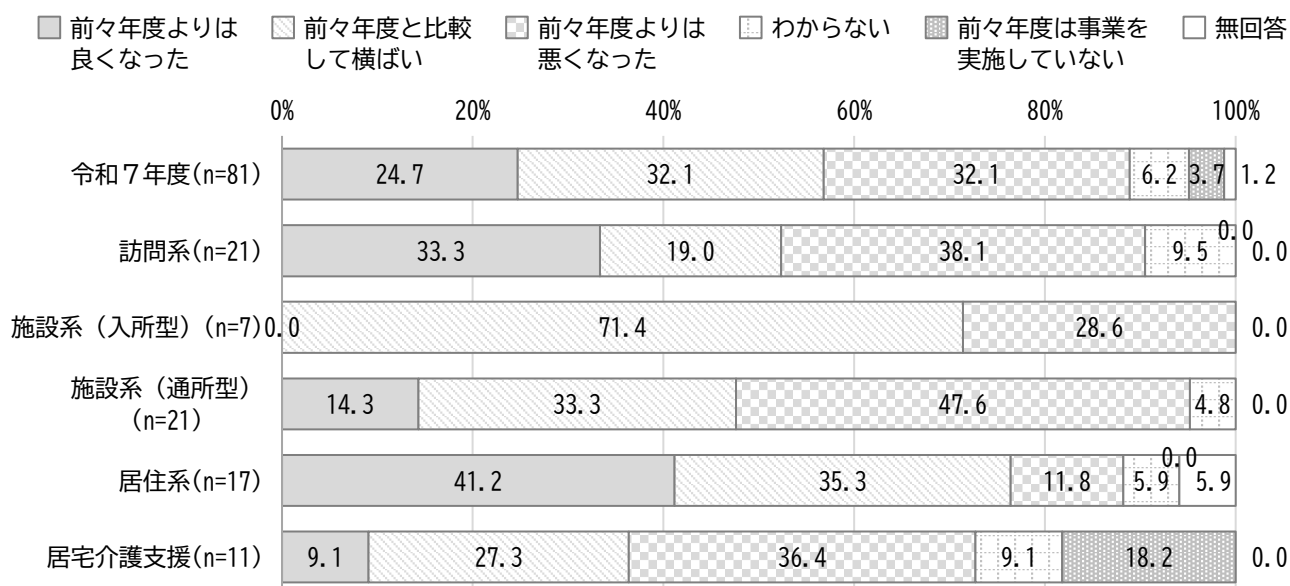
令和7年度では、「赤字」が 35.8%で最も高く、次いで、「黒字」が 29.6%、「収支均衡」が 22.2%であった。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「赤字」が 42.9%で最も高く、次いで、「収支均衡」が 28.6%であった。施設系(入所型)では、「赤字」が 42.9%で最も高く、次いで、「黒字」「収支均衡」が 28.6%であった。施設系(通所型)では、「赤字」が 33.3%で最も高く、次いで、「黒字」「収支均衡」が 23.8%であった。居住系では、「黒字」が 52.9%で最も高く、次いで、「収支均衡」が 23.5%であった。居宅介護支援では、「赤字」が 63.6%で最も高く、次いで、「黒字」「わからない」が 18.2%であった。

問5 貴事業所の、前年度と前々年度を比較した収支状況はどうでしたか。(単数回答)

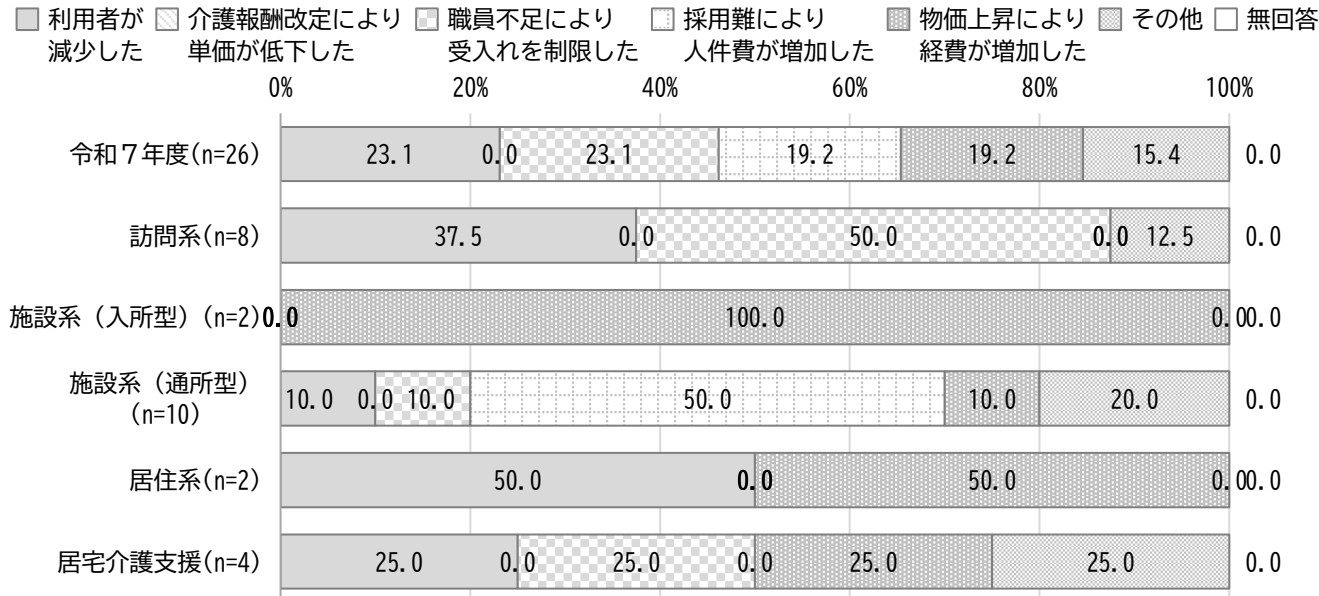
令和7年度では、「前々年度と比較して横ばい」「前々年度よりは悪くなった」が32.1%で最も高く、次いで、「前々年度よりは良くなった」が24.7%であった。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「前々年度よりは悪くなった」が38.1%で最も高く、次いで、「前々年度よりは良くなった」が33.3%であった。施設系(入所型)では、「前々年度と比較して横ばい」が71.4%で最も高く、次いで、「前々年度よりは悪くなった」が28.6%であった。施設系(通所型)では、「前々年度よりは悪くなった」が47.6%で最も高く、次いで、「前々年度と比較して横ばい」が33.3%であった。居住系では、「前々年度よりは良くなった」が41.2%で最も高く、次いで、「前々年度と比較して横ばい」が35.3%であった。居宅介護支援では、「前々年度よりは悪くなった」が36.4%で最も高く、次いで、「前々年度と比較して横ばい」が27.3%であった。

【問5で「3. 前々年度よりは悪くなった」を選択した方】
 問6 前々年度より収支が悪くなった主な理由は何ですか。(単数回答)

令和7年度(n=26)では、「利用者が減少した」「職員不足により受入れを制限した」が23.1%で最も高く、次いで、「採用難により人件費が増加した」「物価上昇により経費が増加した」が19.2%であった。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「職員不足により受入れを制限した」が50.0%で最も高く、次いで、「利用者が減少した」が37.5%であった。施設系(入所型)では、「物価上昇により経費が増加した」が100.0%であった。施設系(通所型)では、「採用難により人件費が増加した」が50.0%で最も高く、次いで、「その他」が20.0%であった。居住系では、「利用者が減少した」「物価上昇により経費が増加した」が50.0%であった。居宅介護支援では、「利用者が減少した」「職員不足により受入れを制限した」「物価上昇により経費が増加した」「その他」が25.0%となっている。

(2) 介護サービス従業者

問7 貴事業所で、介護保険の指定介護サービス事業に従事する職員は何人ですか。該当する職種の人数を記入してください。(令和7年9月30日現在)(数量回答)

(以下のそれぞれについて「正規職員(※1)/非正規職員(※1)」と「64歳以下/65歳以上」の人数を質問)

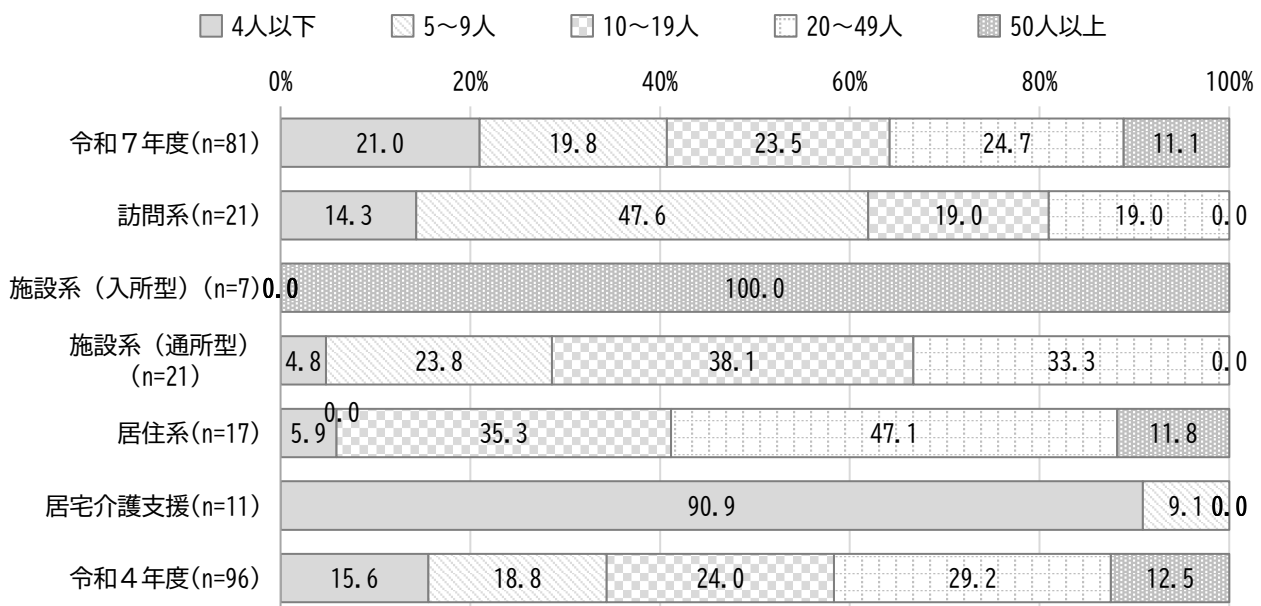
- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 訪問介護員 | 5 生活相談員 |
| 2 サービス提供責任者 | 6 PT・OT・ST等(※3) |
| 3 介護職員(※2) | 7 介護支援専門員 |
| 4 看護職員 | 合計(1~7) |

※1 この調査では、正規職員とは、労働時間数にかかわらず雇用期間の定めがない者として。非正規職員とは、期限の定めのある有期雇用契約による職員として。

※2 ここでいう介護職員とは、介護保険の訪問介護以外の指定介護事業所で働き、直接介護を行う者として。賃金の支払いを受けている方に限ります。(ボランティアは含みません。)

※3 PT・OT・ST等=PT(理学療法士)・OT(作業療法士)・ST(言語聴覚士)等の機能訓練指導員

各事業所における介護サービス従業者数(上記7職種の合計)は、令和7年度では、「20~49人」が24.7%で最も高く、次いで、「10~19人」が23.5%であった。「4人以下」は、令和4年度の15.6%より5.4ポイント増加している。

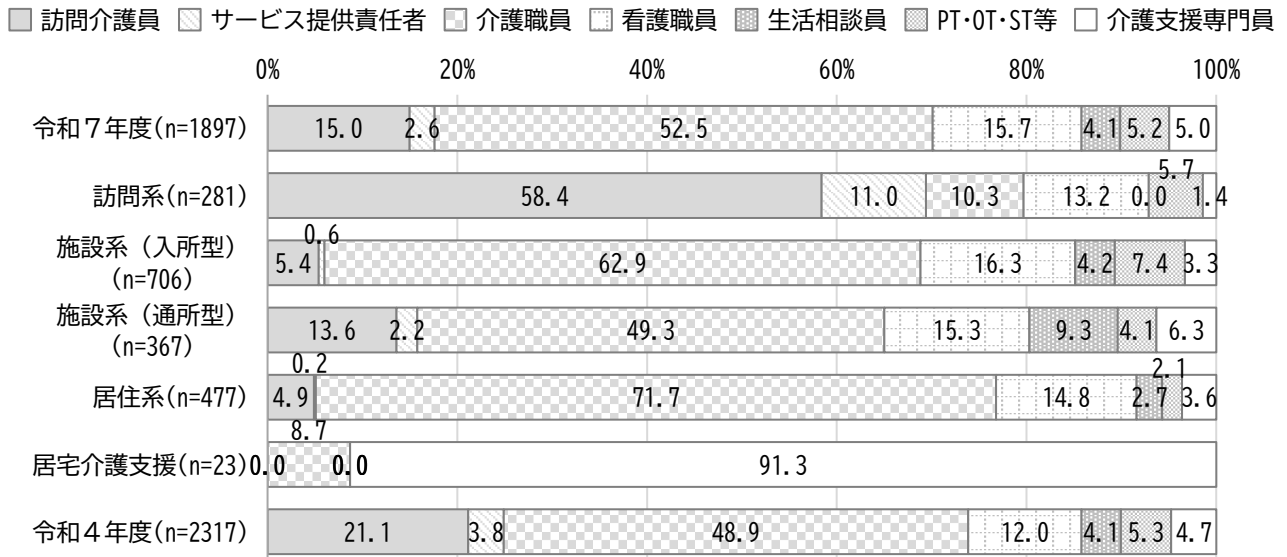


介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「5~9人」が47.6%で最も高く、次いで、「10~19人」「20~49人」が19.0%であった。施設系(入所型)では、「50人以上」が100.0%であった。施設系(通所型)では、「10~19人」が38.1%で最も高く、次いで、「20~49人」が33.3%であった。居住系では、「20~49人」が47.1%で最も高く、次いで、「10~19人」が35.3%であった。居宅介護支援では、「4人以下」が90.9%で最も高く、次いで、「5~9人」が9.1%であった。

■職種別従業員数

7職種の従業員の総人数は、回答事業所全体で1,897人であった。事業所単位ではなく、介護保険サービス系型別に従業員数を集計したところ、「訪問系」が281人、「施設(入所型)」が706人、「施設系(通所型)」が367人、「居住系」が477人、「居宅介護支援」が23人であった。

上記の人数を分母として職種別に分布をみると、全体では「介護職員」が52.5%と最も高く、次いで、「看護職員」が15.7%、「訪問介護員」が15.0%であった。介護職員と訪問介護員を合わせると、直接介護に当たる介護職は67.5%であった。「訪問介護員」は、令和4年度の21.1%より6.1ポイント減少している。

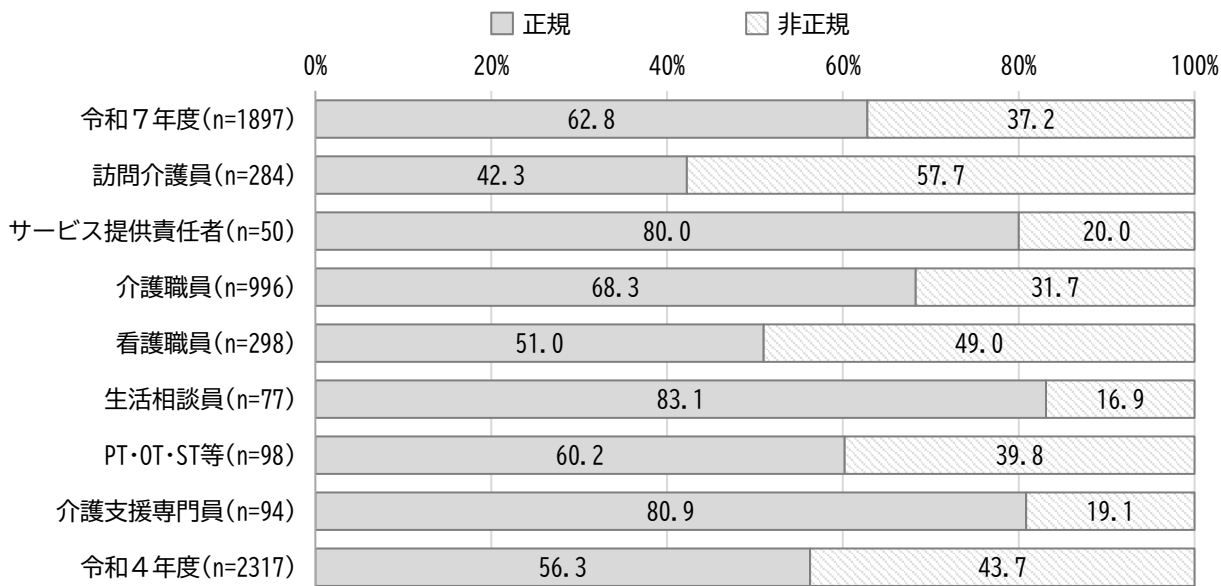


介護保険サービス系型別にみると、訪問系では「訪問介護員」が58.4%で最も高く、次いで、「看護職員」が13.2%であった。施設(入所型)では「介護職員」が62.9%で最も高く、次いで、「看護職員」が16.3%であった。施設(通所型)では「介護職員」が49.3%で最も高く、次いで、「看護職員」が15.3%であった。居住系では「介護職員」が71.7%で最も高く、次いで、「看護職員」が14.8%であった。居宅介護支援では「介護支援専門員」が91.3%で最も高く、次いで、「介護職員」が8.7%であった。

■職種別就業形態

就業形態は、全体では「正規職員」が 62.8%、「非正規職員」が 37.2%であった。「正規職員」は、令和4年度の 56.3%より 6.5ポイント増加している。

職種別に就業形態をみると、「正規職員」の割合が高い職種は、「生活相談員」が 83.1%と最も高く、次いで、「介護支援専門員」が 80.9%であった。一方、「非正規職員」の割合が高い職種は、「訪問介護員」が 57.7%と、他の職種と比べて非正規職員の割合が高かった。



■職種別年齢階級

年齢階級は、全体では「64歳以下」が 85.1%、「65歳以上」が 14.9%であった。「64歳以下」は、令和4年度の 83.5%と同程度であった。

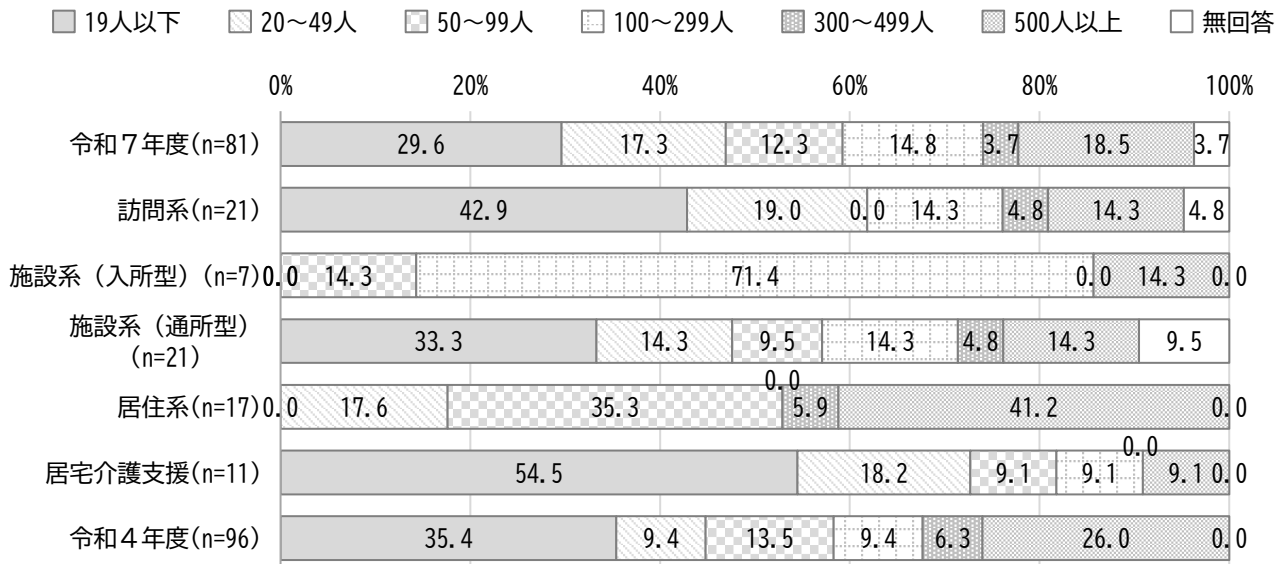
「64歳以下」の割合が高い職種は、「PT・OT・ST等」が 99.0%と最も高く、次いで、「生活相談員」が 96.1%であった。一方、「65歳以上」の割合が高い職種は、「訪問介護員」が 33.5%であった。



(3) 法人の従業員数規模

問8 貴事業所が属する法人全体（全ての指定介護サービス事業所）の全従業員数は、おおよそ何人くらいですか。（派遣労働者、委託従事者は含みません。）（単数回答）

令和7年度では、「19人以下」が29.6%で最も高く、次いで、「500人以上」が18.5%、「20～49人」が17.3%であった。「20～49人」は、令和4年度の9.4%より7.9ポイント増加している。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「19人以下」が42.9%で最も高く、次いで、「20～49人」が19.0%であった。施設系（入所型）では、「100～299人」が71.4%で最も高く、次いで、「50～99人」「500人以上」が14.3%であった。施設系（通所型）では、「19人以下」が33.3%で最も高く、次いで、「20～49人」「100～299人」「500人以上」が14.3%であった。居住系では、「500人以上」が41.2%で最も高く、次いで、「50～99人」が35.3%であった。居宅介護支援では、「19人以下」が54.5%で最も高く、次いで、「20～49人」が18.2%であった。

(4) 職員の採用・離職の状況

問9 ① 貴事業所の介護保険の指定介護サービス事業に従事する「訪問介護員」と「介護職員」について、過去1年間（令和6年10月1日～令和7年9月30日）の採用者数と離職者数をそれぞれ記入してください。（数量回答）

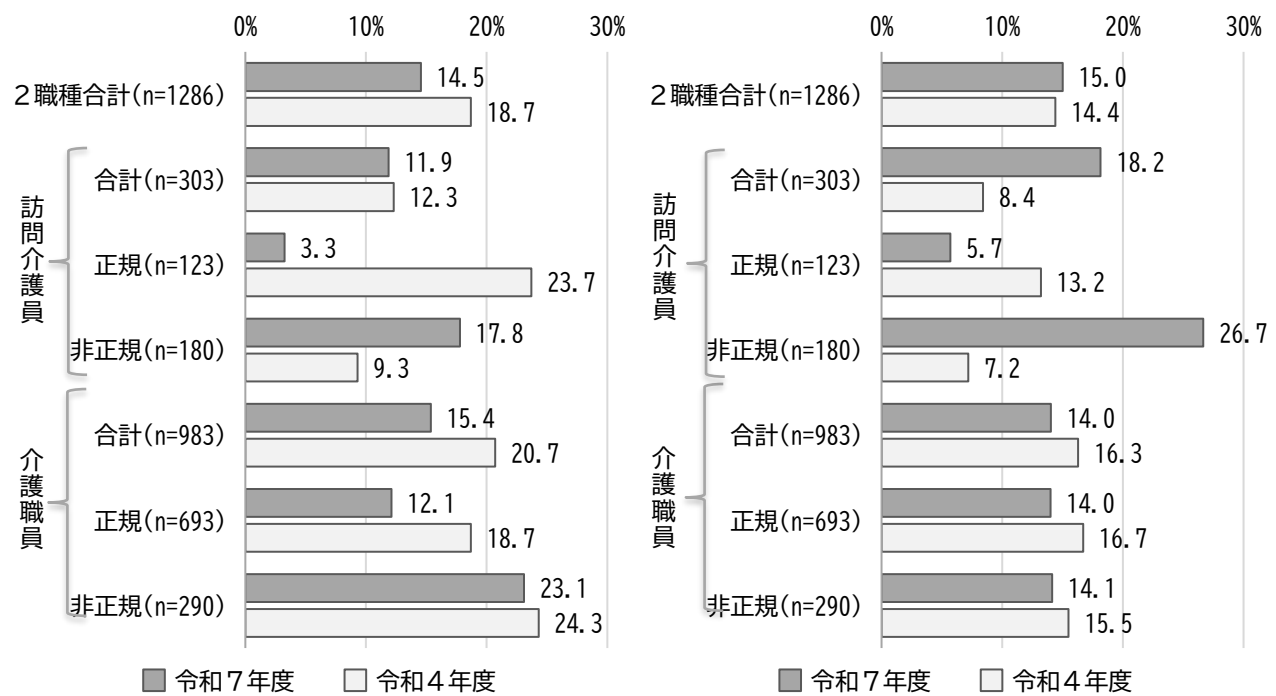
訪問介護員と介護職員の2職種合計について、1年間の採用率が14.5%、離職率が15.0%であった。令和4年度と比較すると、1年間の採用率は4.2ポイント減少、離職率は同程度であった。「令和6年度介護労働実態調査」では、2職種の1年間の採用率が14.3%、離職率が12.4%であったので、三鷹市は、採用率は同程度で、離職率は高かった。

訪問介護員の1年間の採用率は、正規職員が3.3%、非正規職員が17.8%、離職率は、正規職員が5.7%、非正規職員が26.7%となっており、採用率・離職率ともに非正規職員が高かった。令和4年度には訪問介護員（正規）の採用率が23.7%、離職率が13.2%であったので、今回は訪問介護員（正規）の採用率・離職率とも減少した。

介護職員の1年間の採用率は、正規職員が12.1%、非正規職員が23.1%、離職率は、正規職員が14.0%、非正規職員が14.1%となっており、採用率は非正規職員のほうが高く、離職率は同程度であった。令和4年度には介護職員（正規）の採用率が18.7%、離職率が16.7%であったので、今回は介護職員（正規）の採用率・離職率とも減少した。

■ 1年間の採用率

■ 1年間の離職率



注) () 内は1年前の在籍者数（問7の合計職員数－問9の採用者数＋問9の離職者数）

1年間の採用率 = 1年間の採用者数 ÷ 1年前の在籍者数 × 100

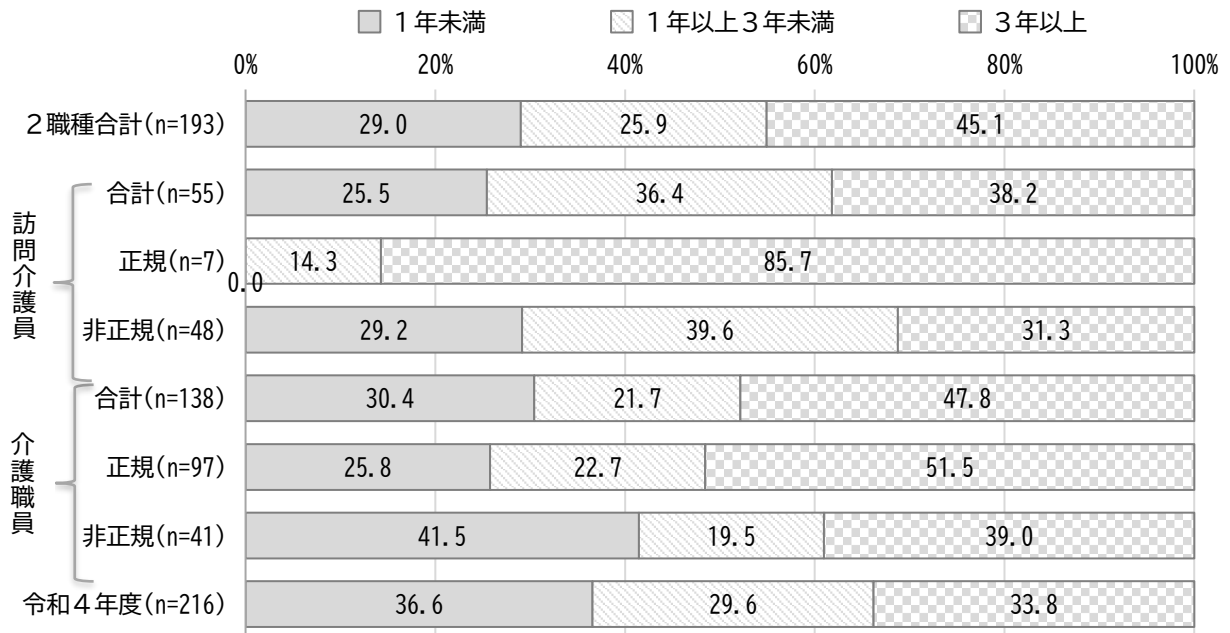
1年間の離職率 = 1年間の離職者数 ÷ 1年前の在籍者数 × 100

問9 ② 離職者については、勤続年数別の人数もご記入ください。(数量回答)

離職者の勤務年数について、訪問介護員と介護職員の2職種合計では、「3年以上の者」が45.1%と最も高く、次いで、「1年未満の者」29.0%、「1年以上3年未満の者」が25.9%であった。「3年以上の者」は、令和4年度の33.8%より11.3ポイント増加している。

「訪問介護員」の離職者は、「3年以上の者」の割合が高く、正規職員では85.7%、非正規職員では31.3%、合計で38.2%が勤務年数3年以上の者であった。

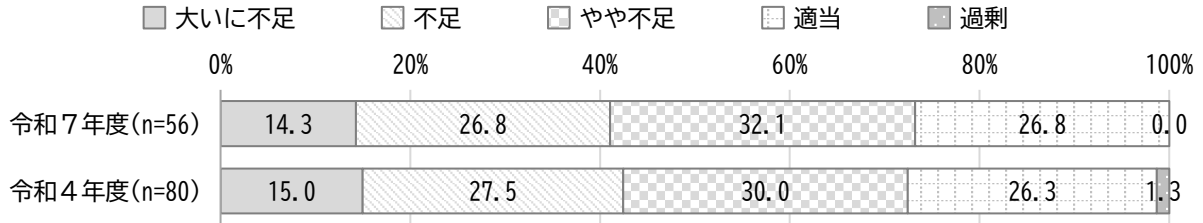
「介護職員」の離職者は、「3年以上の者」の割合が高く、正規職員では51.5%、非正規職員では39.0%、合計で47.8%が勤務年数3年以上の者であった。



(5) 従業員の過不足状況

問 10 貴事業所では、従業員の職種別過不足の状況はどうか。(単数回答)

令和7年度(n=56)では、全体では、「やや不足」が 32.1%で最も高く、次いで、「不足」「適当」が 26.8%であった。



※回答のあった項目のみ集計した。

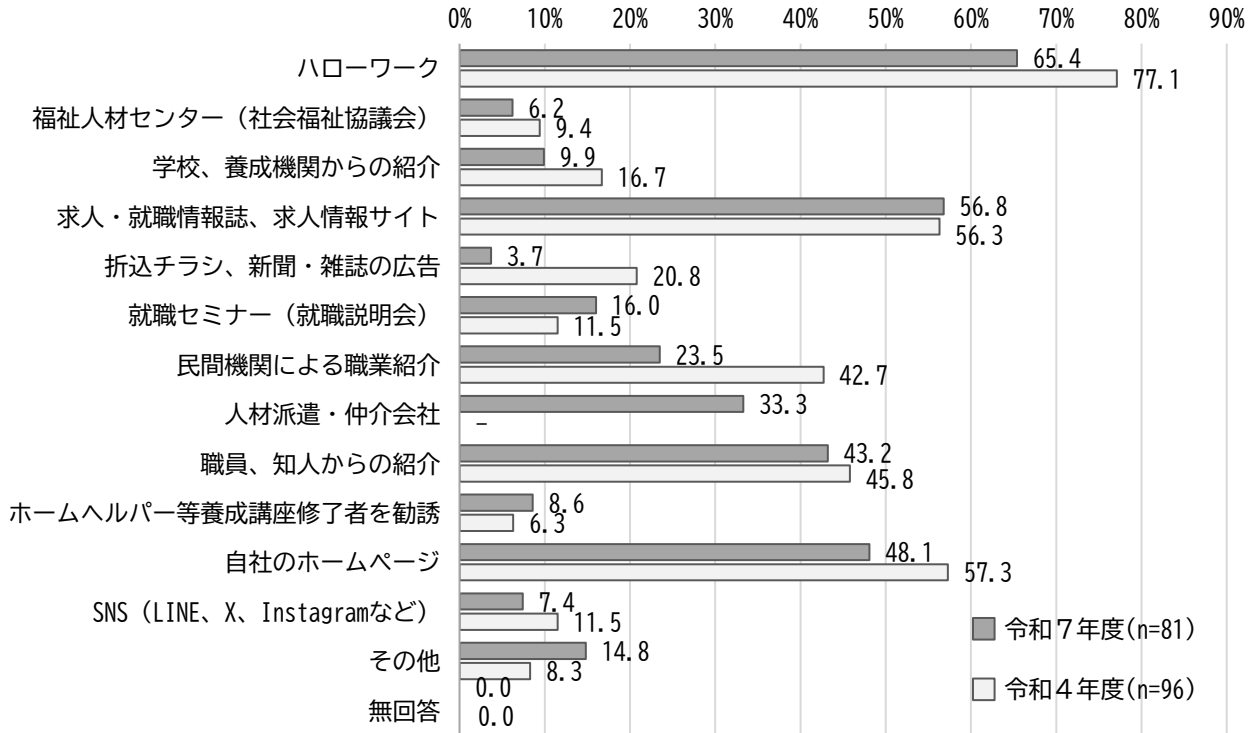
	事業所数	大いに不足	不足	やや不足	適当	過剰
全体	56	14.3%	26.8%	32.1%	26.8%	0.0%
訪問介護員	16	68.8%	6.3%	25.0%	0.0%	0.0%
サービス提供責任者	18	22.2%	22.2%	11.1%	44.4%	0.0%
介護職員	48	29.2%	16.7%	20.8%	31.3%	2.1%
看護職員	44	11.4%	11.4%	20.5%	54.5%	2.3%
生活相談員	34	2.9%	11.8%	17.6%	61.8%	5.9%
PT・OT・ST等	33	24.2%	12.1%	24.2%	36.4%	3.0%
介護支援専門員	44	18.2%	11.4%	15.9%	54.5%	0.0%
従業員 19 人以下	16	6.3%	25.0%	18.7%	49.9%	0.0%
従業員 20～99 人	16	12.5%	37.5%	31.2%	18.8%	0.0%
従業員 100～499 人	11	27.3%	27.3%	45.4%	0.0%	0.0%
従業員 500 人以上	11	9.1%	18.1%	36.4%	36.4%	0.0%

※ 「当該職種はいない」と「無回答」の事業所を除外して集計した。

(6) 採用において利用した手段・媒体

問 11 貴事業所では、過去3年間の職員の採用において、どのような手段・媒体を利用しましたか。(複数回答)

令和7年度では、「ハローワーク」が 65.4%で最も高く、次いで、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 56.8%、「自社のホームページ」が 48.1%であった。

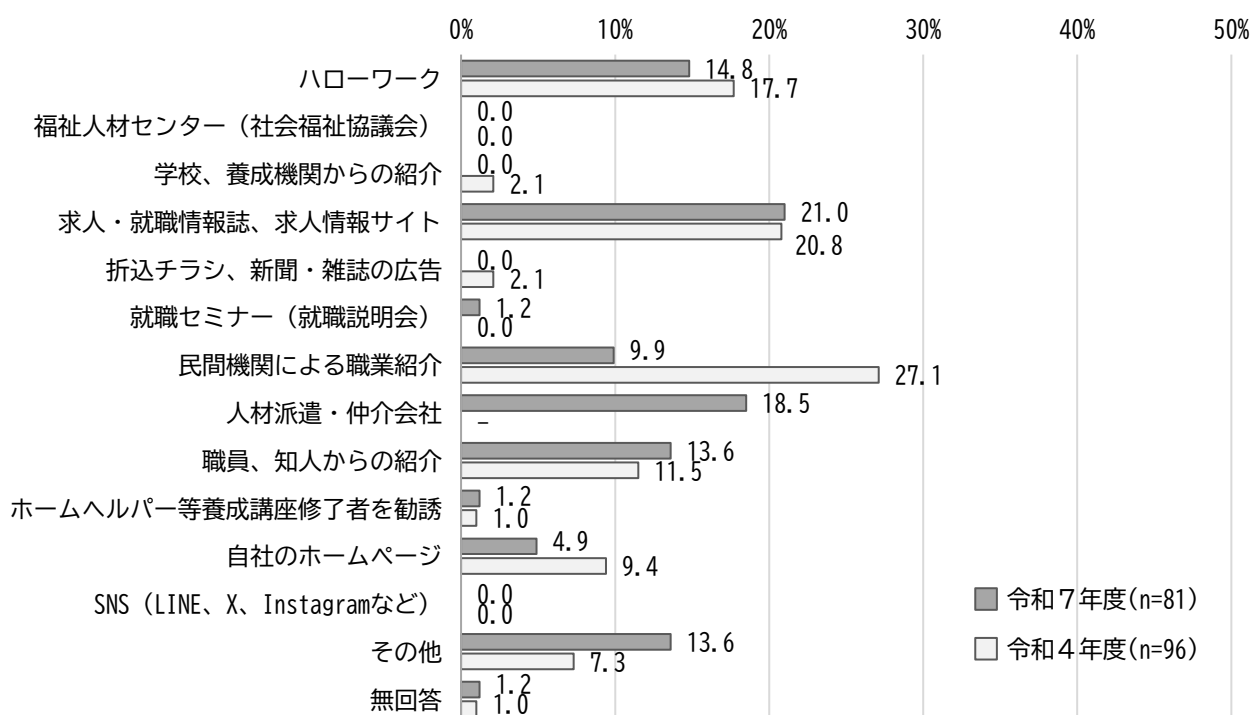


訪問系では、「ハローワーク」が 61.9%で最も高く、次いで、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」「職員、知人からの紹介」が 47.6%であった。施設系(入所型)では、「ハローワーク」「人材派遣・仲介会社」「自社のホームページ」が 85.7%で最も高くなっている。施設系(通所型)では、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 76.2%で最も高く、次いで、「ハローワーク」が 66.7%であった。居住系では、「ハローワーク」が 82.4%で最も高く、次いで、「自社のホームページ」が 76.5%であった。居宅介護支援では、「ハローワーク」「その他」が 45.5%で最も高くなっている。

事業所数	ハローワーク	福祉人材センター(社会福祉協議会)	学校、養成機関からの紹介	求人・就職情報誌、求人情報サイト	折込チラシ、新聞・雑誌の広告	就職セミナー(就職説明会)	民間機関による職業紹介	人材派遣・仲介会社	職員、知人からの紹介	ホームヘルパー等養成講座修了者を勧誘	自社のホームページ	SNS	その他	無回答	
全体	81	65.4%	6.2%	9.9%	56.8%	3.7%	16.0%	23.5%	33.3%	43.2%	8.6%	48.1%	7.4%	14.8%	0.0%
訪問系	21	61.9%	4.8%	9.5%	47.6%	4.8%	14.3%	14.3%	23.8%	47.6%	9.5%	38.1%	19.0%	14.3%	0.0%
施設系(入所型)	7	85.7%	28.6%	28.6%	71.4%	0.0%	42.9%	14.3%	85.7%	57.1%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	21	66.7%	4.8%	9.5%	76.2%	4.8%	0.0%	14.3%	33.3%	38.1%	9.5%	42.9%	4.8%	4.8%	0.0%
居住系	17	82.4%	5.9%	11.8%	64.7%	5.9%	35.3%	64.7%	35.3%	52.9%	11.8%	76.5%	0.0%	5.9%	0.0%
居宅介護支援	11	45.5%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%	9.1%	27.3%	27.3%	0.0%	18.2%	0.0%	45.5%	0.0%

問 12 職員の採用に最も効果のあった手段・媒体は、どれですか。問 11 の選択肢の中から 1 つ選び、番号を記入してください。(単数回答)

令和 7 年度では、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 21.0%で最も高く、次いで、「人材派遣・仲介会社」が 18.5%、「ハローワーク」が 14.8%であった。

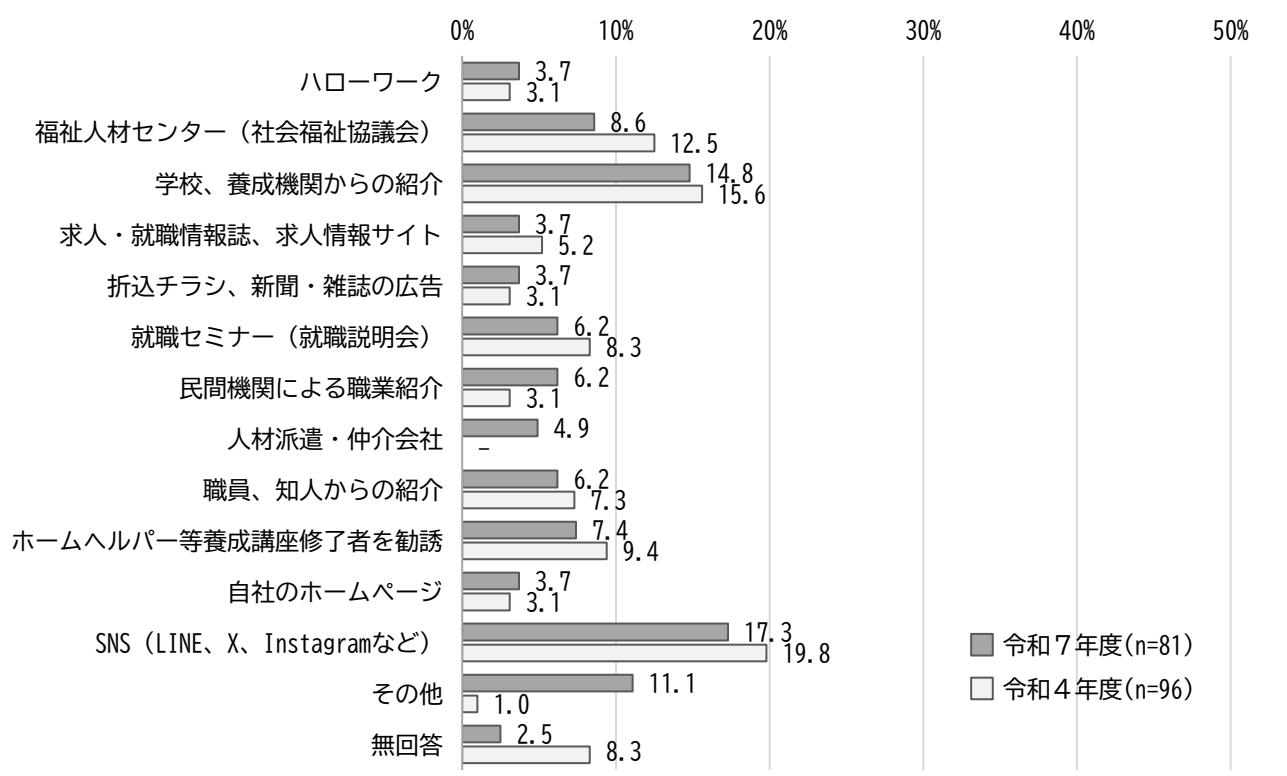


訪問系では、「人材派遣・仲介会社」「職員、知人からの紹介」が 23.8%で最も高くなっている。施設系 (入所型) では、「人材派遣・仲介会社」が 57.1%で最も高く、次いで、「ハローワーク」「求人・就職情報誌、求人情報サイト」「民間機関による職業紹介」が 14.3%であった。施設系 (通所型) では、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 42.9%で最も高く、次いで、「ハローワーク」が 23.8%であった。居住系では、「民間機関による職業紹介」が 29.4%で最も高く、次いで、「ハローワーク」「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 17.6%であった。居宅介護支援では、「その他」が 36.4%で最も高く、次いで、「ハローワーク」「人材派遣・仲介会社」が 27.3%であった。

	事業所数	ハローワーク	福祉人材センター (社会福祉協議会)	学校、養成機関からの紹介	求人・就職情報誌、求人情報サイト	折込チラシ、新聞・雑誌の広告	就職セミナー (就職説明会)	民間機関による職業紹介	人材派遣・仲介会社	職員、知人からの紹介	ホームヘルパー等養成講座修了者を勧誘	自社のホームページ	SNS	その他	無回答
全体	81	14.8%	0.0%	0.0%	21.0%	0.0%	1.2%	9.9%	18.5%	13.6%	1.2%	4.9%	0.0%	13.6%	1.2%
訪問系	21	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	0.0%	0.0%	4.8%	23.8%	23.8%	4.8%	9.5%	0.0%	14.3%	0.0%
施設系 (入所型)	7	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系 (通所型)	21	23.8%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	4.8%	4.8%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
居住系	17	17.6%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	5.9%	29.4%	11.8%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%
居宅介護支援	11	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%	9.1%

問 13 貴事業所では職員の採用のために行ったことはないが、活用したい手段・媒体は何ですか。(単数回答)

令和7年度では、「SNS (LINE、X、Instagram など)」が 17.3%で最も高く、次いで、「学校、養成機関からの紹介」が 14.8%、「その他」が 11.1%であった。

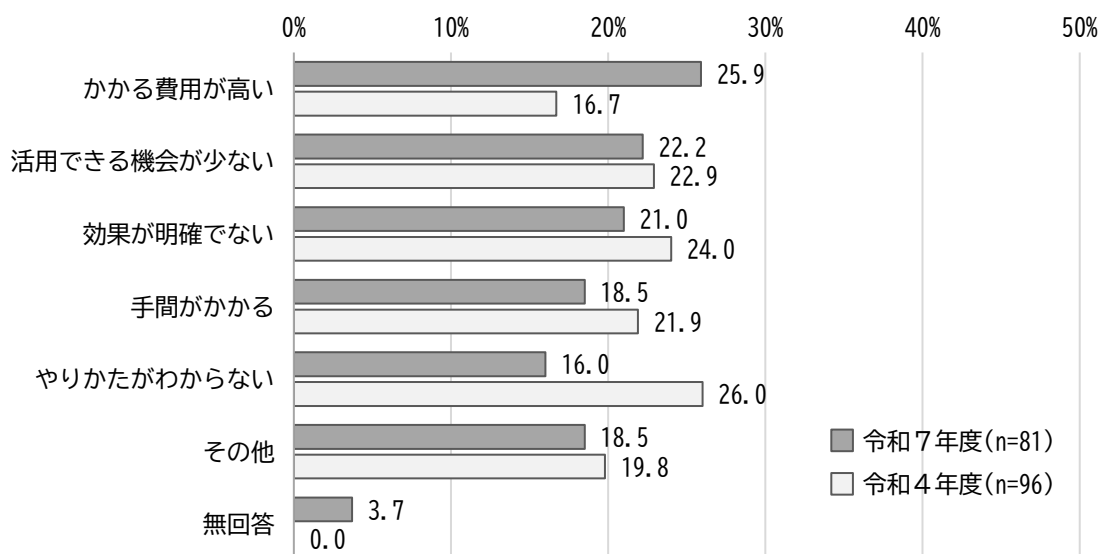


訪問系では、「福祉人材センター (社会福祉協議会)」「就職セミナー (就職説明会)」「SNS」「その他」が 14.3%で最も高くなっている。施設系 (入所型) では、「SNS」が 57.1%で最も高く、次いで、「学校、養成機関からの紹介」「折込チラシ、新聞・雑誌の広告」「民間機関による職業紹介」が 14.3%であった。施設系 (通所型) では、「ホームヘルパー等養成講座修了者を勧誘」が 19.0%で最も高く、次いで、「学校、養成機関からの紹介」「SNS」が 14.3%であった。居住系では、「学校、養成機関からの紹介」が 29.4%で最も高く、次いで、「SNS」が 17.6%であった。居宅介護支援では、「職員、知人からの紹介」「その他」が 27.3%で最も高くなっている。

事業所数	ハローワーク	福祉人材センター (社会福祉協議会)	学校、養成機関からの紹介	求人・就職情報誌、求人情報サイト	折込チラシ、新聞・雑誌の広告	就職セミナー (就職説明会)	民間機関による職業紹介	人材派遣・仲介会社	職員、知人からの紹介	ホームヘルパー等養成講座修了者を勧誘	自社のホームページ	SNS	その他	無回答	
全体	81	3.7%	8.6%	14.8%	3.7%	3.7%	6.2%	6.2%	4.9%	6.2%	7.4%	3.7%	17.3%	11.1%	2.5%
訪問系	21	0.0%	14.3%	9.5%	9.5%	4.8%	14.3%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	9.5%	14.3%	14.3%	0.0%
施設系 (入所型)	7	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%	0.0%
施設系 (通所型)	21	0.0%	9.5%	14.3%	0.0%	4.8%	9.5%	9.5%	9.5%	0.0%	19.0%	0.0%	14.3%	4.8%	4.8%
居住系	17	5.9%	11.8%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	11.8%	0.0%	5.9%	5.9%	17.6%	0.0%	5.9%
居宅介護支援	11	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	27.3%	0.0%	0.0%	9.1%	27.3%	0.0%

問 14 問 13 で選択した手段・媒体を行ったことのない理由は次のどれですか。(複数回答)

令和7年度では、「かかる費用が高い」が 25.9%で最も高く、次いで、「活用できる機会が少ない」が 22.2%、「効果が明確でない」が 21.0%であった。「やりかたがわからない」は、令和4年度の 26.0%より 10.0ポイント減少している。



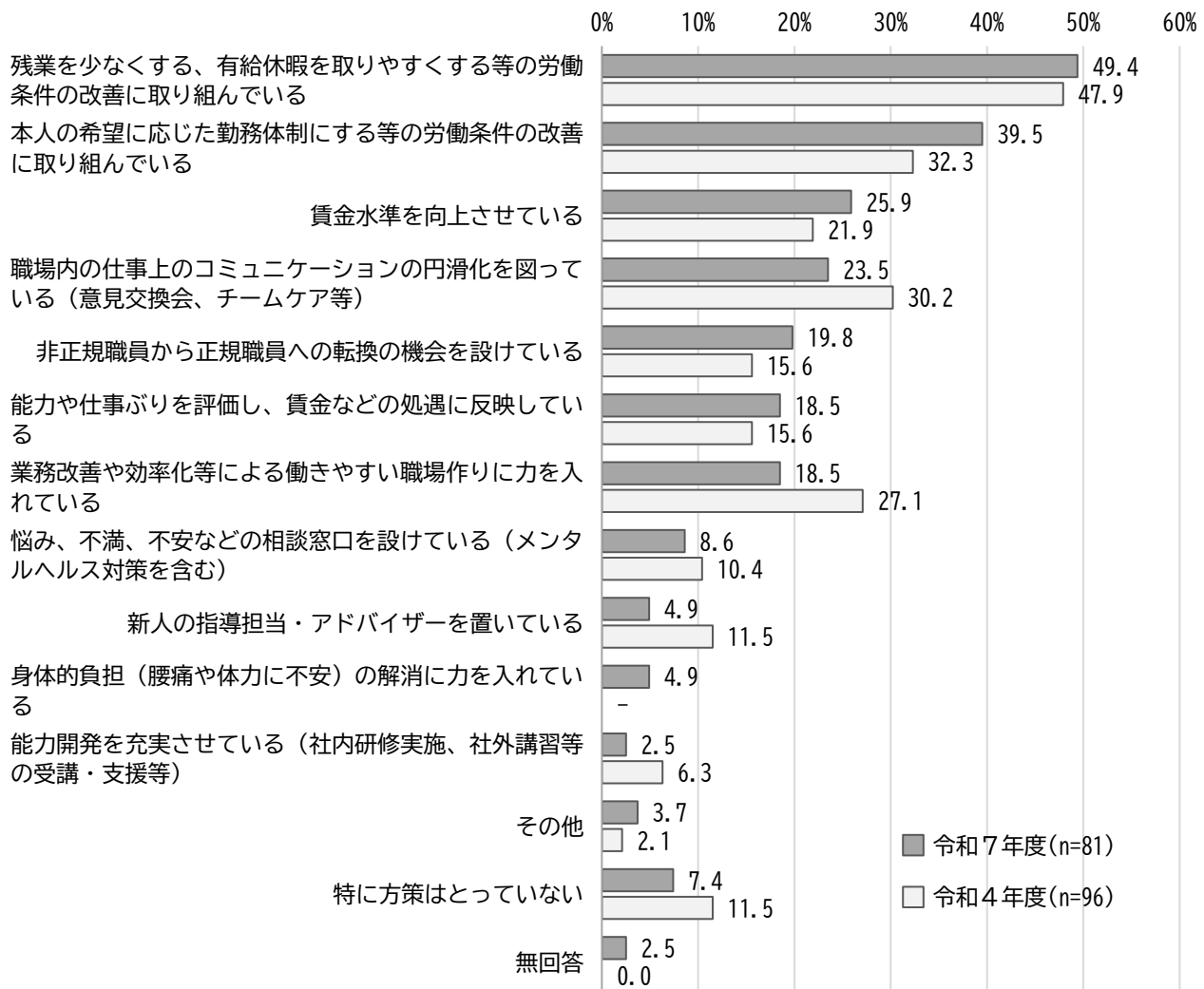
訪問系では、「かかる費用が高い」「手間がかかる」が 28.6%で最も高くなっている。施設系（入所型）では、「その他」が 42.9%で最も高く、次いで、「かかる費用が高い」「活用できる機会が少ない」が 28.6%であった。施設系（通所型）では、「かかる費用が高い」「手間がかかる」「活用できる機会が少ない」が 23.8%で最も高くなっている。居住系では、「かかる費用が高い」が 35.3%で最も高く、次いで、「効果が明確でない」が 29.4%であった。居宅介護支援では、「その他」が 36.4%で最も高く、次いで、「効果が明確でない」が 27.3%であった。

	事業所数	効果が明確でない	かかる費用が高い	手間がかかる	やりかたがわからない	活用できる機会が少ない	その他	無回答
全体	81	21.0%	25.9%	18.5%	16.0%	22.2%	18.5%	3.7%
訪問系	21	23.8%	28.6%	28.6%	14.3%	23.8%	9.5%	4.8%
施設系(入所型)	7	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	42.9%	0.0%
施設系(通所型)	21	14.3%	23.8%	23.8%	14.3%	23.8%	9.5%	9.5%
居住系	17	29.4%	35.3%	17.6%	23.5%	23.5%	5.9%	0.0%
居宅介護支援	11	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	36.4%	0.0%

(7) 早期離職防止や定着促進のための方策

問 15 早期離職防止や定着促進に効果のあった方策は何ですか。(複数回答)

令和7年度では、「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が49.4%で最も高く、次いで、「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が39.5%、「賃金水準を向上させている」が25.9%であった。「業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れている」は、令和4年度の27.1%より8.6ポイント減少している。



■早期離職防止や定着促進に効果のあった方策

介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 47.6%で最も高く、次いで、「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 38.1%であった。施設系（入所型）では、「賃金水準を向上させている」「職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図っている（意見交換会、チームケア等）」が 42.9%で最も高くなっている。施設系（通所型）では、「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 71.4%で最も高く、次いで、「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 52.4%であった。居住系では、「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 58.8%で最も高く、次いで、「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 41.2%であった。居宅介護支援では、「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が 36.4%で最も高く、次いで、「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」「賃金水準を向上させている」が 27.3%であった。

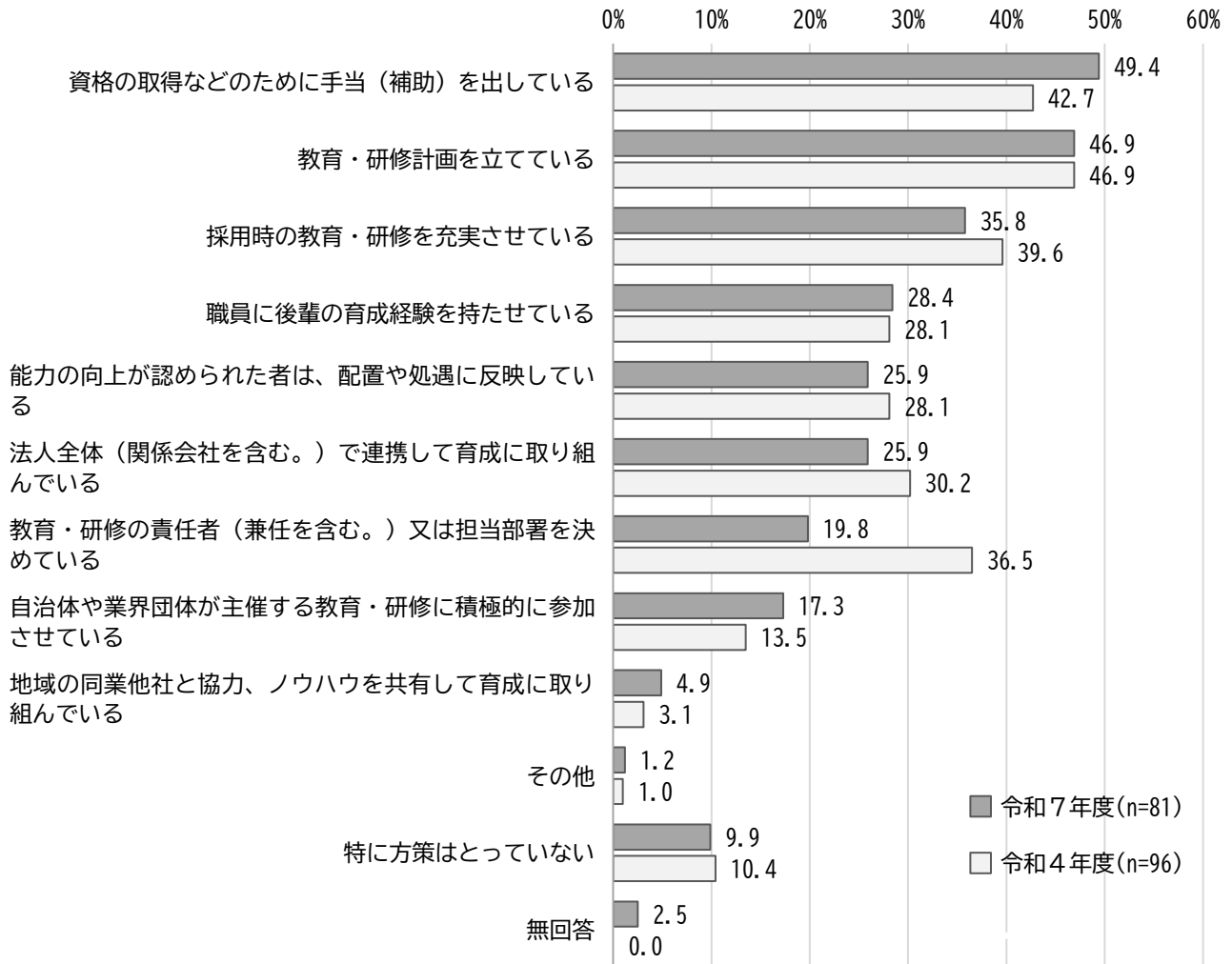
	事業所数	残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる	本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる	賃金水準を向上させている	能力や仕事を評価し、賃金などの処遇に反映している	非正規職員から正規職員への転換の機会を設けている	新人の指導担当・アドバイザーを置いている	能力開発を充実させている（社内研修実施、社外講習等の受講・支援等）
全体	81	49.4%	39.5%	25.9%	18.5%	19.8%	4.9%	2.5%
訪問系	21	47.6%	38.1%	19.0%	23.8%	23.8%	0.0%	0.0%
施設系（入所型）	7	14.3%	28.6%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	71.4%	52.4%	23.8%	4.8%	23.8%	9.5%	0.0%
居住系	17	58.8%	41.2%	23.5%	23.5%	17.6%	11.8%	0.0%
居宅介護支援	11	36.4%	27.3%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%

	悩み、不満、不安などの相談窓口を設けている（メンタルヘルス対策を含む）	職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図っている	業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに入れている	身体的負担（腰痛や体力に不安）の解消に力を入れている	その他	特に方策はとっていない	無回答
全体	8.6%	23.5%	18.5%	4.9%	3.7%	7.4%	2.5%
訪問系	9.5%	28.6%	9.5%	9.5%	0.0%	9.5%	4.8%
施設系（入所型）	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	0.0%	14.3%	19.0%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%
居住系	23.5%	17.6%	23.5%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%
居宅介護支援	0.0%	18.2%	18.2%	0.0%	18.2%	18.2%	0.0%

(8) 人財育成のための取組

問 16 貴事業所では、人財育成のための取組に当たって、どのような方策をとっていますか。(複数回答)

令和7年度では、「資格の取得などのために手当（補助）を出している」が 49.4%で最も高く、次いで、「教育・研修計画を立てている」が 46.9%、「採用時の教育・研修を充実させている」が 35.8%であった。「教育・研修の責任者（兼任を含む）又は担当部署を決めている」は、令和4年度の 36.5%より 16.7ポイント減少している。



■人財育成のための取組に当たっての方策

介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「教育・研修計画を立てている」が38.1%で最も高く、次いで、「採用時の教育・研修を充実させている」が33.3%であった。施設系（入所型）では、「教育・研修計画を立てている」「資格の取得などのために手当（補助）を出している」が57.1%で最も高くなっている。施設系（通所型）では、「資格の取得などのために手当（補助）を出している」が47.6%で最も高く、次いで、「教育・研修計画を立てている」が38.1%であった。居住系では、「資格の取得などのために手当（補助）を出している」が82.4%で最も高く、次いで、「教育・研修計画を立てている」が70.6%であった。居宅介護支援では、「自治体や業界団体が主催する教育・研修に積極的に参加させている」が63.6%で最も高く、次いで、「資格の取得などのために手当（補助）を出している」が45.5%であった。

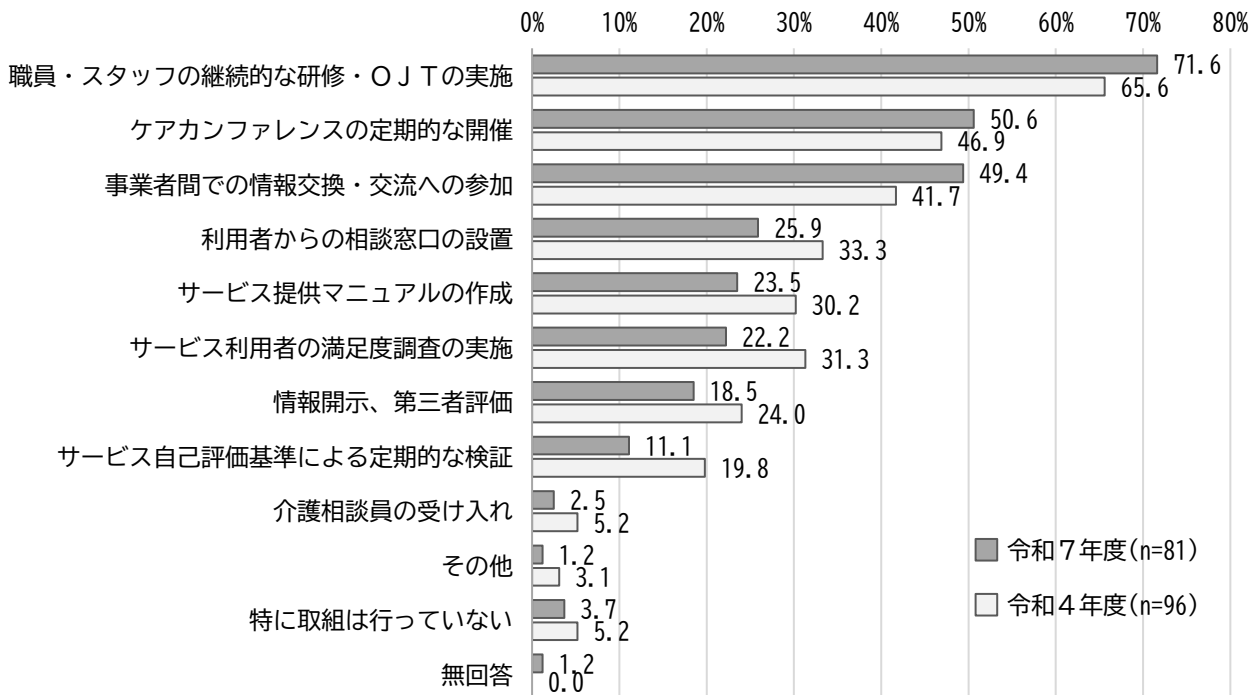
	事業所数	教育・研修計画を立てている	教育・研修の責任者（兼任を含む）又は担当部署を決めている	採用時の教育・研修を充実させている	職員に後輩の育成経験を持たせている	能力の向上が認められた者は、配置や処遇に反映している	法人全体（関係会社を含む）で連携して育成に取り組んでいる
全体	81	46.9%	19.8%	35.8%	28.4%	25.9%	25.9%
訪問系	21	38.1%	23.8%	33.3%	28.6%	28.6%	28.6%
施設系（入所型）	7	57.1%	14.3%	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%
施設系（通所型）	21	38.1%	14.3%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%
居住系	17	70.6%	23.5%	58.8%	35.3%	41.2%	35.3%
居宅介護支援	11	27.3%	18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	27.3%

	自治体や業界団体が主催する教育・研修に積極的に参加させている	地域の同業他社と協力、ノウハウを共有して育成に取り組んでいる	資格の取得などのために手当（補助）を出している	その他	特に方策はとっていない	無回答
全体	17.3%	4.9%	49.4%	1.2%	9.9%	2.5%
訪問系	14.3%	4.8%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%
施設系（入所型）	14.3%	0.0%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	4.8%	0.0%	47.6%	0.0%	9.5%	4.8%
居住系	5.9%	0.0%	82.4%	0.0%	0.0%	5.9%
居宅介護支援	63.6%	27.3%	45.5%	0.0%	18.2%	0.0%

(9) サービス向上のための取組

問 17 貴事業所で、サービスの質の向上のために力を入れている取組は何ですか。(複数回答)

令和7年度では、「職員・スタッフの継続的な研修・OJTの実施」が71.6%で最も高く、次いで、「ケアカンファレンスの定期的な開催」が50.6%、「事業者間での情報交換・交流への参加」が49.4%であった。「サービス利用者の満足度調査の実施」は、令和4年度の31.3%より9.1ポイント減少している。



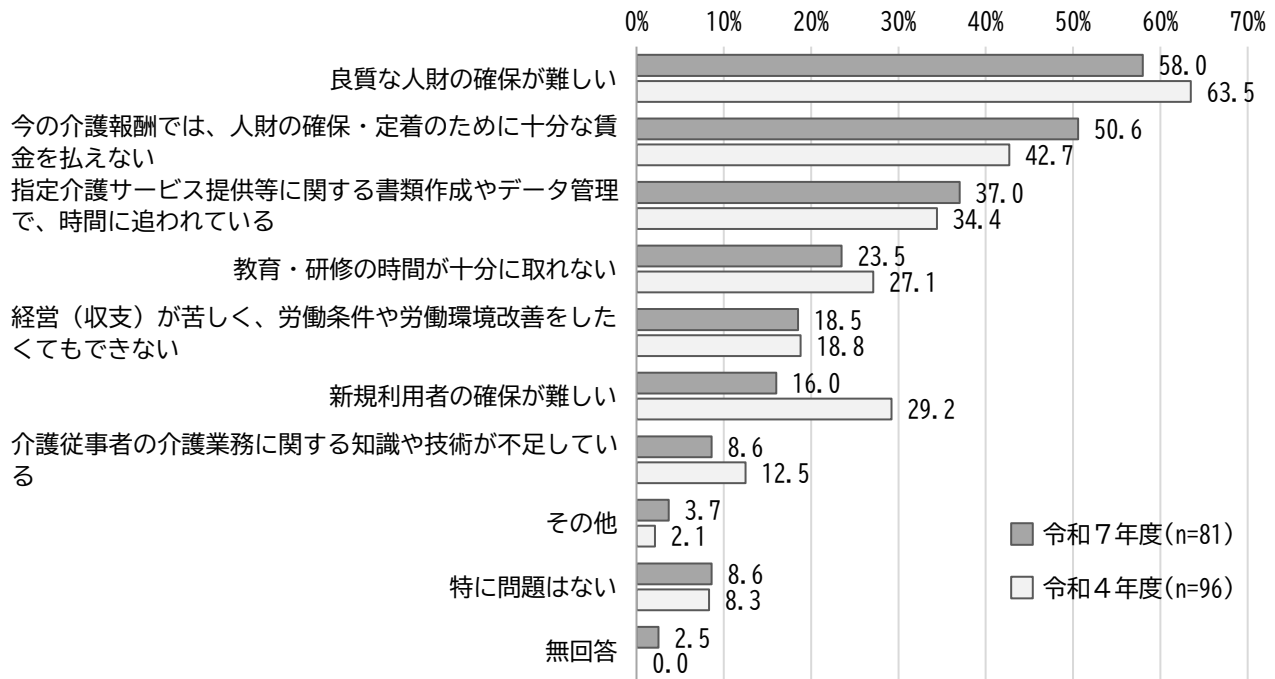
	事業所数	ケアカンファレンスの定期的な開催	職員・スタッフの継続的な研修・OJTの実施	事業者間での情報交換・交流への参加	利用者からの相談窓口の設置	サービス利用者の満足度調査の実施	サービス提供マニュアルの作成
全体	81	50.6%	71.6%	49.4%	25.9%	22.2%	23.5%
訪問系	21	57.1%	66.7%	42.9%	19.0%	19.0%	23.8%
施設系(入所型)	7	42.9%	85.7%	71.4%	42.9%	28.6%	42.9%
施設系(通所型)	21	42.9%	66.7%	33.3%	14.3%	14.3%	19.0%
居住系	17	64.7%	100.0%	41.2%	41.2%	47.1%	35.3%
居宅介護支援	11	27.3%	45.5%	72.7%	18.2%	9.1%	9.1%

	介護相談員の受け入れ	情報開示、第三者評価	サービス自己評価基準による定期的な検証	その他	特に取組は行っていない	無回答
全体	2.5%	18.5%	11.1%	1.2%	3.7%	1.2%
訪問系	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
施設系(入所型)	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	4.8%	9.5%	19.0%	4.8%	4.8%	0.0%
居住系	0.0%	47.1%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	18.2%	0.0%

(10) 事業所運営上の問題

問 18 貴事業所では、介護保険の指定介護サービス事業を運営する上での問題点は何ですか。(複数回答)

令和7年度では、「良質な人財の確保が難しい」が58.0%で最も高く、次いで、「今の介護報酬では、人財の確保・定着のために十分な賃金を払えない」が50.6%、「指定介護サービス提供等に関する書類作成やデータ管理で、時間に追われている」が37.0%であった。「新規利用者の確保が難しい」は、令和4年度の29.2%より13.2ポイント減少している。



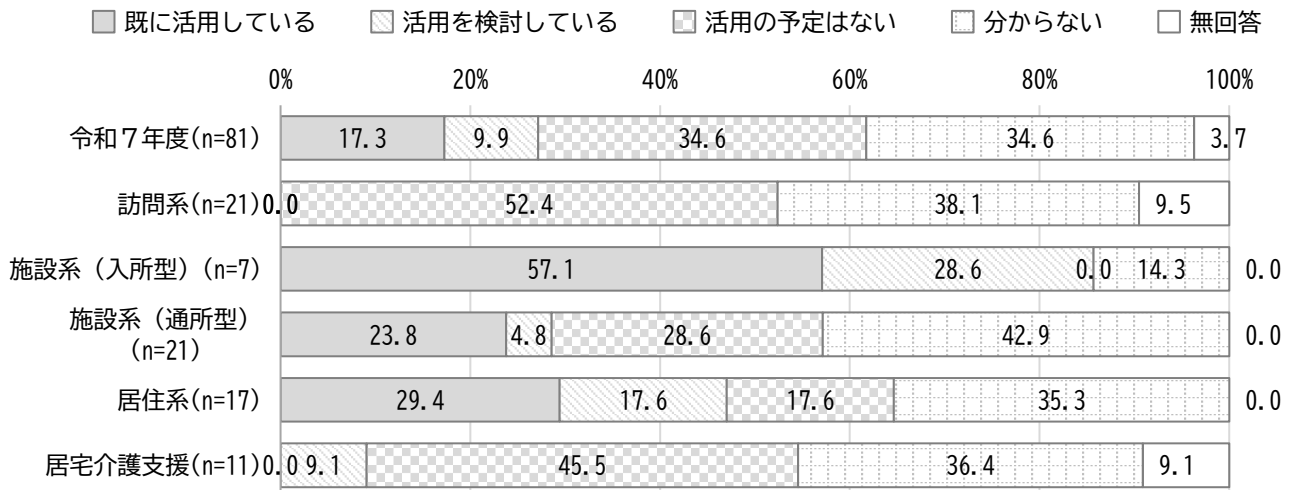
	事業所数	今の介護報酬では、人財の確保・定着のために十分な賃金を払えない	経営(収支)が苦しく、労働条件や労働環境改善をしたくてもできない	良質な人財の確保が難しい	新規利用者の確保が難しい	介護従事者の介護業務に関する知識や技術が不足している	教育・研修の時間が十分に取れない	指定介護サービス提供等に関する書類作成やデータ管理で、時間に追われている	その他	特に問題はない	無回答
全体	81	50.6%	18.5%	58.0%	16.0%	8.6%	23.5%	37.0%	3.7%	8.6%	2.5%
訪問系	21	38.1%	23.8%	42.9%	33.3%	4.8%	23.8%	42.9%	4.8%	9.5%	4.8%
施設系(入所型)	7	71.4%	14.3%	85.7%	28.6%	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	21	57.1%	23.8%	61.9%	4.8%	9.5%	23.8%	47.6%	0.0%	4.8%	4.8%
居住系	17	52.9%	11.8%	64.7%	17.6%	23.5%	29.4%	11.8%	0.0%	11.8%	0.0%
居宅介護支援	11	45.5%	18.2%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%	54.5%	9.1%	18.2%	0.0%
従業員19人以下	24	54.2%	33.3%	37.5%	12.5%	4.2%	8.3%	45.8%	8.3%	12.5%	0.0%
従業員20~99人	24	45.8%	8.3%	66.7%	20.8%	12.5%	20.8%	41.7%	4.2%	4.2%	4.2%
従業員100~499人	15	53.3%	26.7%	80.0%	20.0%	0.0%	46.7%	20.0%	0.0%	6.7%	0.0%
従業員500人以上	15	53.3%	6.7%	53.3%	13.3%	20.0%	33.3%	33.3%	0.0%	13.3%	0.0%

(11) 多様な介護人財の活用

問 19 貴事業所では、介護助手（※）の活用について、どのようにお考えですか。（単数回答）

※ 掃除や食事の配膳・片づけ、ベッドメイキング、利用者の会話の相手、移動の付き添い、レクリエーションの実施や補助、送迎等、専門的な業務（身体介護等）以外の補助的業務を担う人財を指します。

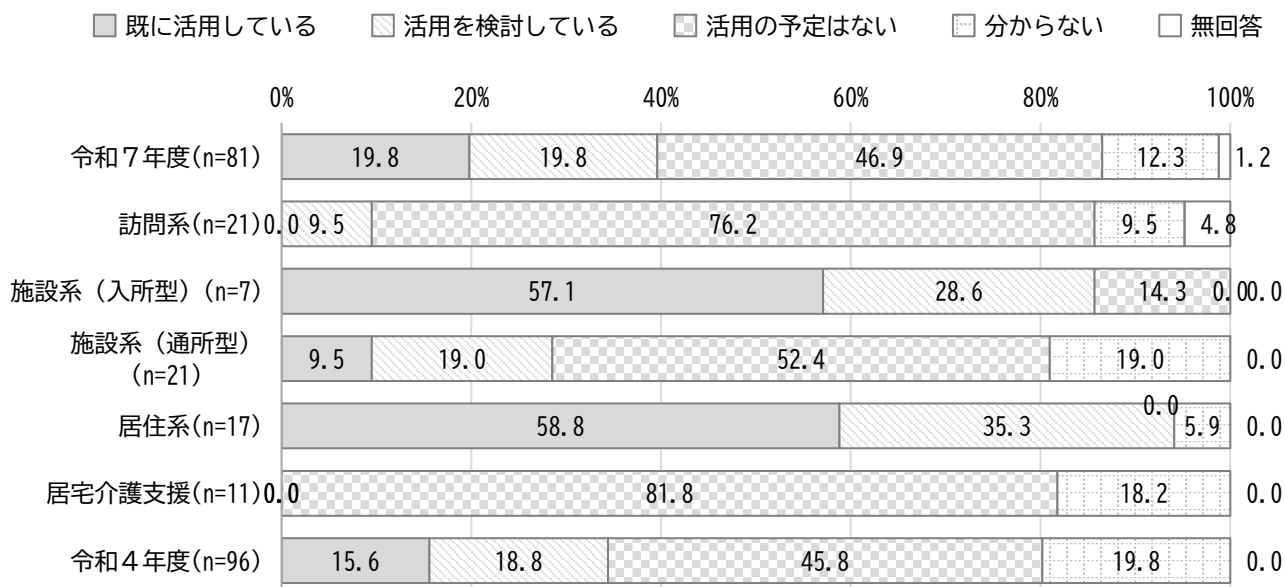
令和7年度では、「活用の予定はない」「分からない」が34.6%で最も高くなっている。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「活用の予定はない」が52.4%で最も高く、次いで、「分からない」が38.1%であった。施設系（入所型）では、「既に活用している」が57.1%で最も高く、次いで、「活用を検討している」が28.6%であった。施設系（通所型）では、「分からない」が42.9%で最も高く、次いで、「活用の予定はない」が28.6%であった。居住系では、「分からない」が35.3%で最も高く、次いで、「既に活用している」が29.4%であった。居宅介護支援では、「活用の予定はない」が45.5%で最も高く、次いで、「分からない」が36.4%であった。

問 20 貴事業所では、外国人介護人財の活用について、どのようにお考えですか。(単数回答)

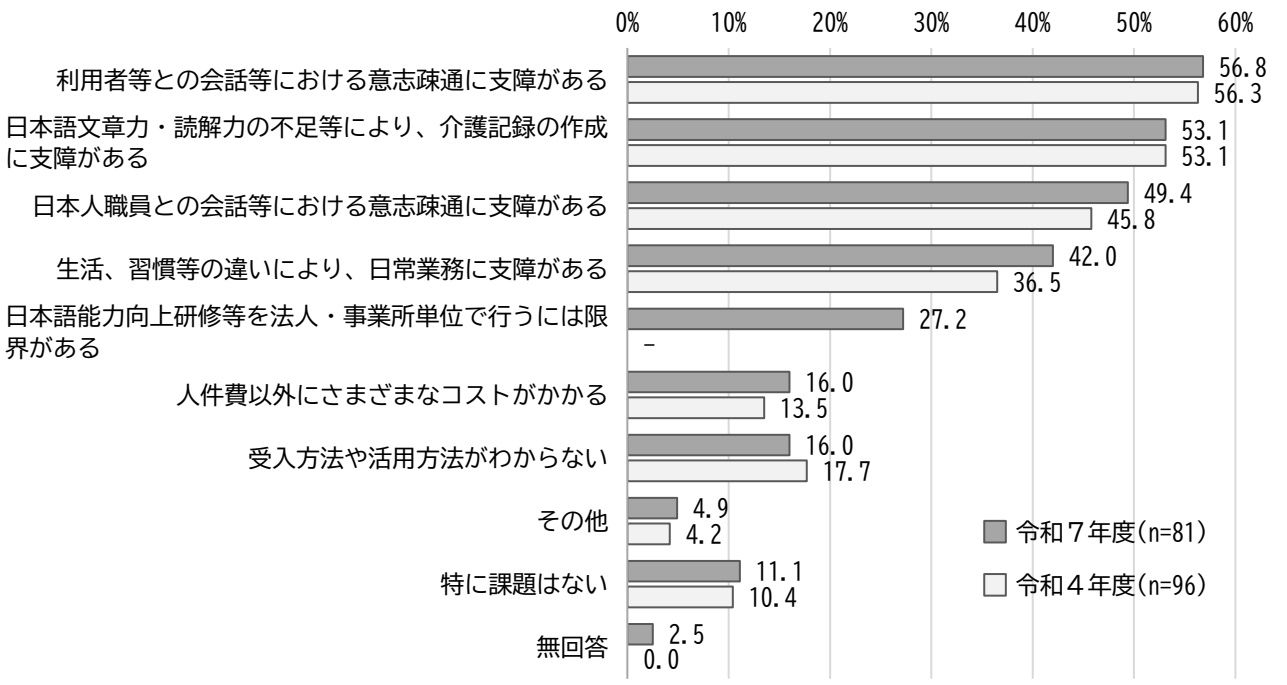
令和7年度では、「活用の予定はない」が46.9%で最も高く、次いで、「既に活用している」「活用を検討している」が19.8%であった。「既に活用している」は、令和4年度の15.6%より4.2ポイント増加している。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「活用の予定はない」が76.2%で最も高く、次いで、「活用を検討している」「分からない」が9.5%であった。施設系(入所型)では、「既に活用している」が57.1%で最も高く、次いで、「活用を検討している」が28.6%であった。施設系(通所型)では、「活用の予定はない」が52.4%で最も高く、次いで、「活用を検討している」「分からない」が19.0%であった。居住系では、「既に活用している」が58.8%で最も高く、次いで、「活用を検討している」が35.3%であった。居宅介護支援では、「活用の予定はない」が81.8%で最も高く、次いで、「分からない」が18.2%であった。

問 21 外国人労働者の活用の有無にかかわらず、全ての方にお伺いします。外国人労働者の活用について、どのような課題がありますか。（複数回答）

令和7年度では、「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」が 56.8%で最も高く、次いで、「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある」が 53.1%、「日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある」が 49.4%であった。「生活、習慣等の違いにより、日常業務に支障がある」は、令和4年度の 36.5%より 5.5 ポイント増加している。



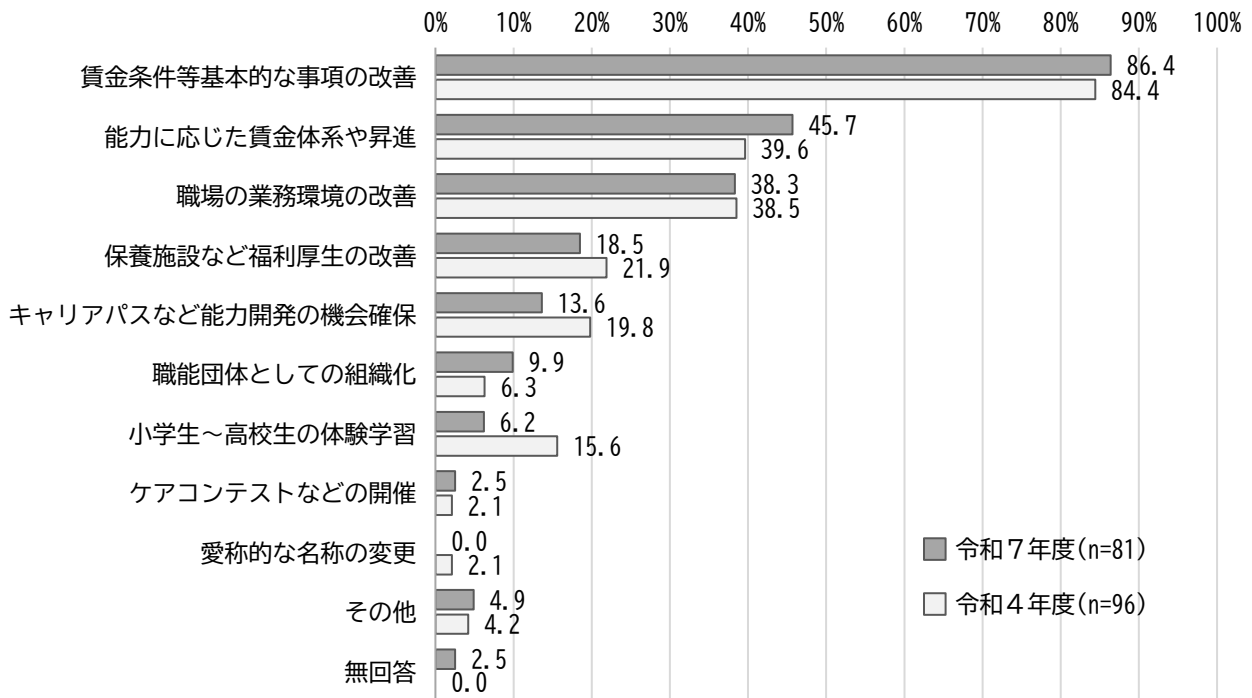
介護保険サービス系別にみると、訪問系では、「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」が 61.9%で最も高く、次いで、「生活、習慣等の違いにより、日常業務に支障がある」が 42.9%であった。施設系（入所型）では、「日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある」「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」が 71.4%で最も高くなっている。施設系（通所型）では、「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある」が 52.4%で最も高く、次いで、「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」が 47.6%であった。居住系では、「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある」が 76.5%で最も高く、次いで、「日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある」が 64.7%であった。居宅介護支援では、「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」が 63.6%で最も高く、次いで、「生活、習慣等の違いにより、日常業務に支障がある」が 54.5%であった。

	事業所数	日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある	利用者等との会話等における意志疎通に支障がある	日本語文章力・読解力の不足等により記録の作成に支障がある	生活、習慣等の違いにより、日常業務に支障がある	人件費以外にさまざまなコストがかかる	受入方法や活用方法がわからない	日本語能力向上研修等を法人・事業所単位では限界がある	その他	特に課題はない	無回答
全体	81	49.4%	56.8%	53.1%	42.0%	16.0%	16.0%	27.2%	4.9%	11.1%	2.5%
訪問系	21	38.1%	61.9%	38.1%	42.9%	23.8%	28.6%	23.8%	9.5%	9.5%	9.5%
施設系（入所型）	7	71.4%	71.4%	57.1%	42.9%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%
施設系（通所型）	21	42.9%	47.6%	52.4%	33.3%	23.8%	19.0%	38.1%	4.8%	4.8%	0.0%
居住系	17	64.7%	47.1%	76.5%	41.2%	5.9%	0.0%	29.4%	0.0%	17.6%	0.0%
居宅介護支援	11	45.5%	63.6%	45.5%	54.5%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	18.2%	0.0%

(12) 介護の仕事のイメージアップ

問 22 介護の仕事のイメージアップのためには、どのような方策が必要だと考えていますか。(複数回答)

令和7年度では、「賃金条件等基本的な事項の改善」が 86.4%で最も高く、次いで、「能力に応じた賃金体系や昇進」が 45.7%、「職場の業務環境の改善」が 38.3%であった。「小学生～高校生の体験学習」は、令和4年度の 15.6%より 9.4ポイント減少している。



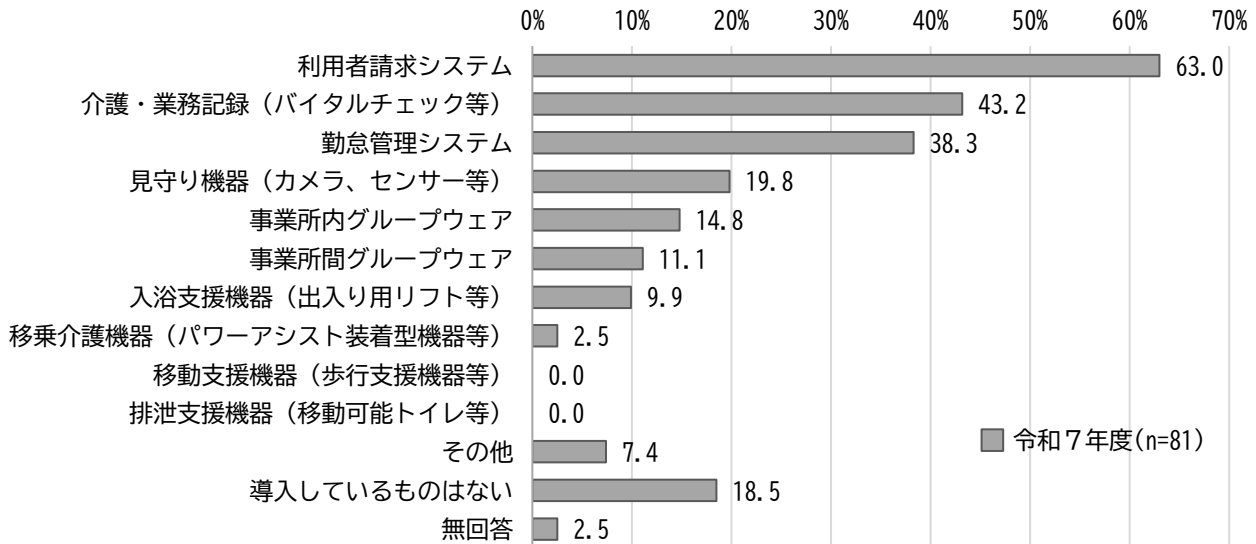
介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「賃金条件等基本的な事項の改善」が 81.0%で最も高く、次いで、「職場の業務環境の改善」が 57.1%であった。施設系（入所型）では、「賃金条件等基本的な事項の改善」が 85.7%で最も高く、次いで、「能力に応じた賃金体系や昇進」「キャリアパスなど能力開発の機会確保」が 57.1%であった。施設系（通所型）では、「賃金条件等基本的な事項の改善」が 81.0%で最も高く、次いで、「能力に応じた賃金体系や昇進」が 42.9%であった。居住系では、「賃金条件等基本的な事項の改善」が 100.0%で最も高く、次いで、「能力に応じた賃金体系や昇進」が 41.2%であった。居宅介護支援では、「賃金条件等基本的な事項の改善」が 90.9%で最も高く、次いで、「能力に応じた賃金体系や昇進」が 54.5%であった。

	事業所数	賃金条件等基本的な事項の改善	保養施設など福利厚生への改善	職場の業務環境の改善	能力に応じた賃金体系や昇進	キャリアパスなど能力開発の機会確保	職能団体としての組織化	愛称的な名称の変更	ケアコンテストなどの開催	小学生～高校生の体験学習	その他	無回答
全体	81	86.4%	18.5%	38.3%	45.7%	13.6%	9.9%	0.0%	2.5%	6.2%	4.9%	2.5%
訪問系	21	81.0%	23.8%	57.1%	38.1%	9.5%	14.3%	0.0%	0.0%	4.8%	4.8%	4.8%
施設系（入所型）	7	85.7%	0.0%	42.9%	57.1%	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	21	81.0%	23.8%	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	4.8%	4.8%	9.5%	4.8%
居住系	17	100.0%	23.5%	23.5%	41.2%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	90.9%	9.1%	27.3%	54.5%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%

(13) ICTや介護ロボットの活用状況

問 23 貴事業所で活用している、ICT や介護ロボット等を教えてください。(複数回答)

令和7年度では、「利用者請求システム」が 63.0%で最も高く、次いで、「介護・業務記録 (バイタルチェック等)」が 43.2%、「勤怠管理システム」が 38.3%であった。



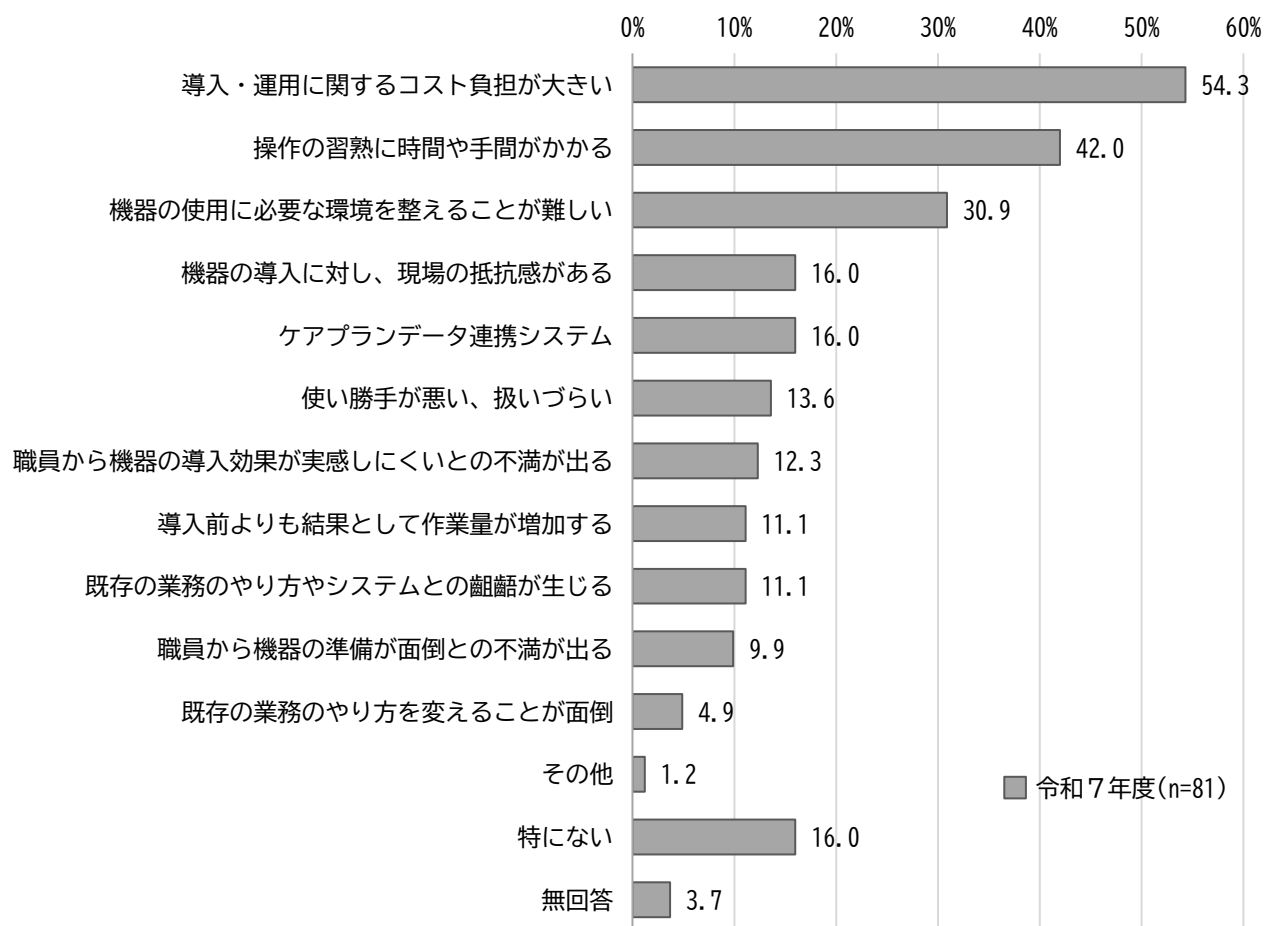
介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「利用者請求システム」が 66.7%で最も高く、次いで、「介護・業務記録 (バイタルチェック等)」が 33.3%であった。施設系 (入所型) では、「介護・業務記録 (バイタルチェック等)」「見守り機器 (カメラ、センサー等)」が 71.4%で最も高くなっている。施設系 (通所型) では、「利用者請求システム」が 66.7%で最も高く、次いで、「勤怠管理システム」が 47.6%であった。居住系では、「利用者請求システム」が 64.7%で最も高く、次いで、「見守り機器 (カメラ、センサー等)」が 58.8%であった。居宅介護支援では、「利用者請求システム」「導入しているものはない」が 36.4%で最も高くなっている。

	事業所数	利用者請求システム	介護・業務記録 (バイタルチェック等)	勤怠管理システム	移乗介護機器 (パワーアシスト装着型機器等)	移動支援機器 (歩行支援機器等)	排泄支援機器 (移動可能トイレ等)
全体	81	63.0%	43.2%	38.3%	2.5%	0.0%	0.0%
訪問系	21	66.7%	33.3%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系 (入所型)	7	57.1%	71.4%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%
施設系 (通所型)	21	66.7%	38.1%	47.6%	0.0%	0.0%	0.0%
居住系	17	64.7%	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	11	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	見守り機器 (カメラ、センサー等)	入浴支援機器 (出入り用リフト等)	事業所内グループウェア	事業所間グループウェア	その他	導入しているものはない	無回答
全体	19.8%	9.9%	14.8%	11.1%	7.4%	18.5%	2.5%
訪問系	4.8%	0.0%	19.0%	9.5%	9.5%	14.3%	4.8%
施設系 (入所型)	71.4%	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系 (通所型)	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	4.8%	23.8%	0.0%
居住系	58.8%	11.8%	17.6%	11.8%	5.9%	17.6%	5.9%
居宅介護支援	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	36.4%	0.0%

問 24 ICT や介護ロボット等の導入に関して課題となったこと、あるいは課題と感ずることについて教えてください。(複数回答)

令和7年度では、「導入・運用に関するコスト負担が大きい」が 54.3%で最も高く、次いで、「操作の習熟に時間や手間がかかる」が 42.0%、「機器の使用に必要な環境を整えることが難しい」が 30.9%であった。



■ICT や介護ロボット等の導入に関する課題

介護保険サービス系別にみると、訪問系では、「導入・運用に関するコスト負担が大きい」「操作の習熟に時間や手間がかかる」が 66.7%で最も高くなっている。施設系（入所型）では、「導入・運用に関するコスト負担が大きい」が 85.7%で最も高く、次いで、「操作の習熟に時間や手間がかかる」が 57.1%であった。施設系（通所型）では、「導入・運用に関するコスト負担が大きい」が 38.1%で最も高く、次いで、「機器の使用に必要な環境を整えることが難しい」が 33.3%であった。居住系では、「導入・運用に関するコスト負担が大きい」が 52.9%で最も高く、次いで、「操作の習熟に時間や手間がかかる」が 35.3%であった。居宅介護支援では、「ケアプランデータ連携システム」が 63.6%で最も高く、次いで、「導入・運用に関するコスト負担が大きい」が 45.5%であった。

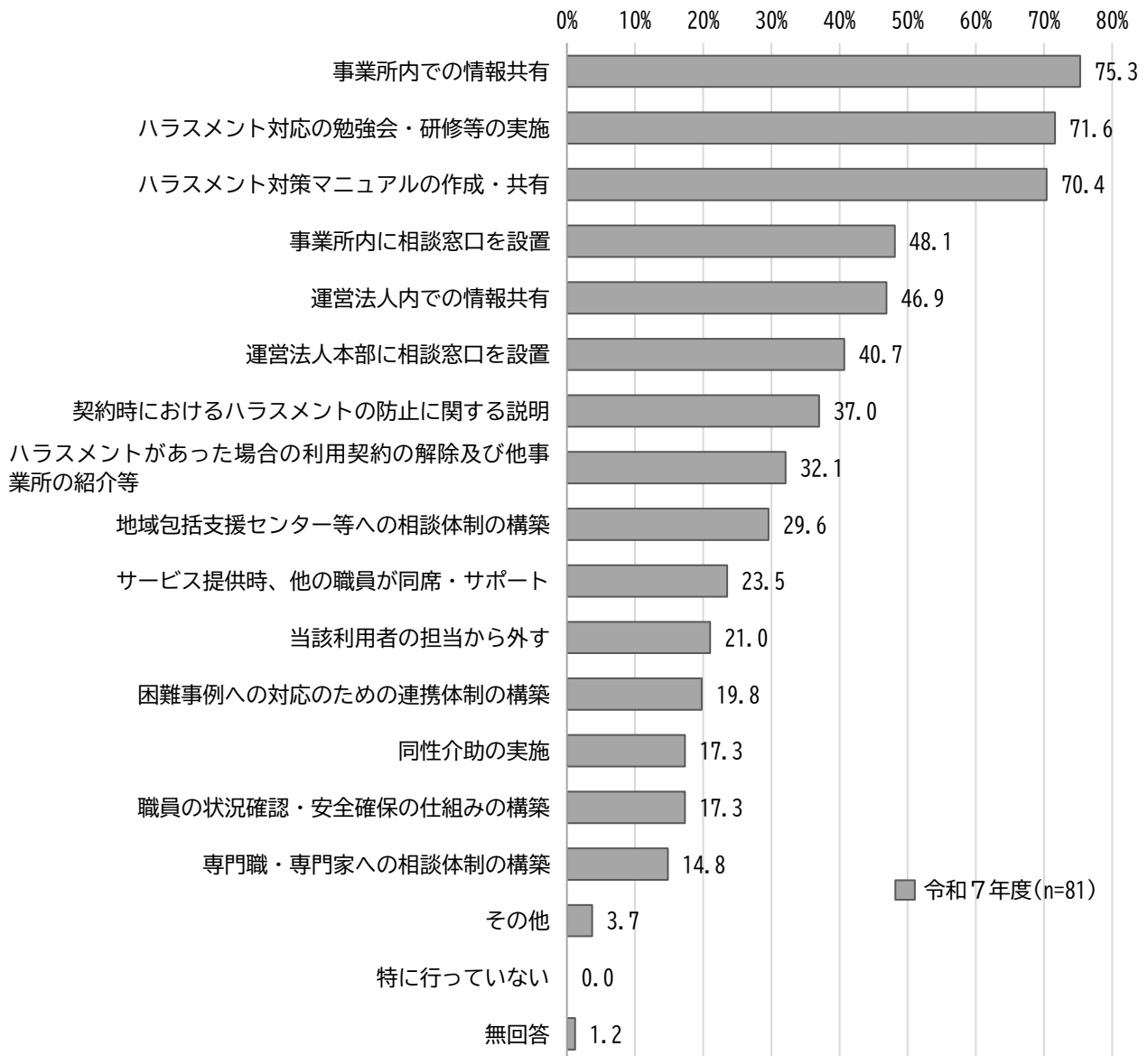
	事業所数	導入・運用に関するコスト負担が大きい	機器の使用に必要な環境を整えることが難しい	使い勝手が悪い、扱いづらい	操作の習熟に時間や手間がかかる	機器の導入に対し、現場の抵抗感がある	職員から機器の準備が面倒との不満が出る	職員から機器の導入効果が実感しにくいとの不満が出る
全体	81	54.3%	30.9%	13.6%	42.0%	16.0%	9.9%	12.3%
訪問系	21	66.7%	42.9%	19.0%	66.7%	14.3%	14.3%	9.5%
施設系（入所型）	7	85.7%	42.9%	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	14.3%
施設系（通所型）	21	38.1%	33.3%	14.3%	28.6%	14.3%	9.5%	19.0%
居住系	17	52.9%	23.5%	5.9%	35.3%	17.6%	5.9%	5.9%
居宅介護支援	11	45.5%	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%

	導入前よりも結果として作業量が増加する	既存の業務のやり方やシステムとの齟齬が生じる	既存の業務のやり方を変えることが面倒	ケアプランデータ連携システム	その他	特になし	無回答
全体	11.1%	11.1%	4.9%	16.0%	1.2%	16.0%	3.7%
訪問系	4.8%	4.8%	0.0%	4.8%	4.8%	9.5%	4.8%
施設系（入所型）	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系（通所型）	19.0%	9.5%	14.3%	9.5%	0.0%	28.6%	4.8%
居住系	5.9%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	5.9%
居宅介護支援	18.2%	18.2%	9.1%	63.6%	0.0%	18.2%	0.0%

(14) ハラスメントや虐待の状況

問 25 利用者やその家族等からのハラスメントに対する、貴事業所（組織）の対策の整備状況について教えてください。（複数回答）

令和7年度では、「事業所内での情報共有」が75.3%で最も高く、次いで、「ハラスメント対応の勉強会・研修等の実施」が71.6%、「ハラスメント対策マニュアルの作成・共有」が70.4%であった。



■利用者やその家族等からのハラスメントに対する対策の整備状況

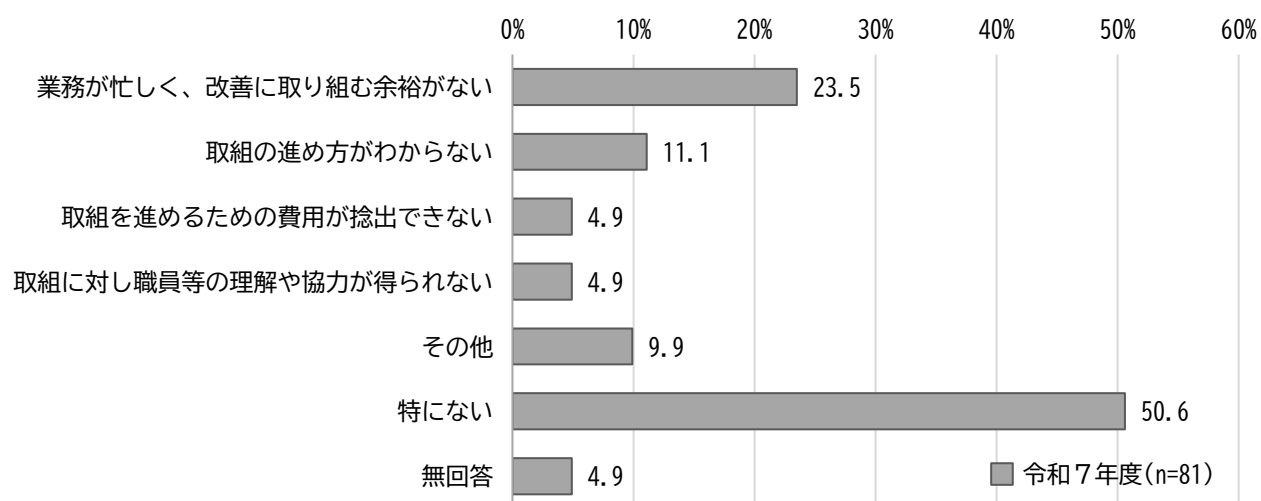
介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「ハラスメント対応の勉強会・研修等の実施」が81.0%で最も高く、次いで、「事業所内での情報共有」が71.4%であった。施設系（入所型）では、「ハラスメント対策マニュアルの作成・共有」が85.7%で最も高く、次いで、「ハラスメント対応の勉強会・研修等の実施」「事業所内での情報共有」「事業所内に相談窓口を設置」が71.4%であった。施設系（通所型）では、「ハラスメント対策マニュアルの作成・共有」が76.2%で最も高く、次いで、「事業所内での情報共有」が66.7%であった。居住系では、「事業所内での情報共有」が88.2%で最も高く、次いで、「ハラスメント対策マニュアルの作成・共有」が76.5%であった。居宅介護支援では、「ハラスメント対応の勉強会・研修等の実施」が81.8%で最も高く、次いで、「ハラスメント対策マニュアルの作成・共有」「事業所内での情報共有」が72.7%であった。

	事業所数	ハラスメント対策マニュアルの作成・共有	ハラスメント対応の勉強会・研修等の実施	事業所内での情報共有	事業所内に相談窓口を設置	運営法人内での情報共有	運営法人本部に相談窓口を設置	同性介助の実施	職員の状況確認・安全確保の仕組みの構築	契約時におけるハラスメントの防止に関する説明
全体	81	70.4%	71.6%	75.3%	48.1%	46.9%	40.7%	17.3%	17.3%	37.0%
訪問系	21	52.4%	81.0%	71.4%	42.9%	42.9%	28.6%	19.0%	19.0%	33.3%
施設系(入所型)	7	85.7%	71.4%	71.4%	71.4%	57.1%	42.9%	28.6%	28.6%	57.1%
施設系(通所型)	21	76.2%	61.9%	66.7%	38.1%	23.8%	38.1%	28.6%	4.8%	38.1%
居住系	17	76.5%	64.7%	88.2%	64.7%	70.6%	58.8%	5.9%	11.8%	23.5%
居宅介護支援	11	72.7%	81.8%	72.7%	45.5%	54.5%	45.5%	0.0%	27.3%	54.5%

	ハラスメントがあった場合の利用契約の解除及び他事業所の紹介等	専門職・専門家への相談体制の構築	地域包括支援センター等への相談体制の構築	困難事例への対応のための連携体制の構築	当該利用者の担当から外す	サービス提供時、他の職員が同席・サポート	その他	特に行っていない	無回答
全体	32.1%	14.8%	29.6%	19.8%	21.0%	23.5%	3.7%	0.0%	1.2%
訪問系	33.3%	0.0%	14.3%	19.0%	33.3%	33.3%	9.5%	0.0%	4.8%
施設系(入所型)	28.6%	57.1%	57.1%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	38.1%	14.3%	23.8%	14.3%	19.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
居住系	17.6%	5.9%	5.9%	17.6%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
居宅介護支援	45.5%	27.3%	63.6%	18.2%	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%

問 26 利用者やその家族等からのハラスメントへの対策において、課題であったのはどのようなことですか。(複数回答)

令和7年度では、「特にない」が 50.6%で最も高く、次いで、「業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない」が 23.5%、「取組の進め方がわからない」が 11.1%であった。

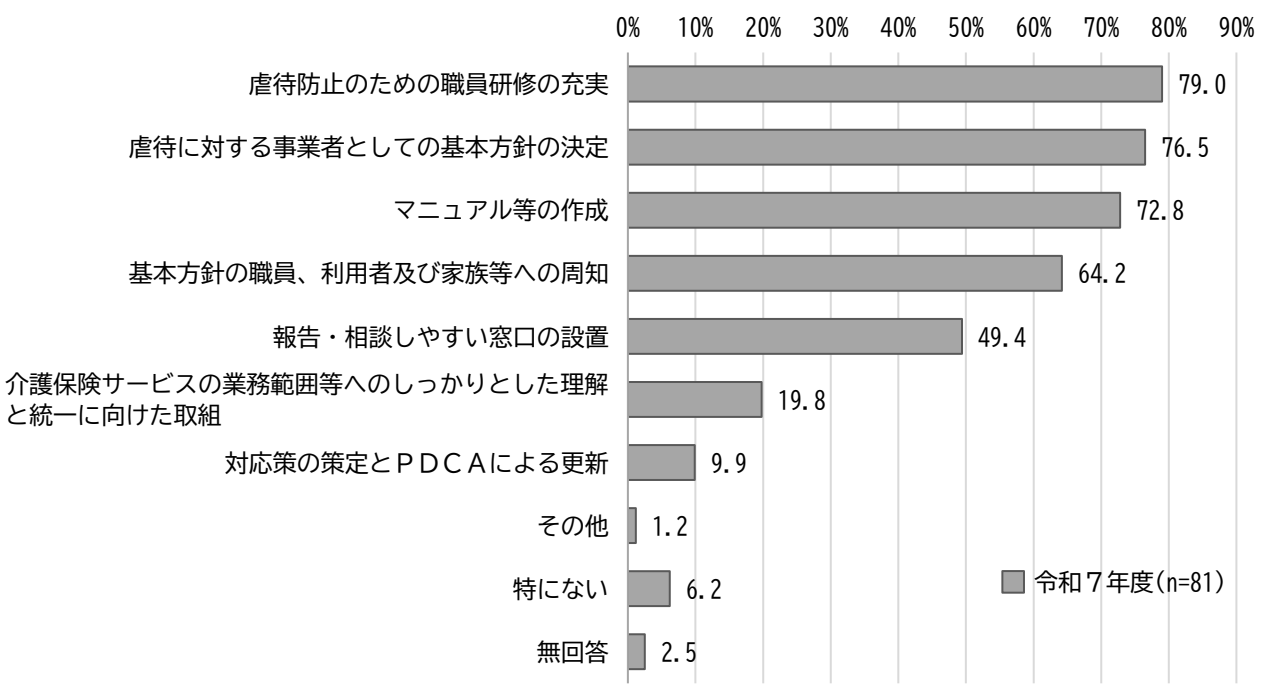


介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「特にない」が 42.9%で最も高く、次いで、「業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない」が 19.0%であった。施設系（入所型）では、「業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない」が 71.4%で最も高く、次いで、「取組の進め方がわからない」「その他」「特にない」が 14.3%であった。施設系（通所型）では、「特にない」が 61.9%で最も高く、次いで、「業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない」が 23.8%であった。居住系では、「特にない」が 52.9%で最も高く、次いで、「取組の進め方がわからない」が 29.4%であった。居宅介護支援では、「特にない」が 72.7%で最も高く、次いで、「業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない」が 18.2%であった。

	事業所数	取組の進め方がわからない	取組を進めるための費用が捻出できない	業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない	取組に対し職員等の理解や協力が得られない	その他	特にない	無回答
全体	81	11.1%	4.9%	23.5%	4.9%	9.9%	50.6%	4.9%
訪問系	21	0.0%	9.5%	19.0%	14.3%	9.5%	42.9%	9.5%
施設系(入所型)	7	14.3%	0.0%	71.4%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%
施設系(通所型)	21	9.5%	4.8%	23.8%	4.8%	4.8%	61.9%	4.8%
居住系	17	29.4%	5.9%	17.6%	0.0%	0.0%	52.9%	5.9%
居宅介護支援	11	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%	72.7%	0.0%

問 27 貴事業所で虐待の対応策として、具体的に取り組んでいることは何ですか。(複数回答)

令和7年度では、「虐待防止のための職員研修の充実」が79.0%で最も高く、次いで、「虐待に対する事業者としての基本方針の決定」が76.5%、「マニュアル等の作成」が72.8%であった。



介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「虐待防止のための職員研修の充実」が76.2%で最も高く、次いで、「マニュアル等の作成」が61.9%であった。施設系（入所型）では、「虐待に対する事業者としての基本方針の決定」「虐待防止のための職員研修の充実」が100.0%であった。施設系（通所型）では、「虐待に対する事業者としての基本方針の決定」が85.7%で最も高く、次いで、「虐待防止のための職員研修の充実」が71.4%であった。居住系では、「虐待に対する事業者としての基本方針の決定」「基本方針の職員、利用者及び家族等への周知」「虐待防止のための職員研修の充実」が88.2%で最も高くなっている。居宅介護支援では、「虐待防止のための職員研修の充実」が90.9%で最も高く、次いで、「マニュアル等の作成」が81.8%であった。

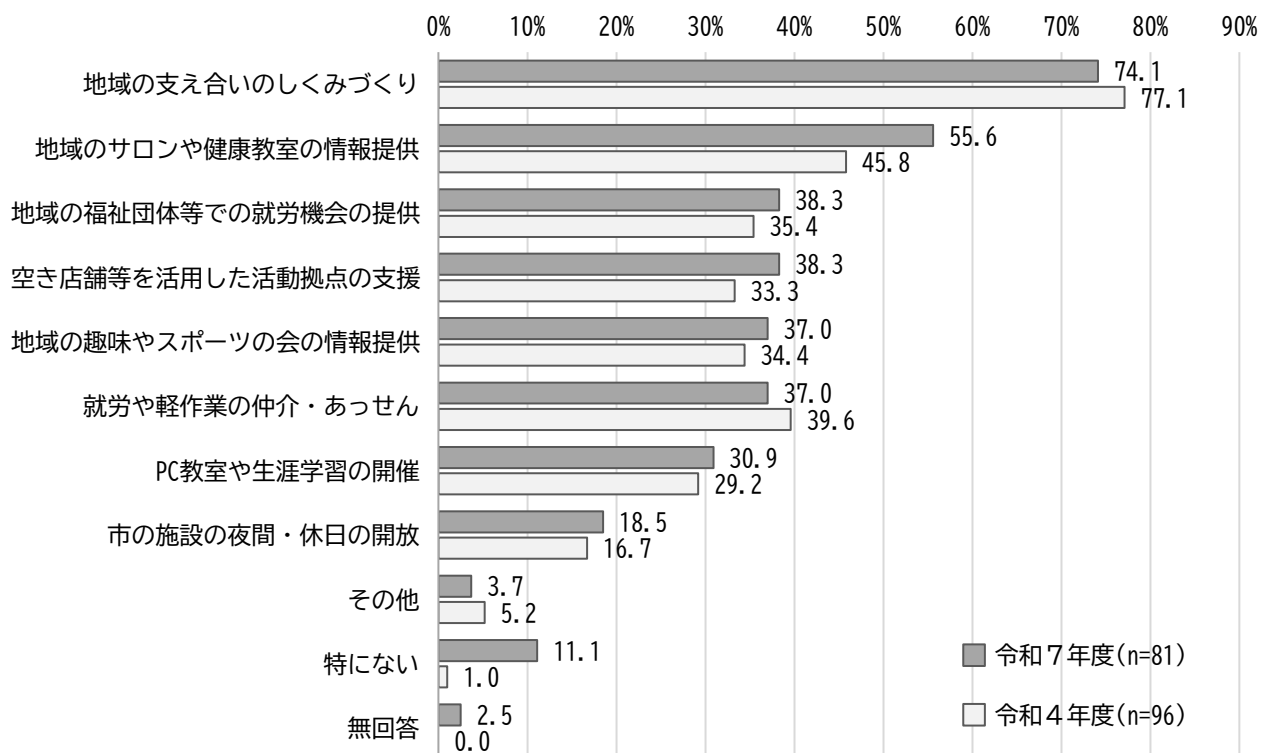
	事業所数	虐待に対する事業者としての基本方針の決定	基本方針の職員、利用者及び家族等への周知	マニュアル等の作成	虐待防止のための職員研修の充実	報告・相談しやすい窓口の設置	介護保険サービスの業務範囲等への理解と統一に向けた取組	対応策の策定とPDCAによる更新	その他	特にない	無回答
全体	81	76.5%	64.2%	72.8%	79.0%	49.4%	19.8%	9.9%	1.2%	6.2%	2.5%
訪問系	21	57.1%	47.6%	61.9%	76.2%	33.3%	4.8%	0.0%	0.0%	14.3%	4.8%
施設系(入所型)	7	100.0%	85.7%	71.4%	100.0%	71.4%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	21	85.7%	57.1%	66.7%	71.4%	42.9%	19.0%	9.5%	4.8%	4.8%	0.0%
居住系	17	88.2%	88.2%	82.4%	88.2%	64.7%	23.5%	17.6%	0.0%	5.9%	5.9%
居宅介護支援	11	63.6%	63.6%	81.8%	90.9%	63.6%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%

5. 地域包括ケアのビジョン

(1) 高齢者計画・第九期介護保険事業計画の基本目標

問 28 三鷹市では、「高齢者一人ひとりが尊厳を保持しつつ、住み慣れた地域で、安心して年齢を重ねることができるよう、地域の住民や多様な主体が参画し、互いに支え合い、助け合い、頼りあえるまち」を高齢者計画・第九期介護保険事業計画の基本目標としています。この基本目標を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

令和7年度では、「地域の支え合いのしくみづくり」が74.1%で最も高く、次いで、「地域のサロンや健康教室の情報提供」が55.6%、「地域の福祉団体等での就労機会の提供」「空き店舗等を活用した活動拠点の支援」が38.3%であった。「地域のサロンや健康教室の情報提供」は、令和4年度の45.8%より9.8ポイント増加している。



■高齢者計画・第九期介護保険事業計画の基本目標実現に必要なこと

介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「地域の支え合いのしくみづくり」が71.4%で最も高く、次いで、「地域の趣味やスポーツの会の情報提供」が47.6%であった。施設系（入所型）では、「地域の支え合いのしくみづくり」が100.0%で最も高く、次いで、「地域のサロンや健康教室の情報提供」が85.7%であった。施設系（通所型）では、「地域の支え合いのしくみづくり」が66.7%で最も高く、次いで、「地域のサロンや健康教室の情報提供」が61.9%であった。居住系では、「地域の支え合いのしくみづくり」が70.6%で最も高く、次いで、「地域のサロンや健康教室の情報提供」「PC 教室や生涯学習の開催」が35.3%であった。居宅介護支援では、「地域の支え合いのしくみづくり」「地域のサロンや健康教室の情報提供」が81.8%で最も高くなっている。

	事業所数	地域の支え合いのしくみづくり	地域の趣味やスポーツの会の情報提供	地域のサロンや健康教室の情報提供	PC 教室や生涯学習の開催	就労や軽作業の仲介・あっせん
全体	81	74.1%	37.0%	55.6%	30.9%	37.0%
訪問系	21	71.4%	47.6%	42.9%	33.3%	42.9%
施設系(入所型)	7	100.0%	42.9%	85.7%	57.1%	57.1%
施設系(通所型)	21	66.7%	19.0%	61.9%	14.3%	23.8%
居住系	17	70.6%	23.5%	35.3%	35.3%	29.4%
居宅介護支援	11	81.8%	63.6%	81.8%	36.4%	63.6%

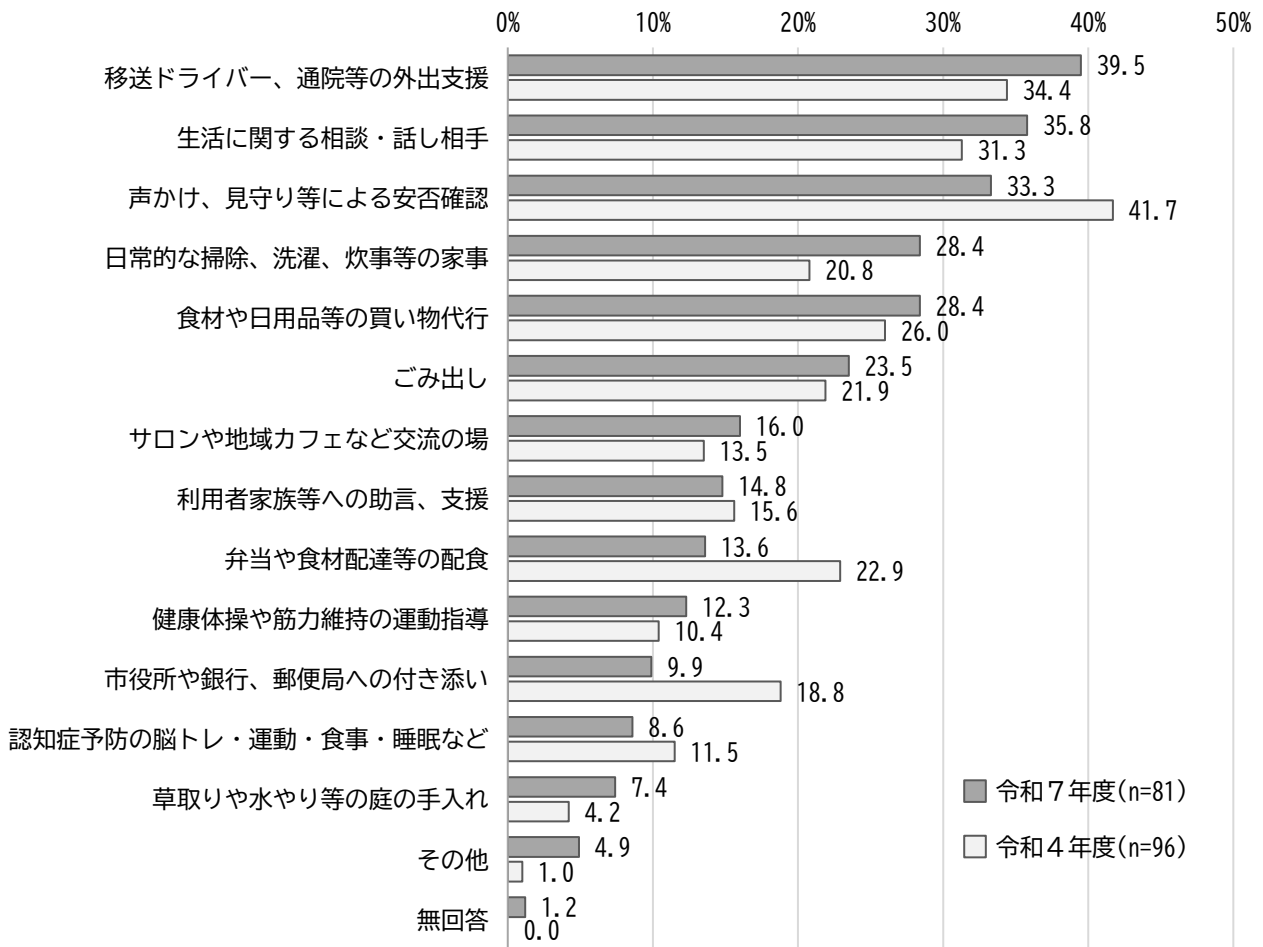
	地域の福祉団体等での就労機会の提供	空き店舗等を活用した活動拠点の支援	市の施設の夜間・休日の開放	その他	特にない	無回答
全体	38.3%	38.3%	18.5%	3.7%	11.1%	2.5%
訪問系	38.1%	28.6%	28.6%	4.8%	9.5%	4.8%
施設系(入所型)	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	42.9%	42.9%	4.8%	0.0%	19.0%	0.0%
居住系	29.4%	17.6%	11.8%	0.0%	11.8%	5.9%
居宅介護支援	45.5%	63.6%	54.5%	9.1%	9.1%	0.0%

(2) 地域における生活支援（インフォーマルサービス）

問 29 今後、高齢者や障がい者、子どもをはじめとするすべての市民が住み慣れた地域（住宅）での生活を続けるために、地域において特に必要だと思う生活支援（インフォーマルサービス）（※）はどういったものですか。（複数回答）

※ 公的機関や専門職による制度に基づくサービスや支援（フォーマルサービス）以外の支援をインフォーマルサービスと呼びます。具体的には、家族、近隣、友人、民生委員、ボランティア、非営利団体（NPO）などの制度に基づかない援助などが挙げられます。

令和7年度では、「移送ドライバー、通院等の外出支援」が39.5%で最も高く、次いで、「生活に関する相談・話し相手」が35.8%、「声かけ、見守り等による安否確認」が33.3%であった。「弁当や食材配達等の配食」は、令和4年度の22.9%より9.3ポイント減少している。



■地域における生活支援（インフォーマルサービス）

介護保険サービス系型別にみると、訪問系では、「ごみ出し」が 52.4%で最も高く、次いで、「食材や日用品等の買い物代行」「移送ドライバー、通院等の外出支援」「生活に関する相談・話し相手」が 38.1%であった。施設系（入所型）では、「声かけ、見守り等による安否確認」が 57.1%で最も高く、次いで、「移送ドライバー、通院等の外出支援」「サロンや地域カフェなど交流の場」が 42.9%であった。施設系（通所型）では、「移送ドライバー、通院等の外出支援」が 42.9%で最も高く、次いで、「生活に関する相談・話し相手」が 38.1%であった。居住系では、「声かけ、見守り等による安否確認」が 52.9%で最も高く、次いで、「生活に関する相談・話し相手」が 41.2%であった。居宅介護支援では、「移送ドライバー、通院等の外出支援」が 45.5%で最も高く、次いで、「ごみ出し」「生活に関する相談・話し相手」が 36.4%であった。

	事業所数	日常的な掃除、洗濯、炊事等の家事	ごみ出し	食材や日用品等の買い物代行	草取りや水やり等の庭の手入れ	声かけ、見守り等による安否確認	移送ドライバー、通院等の外出支援	市役所や銀行、郵便局への付き添い
全体	81	28.4%	23.5%	28.4%	7.4%	33.3%	39.5%	9.9%
訪問系	21	28.6%	52.4%	38.1%	9.5%	23.8%	38.1%	14.3%
施設系(入所型)	7	28.6%	0.0%	28.6%	14.3%	57.1%	42.9%	0.0%
施設系(通所型)	21	33.3%	9.5%	23.8%	4.8%	28.6%	42.9%	0.0%
居住系	17	29.4%	11.8%	29.4%	0.0%	52.9%	23.5%	5.9%
居宅介護支援	11	18.2%	36.4%	9.1%	9.1%	18.2%	45.5%	27.3%

	認知症予防の脳トレ・運動・食事・睡眠など	健康体操や筋力維持の運動指導	サロンや地域カフェなど交流の場	弁当や食材配達等の配食	生活に関する相談・話し相手	利用者家族等への助言、支援	その他	無回答
全体	8.6%	12.3%	16.0%	13.6%	35.8%	14.8%	4.9%	1.2%
訪問系	4.8%	9.5%	4.8%	9.5%	38.1%	19.0%	4.8%	0.0%
施設系(入所型)	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
施設系(通所型)	14.3%	23.8%	23.8%	28.6%	38.1%	9.5%	0.0%	0.0%
居住系	11.8%	5.9%	17.6%	5.9%	41.2%	23.5%	5.9%	5.9%
居宅介護支援	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%

(3) 自由意見

自由意見として次の意見・要望が指摘された。

※個人を特定できるもの、及びスペースの制約から一部を除き、原文のまま掲載

- 人財確保のためには、結局のところ一番はお金が必要。今の介護報酬では低いどころの話ではない。国は自分たちで最低賃金を上げ、事業所側は、最低賃金は上げなければならないのに、介護報酬は減らす、という究極の矛盾。このようなことをしている段階で、この国は介護業界から人を減らそうとしている以外に考えられない。そもそも介護事業所は年々減少していき、廃業した事業所で働いていたヘルパーも半分は医療介護福祉以外の全くの他業種へ転職していく。そのため、介護する人は飛躍的に減少していく。そのうえ、ヘルパーの高齢化、過疎地では介護する人財も少なく利用者宅にも回れなくなる。介護は民間では限界があるため、国が高齢者を管理して、国でヘルパーを集め、国でヘルパーを管理して、国で責任をもって介護していく形が理想だと思う。
- 高齢者への取り組みは高齢者のみならず、その家族や地域全体への働きが必要と感ずますが、昨今地域との関わり（自治会への加入）などを拒否する傾向が加速化している現在、地域包括ケアシステムを進めることは至難と思われる。その中でケアマネを初めとして多くの介護・看護職員が奔走している訳ですが、現状中々住民の理解が得られない状況です。5年、10年を見越した計画、介護を知ってもらう若い世代を育成していくことも大切だと思います。少子高齢化対策は一人一人の国民が背負う問題だと思います。国や市が悪いと言う他者責任論を回避し、どうすれば国の宝（こども）を増やしていけるのか国民一人一人が真剣に考えられる場を持てる事が重要だと思います。
- 人財確保が厳しい。若者が入って来ても訪問介護での時間の割の合わなさ、給料体系では長続きしない。雨の日も風の日も移動がある為、安定した収入にならなければ定着が難しい。事業所の家賃の補助だけでもお願いできれば、有り難い。訪問介護報酬ではやりくりが難しく、若い人が訪問介護ヘルパーには憧れや安定を見いだせず、訪問介護員の高齢化となっている。高齢ヘルパーは自身の身体にムチ打ち、訪問介護のシステムを無くならないよう継続して下さっています。このままでは訪問介護員がいなくなり、現在の訪問介護員の負担にもなっています。
- 会社として数十年後の未来に向けて取り組んでいますが、想定しているより少子高齢化が進んでおり国が動いてくれないと事業として限界を迎えるのではないかと危機感を感じています。
- 問29の選択が3つなのはおかしい。自分が1人不自由な身分になった時を考えてみるとよい。3つの支援では生きていくのは厳しい。
- 介護事業所における運転業務の担い手不足の問題をもっと地域の方に知って頂きたいです。
- 一市民として住みやすいまち三鷹が、更に深化する事を願っています。
- 介護保険事務処理軽減を厚労省と考える必要がある。
- 三鷹市主催の勉強会を毎月開催して欲しい。

6. 結果の概要と今後の課題

(1) 三鷹市の介護サービス事業所の特徴

三鷹市の介護サービス事業所は、訪問系（25.9%）・施設系（通所型）（25.9%）・居住系（21.0%）がバランスよく分布しており、多様なサービス形態が地域内に存在する点が特徴である。また、従業員規模を見ると、従業員19人以下の小規模事業所が64.3%と6割以上を占め、法人全体の従業員数については、事業者間の規模差が大きく、小規模事業者（19人以下）が29.6%を占める一方、500人以上の大規模法人も18.5%あるなど、多様な運営主体が並存している（問7、問8）。

職種別には、介護職員が全体の52.5%を占めており、介護職員のうち68.3%が正規職員である。一方、訪問系では訪問介護員の比率が高く、非正規職員割合も57.7%と大きい（問7）。高齢職員の割合も訪問介護員で33.5%と高く、市内介護人財の高齢化が課題である（問7）。

収支面では、赤字が35.8%で最も高く（黒字29.6%）、特に居宅介護支援では収益確保が難しい現状がみられる（問4）。収支悪化の理由として「利用者の減少」「職員不足による受入制限」「採用難による人件費増」など、事業運営と人財確保が密接に連動していることが明らかである（問6）。

こうした特徴から三鷹市は、小規模事業所が多く、人財確保や業務効率化が運営継続の鍵であること、またサービス類型の多様性が地域包括ケアにとって強みとなる一方、運営基盤の弱さが課題となる構造が浮かび上がる。

(2) 人財確保の現状と課題

調査では、事業運営の最大の課題が「良質な人財の確保が難しい」（58.0%）であり、次いで、「介護報酬では十分な賃金を払えない」（50.6%）が続き、人財確保に対する危機感が示されている（問18）。採用状況を見ると、訪問介護員・介護職員の年間採用率は14.5%、離職率は15.0%で、採用と離職がほぼ均衡しており、雇用の不安定さが続いている（問9①）。特に非正規訪問介護員では26.7%と高く、安定した勤務環境の整備が求められる（問9①）。

離職者の勤務年数を見ると、3年以上の中堅層の離職が45.1%に達し、現場の基盤を支える層が流出している（問9②）。また、職種別の不足状況では、多くの職種で「不足」「やや不足」が過半数を占め、慢性的な人手不足にある（問10）。

採用方法では「ハローワーク」「求人サイト」が中心で、効果も求人サイトが最多となっているが、SNSや学校連携などの新たな手段への活用は進んでいない（問11、問12）。活用しない理由として「費用が高い」「効果が不明」等が挙げられる（問14）。

外国人介護人財の活用については、「予定はない」が46.9%と半数近くを占め、言語・文化面の課題が依然として障壁となっている（問20・21）。

早期離職防止策としては「残業削減・休暇取得促進」「希望に応じた勤務体制」など、労働条件の改善が効果的とされている一方で、能力開発やキャリアパス整備に取り組む事業所は少なく、長期的な人財育成に課題が残る（問15）。

(3) 人財確保・定着・育成のための三鷹市事業に対する意見・要望

市が実施する各種支援事業への認知度は、研修費補助や介護ロボット等導入支援などで一定の認知がある一方、「知らなかった」が4割前後の事業も多く、情報周知面での課題が指摘されている（問1）。多くの事業で有用性は評価されているが、「対象外の事業所である」「要件が満たさない」など制度面の制約や、「補助があっても定着しない」という回答が見受けられる（問1）。

市への具体的な要望として最多であったのは、「職員の家賃補助」（56.8%）と「福利厚生への助成」（54.3%）であり、経済的支援が強く求められている（問2）。また、「求人・採用・雇用支援」（46.9%）や「申請手続きの簡素化」（46.9%）も多く、事業者の業務管理の軽減が重要な課題となっている（問2）。

介護職員向け研修事業については、一定の評価がある一方、「研修があっても定着しない」など、研修の“効果”や“現場実装性”への懸念も挙がっている（問1）。

介護ロボット等の導入支援では、「活用したいロボットがない」「活用方法がわからない」が多く、機器の選定支援や実証の機会提供が必要とされる（問1）。導入・運用に関する負担が重く、市の助成等の強化が求められる（問24）。

自由意見では、介護報酬の低さを背景とした国への制度改善要望とともに、訪問介護の収益性低下や若者が参入しづらい環境への危機感が強く示されている。市としては、国へ制度改善を引き続き要望しつつ、地域事業者の実情に寄り添った支援や若年層への啓発を含む、包括的な施策が求められている。

（4）地域包括ケアのビジョン

三鷹市の地域包括ケアの基本目標は、「住み慣れた地域で尊厳を保持しながら安心して暮らせるまち」の実現であり、そのために必要な要素として事業所が最も重視しているのは、「地域の支え合いのしくみづくり」（74.1%）である（問28）。地域サロンや健康教室などの住民主体の活動への期待も高く、インフォーマルサービスの整備が地域包括ケア推進の鍵となる。

生活支援では、「外出支援」「見守り」「相談・話し相手」など、日常生活を補完する軽度支援のニーズが高い。特に一人暮らし高齢者の増加に伴い、安否確認や移動支援の重要性が増している（問29）。事業所からは、移送や付き添いなど介護保険で対応できない領域を地域で支える仕組みが求められている。

事業所は地域包括ケアの担い手として高い役割意識を持つ一方、現場の職員からは「人手が足りない」との声も多く（職員調査問12）、行政・地域住民・事業者の役割分担の最適化が今後の課題である。

（5）介護助手の活用

介護助手については、「活用の予定はない」「分からない」が34.6%と最も高く、消極的・不透明な認識が多数を占めている。一方で、施設系（入所型）では「既に活用している」が57.1%（7事業所のうち4事業所）で既に活用している。介護助手は施設系では実装が進む一方、居住系では「既に活用している」が29.4%（17事業所のうち5事業所）と導入が進んでいない（問19）。このことから、居住系においても職員の理解や業務の標準化・分業化を進めるとともに、適切な人財の採用・配置が必要と考えられる。

（6）ICT・介護ロボットの活用

ICT活用は、「利用者請求システム」が63.0%、「介護・業務記録」が43.2%、「勤怠管理」が38.3%と、事務・記録系中心に普及している（問23）。一方で導入課題としては、「コスト負担」が54.3%、「習熟の手間」が42.0%、「機器の使用に必要な環境を整えることが難しい」が30.9%となっている（問24）。ICTはバックオフィス中心に一定程度普及しているが、ロボット活用は、導入・運用コスト、現場での使いこなし、環境整備といった課題により進んでいないと考えられる。

(7) ハラスメント対策

ハラスメント対策は比較的進んでおり、「事業所内での情報共有」75.3%、「勉強会・研修実施」71.6%、「マニュアルの作成・共有」70.4%と高水準で実施されている。また、「相談窓口の設置」も48.1%と一定程度整備されている（問25）。ハラスメントについては、制度対応の義務化の影響もあり、形式的な対策（研修・マニュアル）は概ね整備済みといえる。一方で、「業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない」（23.5%）や「取組の進め方がわからない」（11.1%）などを課題と考えている事業所もあり（問26）、ノウハウの共有など実効性ある対応が必要と考えられる。

(8) 虐待対策

虐待防止の取組は、「虐待防止のための職員研修の充実」が79.0%で最も高く、次いで、「虐待に対する事業者としての基本方針の決定」が76.5%、「マニュアル等の作成」が72.8%と高い実施率となっており、特に施設系（入所型）では、研修・方針ともに100%と徹底されている。虐待防止は全体として高い取組水準にあり、制度的対応はほぼ網羅されている。ただし、ハラスメント同様、研修中心（インプット型）であり、「報告・相談しやすい窓口の設置」が49.4%、「介護保険サービスの業務範囲等への理解と統一に向けた取組」が19.8%、「対応策の策定とPDCAによる更新」が9.9%と半数以下となっていることから（問27）、相談体制や再発防止の枠組み等の整備などのアウトプット型の取組が必要とみられる。

第3章

第1節 介護サービス事業所調査

第3章

介護人財の確保・定着等に関する

アンケート調査

第2節 介護・看護職員、ケアマネジャー調査

第3章

第2節 介護・看護職員、ケアマネジャー調査

1. 調査の概要

(1) 目的

介護分野の事業所で働く介護・看護職員、ケアマネジャーを対象に、雇用及び勤務の実態、業務及び労働環境に関する問題意識、市への要望等を把握し、介護人財の確保・定着等の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。

(注：三鷹市では「人材」ではなく、「人財」と表記している。)

(2) 調査対象

令和7年(2025年)10月1日時点で三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する介護サービス事業所及び市内の地域密着型サービス事業所の他、サービス付き高齢者住宅、住宅型有料老人ホームで介護職・看護職に従事している者、及びケアマネジャーの全数を対象とした。正規職員、非正規職員の就業形態は問わないが、管理・事務業務のみに従事している者は除外した。各事業所における介護・看護職員、及びケアマネジャーの人数を随時、正確に把握することが困難であるため、公開されている事業所情報から対象者の概数を2,690人と推計した。なお、複数施設・事業所兼務者の重複分については考慮していない。

(3) 調査方法

事業所宛てに郵送により依頼状を送付し、対象者に配付してもらいインターネットで回収を行った。インターネットでの回答が難しい職員に対しては郵送により調査票の配付・回収を行った。

(4) 実施期間

令和7年(2025年)10月20日～11月17日(11月24日までの回答分は回収に含めた。)

(5) 回収状況

有効回収数： 428票 (対象者概数に基づく回収率の概算15.9%)

(6) 本調査の留意事項

- ・令和4年度調査では、調査対象を「訪問介護事業所」「訪問看護事業所」「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」で、介護職・看護職に従事している者に限定した。ここでは令和4年度調査を参考値として表記しているが、対象者が異なることから前回比較の記述は行っていない。

2. 現在の仕事について

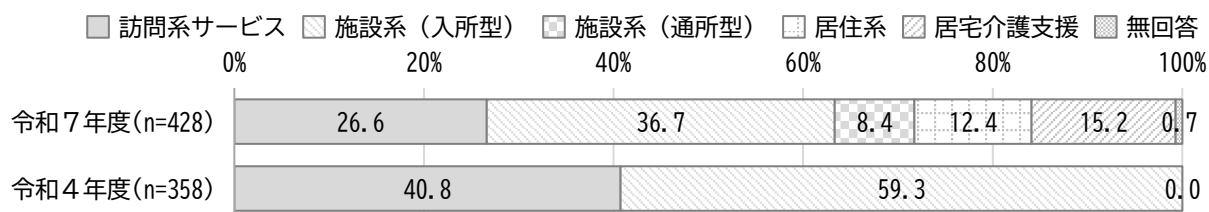
(1) 事業所、主な仕事（職種）、職位

問1 あなたは今のサービスの事業所で働いていますか。兼務の場合は、主なものを選んでください。（単数回答）

令和7年度では、「訪問介護（高齢者住宅併設を除く）」が22.7%で最も高く、次いで、「介護老人福祉施設」が22.0%、「居宅介護支援」が15.2%となっている。

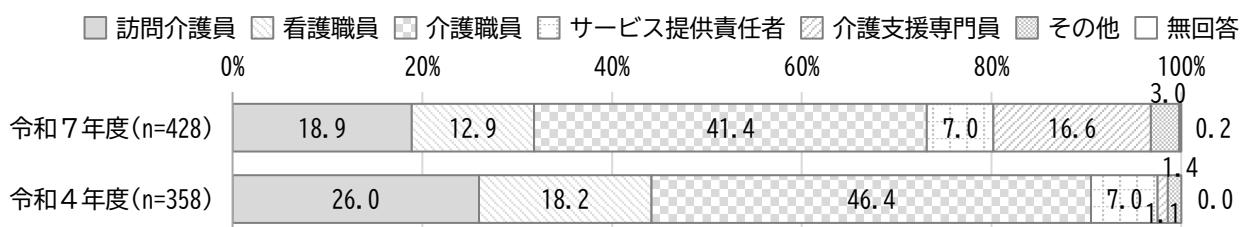
	令和7年度 (n=428)	令和4年度 (n=358)		令和7年度 (n=428)	令和4年度 (n=358)
訪問介護（高齢者住宅併設を除く）	22.7%	33.5%	訪問入浴介護	0.2%	-
訪問看護（高齢者住宅併設を除く）	3.5%	7.3%	訪問リハビリテーション	0.2%	-
通所介護	3.7%	-	通所リハビリテーション	0.7%	-
短期入所生活介護	0.9%	-	特定施設入居者生活介護	4.0%	-
地域密着型通所介護	1.6%	-	認知症対応型通所介護	0.2%	-
小規模多機能型居宅介護	0.5%	-	看護小規模多機能型居宅介護	1.9%	-
認知症対応型共同生活介護	1.9%	-	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0.0%	-
地域密着型特定施設入居者生活介護	0.7%	-	介護老人福祉施設	22.0%	29.1%
介護老人保健施設	13.8%	30.2%	介護医療院	0.0%	-
居宅介護支援	15.2%	-	サービス付き高齢者住宅（サ高住）	1.6%	-
住宅型有料老人ホーム	4.0%	-	無回答	0.7%	0.0%

■ サービス系型別



問2 あなたは、今働いている事業所で、どのような仕事をしていますか。資格ではなく、従事している主な仕事（職種）について、ご記入ください。（単数回答）

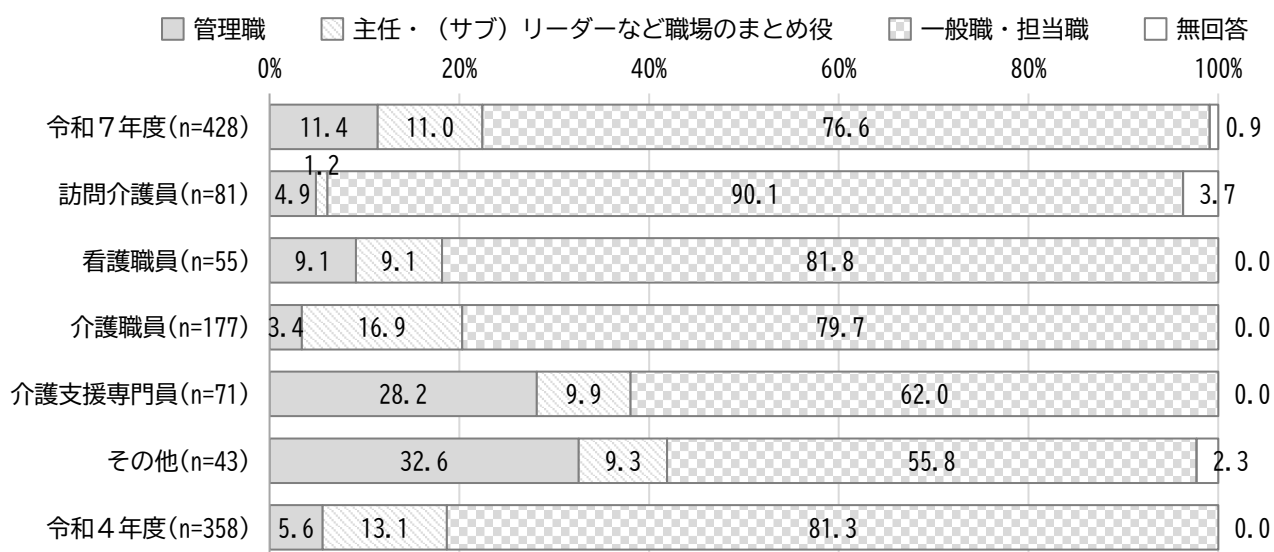
令和7年度では、「訪問介護員」が18.9%、「看護職員」が12.9%、「介護職員」が41.4%、「サービス提供責任者」が7.0%、「介護支援専門員」が16.6%、「その他」が3.0%であった。



※令和4年度調査では、調査対象を「訪問介護事業所」「訪問看護事業所」「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」で、介護職・看護職に従事している者に限定した。

問3 あなたの職位は何ですか。（単数回答）

令和7年度では、「一般職・担当職」が76.6%で最も高く、次いで、「管理職」が11.4%、「主任・（サブ）リーダーなど職場のまとめ役」が11.0%であった。

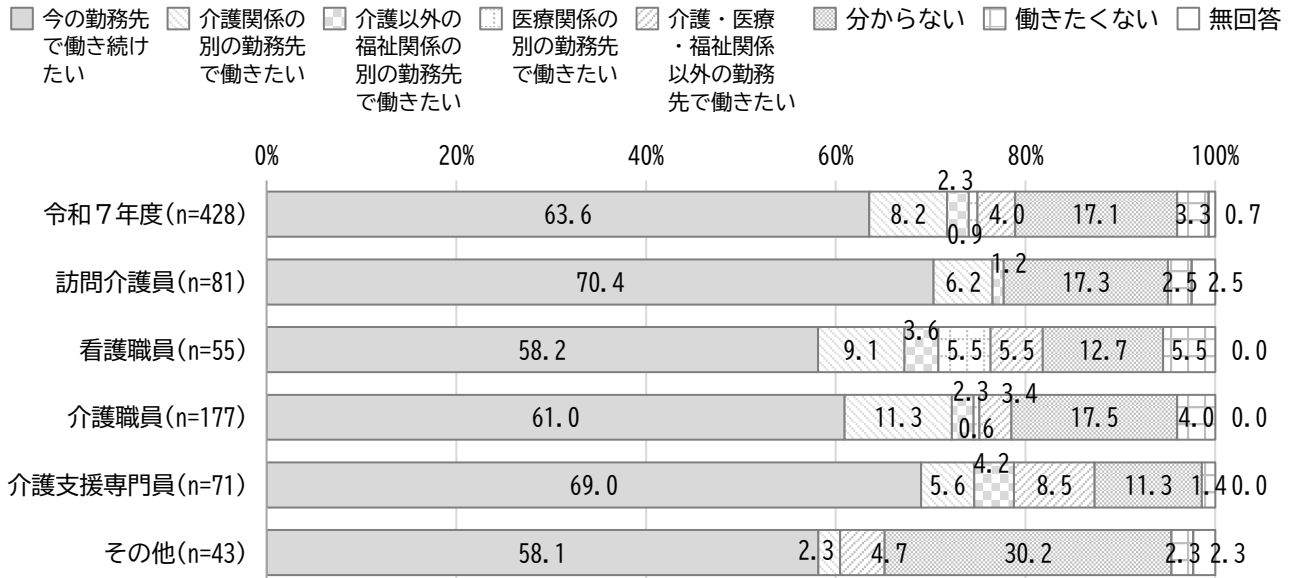


職種別でみると、訪問介護員では、「一般職・担当職」が90.1%で最も高く、次いで、「管理職」が4.9%であった。看護職員では、「一般職・担当職」が81.8%で最も高く、次いで、「管理職」「主任・（サブ）リーダーなど職場のまとめ役」が9.1%であった。介護職員では、「一般職・担当職」が79.7%で最も高く、次いで、「主任・（サブ）リーダーなど職場のまとめ役」が16.9%であった。介護支援専門員では、「一般職・担当職」が62.0%で最も高く、次いで、「管理職」が28.2%であった。その他では、「一般職・担当職」が55.8%で最も高く、次いで、「管理職」が32.6%であった。

(2) 仕事（職種）に関する希望

問4 あなたの勤務先に関する希望について、お伺いします。(単数回答)

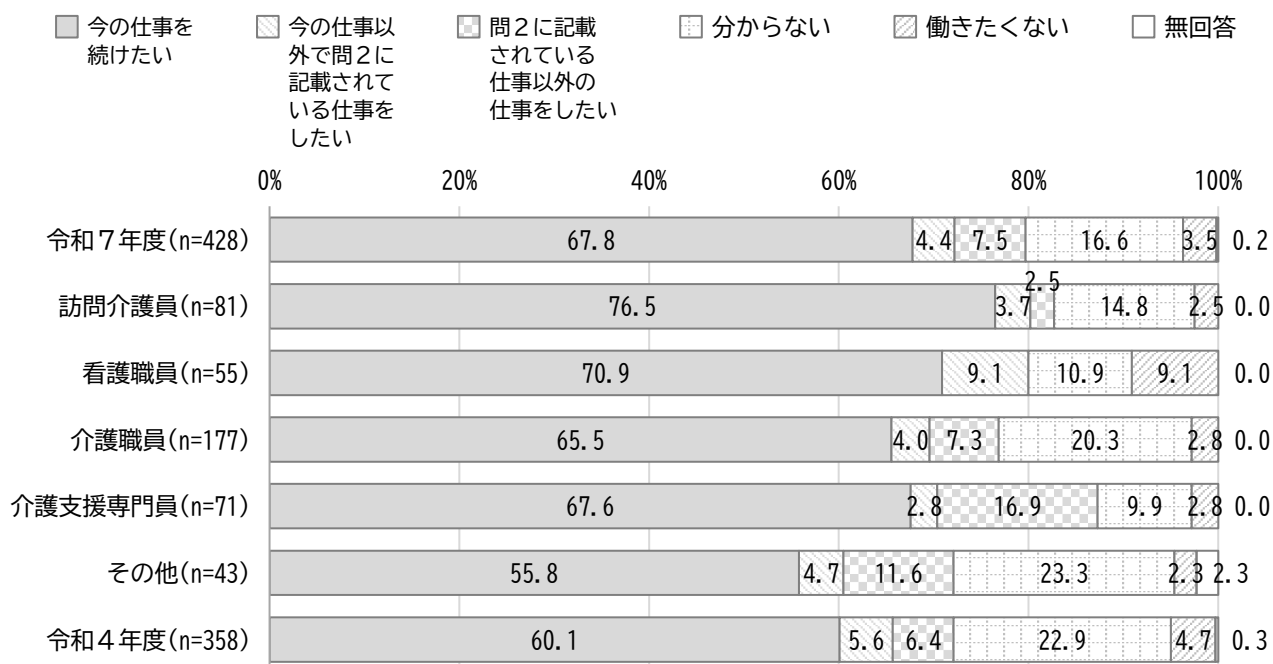
令和7年度では、「今の勤務先で働き続けたい」が63.6%で最も高く、次いで、「分からない」が17.1%、「介護関係の別の勤務先で働きたい」が8.2%であった。



職種別でみると、訪問介護員では、「今の勤務先で働き続けたい」が70.4%で最も高く、次いで、「分からない」が17.3%であった。看護職員では、「今の勤務先で働き続けたい」が58.2%で最も高く、次いで、「分からない」が12.7%であった。介護職員では、「今の勤務先で働き続けたい」が61.0%で最も高く、次いで、「分からない」が17.5%であった。介護支援専門員では、「今の勤務先で働き続けたい」が69.0%で最も高く、次いで、「分からない」が11.3%であった。その他では、「今の勤務先で働き続けたい」が58.1%で最も高く、次いで、「分からない」が30.2%であった。

問5 今の勤務先に限らず、あなたの仕事（職種）に関する希望をお伺いします。（単数回答）

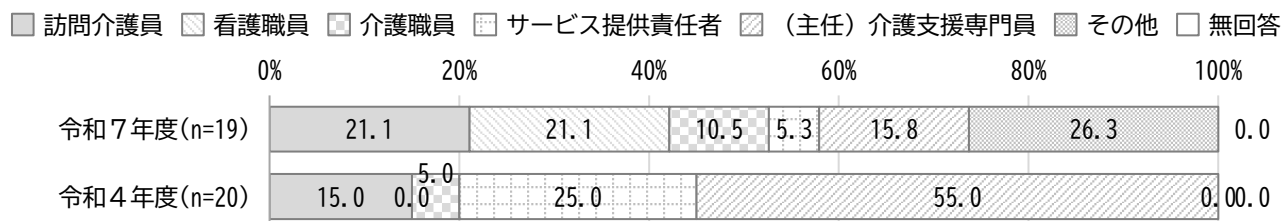
令和7年度では、「今の仕事を続けたい」が67.8%で最も高く、次いで、「分からない」が16.6%、「問2に記載されている仕事以外の仕事をしたい」が7.5%であった。



職種別でみると、訪問介護員では、「今の仕事を続けたい」が76.5%で最も高く、次いで、「分からない」が14.8%であった。看護職員では、「今の仕事を続けたい」が70.9%で最も高く、次いで、「分からない」が10.9%であった。介護職員では、「今の仕事を続けたい」が65.5%で最も高く、次いで、「分からない」が20.3%であった。介護支援専門員では、「今の仕事を続けたい」が67.6%で最も高く、次いで、「問2に記載されている仕事以外の仕事をしたい」が16.9%であった。その他では、「今の仕事を続けたい」が55.8%で最も高く、次いで、「分からない」が23.3%であった。

【問5で「2」と回答した方】
目指す職種を問2から1つ選んで、番号をご記入ください。（単数回答）

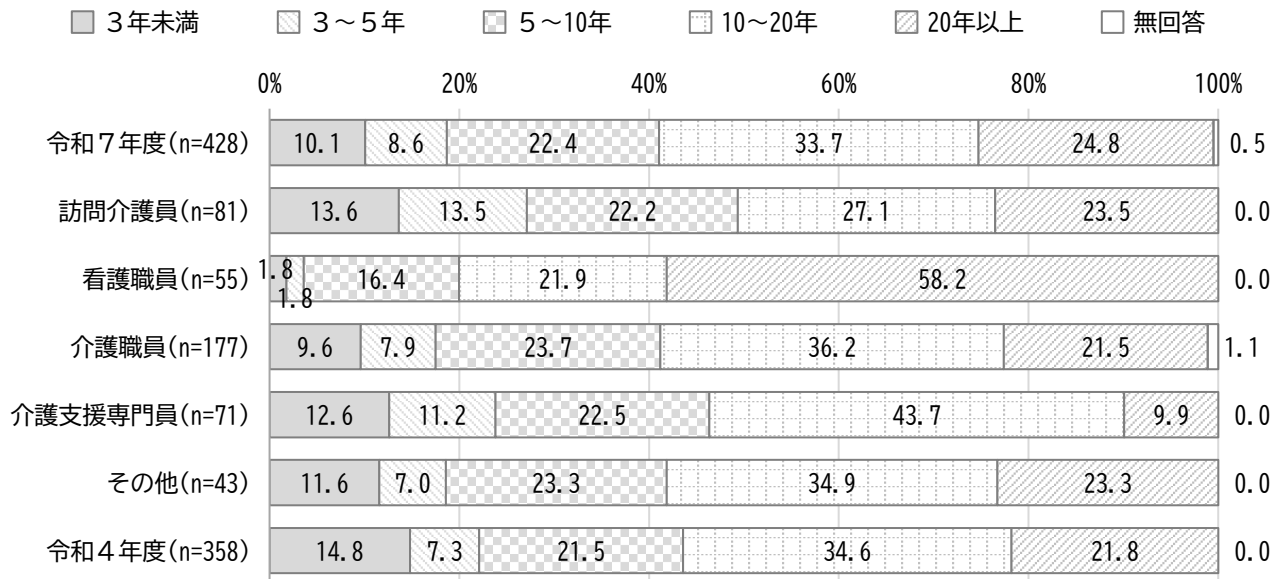
令和7年度(n=19)では、「その他」が26.3%で最も高く、次いで、「訪問介護員」「看護職員」が21.1%であった。



(3) 主な仕事（職種）の経験年数、今働いている法人での勤続年数

問6 問2で記入した主な仕事（職種）の経験年数は、通算でどれくらいですか。他の法人での経験も含めてお答えください。休職期間は除いて、お答えください。（単数回答）

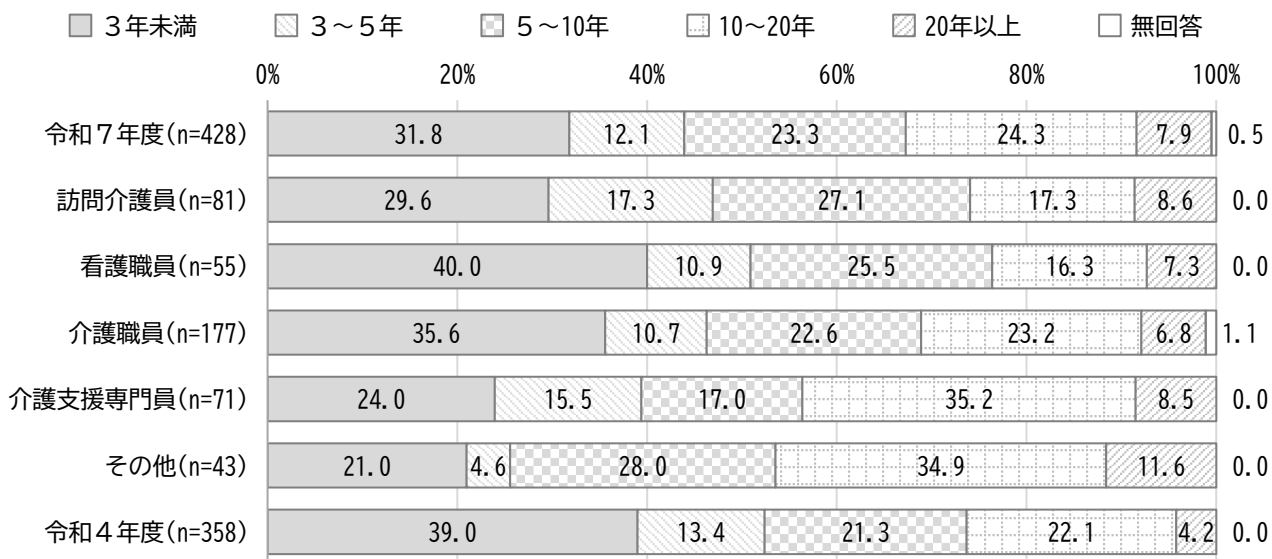
令和7年度では、「10～20年」が33.7%で最も高く、次いで「20年以上」が24.8%、「5～10年」が22.4%であった。



職種別で見ると、訪問介護員では、「10～20年」が27.1%で最も高く、次いで、「20年以上」が23.5%であった。看護職員では、「20年以上」が58.2%で最も高く、次いで、「10～20年」が21.9%であった。介護職員では、「10～20年」が36.2%で最も高く、次いで、「5～10年」が23.7%であった。介護支援専門員では、「10～20年」が43.7%で最も高く、次いで、「5～10年」が22.5%であった。その他では、「10～20年」が34.9%で最も高く、次いで、「5～10年」「20年以上」が23.3%であった。

問7 現在、働いている法人での勤続年数は、通算でどれくらいですか。(単数回答)

令和7年度では、「3年未満」が31.8%で最も高く、次いで、「10～20年」が24.3%、「5～10年」が23.3%であった。

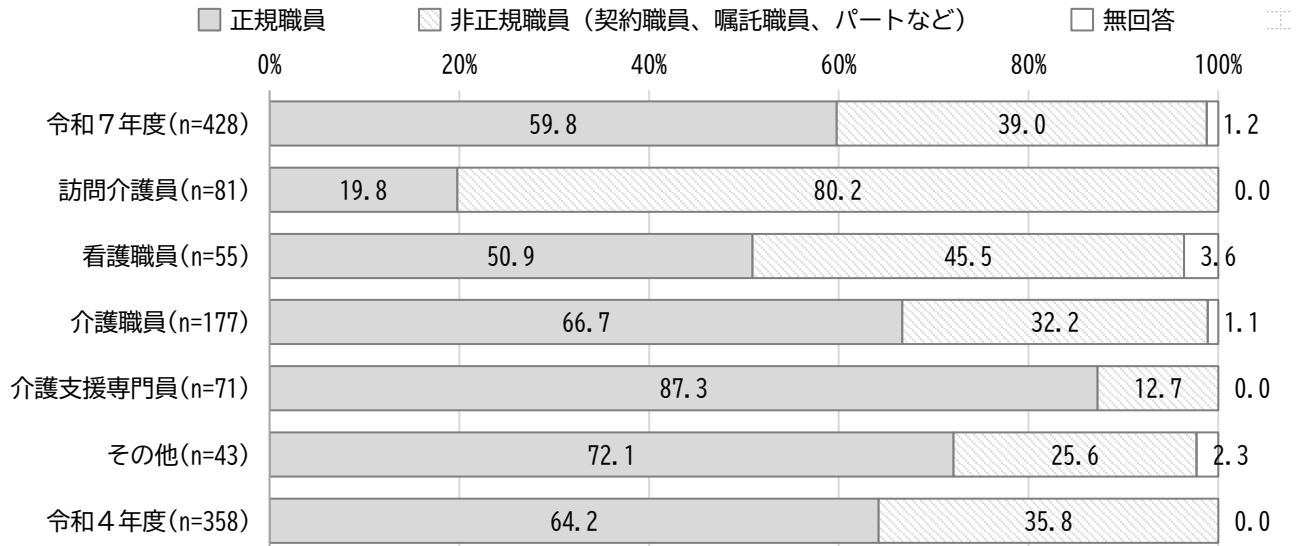


職種別でみると、訪問介護員では、「3年未満」が29.6%で最も高く、次いで、「5～10年」が27.1%であった。看護職員では、「3年未満」が40.0%で最も高く、次いで、「5～10年」が25.5%であった。介護職員では、「3年未満」が35.6%で最も高く、次いで、「10～20年」が23.2%であった。介護支援専門員では、「10～20年」が35.2%で最も高く、次いで、「3年未満」が24.0%であった。その他では、「10～20年」が34.9%で最も高く、次いで、「5～10年」が28.0%であった。

(4) 就業形態

問8 あなたの就業形態は、どれですか。勤務先の呼称でお答えください。(単数回答)

令和7年度では、「正規職員」が59.8%、「非正規職員（契約職員、嘱託職員、パートなど）」が39.0%であった。

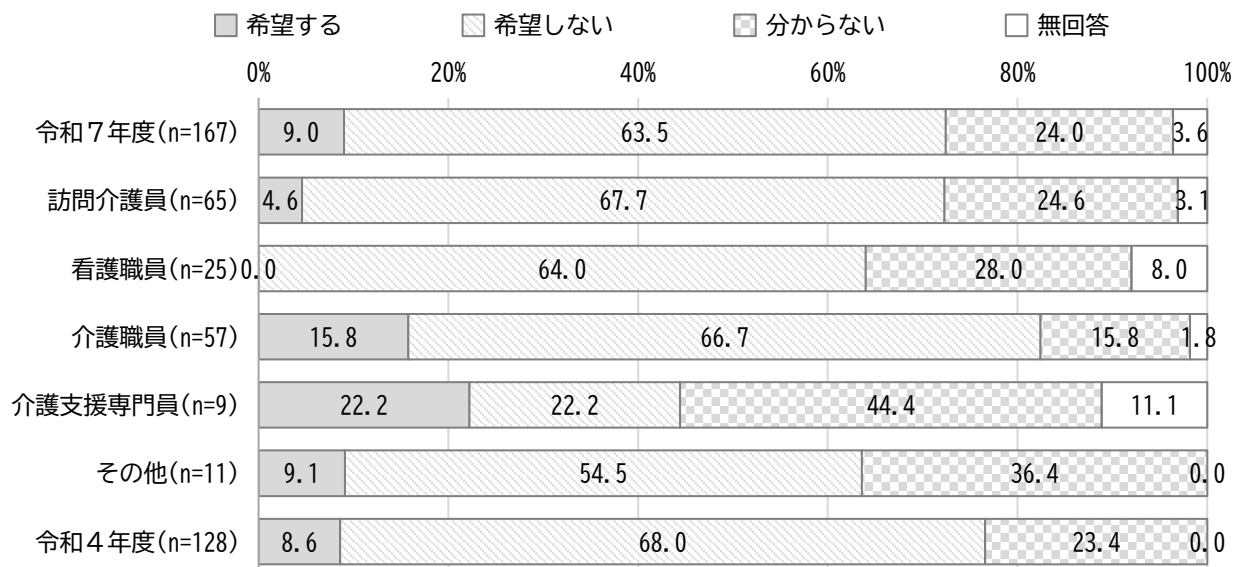


職種別でみると、訪問介護員では、「非正規職員（契約職員、嘱託職員、パートなど）」が80.2%、「正規職員」が19.8%であった。看護職員では、「正規職員」が50.9%、「非正規職員（契約職員、嘱託職員、パートなど）」が45.5%であった。介護職員では、「正規職員」が66.7%、「非正規職員（契約職員、嘱託職員、パートなど）」が32.2%であった。介護支援専門員では、「正規職員」が87.3%、「非正規職員（契約職員、嘱託職員、パートなど）」が12.7%であった。その他では、「正規職員」が72.1%、「非正規職員（契約職員、嘱託職員、パートなど）」が25.6%であった。

【問8で「2 非正規職員」と回答した方】

副問 今後、正規職員になることを希望しますか。(単数回答)

令和7年度(n=167)では、「希望する」が9.0%、「希望しない」が63.5%、「分からない」が24.0%であった。



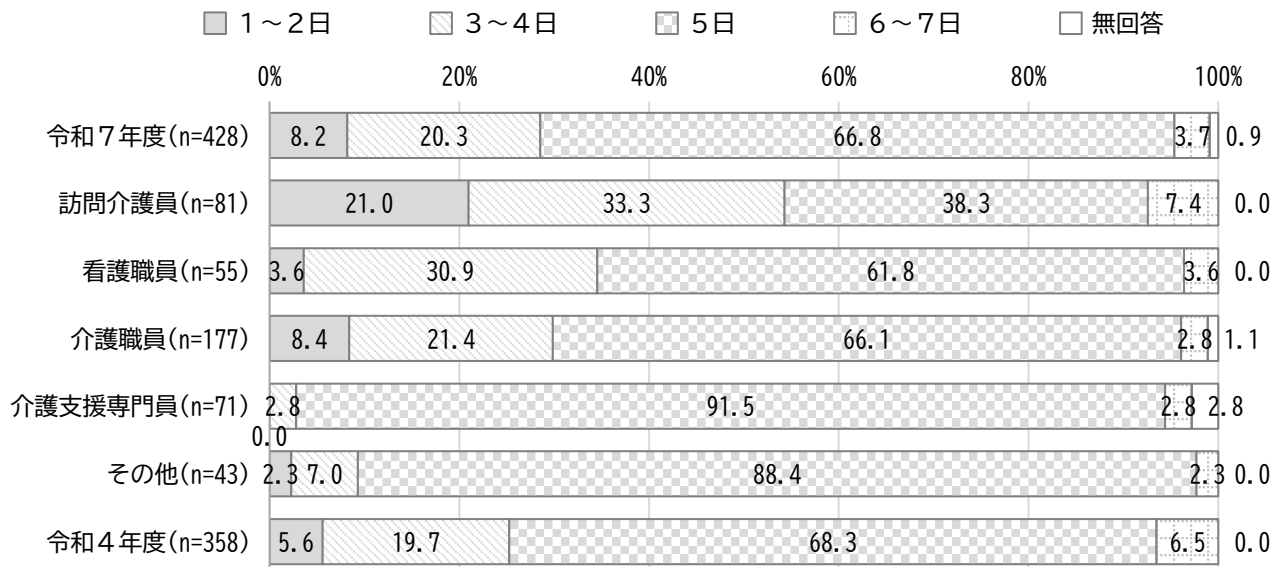
職種別で見ると、訪問介護員では、「希望しない」が67.7%で最も高く、次いで、「分からない」が24.6%であった。看護職員では、「希望しない」が64.0%で最も高く、次いで、「分からない」が28.0%であった。介護職員では、「希望しない」が66.7%で最も高く、次いで、「希望する」「分からない」が15.8%であった。介護支援専門員では、「分からない」が44.4%で最も高く、次いで、「希望する」「希望しない」が22.2%であった。その他では、「希望しない」が54.5%で最も高く、次いで、「分からない」が36.4%であった。

(5) 1週間の労働時間

問9 本調査票を渡された職場での、通常の1週間（月～日曜日）の勤務日数等について、お伺いします。（数量回答）

① 1週間に働いた日数（1週間あたり平均日数）の項目

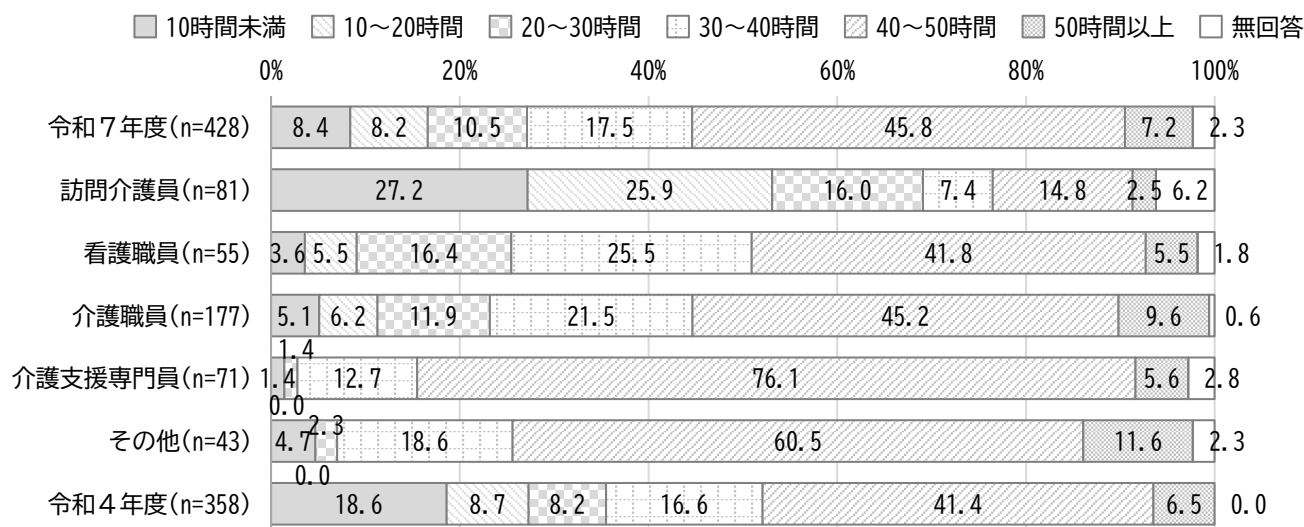
令和7年度では、「5日」が66.8%で最も高く、次いで、「3～4日」が20.3%、「1～2日」が8.2%であった。



職種別でみると、訪問介護員では、「5日」が38.3%で最も高く、次いで、「3～4日」が33.3%であった。看護職員では、「5日」が61.8%で最も高く、次いで、「3～4日」が30.9%であった。介護職員では、「5日」が66.1%で最も高く、次いで、「3～4日」が21.4%であった。介護支援専門員では、「5日」が91.5%で最も高く、次いで、「3～4日」「6～7日」「無回答」が2.8%であった。その他では、「5日」が88.4%で最も高く、次いで、「3～4日」が7.0%であった。

② 1週間に働いた時間数（残業時間も含む）（1週間あたり平均時間）

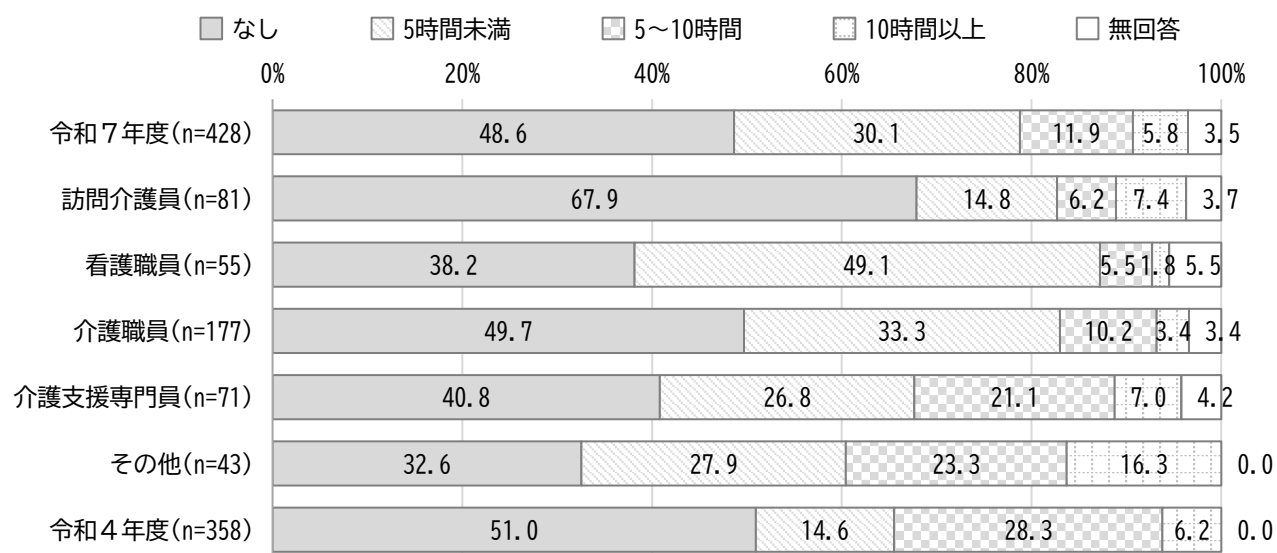
令和7年度では、「40～50時間」が45.8%で最も高く、次いで、「30～40時間」が17.5%、「20～30時間」が10.5%であった。



職種別で見ると、訪問介護員では、「10時間未満」が27.2%で最も高く、次いで、「10～20時間」が25.9%であった。看護職員では、「40～50時間」が41.8%で最も高く、次いで、「30～40時間」が25.5%であった。介護職員では、「40～50時間」が45.2%で最も高く、次いで、「30～40時間」が21.5%であった。介護支援専門員では、「40～50時間」が76.1%で最も高く、次いで、「30～40時間」が12.7%であった。その他では、「40～50時間」が60.5%で最も高く、次いで、「30～40時間」が18.6%であった。

③ 1週間の残業時間数（1週間あたり平均時間）

令和7年度では、「なし」が48.6%で最も高く、次いで、「5時間未満」が30.1%、「5～10時間」が11.9%であった。



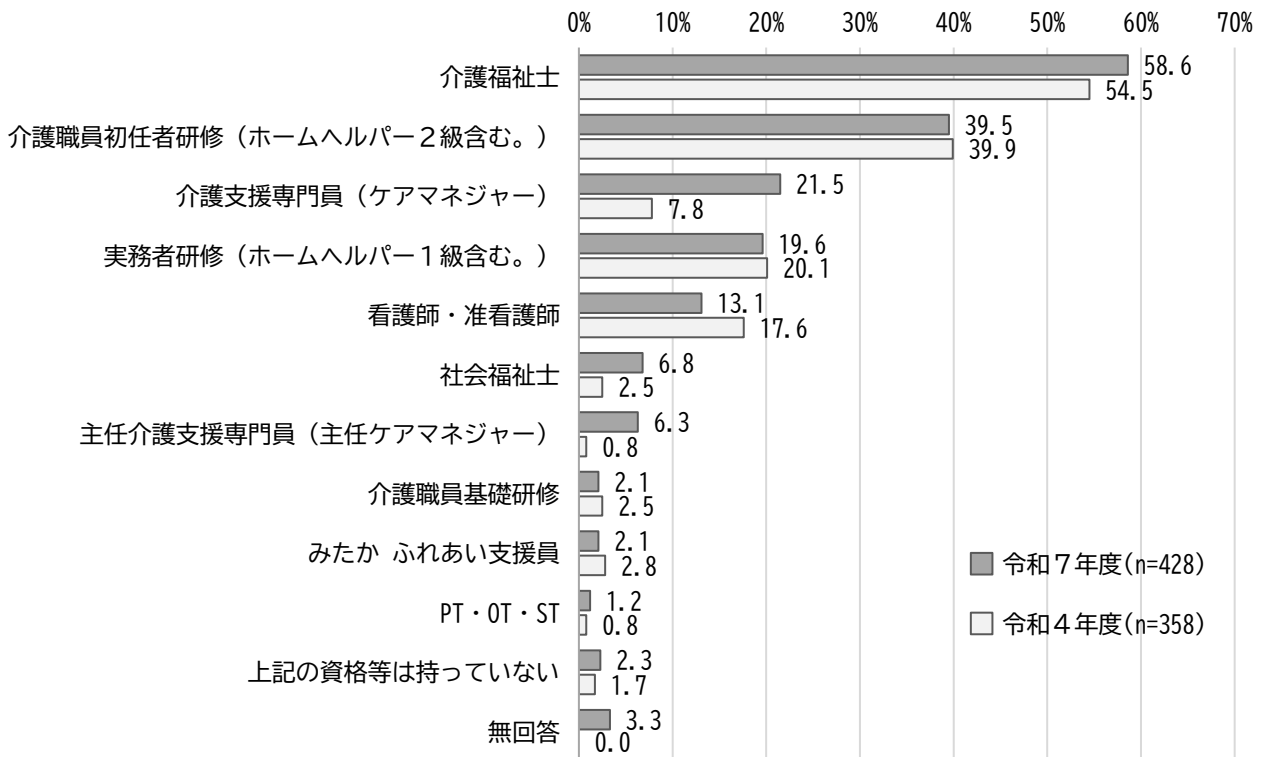
職種別にみると、訪問介護員では、「なし」が67.9%で最も高く、次いで、「5時間未満」が14.8%であった。看護職員では、「5時間未満」が49.1%で最も高く、次いで、「なし」が38.2%であった。介護職員では、「なし」が49.7%で最も高く、次いで、「5時間未満」が33.3%であった。介護支援専門員では、「なし」が40.8%で最も高く、次いで、「5時間未満」が26.8%であった。その他では、「なし」が32.6%で最も高く、次いで、「5時間未満」が27.9%であった。

(6) 資格等について

問 10 ①あなたが現在持っている介護に関する資格等はどれですか。(複数回答)

※ PT・OT・ST=理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

令和7年度では、「介護福祉士」が58.6%で最も高く、次いで、「介護職員初任者研修（ホームヘルパー2級含む。）」が39.5%、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が21.5%であった。

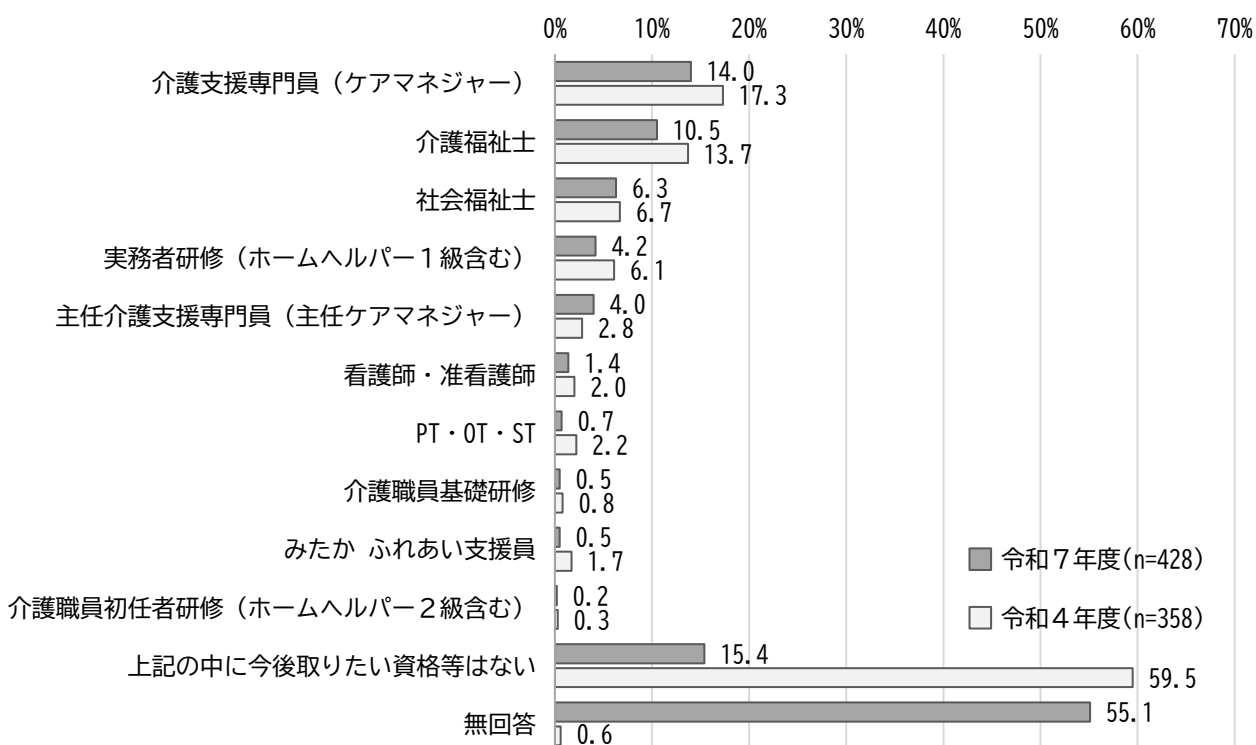


職種別でみると、訪問介護員では、「介護職員初任者研修（ホームヘルパー2級含む。）」が69.1%で最も高く、次いで、「介護福祉士」が48.1%であった。看護職員では、「看護師・准看護師」が87.3%で最も高く、次いで、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が9.1%であった。介護職員では、「介護福祉士」が72.3%で最も高く、次いで、「介護職員初任者研修（ホームヘルパー2級含む。）」が39.5%であった。介護支援専門員では、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が81.7%で最も高く、次いで、「介護福祉士」が70.4%であった。その他では、「介護福祉士」が69.8%で最も高く、次いで、「介護職員初任者研修（ホームヘルパー2級含む。）」が39.5%であった。

	人数	介護福祉士	実務者研修	介護職員初任者研修	介護職員基礎研修	みたかふれあい支援員	主任介護支援専門員	介護支援専門員	看護師・准看護師	PT・OT・ST	社会福祉士	上記の資格は持っていない	無回答
全体	428	58.6%	19.6%	39.5%	2.1%	2.1%	6.3%	21.5%	13.1%	1.2%	6.8%	2.3%	3.3%
訪問介護員	81	48.1%	22.2%	69.1%	1.2%	7.4%	0.0%	12.3%	0.0%	0.0%	2.5%	1.2%	1.2%
看護職員	55	5.5%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	87.3%	0.0%	1.8%	3.6%	7.3%
介護職員	177	72.3%	23.7%	39.5%	4.5%	1.7%	0.0%	5.1%	1.7%	0.6%	3.4%	2.3%	3.4%
介護支援専門員	71	70.4%	11.3%	33.8%	0.0%	0.0%	38.0%	81.7%	5.6%	2.8%	23.9%	0.0%	4.2%
その他	43	69.8%	32.6%	39.5%	0.0%	0.0%	0.0%	23.3%	2.3%	4.7%	7.0%	7.0%	0.0%

問 10 ②今後、取りたいと考えている介護に関する資格等はどれですか。(複数回答)

令和7年度では、「上記の中に今後取りたい資格等はない」が15.4%で最も高く、次いで、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が14.0%、「介護福祉士」が10.5%であった。



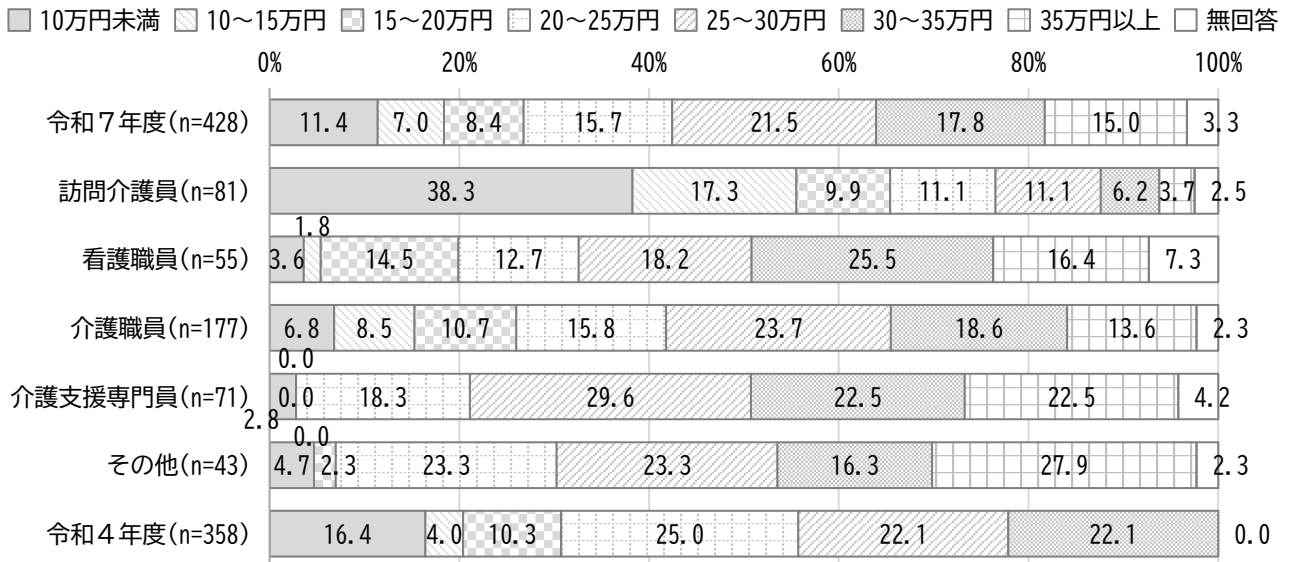
職種別でみると、訪問介護員では、「介護福祉士」が19.8%で最も高く、次いで、「上記の中に今後取りたい資格等はない」が16.0%であった。看護職員では、「上記の中に今後取りたい資格等はない」が32.7%で最も高く、次いで、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が10.9%であった。介護職員では、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が20.3%で最も高く、次いで、「介護福祉士」が14.1%であった。介護支援専門員では、「上記の中に今後取りたい資格等はない」が18.3%で最も高く、次いで、「主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）」が12.7%であった。その他では、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が23.3%で最も高く、次いで、「上記の中に今後取りたい資格等はない」が14.0%であった。

	人数	介護福祉士	実務者研修	介護職員初任者研修	介護職員基礎研修	みたかふれあい支援員	主任介護支援専門員	介護支援専門員	看護師・准看護師	PT・OT・ST	社会福祉士	上記の中に今後取りたい資格等はない	無回答
全体	428	10.5%	4.2%	0.2%	0.5%	0.5%	4.0%	14.0%	1.4%	0.7%	6.3%	15.4%	55.1%
訪問介護員	81	19.8%	9.9%	1.2%	2.5%	0.0%	2.5%	7.4%	1.2%	2.5%	4.9%	16.0%	54.3%
看護職員	55	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.9%	1.8%	0.0%	0.0%	32.7%	52.7%
介護職員	177	14.1%	5.6%	0.0%	0.0%	1.1%	2.3%	20.3%	1.7%	0.6%	7.3%	9.0%	55.4%
介護支援専門員	71	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.7%	1.4%	1.4%	0.0%	8.5%	18.3%	60.6%
その他	43	7.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	23.3%	0.0%	0.0%	7.0%	14.0%	51.2%

(7) 月収

問 11 あなたの通常月の税込み月収は、どのくらいですか。(単数回答)

令和7年度では、「25～30万円」が21.5%で最も高く、次いで、「30～35万円」が17.8%、「20～25万円」が15.7%であった。



職種別で見ると、訪問介護員では、「10万円未満」が38.3%で最も高く、次いで、「10～15万円」が17.3%であった。看護職員では、「30～35万円」が25.5%で最も高く、次いで、「25～30万円」が18.2%であった。介護職員では、「25～30万円」が23.7%で最も高く、次いで、「30～35万円」が18.6%であった。介護支援専門員では、「25～30万円」が29.6%で最も高く、次いで、「30～35万円」「35万円以上」が22.5%であった。その他では、「35万円以上」が27.9%で最も高く、次いで、「20～25万円」「25～30万円」が23.3%であった。

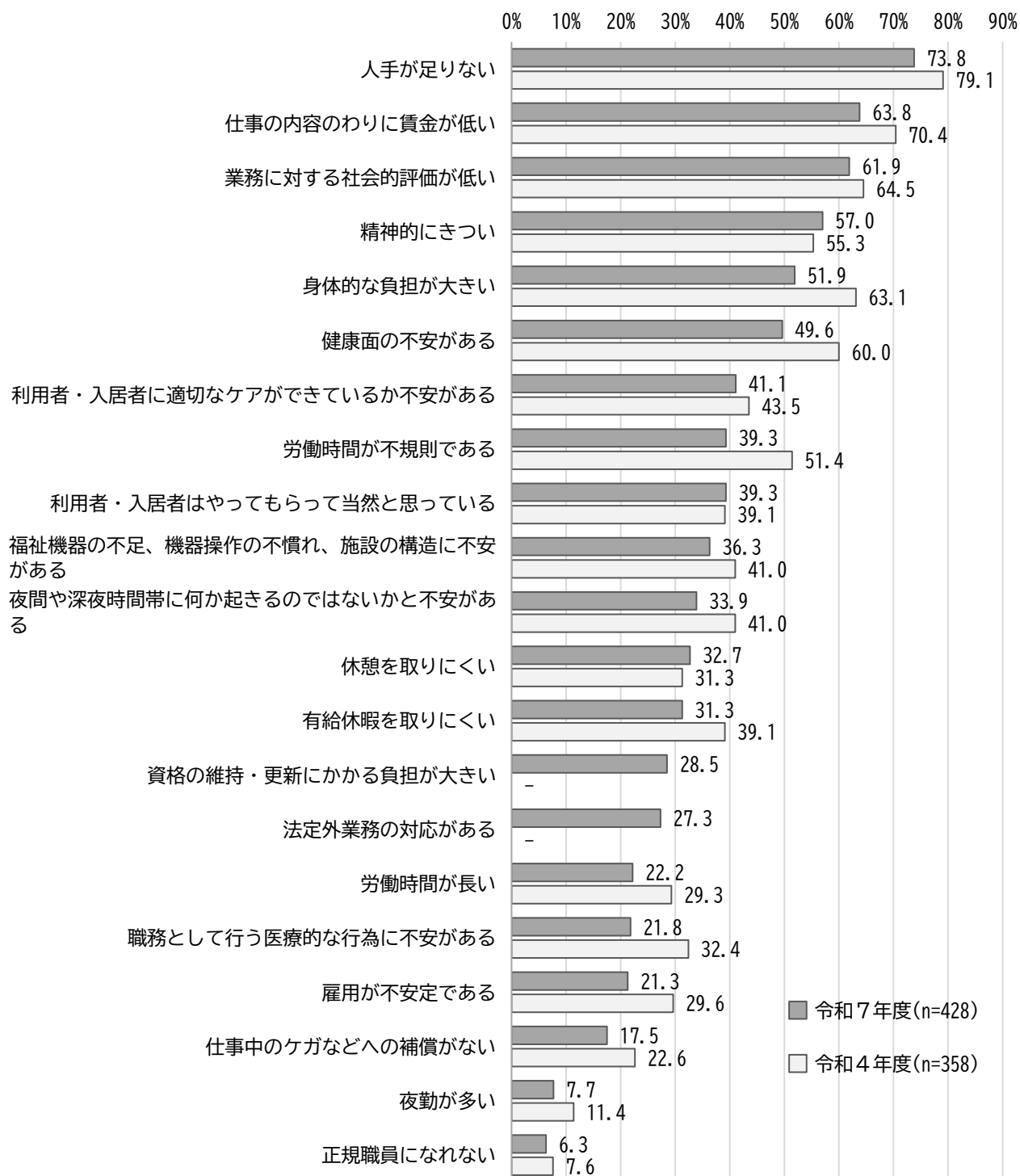
3. 仕事上の悩みや職場の取組等

(1) 労働条件や仕事の負担

問 12 労働条件や仕事の負担について、次のことが、どの程度あてはまりますか。(単数回答)

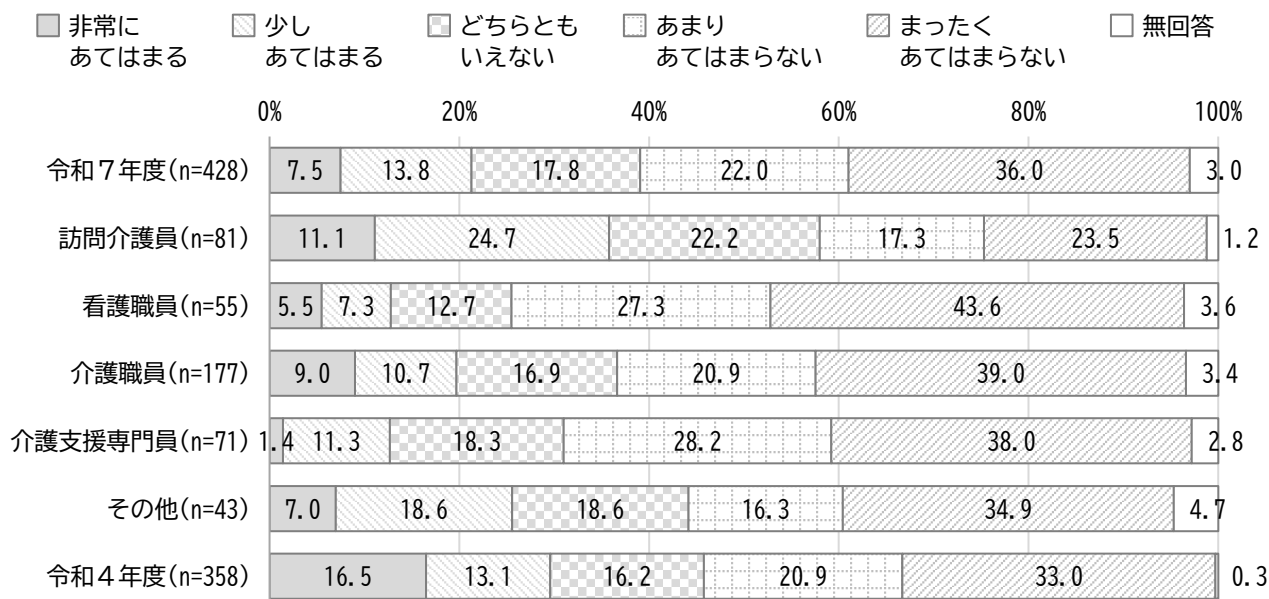
■労働条件や仕事の負担（非常に/少しあてはまるの合計）

労働条件や仕事の負担について、「非常にあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合で見ると、令和7年度では、「人手が足りない」が73.8%と最も高く、次いで、「仕事の内容のわりに賃金が低い」が63.8%、「業務に対する社会的評価が低い」が61.9%であった。



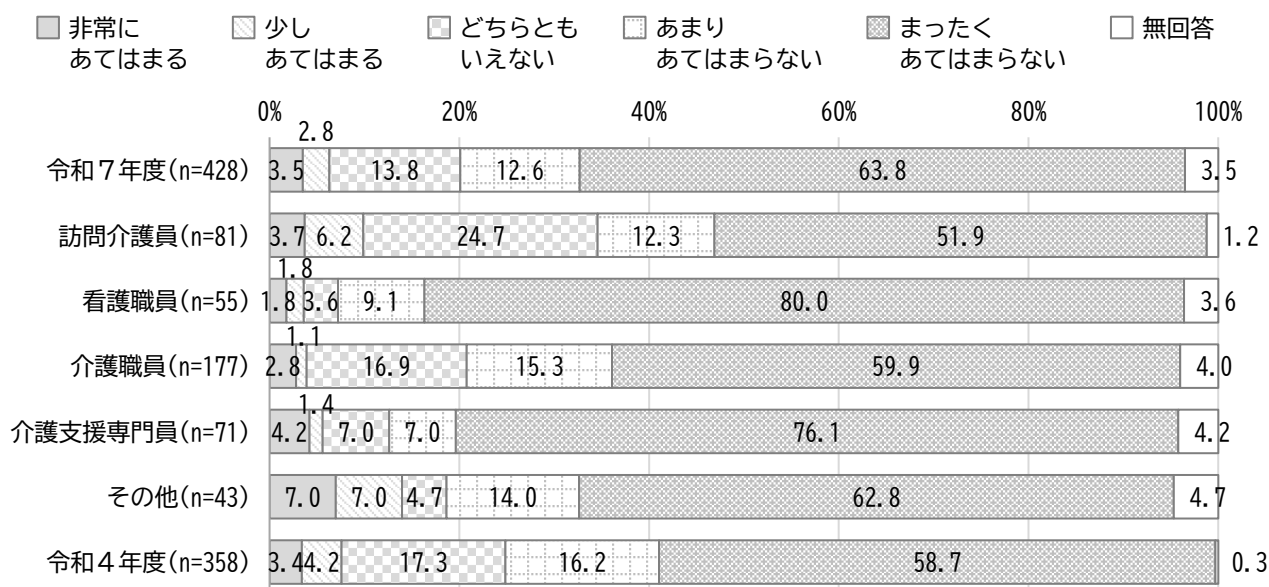
① 雇用が不安定である

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が36.0%で最も高く、次いで、「あまりあてはまらない」が22.0%、「どちらともいえない」が17.8%であった。



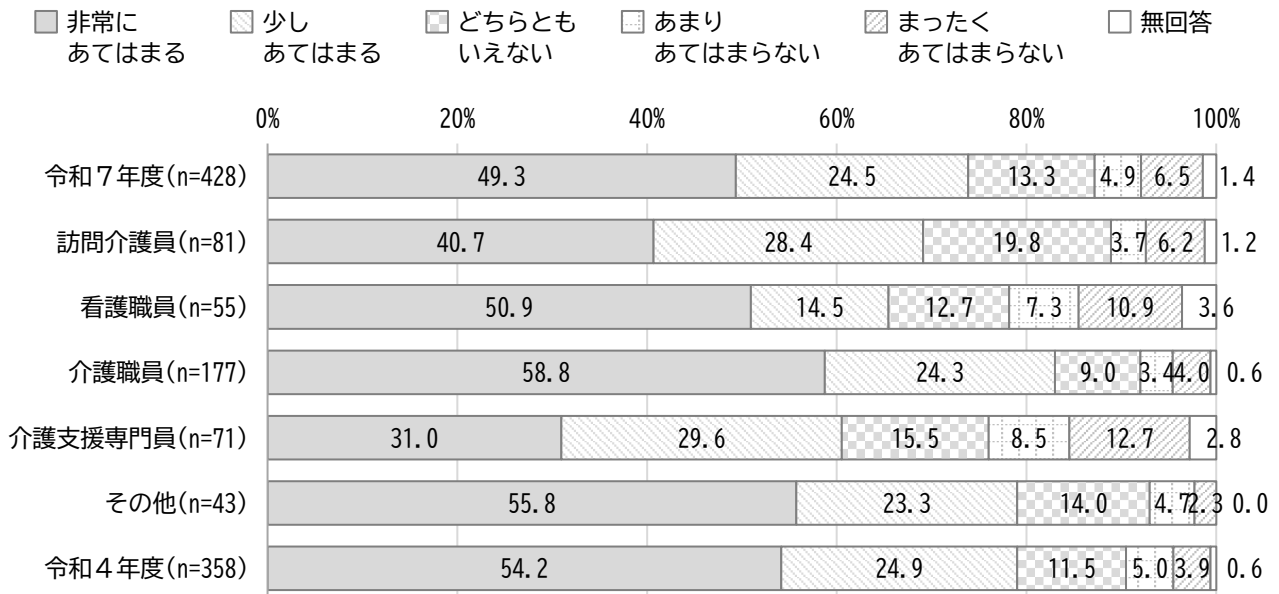
② 正規職員になれない

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が63.8%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が13.8%、「あまりあてはまらない」が12.6%であった。



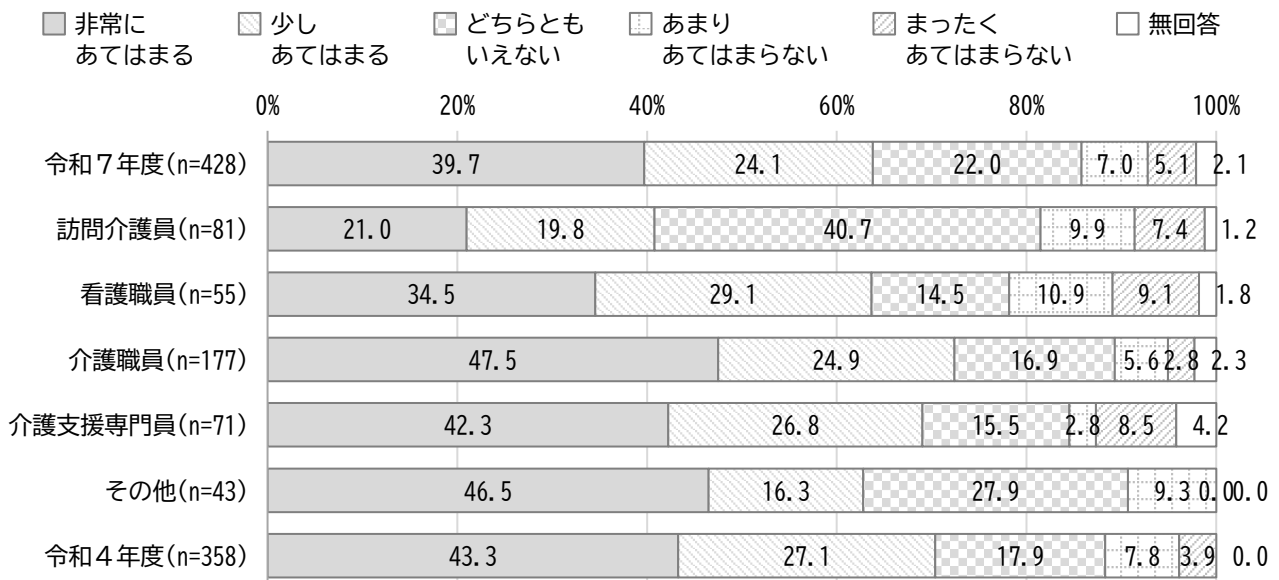
③ 人手が足りない

令和7年度では、「非常にあてはまる」が49.3%で最も高く、次いで、「少しあてはまる」が24.5%、「どちらともいえない」が13.3%であった。



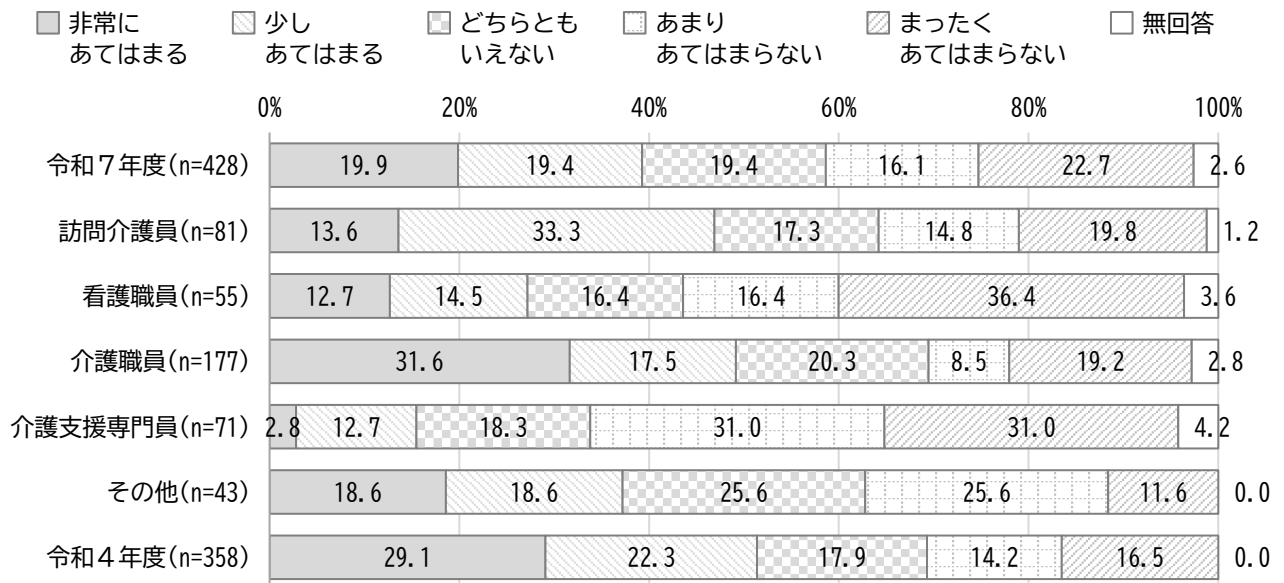
④ 仕事の内容のわりに賃金が低い

令和7年度では、「非常にあてはまる」が39.7%で最も高く、次いで、「少しあてはまる」が24.1%、「どちらともいえない」が22.0%であった。



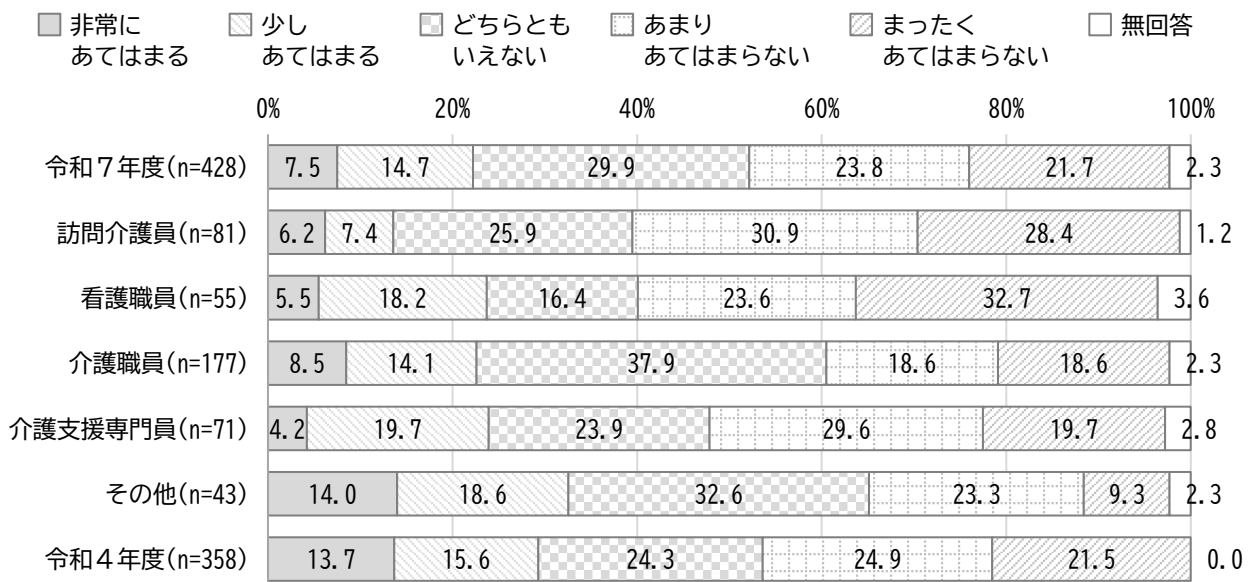
⑤ 労働時間が不規則である

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が22.7%で最も高く、次いで、「非常にあてはまる」が19.9%、「少しあてはまる」「どちらともいえない」が19.4%であった。



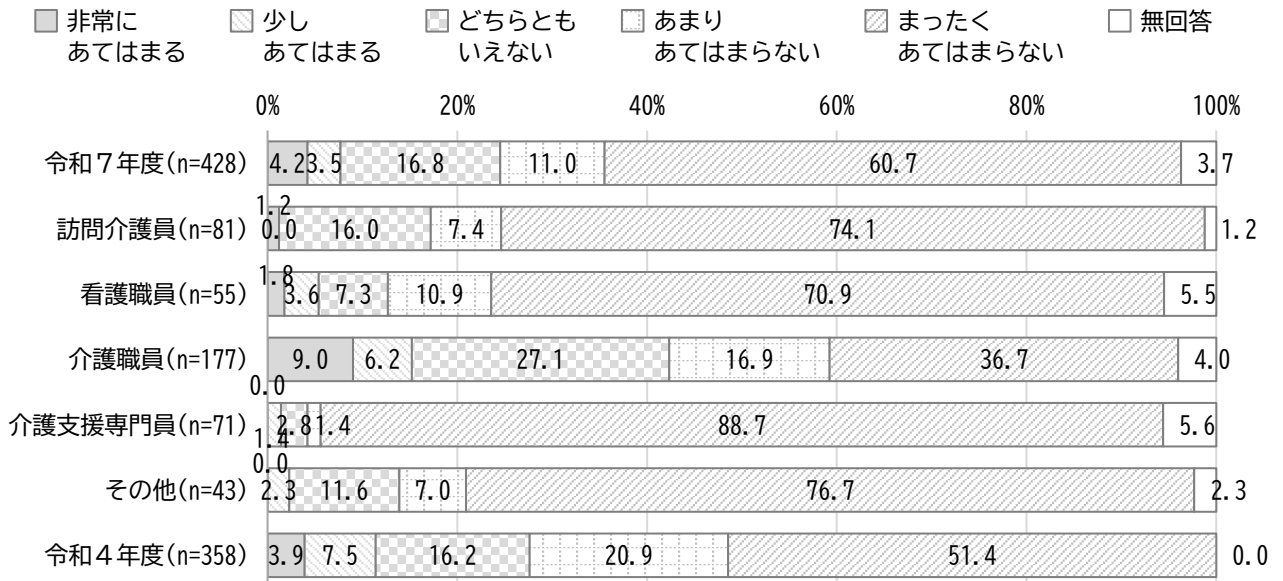
⑥ 労働時間が長い

令和7年度では、「どちらともいえない」が29.9%で最も高く、次いで、「あまりあてはまらない」が23.8%、「まったくあてはまらない」が21.7%であった。



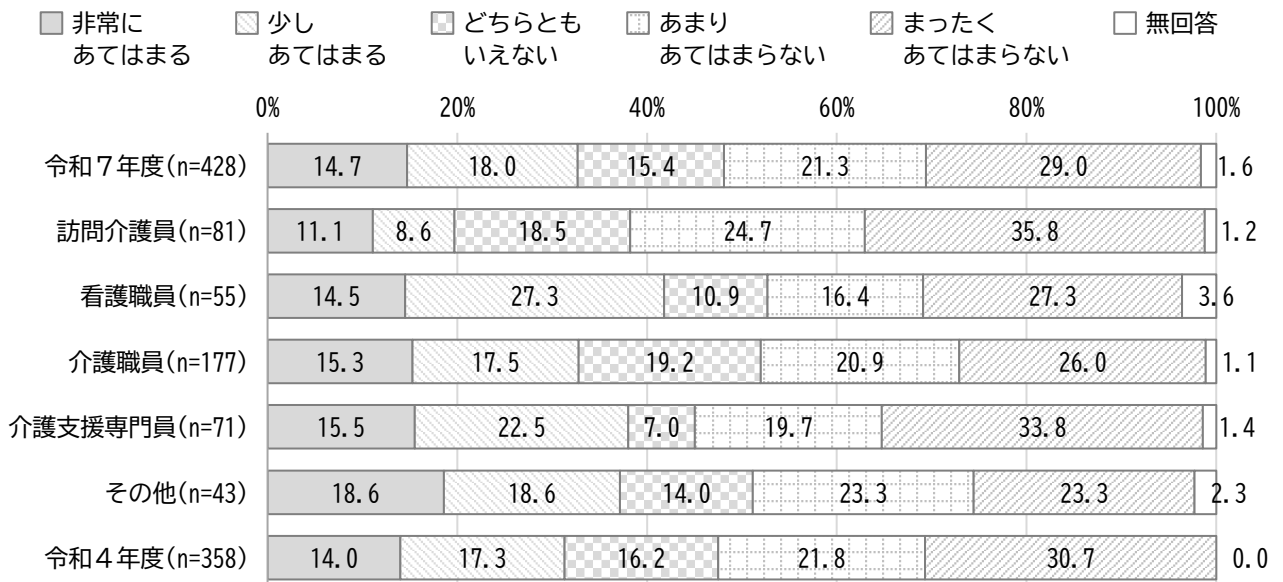
⑦ 夜勤が多い

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が60.7%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が16.8%、「あまりあてはまらない」が11.0%であった。



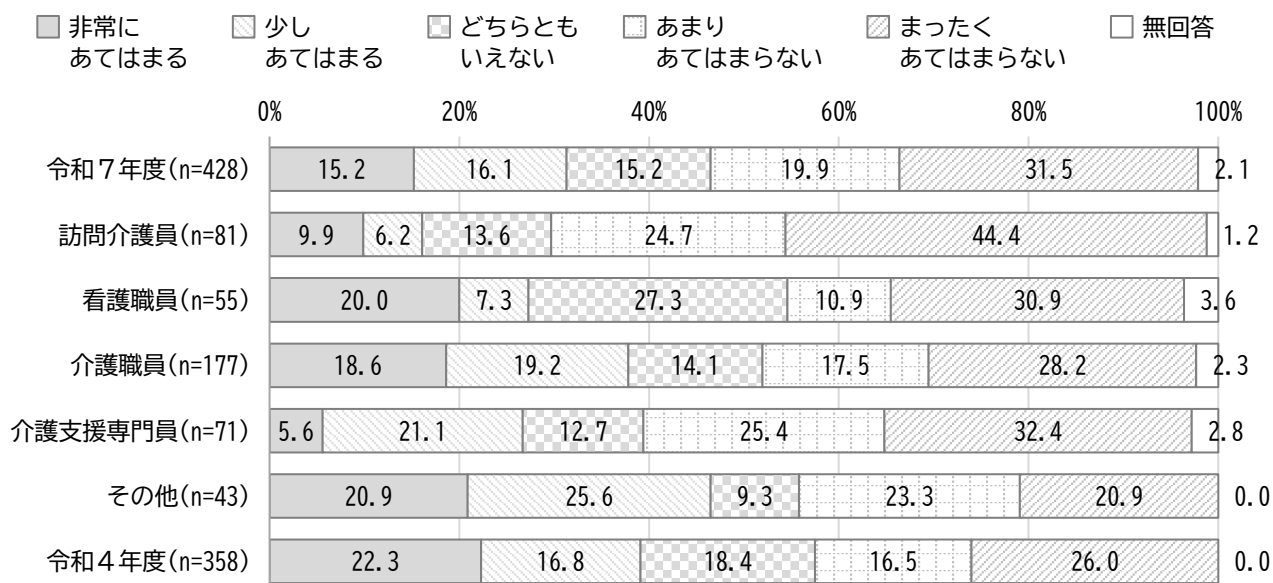
⑧ 休憩を取りにくい

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が29.0%で最も高く、次いで、「あまりあてはまらない」が21.3%、「少しあてはまる」が18.0%であった。



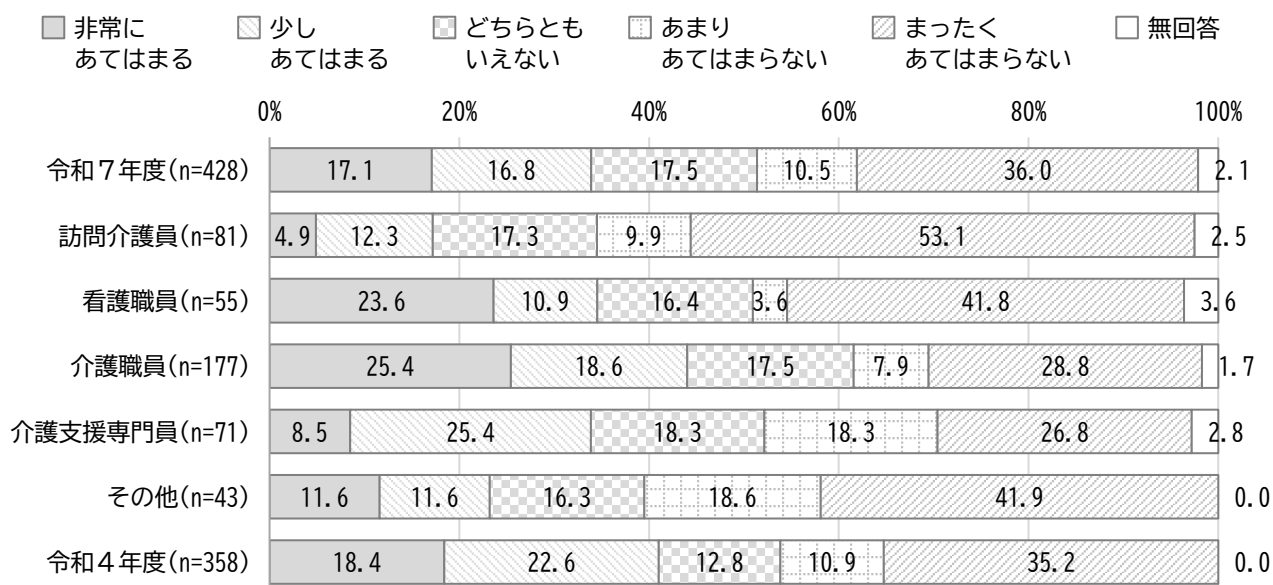
⑨ 有給休暇を取りにくい

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が31.5%で最も高く、次いで、「あまりあてはまらない」が19.9%、「少しあてはまる」が16.1%であった。



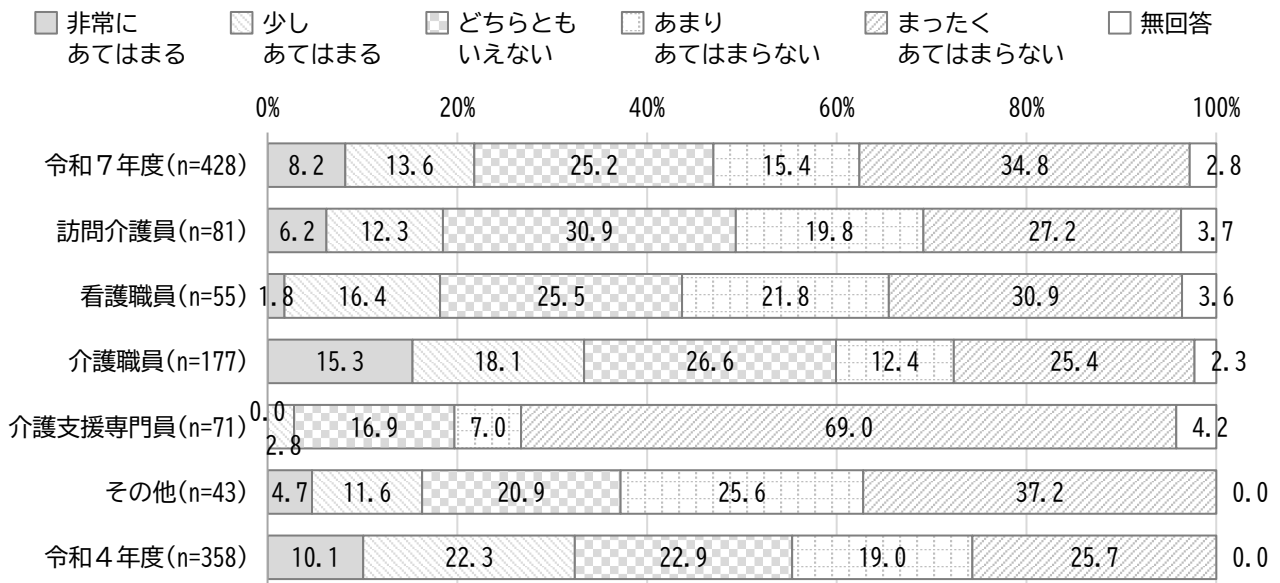
⑩ 夜間や深夜時間帯に何か起きるのではないかと不安がある

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が36.0%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が17.5%、「非常にあてはまる」が17.1%であった。



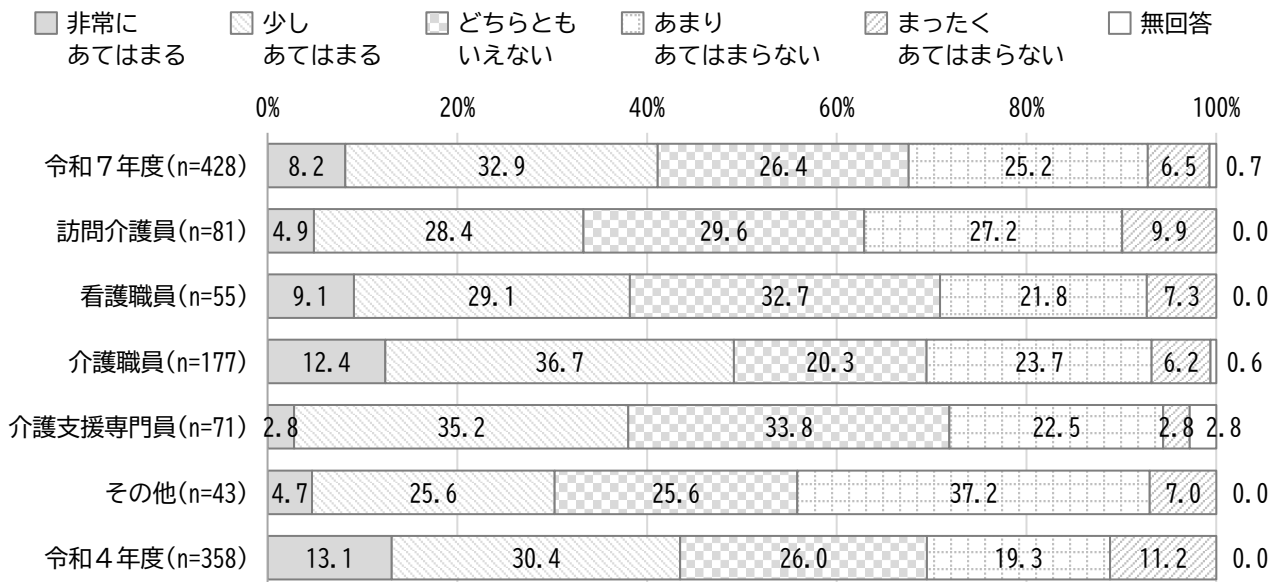
⑪ 職務として行う医療的な行為に不安がある

令和7年度では、「まったくあてはまらない」が34.8%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が25.2%、「あまりあてはまらない」が15.4%であった。



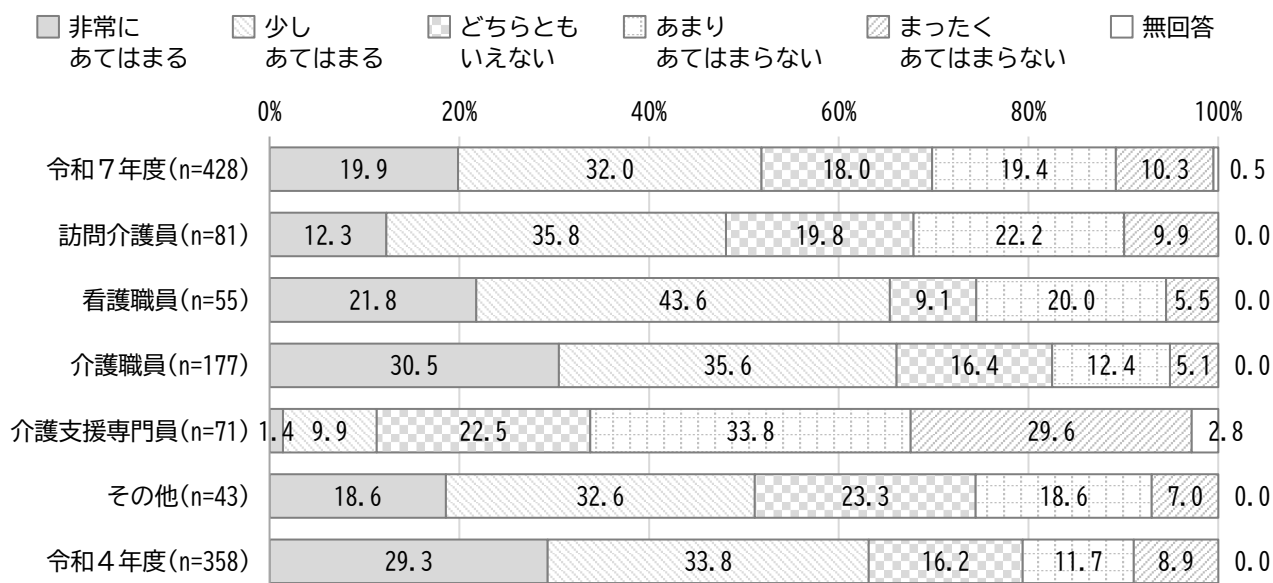
⑫ 利用者・入居者に適切なケアができているか不安がある

令和7年度では、「少しあてはまる」が32.9%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が26.4%、「あまりあてはまらない」が25.2%であった。



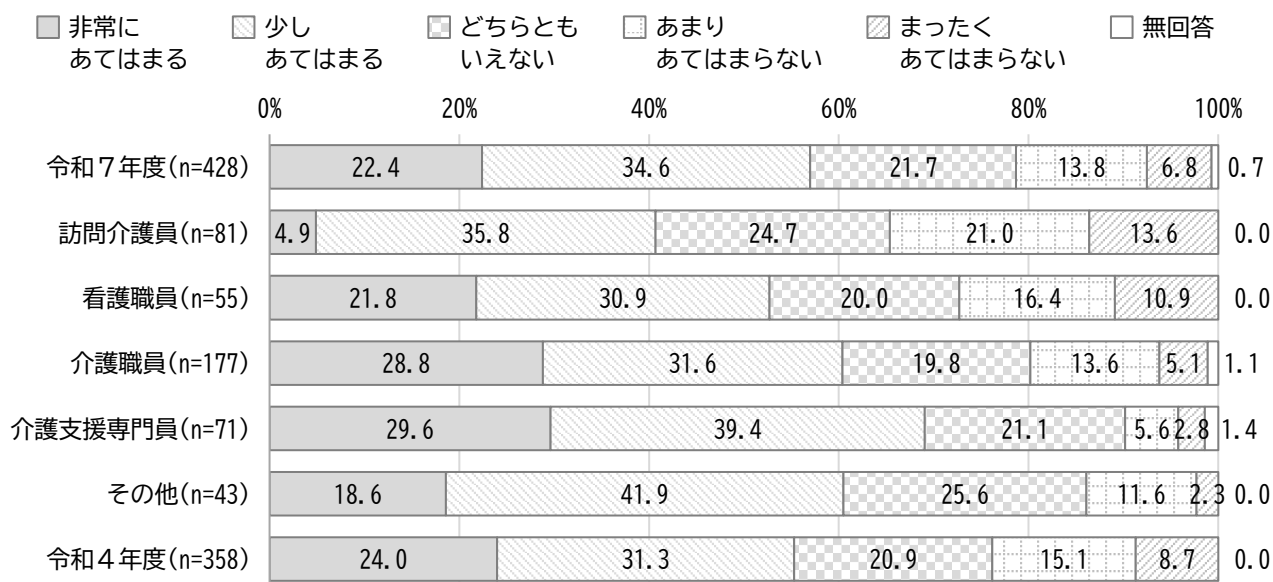
⑬ 身体的な負担が大きい（腰痛や体力に不安がある）

令和7年度では、「少しあてはまる」が32.0%で最も高く、次いで、「非常にあてはまる」が19.9%、「あまりあてはまらない」が19.4%であった。



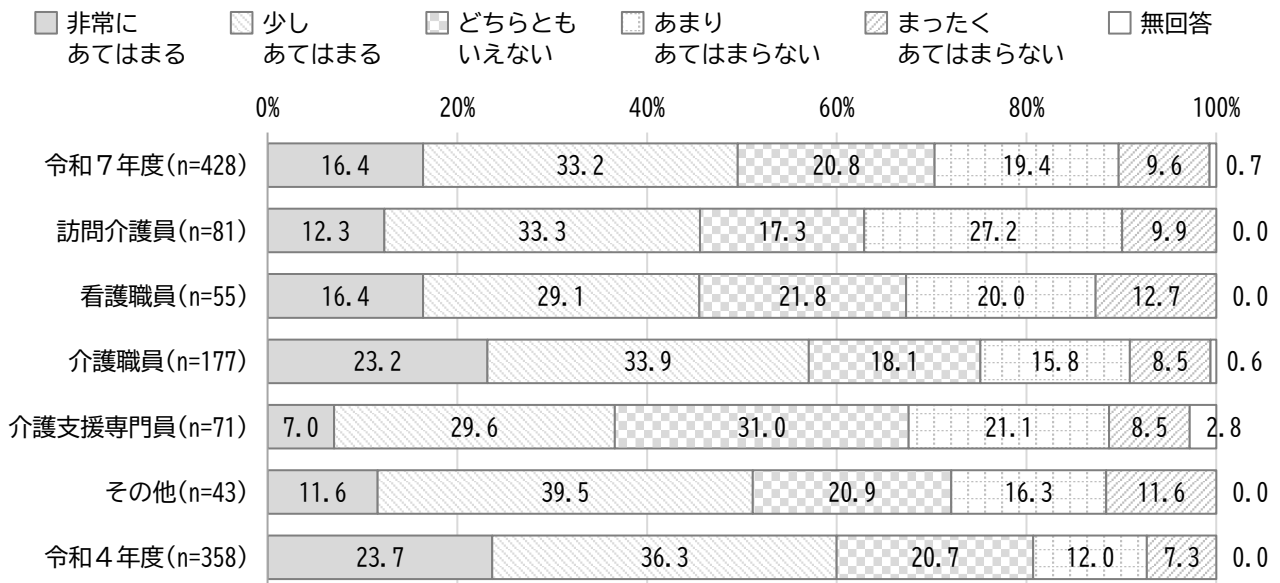
⑭ 精神的にきつい

令和7年度では、「少しあてはまる」が34.6%で最も高く、次いで、「非常にあてはまる」が22.4%、「どちらともいえない」が21.7%であった。



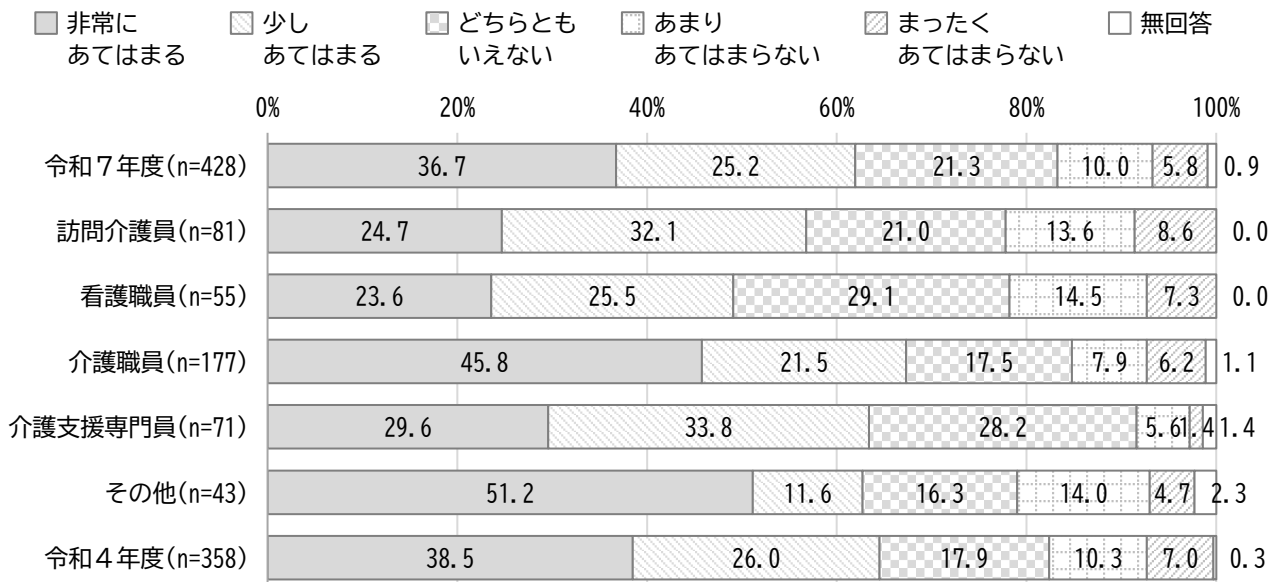
⑮ 健康面（感染症、ケガ）の不安がある

令和7年度では、「少しあてはまる」が33.2%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が20.8%、「あまりあてはまらない」が19.4%であった。



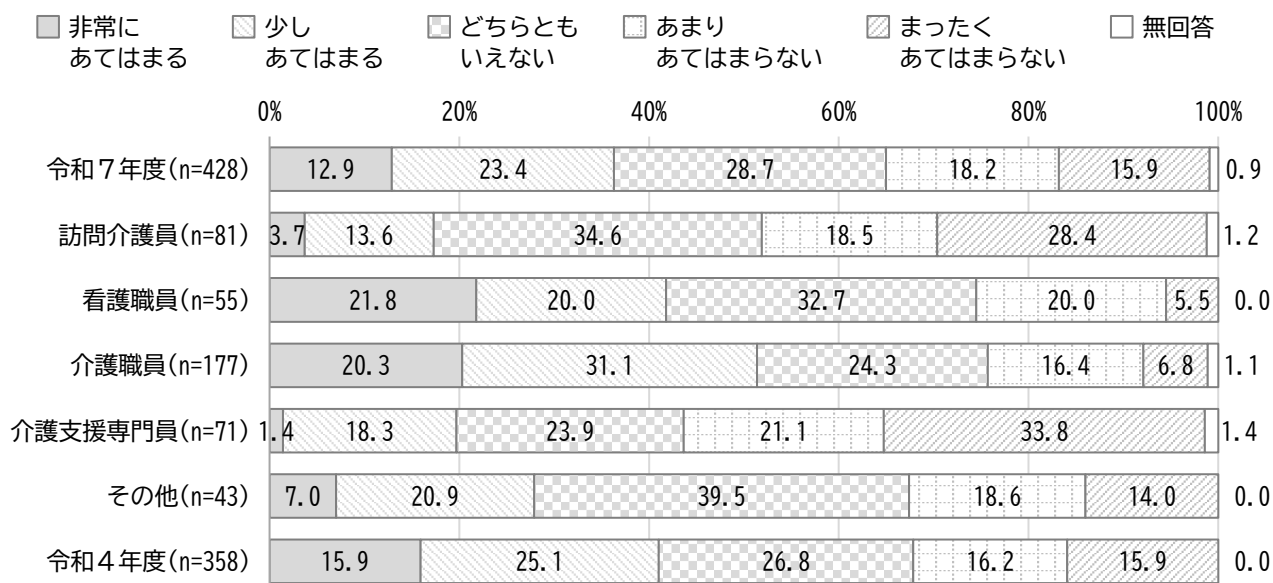
⑯ 業務に対する社会的評価が低い

令和7年度では、「非常にあてはまる」が36.7%で最も高く、次いで、「少しあてはまる」が25.2%、「どちらともいえない」が21.3%であった。



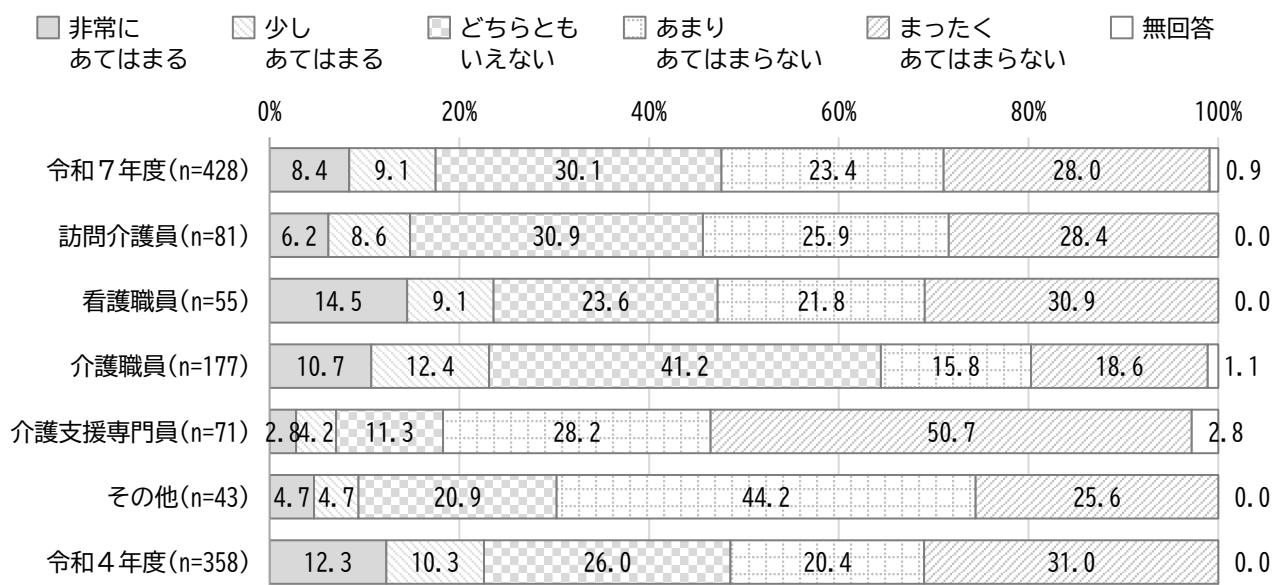
⑰ 福祉機器の不足、機器操作の不慣れ、施設の構造に不安がある

令和7年度では、「どちらともいえない」が28.7%で最も高く、次いで、「少しあてはまる」が23.4%、「あまりあてはまらない」が18.2%であった。



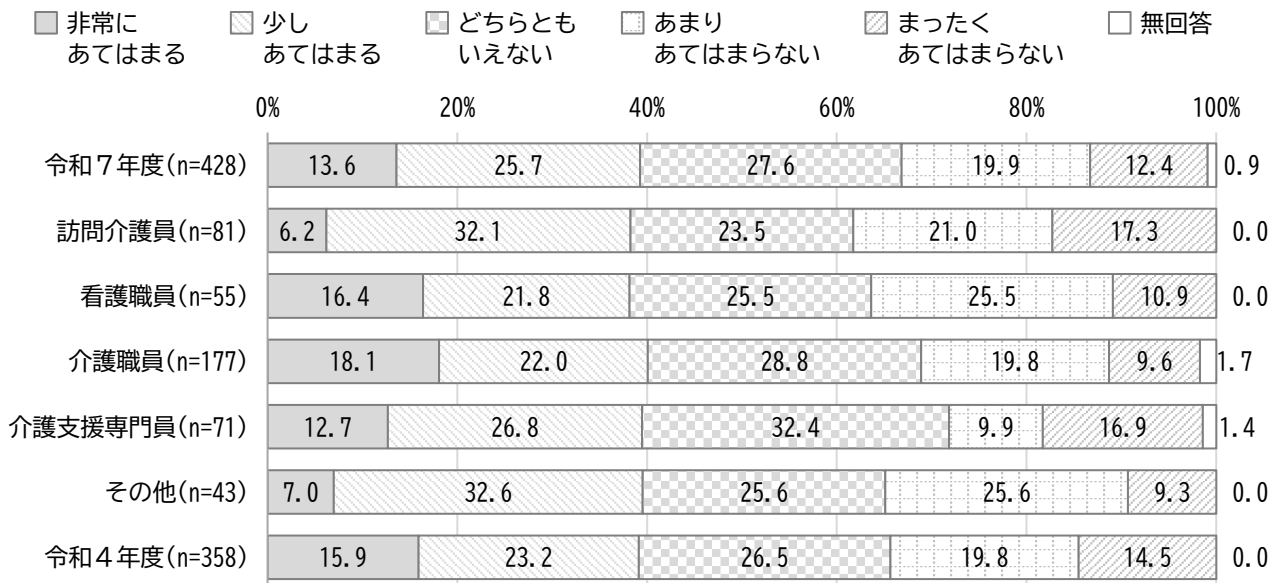
⑱ 仕事中のケガなどへの補償がない

令和7年度では、「どちらともいえない」が30.1%で最も高く、次いで、「まったくあてはまらない」が28.0%、「あまりあてはまらない」が23.4%であった。



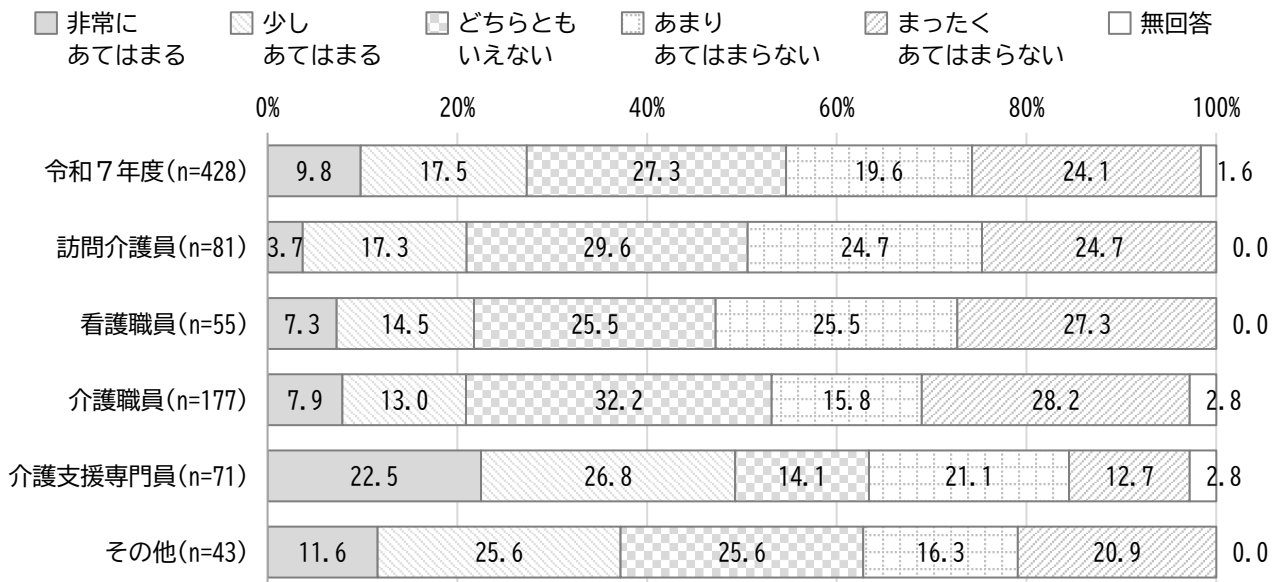
⑱ 利用者・入居者は何をやってもらっても当然と思っている

令和7年度では、「どちらともいえない」が27.6%で最も高く、次いで、「少しあてはまる」が25.7%、「あまりあてはまらない」が19.9%であった。



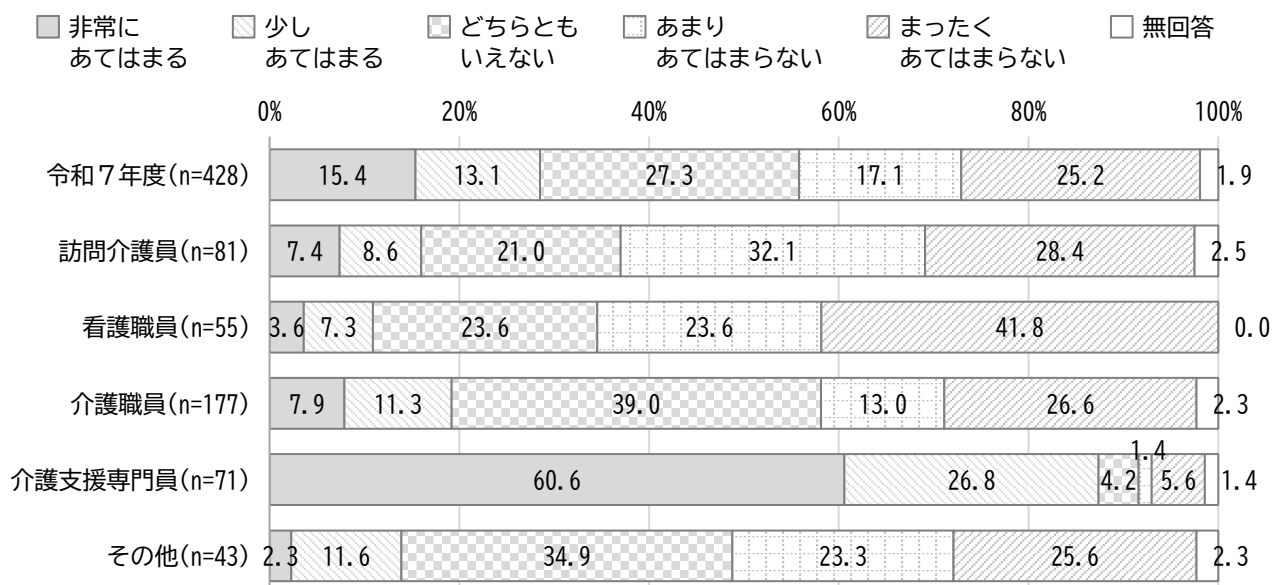
⑳ 法定外業務の対応がある

令和7年度では、「どちらともいえない」が27.3%で最も高く、次いで、「まったくあてはまらない」が24.1%、「あまりあてはまらない」が19.6%であった。



② 資格の維持・更新にかかる負担が大きい

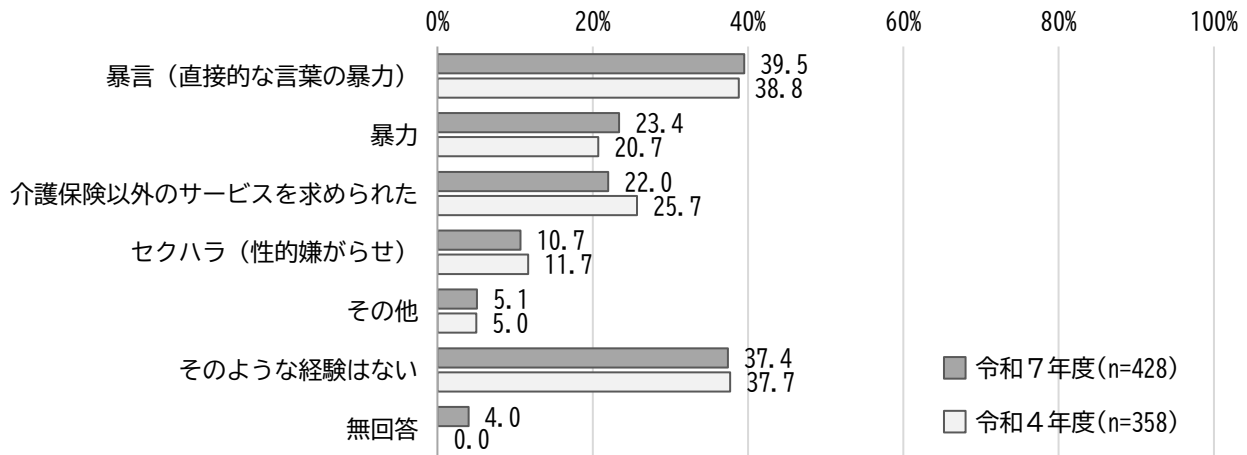
令和7年度では、「どちらともいえない」が27.3%で最も高く、次いで、「まったくあてはまらない」が25.2%、「あまりあてはまらない」が17.1%であった。



(2) 利用者からのハラスメント等

問 13 あなたは、過去 1 年間に、仕事中に利用者やその家族から、次のようなことをされた経験がありますか。(複数回答)

令和 7 年度では、「暴言（直接的な言葉の暴力）」が 39.5%で最も高く、次いで、「そのような経験はない」が 37.4%、「暴力」が 23.4%であった。



職種別でみると、訪問介護員では、「そのような経験はない」が 49.4%で最も高く、次いで、「介護保険以外のサービスを求められた」が 25.9%であった。看護職員では、「暴言（直接的な言葉の暴力）」が 47.3%で最も高く、次いで、「そのような経験はない」が 34.5%であった。介護職員では、「暴言（直接的な言葉の暴力）」が 45.8%で最も高く、次いで、「暴力」が 41.2%であった。介護支援専門員では、「介護保険以外のサービスを求められた」が 52.1%で最も高く、次いで、「暴言（直接的な言葉の暴力）」が 46.5%であった。その他では、「そのような経験はない」が 41.9%で最も高く、次いで、「介護保険以外のサービスを求められた」が 34.9%であった。

	人数	セクハラ (性的嫌がらせ)	暴力	暴言（直接的な言葉の暴力）	介護保険以外のサービスを求められた	その他	そのような経験はない	無回答
全体	428	10.7%	23.4%	39.5%	22.0%	5.1%	37.4%	4.0%
訪問介護員	81	3.7%	9.9%	21.0%	25.9%	6.2%	49.4%	3.7%
看護職員	55	16.4%	29.1%	47.3%	16.4%	7.3%	34.5%	3.6%
介護職員	177	17.5%	41.2%	45.8%	6.8%	3.4%	33.9%	5.6%
介護支援専門員	71	0.0%	2.8%	46.5%	52.1%	8.5%	31.0%	2.8%
その他	43	7.0%	2.3%	27.9%	34.9%	2.3%	41.9%	0.0%
訪問系サービス	114	7.0%	4.4%	28.1%	34.2%	5.3%	43.9%	1.8%
施設系（入所型）	157	17.8%	41.4%	46.5%	7.6%	5.7%	33.1%	5.7%
施設系（通所型）	36	8.3%	16.7%	22.2%	11.1%	2.8%	50.0%	5.6%
居住系	53	13.2%	39.6%	39.6%	3.8%	3.8%	37.7%	5.7%
居宅介護支援	65	0.0%	3.1%	50.8%	56.9%	6.2%	29.2%	1.5%

問 14 高齢者虐待が疑われる場合、通報・相談先（上司・市役所など）を知っていますか。
（単数回答）

令和7年度では、「知っている」が92.3%、「知らない」が5.8%であった。



職種別でみると、訪問介護員では、「知っている」が92.6%、「知らない」が4.9%であった。看護職員では、「知っている」が96.4%、「知らない」が3.6%であった。介護職員では、「知っている」が90.4%、「知らない」が7.9%であった。介護支援専門員では、「知っている」が95.8%、「知らない」が4.2%であった。その他では、「知っている」が88.4%、「知らない」が4.7%であった。

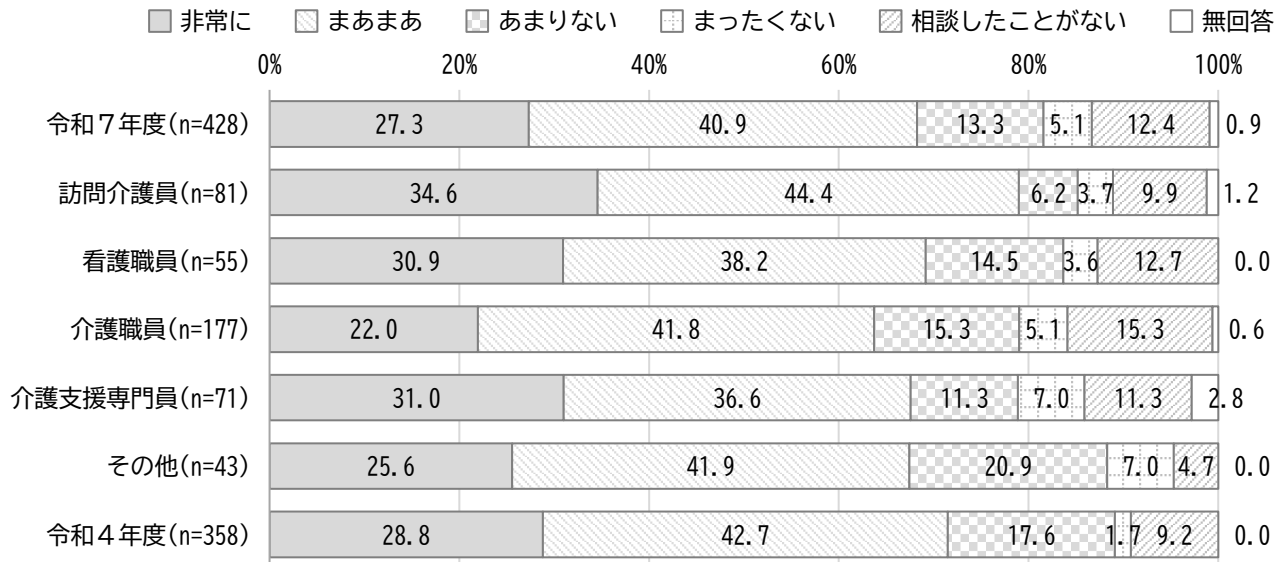
	人数	知っている	知らない	無回答
全体	428	92.3%	5.8%	1.9%
訪問介護員	81	92.6%	4.9%	2.5%
看護職員	55	96.4%	3.6%	0.0%
介護職員	177	90.4%	7.9%	1.7%
介護支援専門員	71	95.8%	4.2%	0.0%
その他	43	88.4%	4.7%	7.0%
訪問系サービス	114	90.4%	6.1%	3.5%
施設系（入所型）	157	92.4%	6.4%	1.3%
施設系（通所型）	36	86.1%	8.3%	5.6%
居住系	53	94.3%	5.7%	0.0%
居宅介護支援	65	96.9%	3.1%	0.0%

(3) 相談できる人

問 15 仕事で心配事や悩み事があった時に、次の人たちはどのくらい相談にのってくれますか。(単数回答)

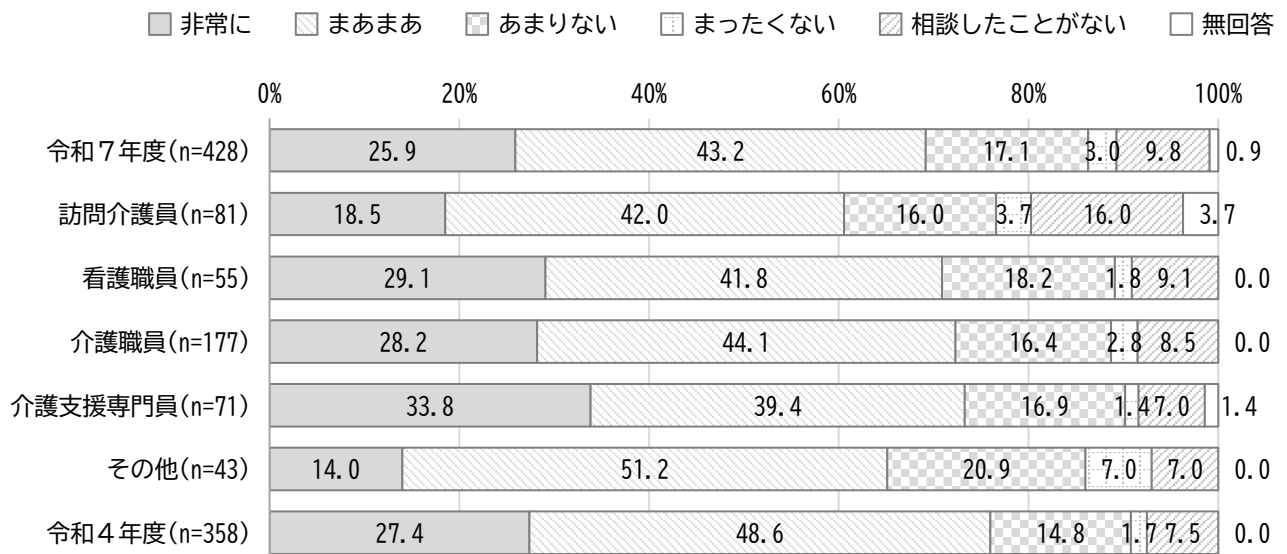
① 勤務先の上司

令和7年度では、「まあまあ」が40.9%で最も高く、次いで、「非常に」が27.3%、「あまりない」が13.3%、「あまりない」が13.3%であった。



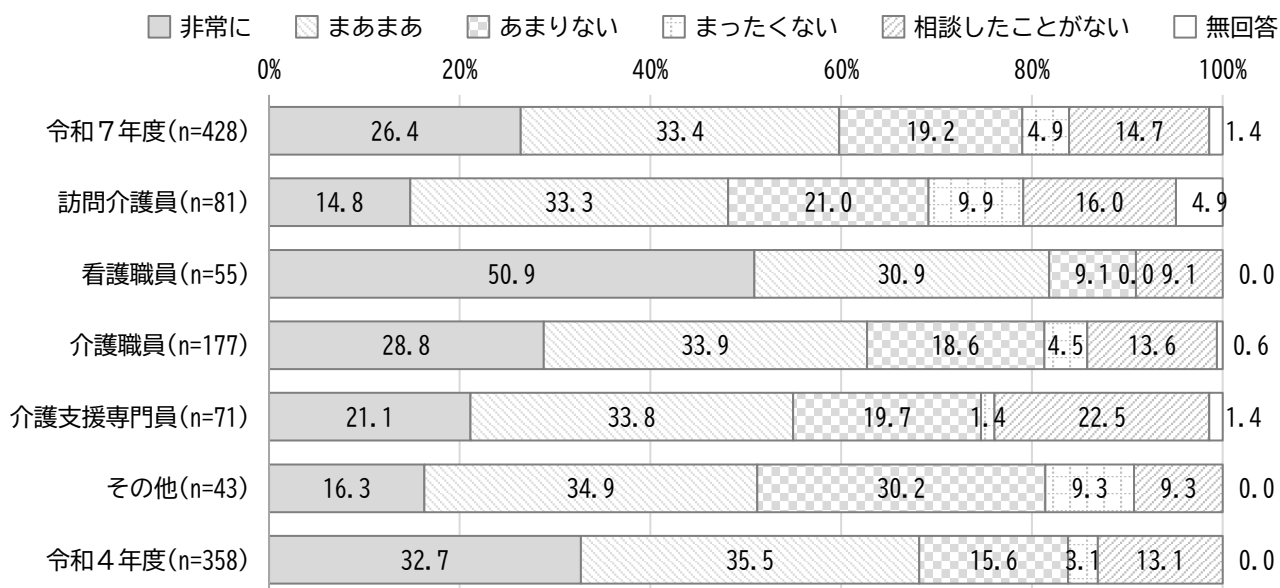
② 勤務先の同僚

令和7年度では、「まあまあ」が43.2%で最も高く、次いで、「非常に」が25.9%、「あまりない」が17.1%、「あまりない」が17.1%であった。



③ 家族、勤務先以外の友人・知人

令和7年度では、「まあまあ」が33.4%で最も高く、次いで、「非常に」が26.4%、「あまりない」が19.2%、「あまりない」が19.2%であった。



(4) 職場での取組と働く上での悩み、不安、不満等の解消

問 16①あなたの職場では、次のような取組が行われていますか。(複数回答)

②その取組は、働く上での悩み、不安、不満等を解消する上で、あなたの役に立っていますか。(複数回答)

① 行われているもの

令和7年度では、「定期的な健康診断の実施」が79.2%で最も高く、次いで、「介護能力の向上に向けた研修」が66.8%、「採用時における賃金・勤務時間の説明」が63.8%であった。

職種別にみると、訪問介護員では、「介護能力の向上に向けた研修」が84.0%で最も高く、次いで、「定期的な健康診断の実施」が72.8%であった。看護職員では、「定期的な健康診断の実施」が81.8%で最も高く、次いで、「採用時における賃金・勤務時間の説明」が63.6%であった。介護職員では、「定期的な健康診断の実施」が76.8%で最も高く、次いで、「介護能力の向上に向けた研修」が65.0%であった。介護支援専門員では、「定期的な健康診断の実施」が88.7%で最も高く、次いで、「資格の維持・更新に対する研修への派遣」が71.8%であった。その他では、「定期的な健康診断の実施」が81.4%で最も高く、次いで、「介護能力の向上に向けた研修」「採用時における賃金・勤務時間の説明」が74.4%であった。

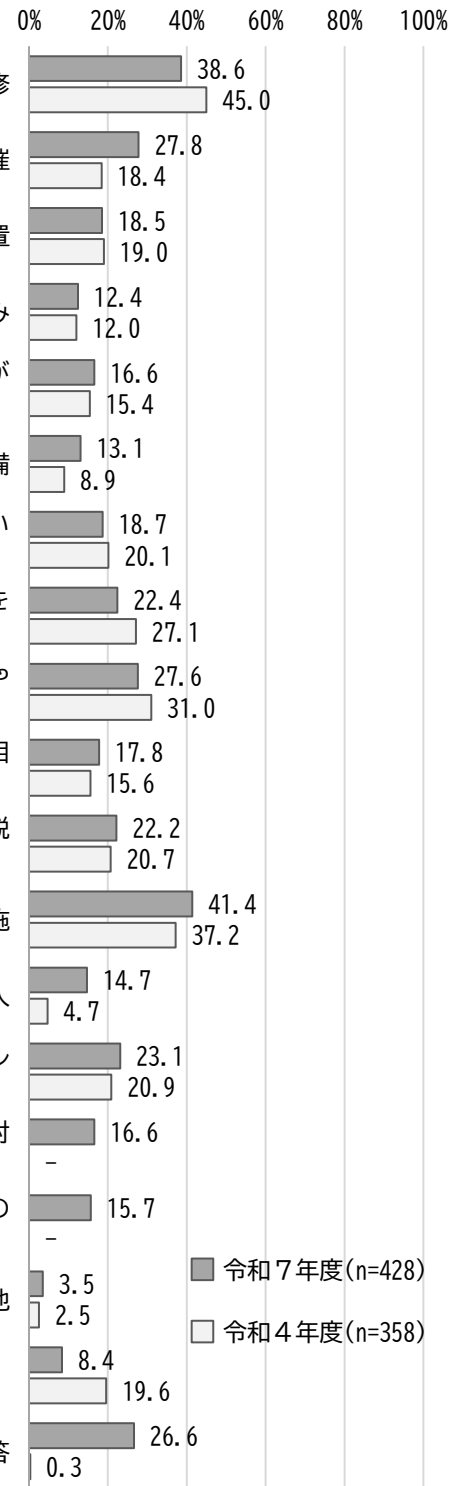
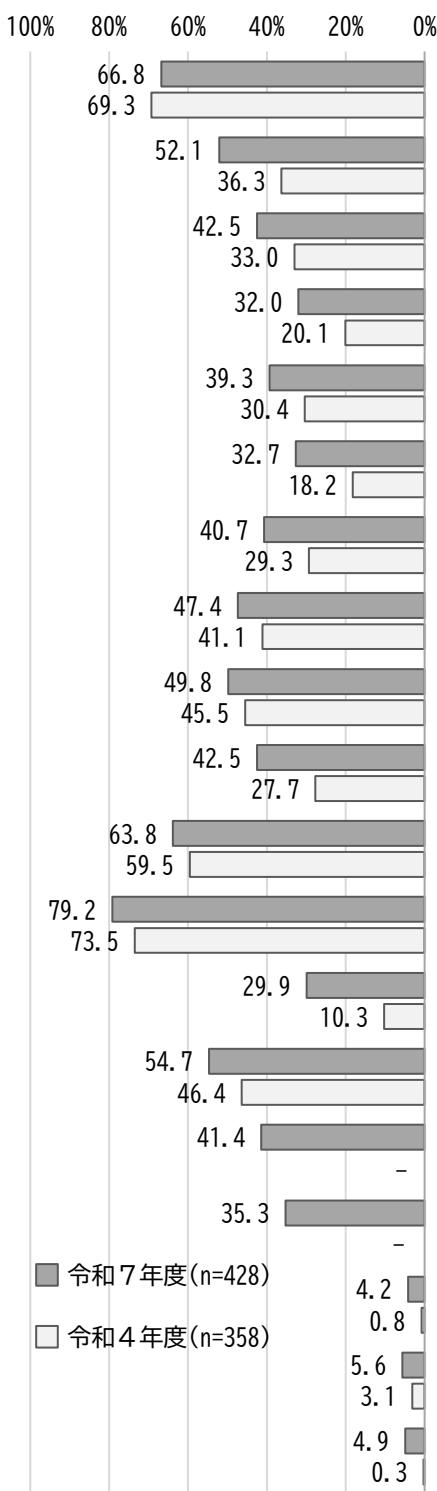
② 役に立っているもの

令和7年度では、「定期的な健康診断の実施」が41.4%で最も高く、次いで、「介護能力の向上に向けた研修」が38.6%、「介護に関する事例検討会の開催」が27.8%であった。

職種別でみると、訪問介護員では、「介護能力の向上に向けた研修」が46.9%で最も高く、次いで、「定期的な健康診断の実施」が40.7%であった。看護職員では、「定期的な健康診断の実施」が30.9%で最も高く、次いで、「介護能力の向上に向けた研修」「実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定」が27.3%であった。介護職員では、「介護能力の向上に向けた研修」が39.0%で最も高く、次いで、「定期的な健康診断の実施」が38.4%であった。介護支援専門員では、「定期的な健康診断の実施」が52.1%で最も高く、次いで、「介護に関する事例検討会の開催」が39.4%であった。その他では、「定期的な健康診断の実施」が48.8%で最も高く、次いで、「介護能力の向上に向けた研修」が44.2%であった。

① 行われているもの

② 役に立っているもの



① 行われているもの

	人数	介護能力に向けた研修	介護に関する事例検討会の開催	介護能力に見合った仕事への配置	介護能力を適切に評価する仕組み	能力や資格取得に応じて賃金が上がる仕組み	キャリアアップの仕組の整備	働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会	勤務制を定める際の要望の機会設定	実務の中で、上司や先輩から指導を受けたり、研修を受ける機会を設定
全体	428	66.8%	52.1%	42.5%	32.0%	39.3%	32.7%	40.7%	47.4%	49.8%
訪問介護員	81	84.0%	60.5%	60.5%	43.2%	55.6%	43.2%	46.9%	59.3%	53.1%
看護職員	55	45.5%	29.1%	38.2%	25.5%	20.0%	30.9%	36.4%	45.5%	56.4%
介護職員	177	65.0%	50.8%	35.0%	29.4%	36.7%	27.1%	35.0%	43.5%	41.2%
介護支援専門員	71	64.8%	59.2%	35.2%	28.2%	35.2%	26.8%	47.9%	45.1%	57.7%
その他	43	74.4%	58.1%	58.1%	37.2%	51.2%	48.8%	46.5%	48.8%	58.1%

	仕事や職場の悩みや問題を相談できる窓口や担当者設定	採用時における賃金・勤務時間の説明	定期的な健康診断の実施	ICTやロボット等導入	事故やトラブルへの対応マニュアル等のづくり	利用者や家族からのコメント対策	資格の維持・更新に関する研修への派遣	その他	行われているものはない	無回答
全体	42.5%	63.8%	79.2%	29.9%	54.7%	41.4%	35.3%	4.2%	5.6%	4.9%
訪問介護員	55.6%	71.6%	72.8%	19.8%	56.8%	46.9%	35.8%	1.2%	1.2%	3.7%
看護職員	40.0%	63.6%	81.8%	32.7%	45.5%	43.6%	25.5%	9.1%	7.3%	3.6%
介護職員	33.3%	57.1%	76.8%	37.9%	50.8%	31.6%	23.2%	5.6%	9.6%	6.8%
介護支援専門員	46.5%	66.2%	88.7%	19.7%	63.4%	49.3%	71.8%	1.4%	0.0%	2.8%
その他	51.2%	74.4%	81.4%	30.2%	62.8%	55.8%	37.2%	2.3%	4.7%	4.7%

② 役に立っているもの

	人数	介護能力に向けた研修	介護に関する事例検討会の開催	介護能力に見合った仕事への配置	介護能力を適切に評価する仕組み	能力や資格取得に応じて賃金が上がる仕組み	キャリアアップの仕組の整備	働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会	勤務制を定める際の要望の機会設定	実務の中で、上司や先輩から指導を受けたり、研修を受ける機会を設定
全体	428	38.6%	27.8%	18.5%	12.4%	16.6%	13.1%	18.7%	22.4%	27.6%
訪問介護員	81	46.9%	39.5%	27.2%	12.3%	22.2%	16.0%	22.2%	32.1%	34.6%
看護職員	55	27.3%	12.7%	7.3%	7.3%	7.3%	7.3%	10.9%	20.0%	27.3%
介護職員	177	39.0%	19.8%	18.6%	11.9%	16.4%	12.4%	15.8%	18.1%	23.7%
介護支援専門員	71	33.8%	39.4%	18.3%	14.1%	15.5%	14.1%	22.5%	25.4%	31.0%
その他	43	44.2%	37.2%	16.3%	18.6%	20.9%	16.3%	27.9%	20.9%	25.6%

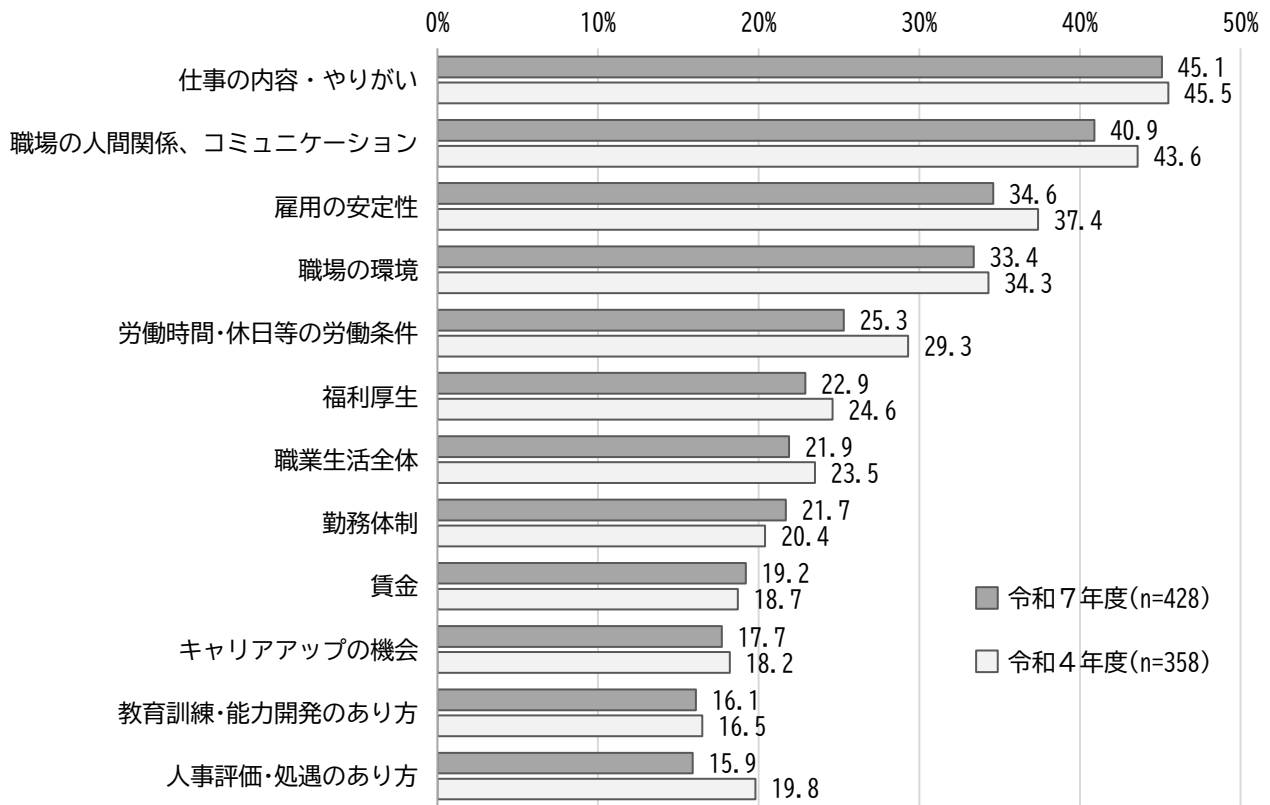
	仕事や職場の悩みや問題を相談できる窓口や担当者設定	採用時における賃金・勤務時間の説明	定期的な健康診断の実施	ICTやロボット等導入	事故やトラブルへの対応マニュアル等のづくり	利用者や家族からのコメント対策	資格の維持・更新に関する研修への派遣	その他	役に立っているものはない	無回答
全体	17.8%	22.2%	41.4%	14.7%	23.1%	16.6%	15.7%	3.5%	8.4%	26.6%
訪問介護員	27.2%	27.2%	40.7%	9.9%	38.3%	14.8%	14.8%	3.7%	6.2%	19.8%
看護職員	9.1%	14.5%	30.9%	12.7%	7.3%	10.9%	5.5%	0.0%	9.1%	40.0%
介護職員	14.7%	22.0%	38.4%	18.6%	22.6%	18.1%	11.9%	5.1%	8.5%	29.4%
介護支援専門員	21.1%	21.1%	52.1%	7.0%	18.3%	19.7%	31.0%	2.8%	5.6%	25.4%
その他	18.6%	25.6%	48.8%	23.3%	25.6%	16.3%	20.9%	2.3%	16.3%	14.0%

(5) 仕事や職場の満足度

問 17 今の仕事や職場の満足度について、お考えにもっとも近い番号を選択してください。
(単数回答)

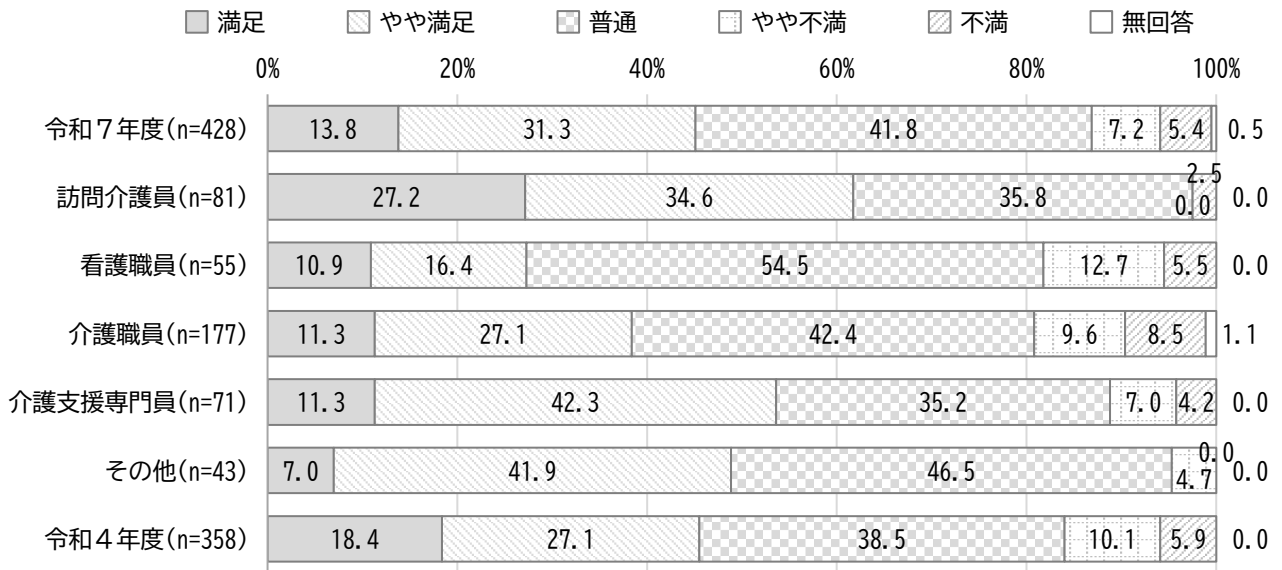
■仕事や職場の満足度（満足/やや満足の合計）

仕事や職場の満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた割合は、全体では、「仕事の内容・やりがい」が45.1%と最も高く、次いで、「職場の人間関係、コミュニケーション」が40.9%、「雇用の安定性」が34.6%であった。



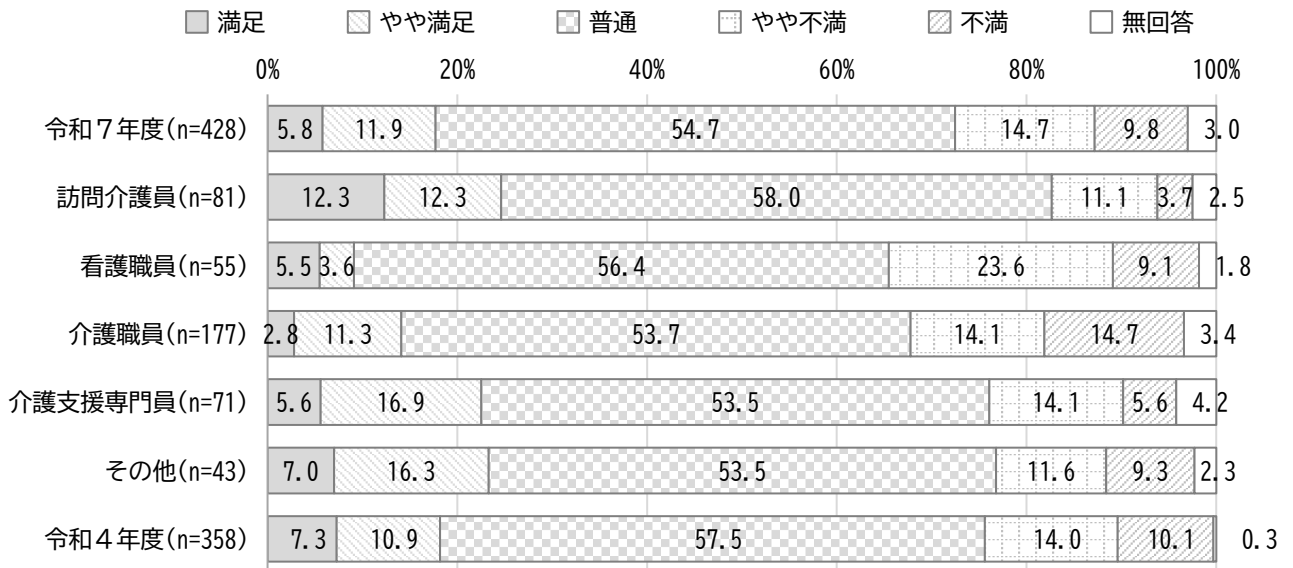
① 仕事の内容・やりがい

令和7年度では、「普通」が41.8%で最も高く、次いで、「やや満足」が31.3%、「満足」が13.8%であった。



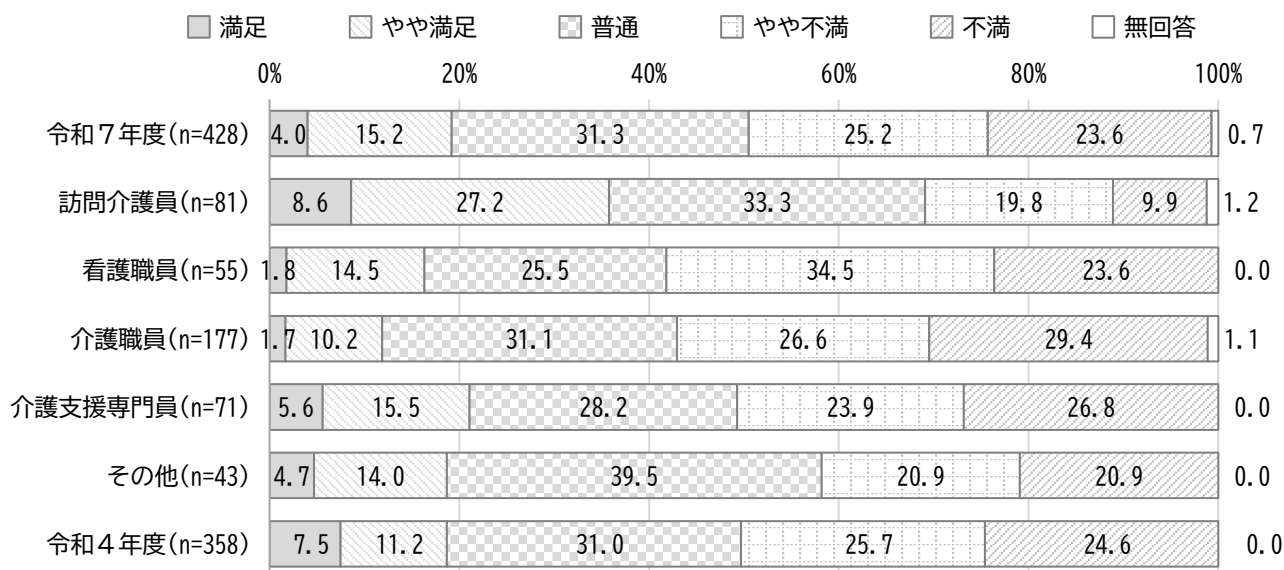
② キャリアアップの機会

令和7年度では、「普通」が54.7%で最も高く、次いで、「やや不満」が14.7%、「やや満足」が11.9%であった。



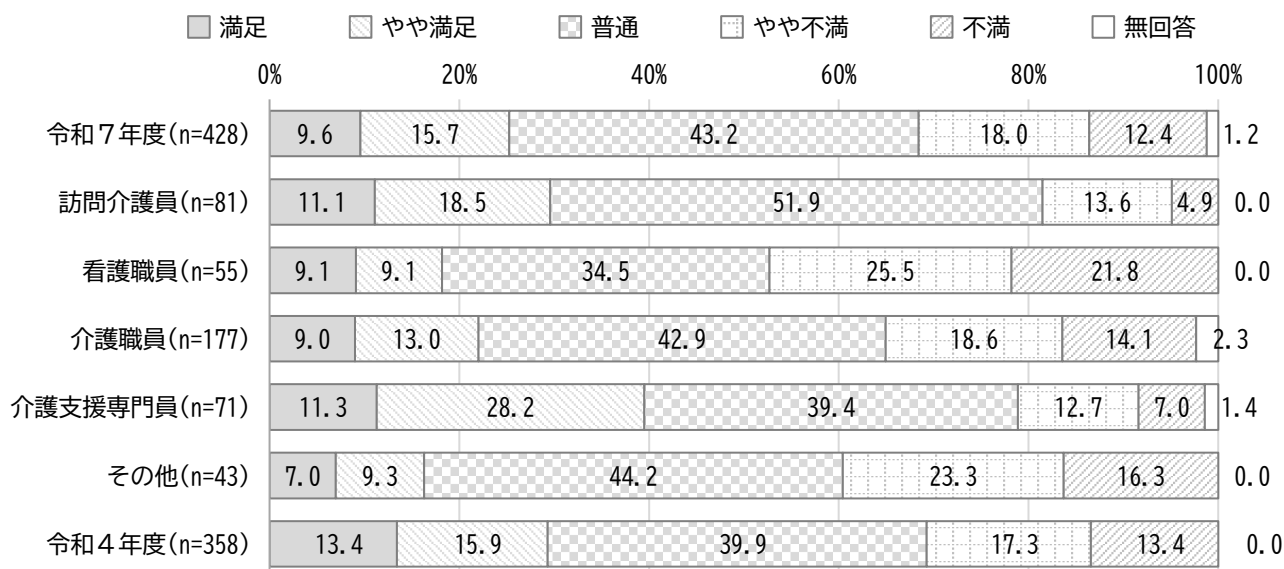
③ 賃金

令和7年度では、「普通」が31.3%で最も高く、次いで、「やや不満」が25.2%、「不満」が23.6%であった。



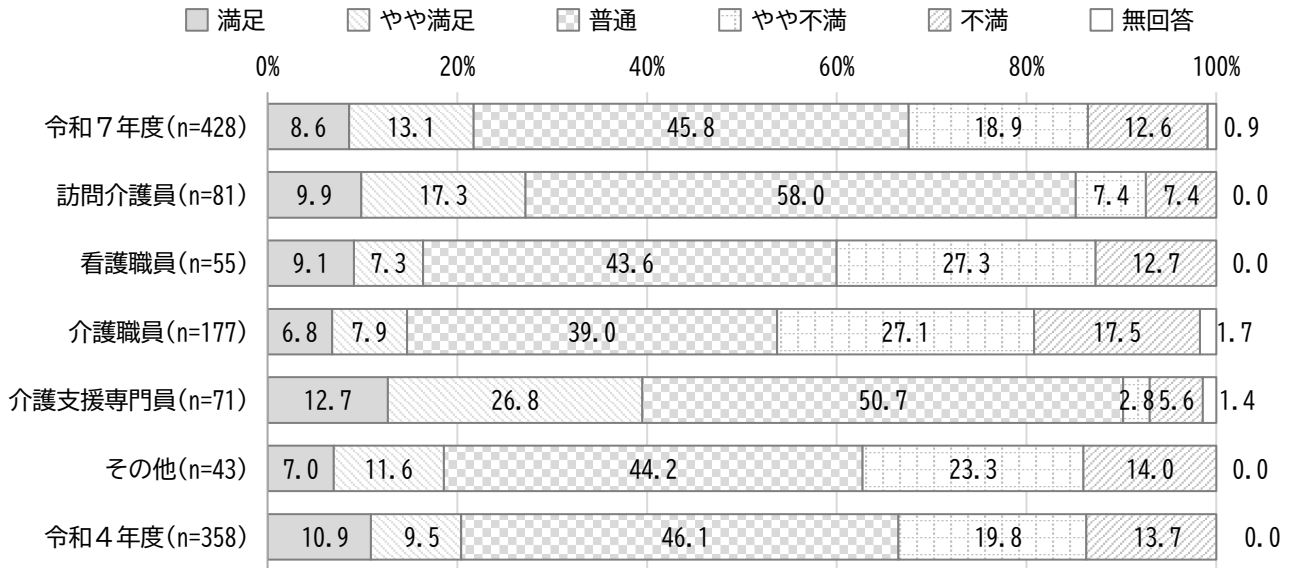
④ 労働時間・休日等の労働条件

令和7年度では、「普通」が43.2%で最も高く、次いで、「やや不満」が18.0%、「やや満足」が15.7%であった。



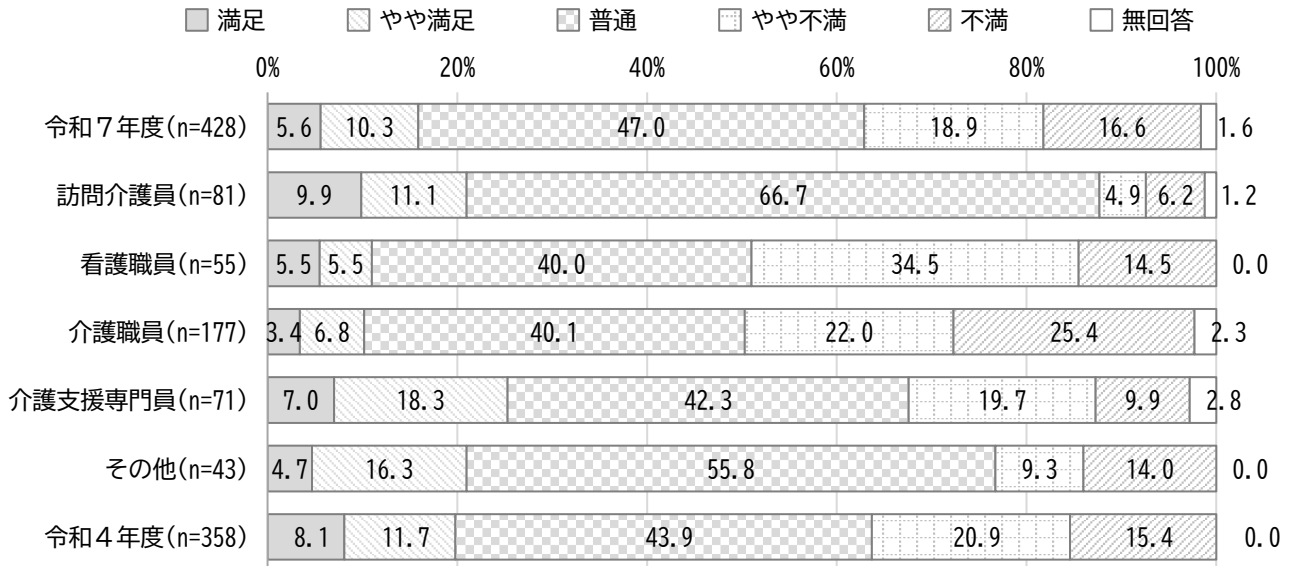
⑤ 勤務体制

令和7年度では、「普通」が45.8%で最も高く、次いで、「やや不満」が18.9%、「やや満足」が13.1%であった。



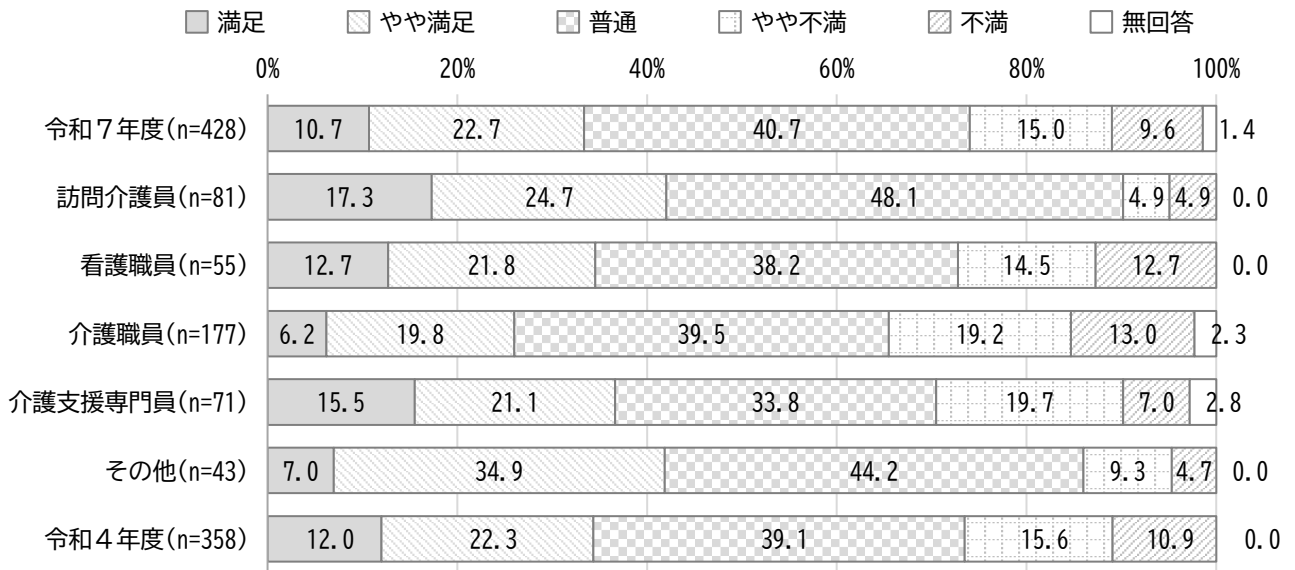
⑥ 人事評価・処遇のあり方

令和7年度では、「普通」が47.0%で最も高く、次いで、「やや不満」が18.9%、「不満」が16.6%であった。



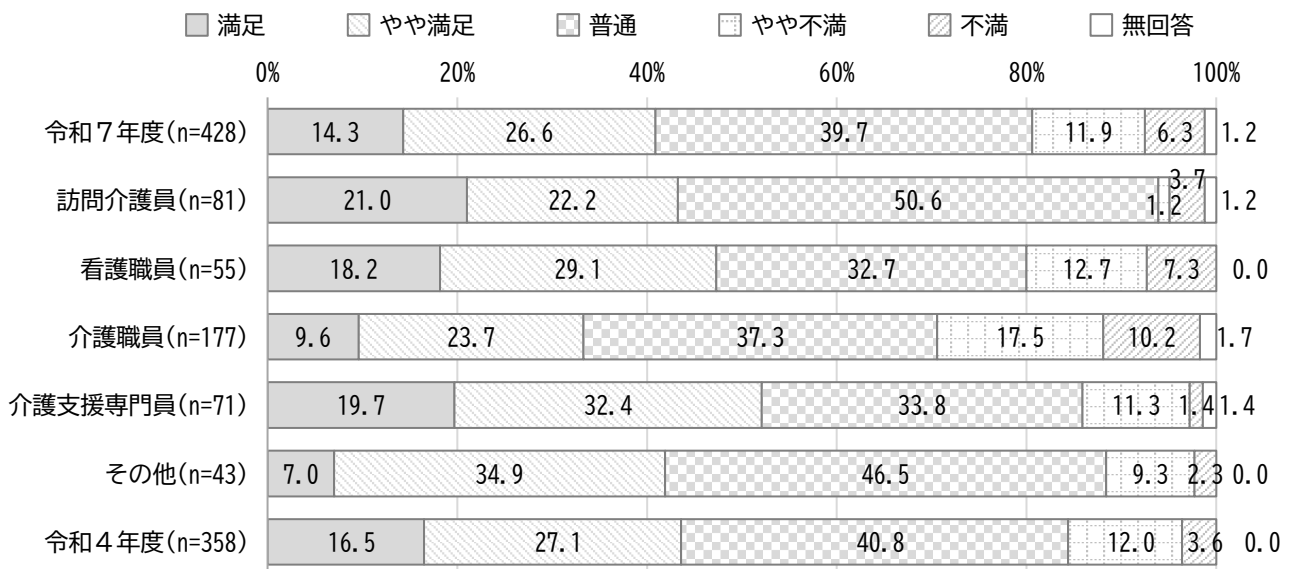
⑦ 職場の環境

令和7年度では、「普通」が40.7%で最も高く、次いで、「やや満足」が22.7%、「やや不満」が15.0%であった。



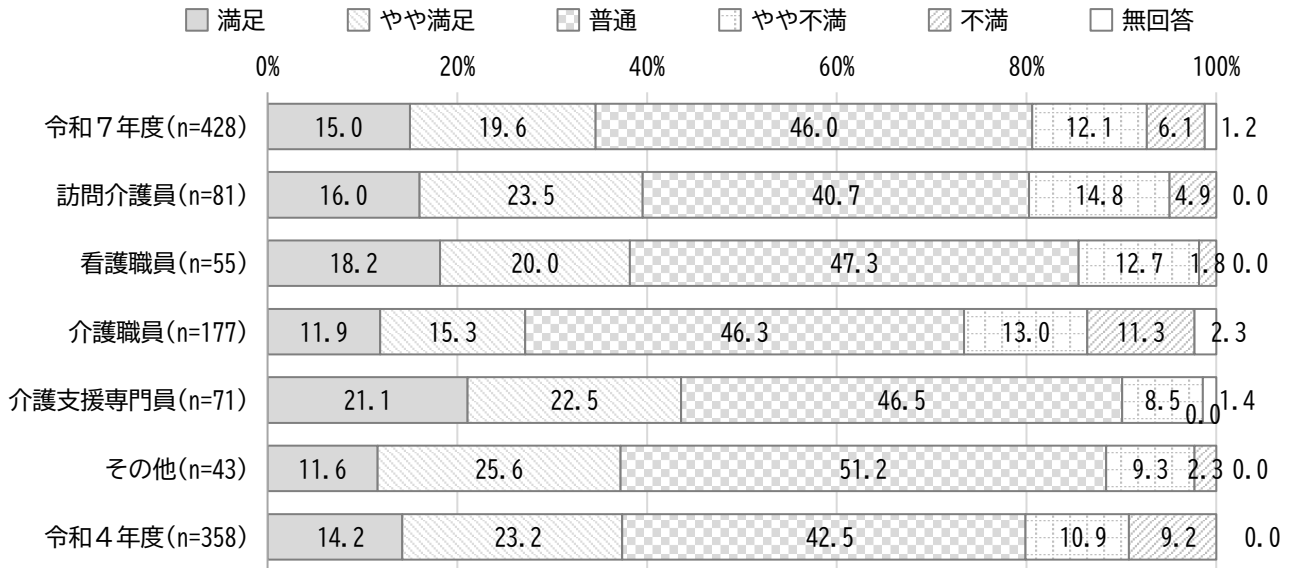
⑧ 職場の人間関係、コミュニケーション

令和7年度では、「普通」が39.7%で最も高く、次いで、「やや満足」が26.6%、「満足」が14.3%であった。



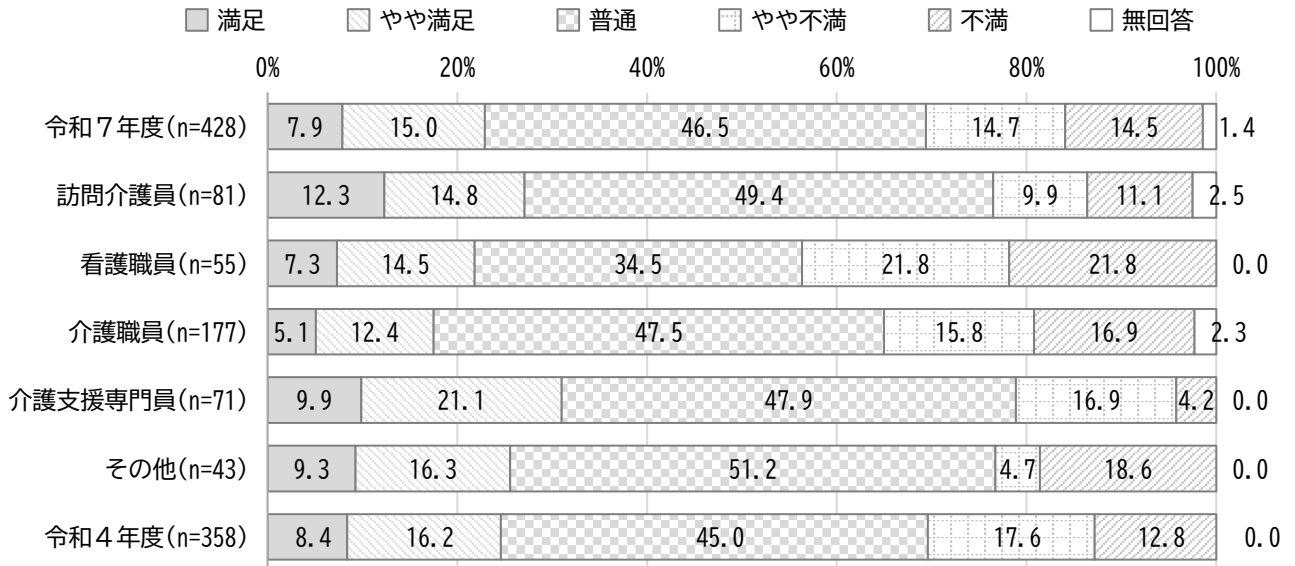
⑨ 雇用の安定性

令和7年度では、「普通」が46.0%で最も高く、次いで、「やや満足」が19.6%、「満足」が15.0%であった。



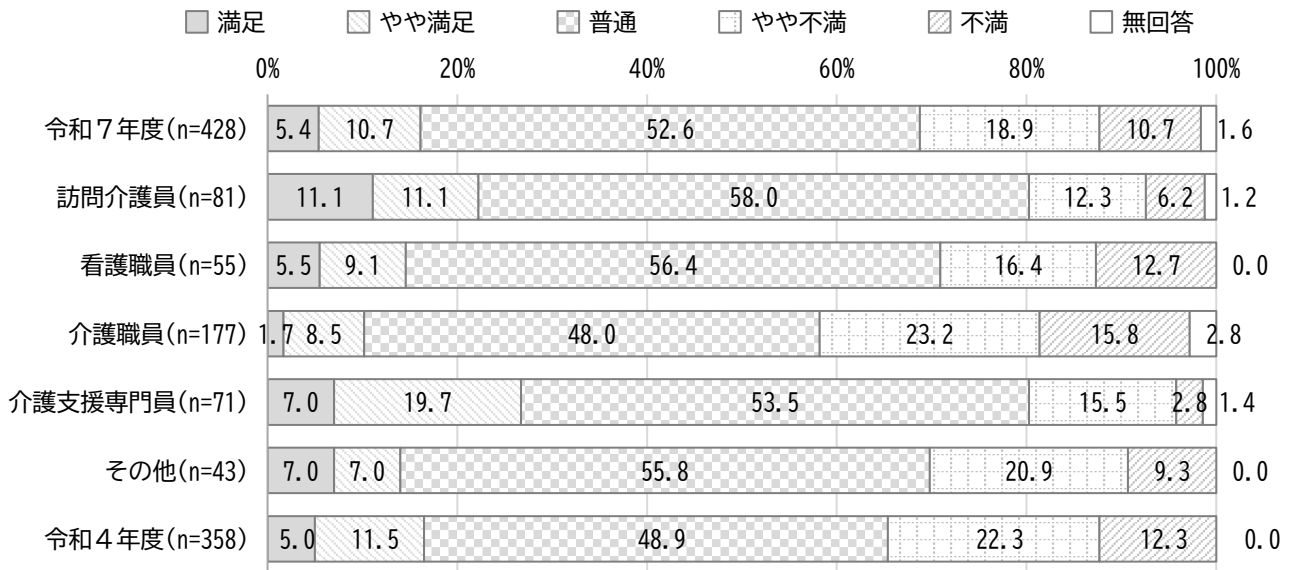
⑩ 福利厚生

令和7年度では、「普通」が46.5%で最も高く、次いで、「やや満足」が15.0%、「やや不満」が14.7%であった。



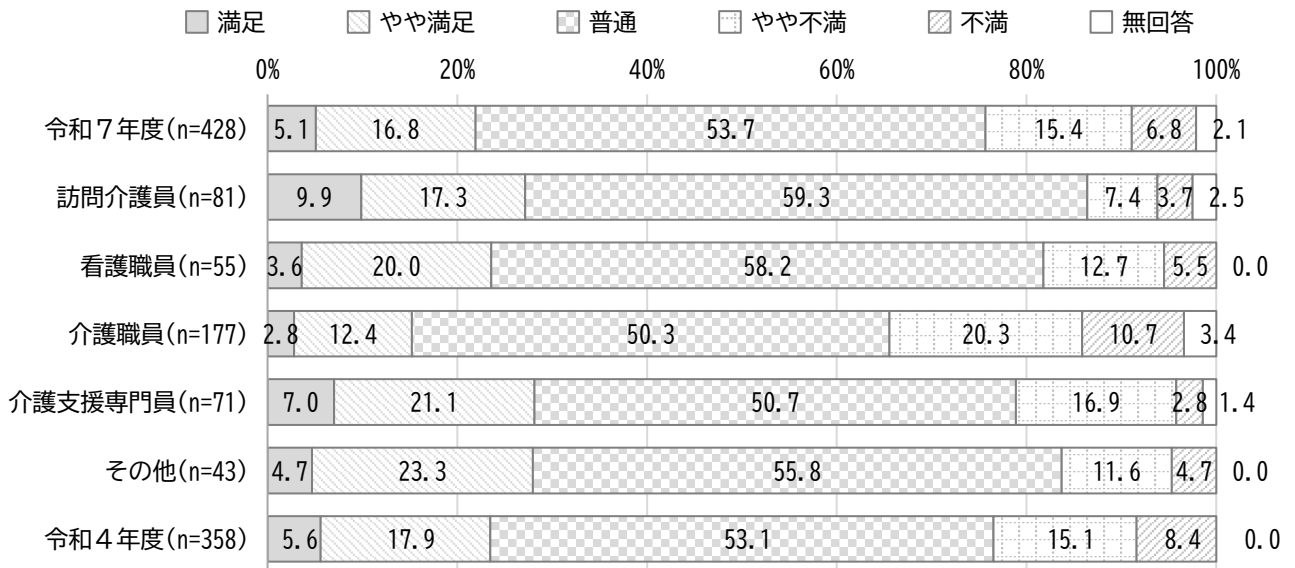
① 教育訓練・能力開発のあり方

令和7年度では、「普通」が52.6%で最も高く、次いで、「やや不満」が18.9%、「やや満足」「不満」が10.7%であった。



② 職業生活全体

令和7年度では、「普通」が53.7%で最も高く、次いで、「やや満足」が16.8%、「やや不満」が15.4%であった。

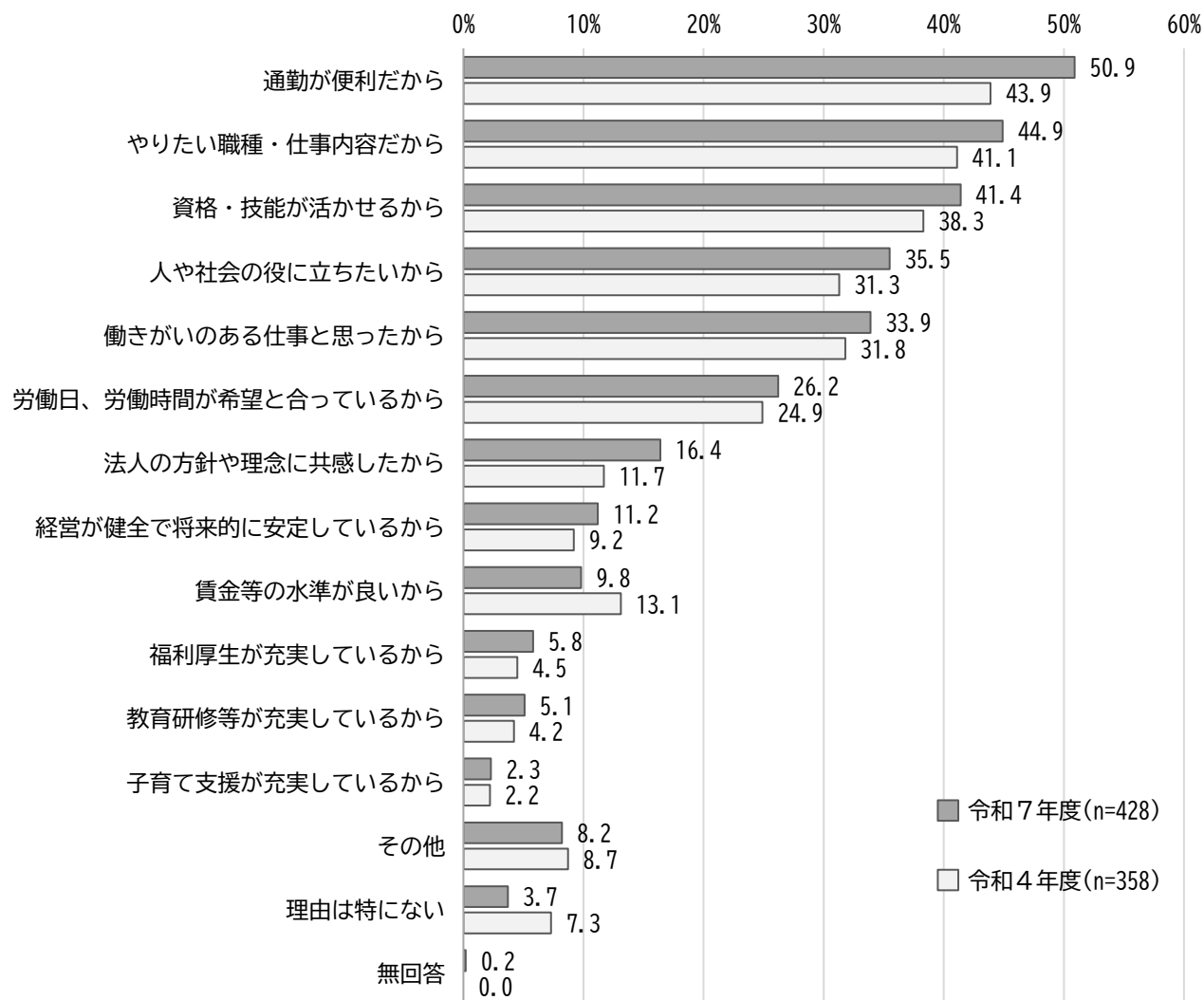


4. 就職の理由等

(1) 法人に就職した理由

問 18 現在の法人に就職した理由は何ですか。(複数回答)

令和7年度では、「通勤が便利だから」が50.9%で最も高く、次いで、「やりたい職種・仕事内容だから」が44.9%、「資格・技能が活かせるから」が41.4%であった。



■現在の法人に就職した理由

職種別でみると、訪問介護員では、「通勤が便利だから」が 51.9%で最も高く、次いで、「やりたい職種・仕事内容だから」が 48.1%であった。看護職員では、「通勤が便利だから」が 65.5%で最も高く、次いで、「やりたい職種・仕事内容だから」が 40.0%であった。介護職員では、「通勤が便利だから」が 50.3%で最も高く、次いで、「やりたい職種・仕事内容だから」が 40.7%であった。介護支援専門員では、「資格・技能が活かせるから」が 69.0%で最も高く、次いで、「やりたい職種・仕事内容だから」が 62.0%であった。その他では、「通勤が便利だから」が 46.5%で最も高く、次いで、「資格・技能が活かせるから」が 37.2%であった。

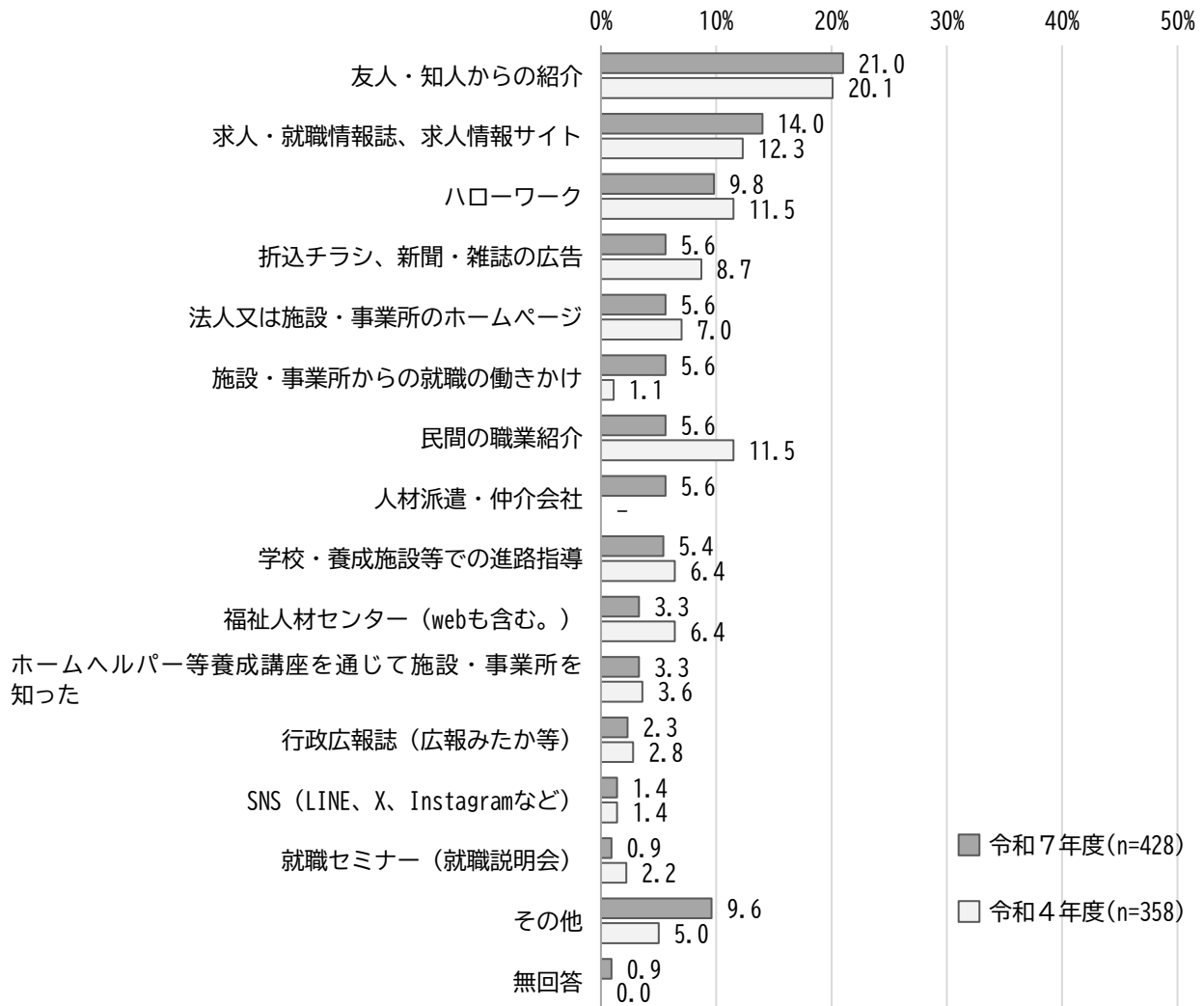
	人数	やりたい職種・仕事内容だから	働きがいのある仕事と想ったから	人や社会の役に立ちたいから	資格・技能が活かせるから	法人の方針や理念に共感したから	経営が健全で将来的に安定しているから	通勤が便利だから
全体	428	44.9%	33.9%	35.5%	41.4%	16.4%	11.2%	50.9%
訪問介護員	81	48.1%	40.7%	46.9%	46.9%	23.5%	14.8%	51.9%
看護職員	55	40.0%	32.7%	30.9%	32.7%	18.2%	10.9%	65.5%
介護職員	177	40.7%	27.7%	32.8%	31.6%	10.7%	10.7%	50.3%
介護支援専門員	71	62.0%	42.3%	33.8%	69.0%	18.3%	12.7%	43.7%
その他	43	32.6%	34.9%	34.9%	37.2%	18.6%	4.7%	46.5%
訪問系サービス	114	47.4%	38.6%	41.2%	45.6%	22.8%	11.4%	52.6%
施設系（入所型）	157	37.6%	25.5%	31.2%	34.4%	9.6%	9.6%	49.7%
施設系（通所型）	36	55.6%	47.2%	41.7%	30.6%	25.0%	11.1%	44.4%
居住系	53	35.8%	32.1%	37.7%	28.3%	13.2%	13.2%	56.6%
居宅介護支援	65	60.0%	41.5%	32.3%	67.7%	18.5%	13.8%	49.2%

	労働日、労働時間が希望と合っているから	賃金等の水準が良いから	教育研修等が充実しているから	福利厚生が充実しているから	子育て支援が充実しているから	その他	理由は特 にない	無回答
全体	26.2%	9.8%	5.1%	5.8%	2.3%	8.2%	3.7%	0.2%
訪問介護員	33.3%	11.1%	8.6%	7.4%	3.7%	7.4%	1.2%	0.0%
看護職員	34.5%	7.3%	1.8%	1.8%	3.6%	3.6%	7.3%	0.0%
介護職員	23.7%	11.9%	4.5%	5.1%	2.8%	12.4%	4.0%	0.6%
介護支援専門員	29.6%	7.0%	5.6%	7.0%	0.0%	5.6%	1.4%	0.0%
その他	7.0%	7.0%	4.7%	9.3%	0.0%	2.3%	7.0%	0.0%
訪問系サービス	27.2%	9.6%	7.0%	6.1%	2.6%	6.1%	0.9%	0.0%
施設系（入所型）	23.6%	12.7%	1.3%	2.5%	0.6%	8.3%	6.4%	0.6%
施設系（通所型）	38.9%	0.0%	2.8%	2.8%	8.3%	11.1%	2.8%	0.0%
居住系	17.0%	11.3%	11.3%	13.2%	5.7%	15.1%	3.8%	0.0%
居宅介護支援	32.3%	6.2%	7.7%	9.2%	0.0%	4.6%	3.1%	0.0%

(2) 法人に就職したきっかけ

問 19 現在の法人に就職等したきっかけは何ですか。(複数回答)

令和7年度では、「友人・知人からの紹介」が21.0%で最も高く、次いで、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が14.0%、「ハローワーク」が9.8%であった。



■法人に就職したきっかけ

職種別でみると、訪問介護員では、「友人・知人からの紹介」が 32.1%で最も高く、次いで、「その他」が 9.9%であった。看護職員では、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 20.0%で最も高く、次いで、「友人・知人からの紹介」が 18.2%であった。介護職員では、「友人・知人からの紹介」が 16.9%で最も高く、次いで、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 13.6%であった。介護支援専門員では、「その他」が 19.7%で最も高く、次いで、「友人・知人からの紹介」が 18.3%であった。その他では、「友人・知人からの紹介」が 25.6%で最も高く、次いで、「求人・就職情報誌、求人情報サイト」が 14.0%であった。

	人数	ハローワーク	福祉人材センター (web も含む)	学校・養成施設等での進路指導	求人・就職情報誌、求人情報サイト	折込チラシ、新聞・雑誌の広告	法人又は施設・事業所のホームページ	SNS (LINE、X、Instagram など)	就職セミナー (就職説明会)
全体	428	9.8%	3.3%	5.4%	14.0%	5.6%	5.6%	1.4%	0.9%
訪問介護員	81	7.4%	0.0%	1.2%	8.6%	2.5%	6.2%	1.2%	1.2%
看護職員	55	14.5%	3.6%	0.0%	20.0%	5.5%	1.8%	1.8%	1.8%
介護職員	177	7.3%	4.0%	10.7%	13.6%	5.6%	7.9%	2.3%	0.0%
介護支援専門員	71	16.9%	4.2%	1.4%	16.9%	5.6%	2.8%	0.0%	0.0%
その他	43	7.0%	4.7%	4.7%	14.0%	11.6%	4.7%	0.0%	4.7%
訪問系サービス	114	7.0%	1.8%	1.8%	11.4%	5.3%	6.1%	0.9%	0.9%
施設系(入所型)	157	8.3%	5.1%	10.8%	14.0%	8.3%	5.1%	1.9%	0.0%
施設系(通所型)	36	11.1%	0.0%	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	0.0%	2.8%
居住系	53	9.4%	1.9%	3.8%	18.9%	1.9%	5.7%	3.8%	3.8%
居宅介護支援	65	18.5%	4.6%	0.0%	18.5%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%

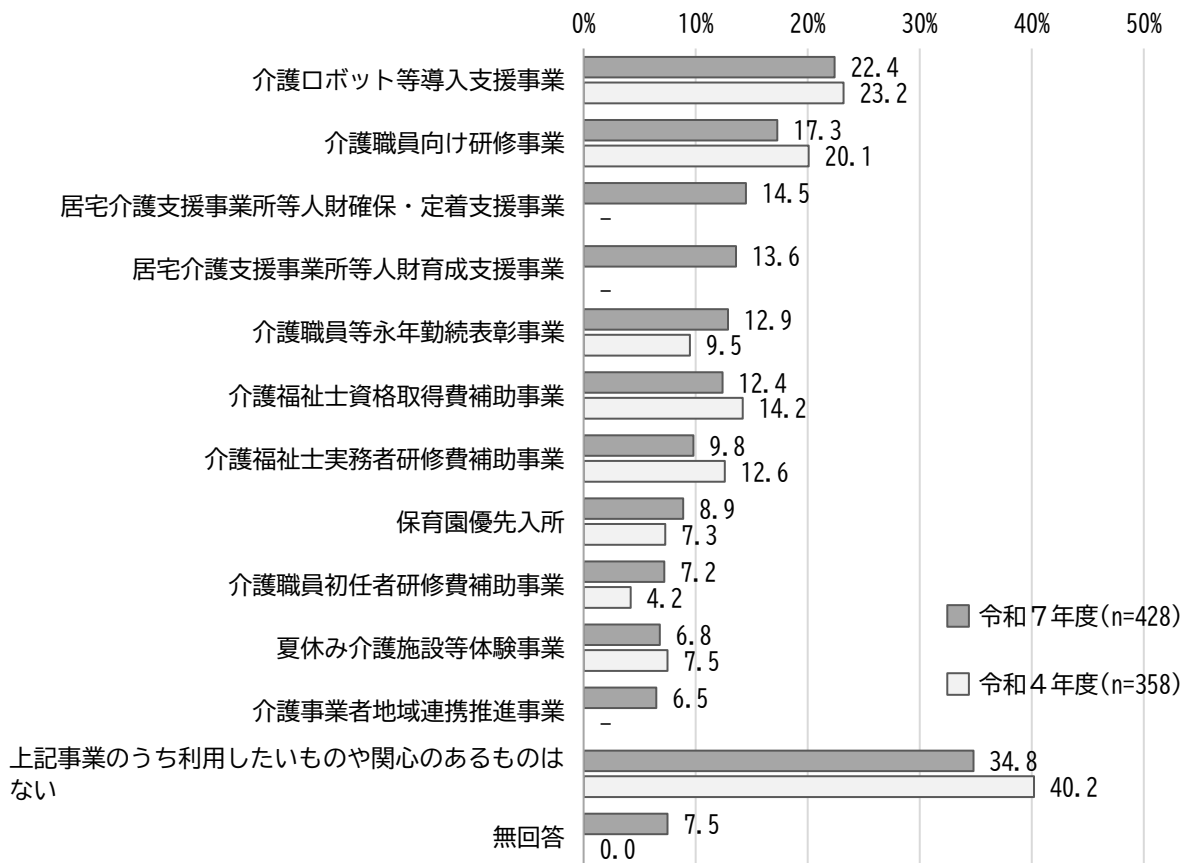
	友人・知人からの紹介	ホームヘルパー等養成講座を通じて施設・事業所を知った	施設・事業所からの就職の働きかけ	民間の職業紹介	行政広報誌 (広報みたか等)	人材派遣・仲介会社	その他	無回答
全体	21.0%	3.3%	5.6%	5.6%	2.3%	5.6%	9.6%	0.9%
訪問介護員	32.1%	7.4%	7.4%	3.7%	7.4%	1.2%	9.9%	2.5%
看護職員	18.2%	0.0%	7.3%	9.1%	1.8%	7.3%	7.3%	0.0%
介護職員	16.9%	4.0%	4.0%	6.2%	0.6%	9.0%	7.3%	0.6%
介護支援専門員	18.3%	0.0%	7.0%	5.6%	0.0%	1.4%	19.7%	0.0%
その他	25.6%	2.3%	4.7%	2.3%	4.7%	2.3%	4.7%	2.3%
訪問系サービス	31.6%	5.3%	5.3%	2.6%	6.1%	2.6%	8.8%	2.6%
施設系(入所型)	15.9%	0.6%	4.5%	8.3%	1.3%	10.2%	5.1%	0.6%
施設系(通所型)	25.0%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	5.6%	5.6%	0.0%
居住系	15.1%	9.4%	5.7%	5.7%	0.0%	1.9%	13.2%	0.0%
居宅介護支援	18.5%	0.0%	6.2%	4.6%	1.5%	1.5%	20.0%	0.0%

5. 三鷹市への要望

(1) 市の事業の利用意向

問 20 三鷹市が実施している次の事業で、利用してみたい事業や関心のある事業はありますか。対象者が限定されている事業もありますが、対象者等の制限は考えずに、利用してみたい事業や関心のある事業を選んでください。(複数回答)

令和7年度では、「上記事業のうち、利用したいものや関心のあるものはない」が34.8%で最も高く、次いで、「介護ロボット等導入支援事業」が22.4%、「介護職員向け研修事業」が17.3%であった。



■利用してみたい事業や関心のある三鷹市の事業

職種別でみると、訪問介護員では、「利用したいものや関心のあるものはない」が 27.2%で最も高く、次いで、「介護福祉士資格取得費補助事業」「介護ロボット等導入支援事業」が 21.0%であった。看護職員では、「利用したいものや関心のあるものはない」が 49.1%で最も高く、次いで、「介護ロボット等導入支援事業」が 30.9%であった。介護職員では、「上記事業のうち、利用したいものや関心のあるものはない」が 34.5%で最も高く、次いで、「介護職員向け研修事業」が 24.9%であった。介護支援専門員では、「居宅介護支援事業所等人財育成支援事業」が 46.5%で最も高く、次いで、「居宅介護支援事業所等人財確保・定着支援事業」が 43.7%であった。その他では、「利用したいものや関心のあるものはない」が 30.2%で最も高く、次いで、「介護ロボット等導入支援事業」が 27.9%であった。

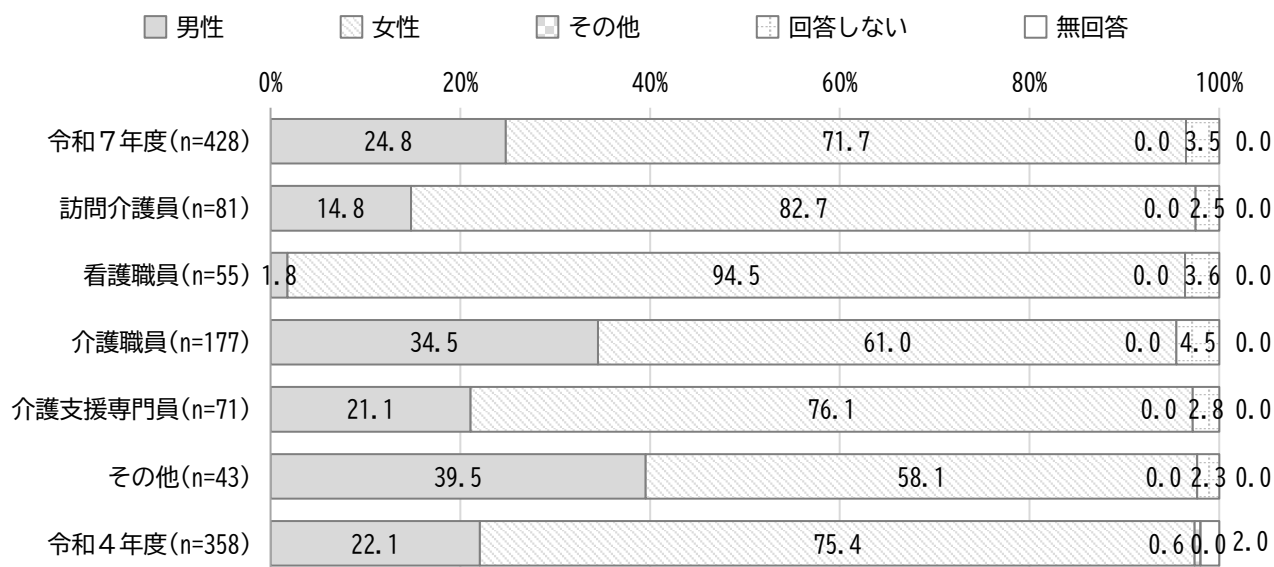
	人数	介護職員初任者研修費補助事業	介護福祉士資格取得費補助事業	介護福祉士資格取得費補助事業	居宅介護支援事業所等人財確保・定着支援事業	居宅介護支援事業所等人財育成支援事業	介護事業者地域連携推進事業	介護職員等永年勤続表彰事業	夏休み介護施設等体験事業	保育園優先入所	介護職員向け研修事業	介護ロボット等導入支援事業	利用したいものや関心のあるものはない	無回答
全体	428	7.2%	9.8%	12.4%	14.5%	13.6%	6.5%	12.9%	6.8%	8.9%	17.3%	22.4%	34.8%	7.5%
訪問介護員	81	14.8%	17.3%	21.0%	14.8%	9.9%	8.6%	12.3%	14.8%	9.9%	14.8%	21.0%	27.2%	7.4%
看護職員	55	1.8%	0.0%	1.8%	5.5%	1.8%	3.6%	7.3%	3.6%	9.1%	9.1%	30.9%	49.1%	12.7%
介護職員	177	7.9%	13.6%	15.8%	6.8%	6.2%	8.5%	17.5%	6.8%	9.6%	24.9%	23.7%	34.5%	5.6%
介護支援専門員	71	0.0%	1.4%	1.4%	43.7%	46.5%	2.8%	5.6%	1.4%	4.2%	8.5%	11.3%	36.6%	4.2%
その他	43	9.3%	7.0%	14.0%	9.3%	11.6%	2.3%	14.0%	4.7%	9.3%	14.0%	27.9%	30.2%	14.0%

6. 回答者の属性、生活状況

(1) 回答者の属性

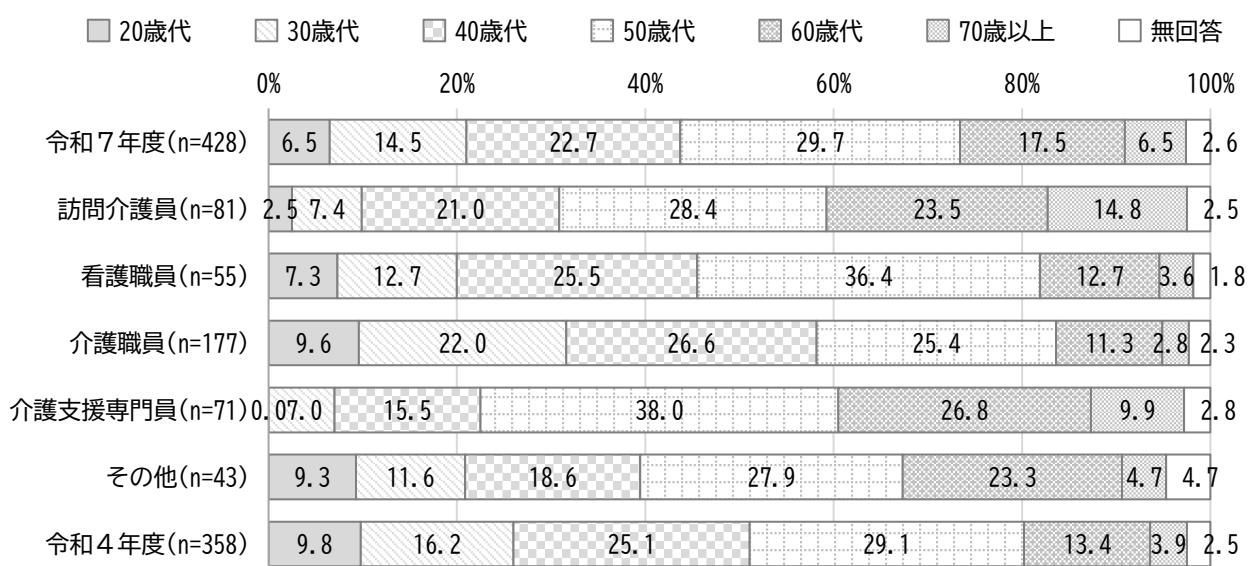
問 21 あなたの性別をお答えください。(単数回答)

令和7年度では、「女性」が71.7%で最も高く、次いで、「男性」が24.8%、「回答しない」が3.5%であった。



問 21 あなたの年齢をお答えください。(令和7年10月1日現在)(単数回答)

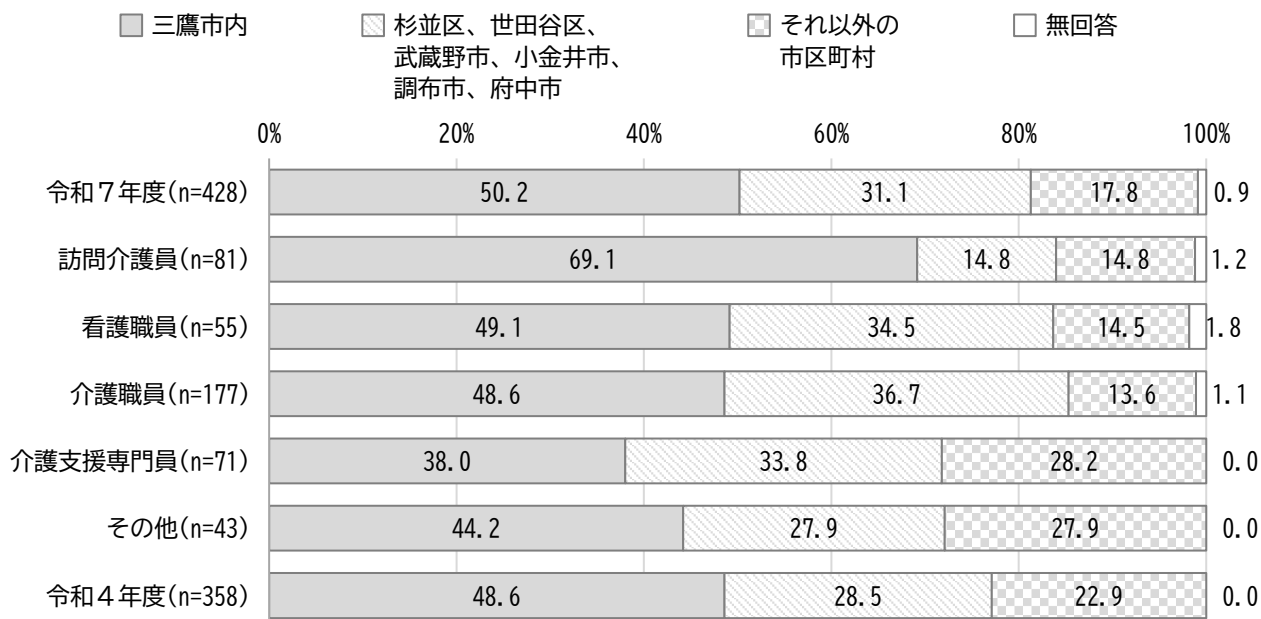
令和7年度では、「50歳代」が29.7%で最も高く、次いで、「40歳代」が22.7%、「60歳代」が17.5%であった。



※令和4年度の20歳代9.8%の中には10歳代1.4%を含む。

問 22 あなたのご自宅は、どちらですか。(単数回答)

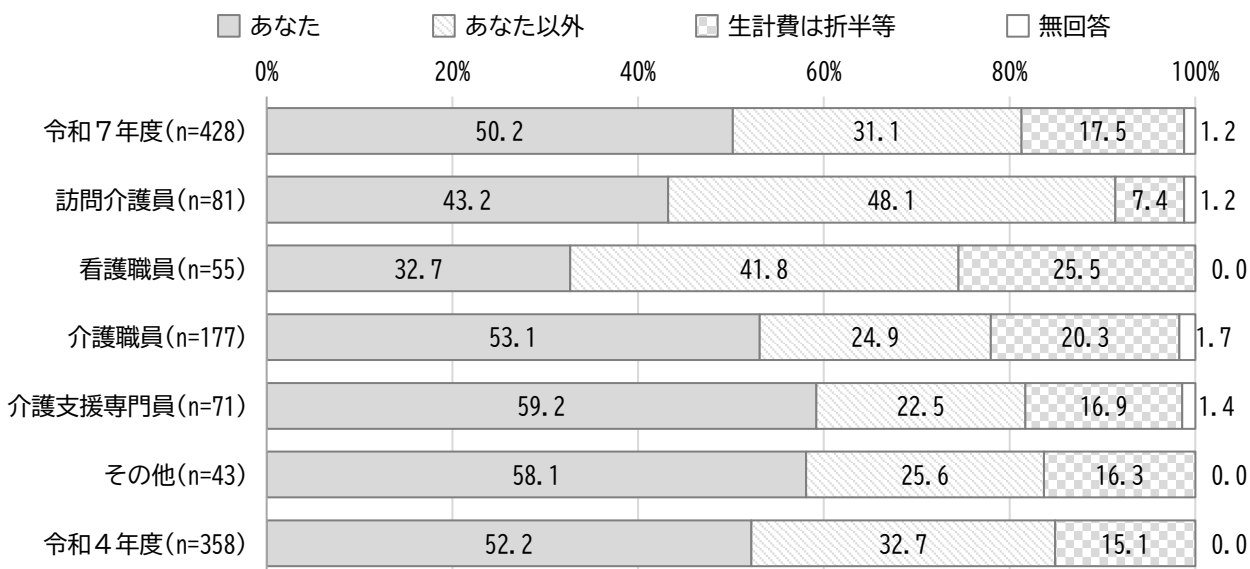
令和7年度では、「三鷹市内」が50.2%で最も高く、次いで、「杉並区、世田谷区、武蔵野市、小金井市、調布市、府中市」が31.1%、「それ以外の市区町村」が17.8%であった。



(2) 回答者の生活状況

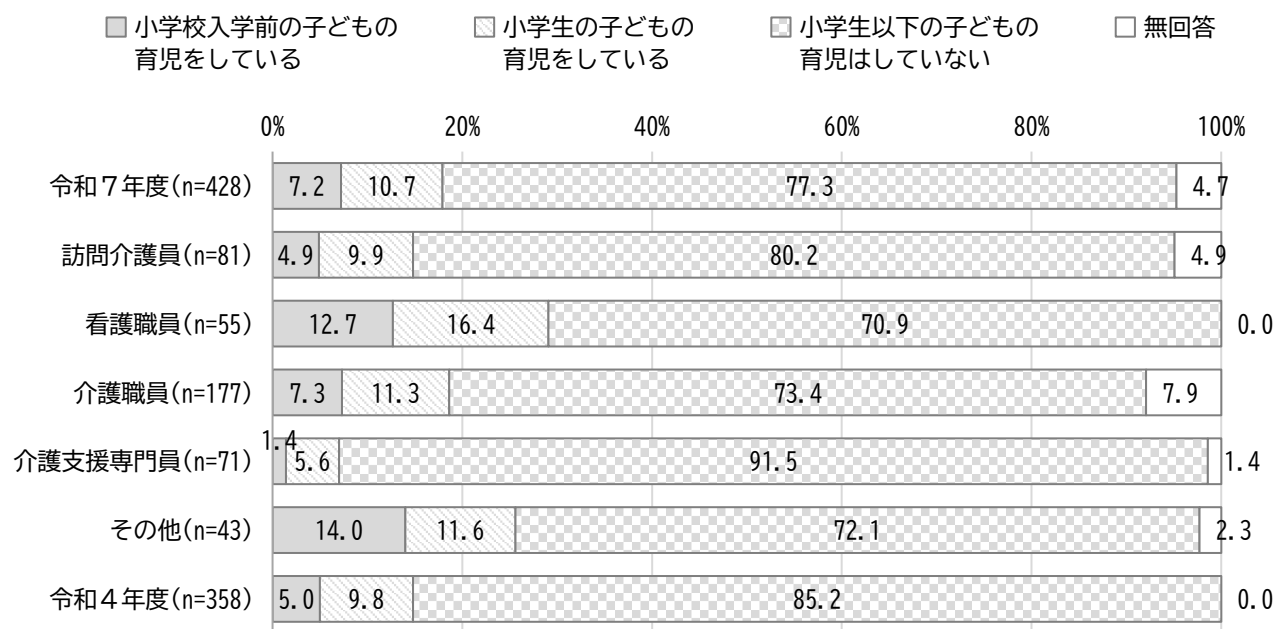
問 23 あなたの家庭で、主たる生計の維持者(世帯で最も生活費を負担している方)は誰ですか。(単数回答)

令和7年度では、「あなた」が50.2%で最も高く、次いで、「あなた以外」が31.1%、「生計費は折半等」が17.5%であった。



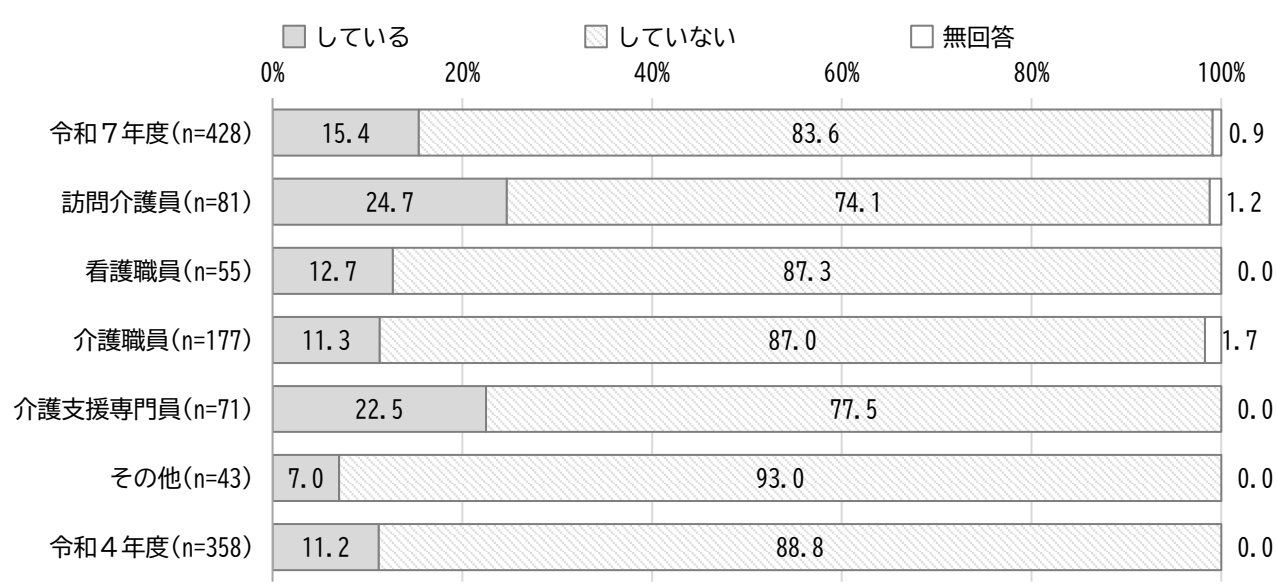
問 24 あなたは現在、小学生以下の子どもの育児をしていますか。(単数回答)

令和7年度では、「小学生以下の子どもの育児はしていない」が77.3%で最も高く、次いで、「小学生の子どもを育児をしている」が10.7%、「小学校入学前の子どもを育児をしている」が7.2%であった。



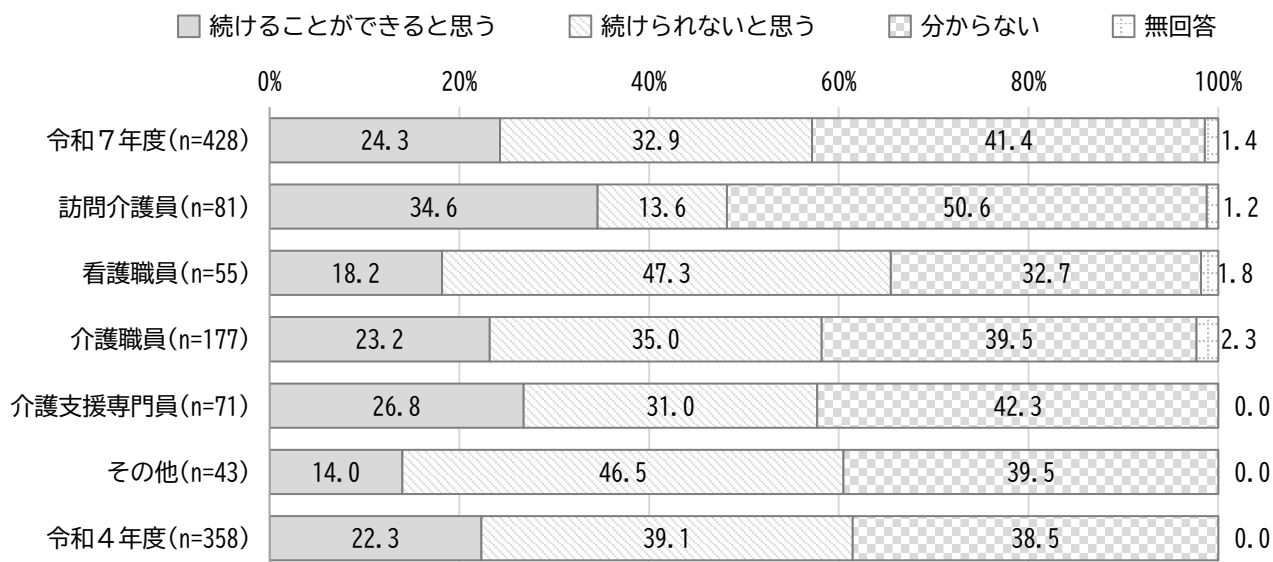
問 25 あなたは現在、あなたご自身のご家族・ご親族の介護をしていますか。(単数回答)

令和7年度では、「していない」が83.6%、「している」が15.4%であった。



問 26 将来、あなたご自身のご家族・ご親族の介護に直面した場合に、現在の仕事を続けることができると思いますか。現在、ご家族・ご親族の介護をしている方は、今後も仕事とご家族の介護を両立できると思いますか。(単数回答)

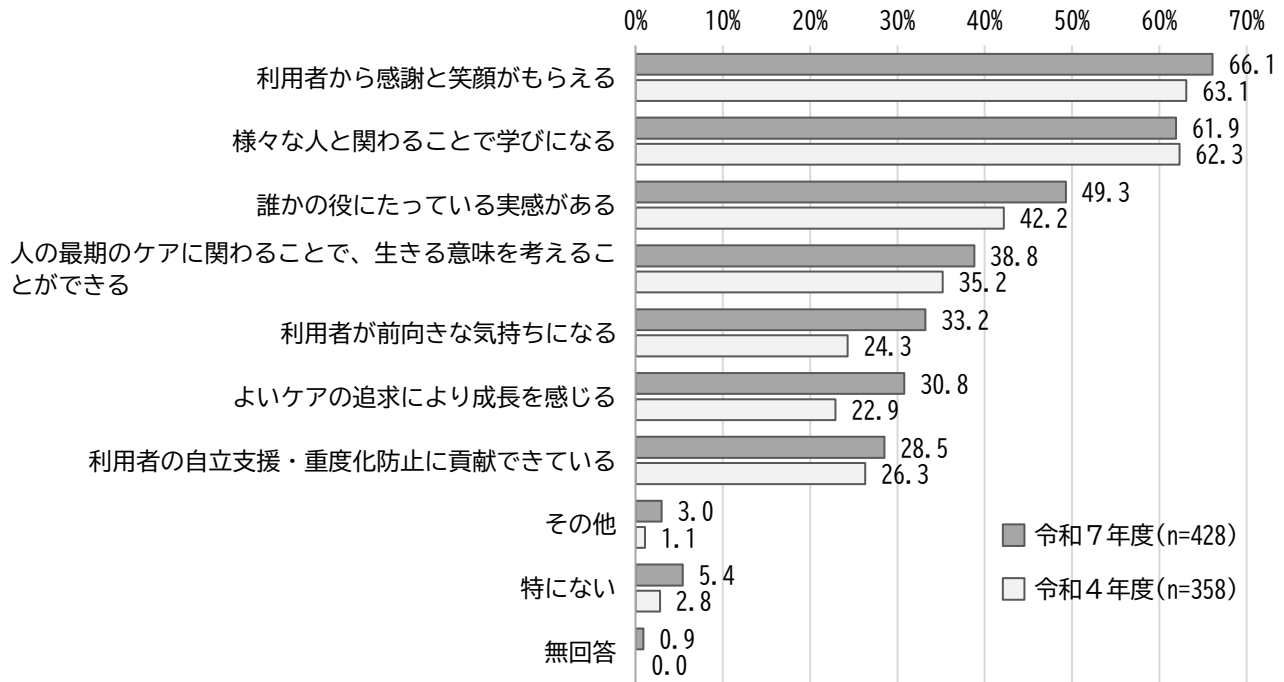
令和7年度では、「分からない」が41.4%で最も高く、次いで、「続けられないと思う」が32.9%、「続けることができると思う」が24.3%であった。



(3) 今の仕事をしてよかったこと

問 27 あなたはこの仕事をしてよかったと思うことはありますか。ある方については、具体的にはどんなところですか。(複数回答)

令和7年度では、「利用者から感謝と笑顔がもらえる」が66.1%で最も高く、次いで、「様々な人と関わることで学びになる」が61.9%、「誰かの役にたっている実感がある」が49.3%であった。



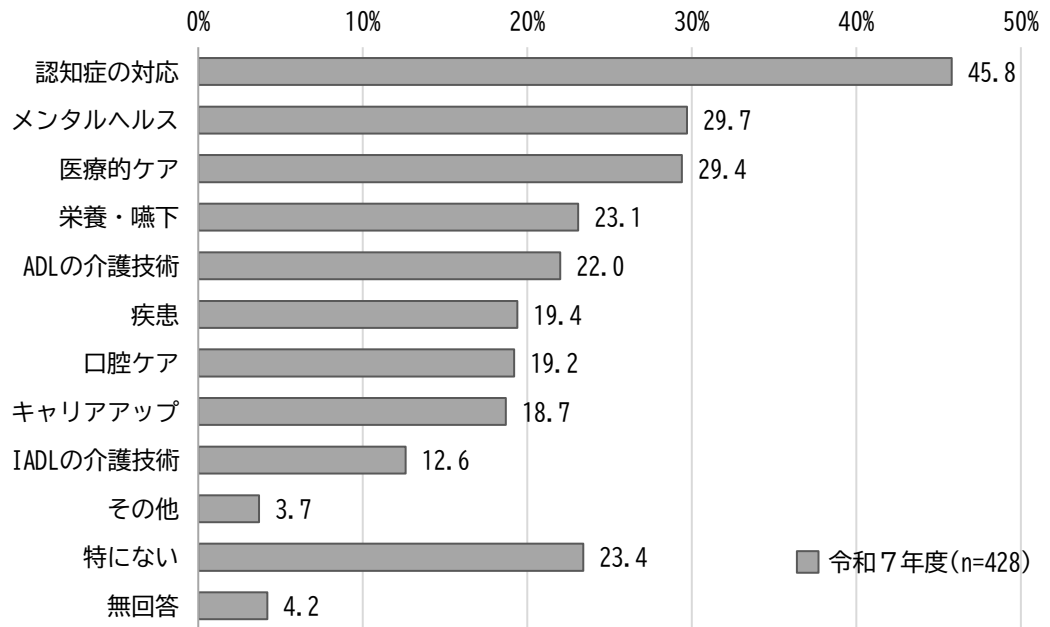
職種別でみると、訪問介護員では、「様々な人と関わることで学びになる」が75.3%で最も高く、次いで、「利用者から感謝と笑顔がもらえる」が65.4%であった。看護職員では、「利用者から感謝と笑顔がもらえる」「様々な人と関わることで学びになる」が63.6%で最も高くなっている。介護職員では、「利用者から感謝と笑顔がもらえる」が67.8%で最も高く、次いで、「様々な人と関わることで学びになる」が52.5%であった。介護支援専門員では、「様々な人と関わることで学びになる」が67.6%で最も高く、次いで、「利用者から感謝と笑顔がもらえる」が62.0%であった。その他では、「利用者から感謝と笑顔がもらえる」が72.1%で最も高く、次いで、「様々な人と関わることで学びになる」が62.8%であった。

	人数	利用者から感謝と笑顔がもらえる	利用者が前向きな気持ちになる	利用者の自立支援・重度化防止に貢献できている	様々な人と関わることで学びになる	人の最期のケアに関わることで、生きる意味を考えることができる	誰かの役にたっている実感がある	よいケアの追求により成長を感じる	その他	特にない	無回答
全体	428	66.1%	33.2%	28.5%	61.9%	38.8%	49.3%	30.8%	3.0%	5.4%	0.9%
訪問介護員	81	65.4%	34.6%	34.6%	75.3%	28.4%	54.3%	35.8%	1.2%	0.0%	1.2%
看護職員	55	63.6%	29.1%	23.6%	63.6%	47.3%	49.1%	30.9%	0.0%	16.4%	0.0%
介護職員	177	67.8%	27.1%	23.2%	52.5%	33.9%	46.9%	29.4%	2.8%	6.8%	1.7%
介護支援専門員	71	62.0%	49.3%	43.7%	67.6%	49.3%	47.9%	33.8%	8.5%	0.0%	0.0%
その他	43	72.1%	34.9%	20.9%	62.8%	48.8%	53.5%	20.9%	2.3%	4.7%	0.0%

(4) 福祉Laboどんぐり山での研修希望

問 28 三鷹市福祉 Labo どんぐり山では専門的な研修を実施しています。研修の受講として希望される講座はありますか。(複数回答)

令和7年度では、「認知症の対応」が45.8%で最も高く、次いで、「メンタルヘルス」が29.7%、「医療的ケア」が29.4%であった。



職種別でみると、訪問介護員では、「認知症の対応」が53.1%で最も高く、次いで、「ADLの介護技術」が32.1%であった。看護職員では、「認知症の対応」が36.4%で最も高く、次いで、「栄養・嚥下」が34.5%であった。介護職員では、「認知症の対応」が45.8%で最も高く、次いで、「医療的ケア」が32.8%であった。介護支援専門員では、「認知症の対応」が46.5%で最も高く、次いで、「メンタルヘルス」が35.2%であった。その他では、「認知症の対応」が41.9%で最も高く、次いで、「特になし」が27.9%であった。

	人数	ADLの介護技術	IADLの介護技術	医療的ケア	栄養・嚥下	疾患	口腔ケア	認知症の対応	キャリアアップ	メンタルヘルス	その他	特になし	無回答
全体	428	22.0%	12.6%	29.4%	23.1%	19.4%	19.2%	45.8%	18.7%	29.7%	3.7%	23.4%	4.2%
訪問介護員	81	32.1%	18.5%	22.2%	18.5%	9.9%	11.1%	53.1%	18.5%	25.9%	0.0%	18.5%	6.2%
看護職員	55	14.5%	5.5%	32.7%	34.5%	18.2%	25.5%	36.4%	21.8%	32.7%	0.0%	32.7%	3.6%
介護職員	177	24.9%	13.6%	32.8%	24.9%	18.1%	26.6%	45.8%	17.5%	29.9%	3.4%	22.6%	4.0%
介護支援専門員	71	5.6%	4.2%	29.6%	19.7%	33.8%	7.0%	46.5%	19.7%	35.2%	11.3%	21.1%	2.8%
その他	43	25.6%	18.6%	23.3%	14.0%	18.6%	14.0%	41.9%	16.3%	20.9%	4.7%	27.9%	4.7%

(5) 市への要望 (自由記述)

問 29 介護人材の確保・定着・育成のために、三鷹市に取り組んで欲しい事業やご意見等がございましたら、是非ご記入ください。

※個人を特定できるものを除き、原文のまま掲載

1. 賃金・処遇改善・補助金 (27件)

- まず賃金 UP は避けられません。きれいごとでは無理な状態だと思います。ただ、それで OK でもありません。適当な仕事をする人が増えすぎてしまいました。だから、人件費を正しい仕事をしている人に与える人事考課システムも同時に必要です。そうでなければかなり冷え込んでしまった介護業界が、質の高い人材であふれる世界は訪れません。我々ではどうにもできなかった介護業界への資金注入を仮に国がやってくれたとしても、その次のステップであるその資金の使い方を相当丁寧にやる必要があります。(介護職員)
- 保険報酬を上げる意見書を国へ提出・利用者さんとヘルパーさんの広報での紹介(多くの事業所さんや利用者さんが出るように毎月連載など)・ケア専門職交流会、オンラインで参加したり、アーカイブでも見れるようにする・事業団や社協のみ広報で求人の後押しするなど優遇せず、どの事業所も公平に後押し・勤続表彰の副賞を豪華にする(市内の食事券や買物券、みたか地域ポイントなど)・総合事業をもっとラフな仕様にゆるめる・保育や障がい支援の人材と縦割りなくして交流、いっしょに確保育成(その他)
- 東京都は勤続5年までの人に2万円、更に働いた人は1万円に下がってしまいます。長く働いたのに手当は下がってしまいます。5年働いたらボーナス、10年働いたらボーナスのように目標がほしい。三鷹市も永年勤続の表彰がありました。金額が低すぎる。もっと同じ施設又は介護業界で長く働いたら支援が得られるようにしてもらいたい。また子供がいる世帯への支援がなさすぎる。三鷹市で子育てして失敗したなと思うこともある。もっと高齢者だけでなく未来ある子供にも支援をお願いします。(介護職員)
- 訪問介護の非正規雇用においては、利用者様の入院、入所など収入安定がありません。特に働き盛りの年代の方は子供の学費などにお金がかかるので、訪問介護のように不安定収入では働けないのが実情だと思います。また、時給が東京都の最低賃金が毎年のように上がっているのに介護業界では26年前に始まった介護保険での賃金はわずかしか上がっていません。これでは働く意欲がなくなります。やはり少しでも毎年賃金があがるという喜びを得られるような方法があれば良いと思います。(訪問介護員)
- 人材を確保し定着させたいのであればやはり報酬だと思う。やりがいだけでは人は定着しない。非正規の待遇も考えるべきだ。賞与もなく時給も上がらず処遇改善加算手当も会社に任せるからそれまでの時給に含めてしまい実質時給が下がった。パートがいなければ回らないのに。介護時の負担を軽減する機械が全く普及していない。会社はお金がかかるから導入しない。もっと会社に働きかけるべきだ。腰を痛めて離職する介護士を助けてください。(訪問介護員)
- もっと補助金を出してほしい。人も少ないし、毎日忙しい。介護しながら、季節ごとにいろいろな作業もしないといけないし、忙しすぎる!補助金下さい??それか時給上げて欲しい??(介護職員)
- 訪問介護をしていますが一見時給は良い様に見えるかもしれませんが、しかし、移動時間等を入れると最低賃金を下回る仕事です。仕事量に明らかに見合っていない賃金だと思います。(訪問介護員)
- 人材確保には、つまるところ高い給料が必要なのだと思います。無理な事ですが、三鷹市独自の加算があれば一定数の定着が見込めるのではないのでしょうか?無理ですよね。(看護職員)
- 正職員と同じ仕事をしているのに、パート職員への賃金アップが低く処遇手当がない為若いパート職員が定着しません。三鷹市からの補助があればと思います。(介護職員)
- 賃金を上げて欲しい。とにかくそれに尽きると思っています。きつい仕事ですから、まずそこからでは?離職者多いです。現場は疲弊してますよ。(介護職員)
- 確か保育園や学童は優先的に入れて頂けたと思うので、それはとても助かりました。やはり一番は賃金なのではないか…(介護職員)
- 資格取得などの手当もよいと思うが、現在働いているスタッフに対する報酬が上がるようにしてほしい。(その他)
- 三鷹市独自の介護福祉士の処遇改善費の支給。施設長の介護福祉士資格所在必須。(介護職員)
- 介護職に就きたいと思ってもらえるよう、賃金アップに取り組んでいただきたい。(その他)
- 市からの補助金があり、資格取得に繋がる事など、もっと皆が知るべきだと思う(その他)
- 医療従事者の賃金引き上げ、昼休み等の十分な休息の確保があると助かります(看護職員)
- 賃金のベースアップのための助成金。業界全体のレベルアップのための研修(介護支援専門員)
- 賃金水準をとにかく上げてほしい。介護職員に補助金を出してほしい。(介護職員)
- 介護職員の賃金アップ介護職員のスキルアップ非常勤の福利厚生充実(看護職員)
- 賃金が安いので、賃金アップが可能になるような施策をお願いしたい(介護支援専門員)
- 知的障がいの方のガイドヘルパーの単価をあげて欲しいです。(訪問介護員)
- 介護施設で働いているのに、看護や相談員には補助がでない(看護職員)
- 報酬の引き上げ(賃金補助)、ケアプラン点検実施の見直し(介護支援専門員)
- 介護職の賃金に上乗せできる市独自の処遇改善費制度の設立(訪問介護員)
- ケアマネ取得にも補助を頂けるとありがたいです!!(介護職員)
- 介護職員の賃金アップに向けた独自の取り組み、支援事業(介護職員)(看護職員)
- 賃金アップ、処遇改善(介護職員)(看護職員)(訪問介護員)(介護支援専門員)

2. 市の事業への要望（32件）

- 介護福祉士資格取得費補助事業では、常勤職員（勤務時間数の要件を満たす非常勤職員を含む）が対象となっている。しかし、訪問介護に従事するホームヘルパーは、勤務時間数の要件を満たさない場合が多い。特に、扶養内で働いている場合や、家庭の事情により長時間働くことが難しい方も多く、現行の要件では対象外になってしまう実情がある。このため、勤務時間数の要件を撤廃するか、所定時間を満たしていなくても三鷹市内で3年以上継続して勤務している場合は対象に含めるなど、条件の緩和が望ましいと考える。（訪問介護員）
- 疲弊して辞めたくなくなるのは、必要なサービスが入る認定が出ない時、認定が遅れて暫定プランとなるとき、福祉用具が軽度者例外給付となるとき、実地指導などのための形式で記録をするとき、実地指導でのご指摘に不公平を感じるとき、ケアプラン点検などです。介護支援専門員が不毛な書類作成をしないで済むような仕組みを検討していただきたいです。また、私がただの隣人なら引き受けるような内容の業務外の仕事を依頼され、断る都度嫌な思いをする事にもかなり疲弊します。（介護支援専門員）
- 保険者（三鷹市）が居宅介護支援についてどこまでバックアップしてくれるのか？地域包括支援センターとの関係性（他保険者は役所が土日祭日休みとなるため委託先である包括が相談対応カバーするが、三鷹市の包括は一緒に土日祭日休んでいる。高い委託（税金）金で運営されているはずなのにカバーになっていない。在宅支援で365日24時間居宅介護支援（特定加算取得している事業所に限り）しているCMにとっては心もとない。以前は他区、市の包括、居宅で勤務していたので強く感じます（介護支援専門員）
- 保険の規制にとらわれない三鷹市独自の保険制度・報酬の上乗せ・働く毎月支援金が貰える・保育園優先入園、PTA免除、学童の優先を大きく公言・私立保育、小学校、中学校学費に補助・光熱費・家賃補助・小学校、中学校の空室で保護者や地域に介護資格講習を無料か少額で行う↑絶対人が集まると思っています！（訪問介護員）
- 資格の助成があるのは知っているのですが、対象から漏れる人の方が多いように感じています（僕も漏れていました）。実際に受け取れている人は実はかなり少ないのではないかと感じています。少し処遇が変わるとモチベーションに繋がる人も多くなるのではないかと思います。（介護職員）
- 喫緊の課題として介護DXについて明確な1つのビジョンを提示できるような支援事業が必要です。生産性向上に向けて厚生労働省は進めているので、ロボット導入だけではなく、そもそもDXとは何なのか、何を指すのかと三鷹市のビジョンを示して欲しいと思います。（介護職員）
- 昨年介護職10年勤めました。介護職員等永年勤続表彰事業でボールペン1本頂きました。ありがとうございました。10年勤めてボールペン1本でした。勤務先からは労いの言葉はありましたが何も無かった。仕事ってこんなものなんですね。（訪問介護員）
- 包括支援センター含め、地域の社会資源や活動、情報を知り得る場所が少ないため、一般の方も簡単にWEB上で検索や閲覧できるような、分かりやすい一括した情報サイトが欲しい。（介護支援専門員）
- 市から家賃補助を頂いていましたが、それがあることを知り三鷹市へ引越した今の職場を選ぶきっかけになりました。住宅手当はあったら嬉しいです。（介護職員）
- 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学～社会人、そして高齢者・・・全世代が一同に集まることによって有意義な時間となるような催事企画。（介護職員）
- 三鷹市頑張っていると思う。20年くらい三鷹市で勤務しているけど、昔と違い今の職員さんは寄り添ってくれと感じている。ありがたいです。（介護支援専門員）
- 一人暮らしのお年寄りや、家族の介護で疲弊している人が皆平等に手を差し伸べて貰えるようなそんな社会作りに取り組んで欲しい（訪問介護員）
- 介護支援専門員の魅力発信強化・専門性を伝える・福祉施設でのケアマネ・相談員の定年後の働く場の支援（介護支援専門員）
- 勤続表彰の副賞の選択肢として、貯める（豪華になる）ことや、寄付することが、含まれるといいと思います。（訪問介護員）
- 介護者の体の負担が楽になるような器具やシステムの導入の補助をしていただけると嬉しいです。（訪問介護員）
- 三鷹市独自のヘルパー養成所を作り資格取得後に三鷹市内の介護事業所へ就労案内をして欲しい。（その他）
- 三鷹市の取り組みがひとつでも多く、全国のお手本になるようなことを協力出来たらと思います。（介護支援専門員）
- 三鷹市が取り組みに対して自職場が評価していなければあまり意味が無いように感じてしまう。（介護職員）
- 三鷹市の公的な機関で働く職員の方々にケアマネの業務を知ってもらいたい。（介護支援専門員）
- 永年勤続表彰者に対する評価。表彰状を貰っただけでは、実感が沸かない。（介護支援専門員）
- 社会福祉法人楽山会三鷹市立どんぐり山を復活させて欲しいです。（介護職員）
- 市より特別介護費用を出してほしいと希望します。（介護職員）
- 直接施設に出向いて、現場の声を聞いてください。（介護職員）
- 身寄りのない高齢者の支援、制度の理解と準備（介護支援専門員）
- 視覚障害同士の情報交換の場を設けて欲しい。（訪問介護員）
- 職場の悩みを相談できる所を作って欲しい。（介護支援専門員）

- 看護にも家賃手当て等の支援をしてほしい（看護職員）
- 介護職に限らず介護離職に対する支援（介護職員）
- どんぐり山福祉ラボのお風呂の活用（看護職員）
- 職員の待遇改善への市独自の支援（看護職員）
- 相談会、見学会の実施（その他）
- 市独自の手当の創設。（その他）

3. 研修・人材育成・人材確保（22件）

- 初任者研修を受ける金額や時間がネックで、普通のパートに流れている人は多くいらっしゃると思う。もっと資格を取りやすく（時間、料金）したり、頻繁に講座があれば、やる人も増えると思う。介護者向け、一般向けのイベントや講座が堅苦しく、専門職にしかわからない（とっつきにくい）感じがする。平日昼間に開催すると、行きたい人もなかなか行けないと思う。①触れる機会を増やす（わかりやすく、もう少しライトなイベントに）②資格取りやすく、勉強しやすくする③続けやすい体制があれば、これから親の介護などに役に立つ。（訪問介護員）
- 実際に市内の居宅介護支援事業所が閉鎖になったり、他事業所の介護支援専門員が退職するにあたり、プラン引継ぎ相談の電話が相次いでいる。市では職員定着・確保に向けた研修や補助金制度、就業説明会を設けているが、各事業所が生かし切れていない現状が見受けられる。人材確保、定着に向けては各事業所・法人の責任はあるが、市と協力したシステム（例えば市が各事業所へアンケートなどで、人材募集や不足している人数などを確認して、ホームページに掲載する、等）行い人材の斡旋に繋げていくことも必要かと思われる。（介護支援専門員）
- 海外からくる方がいますが、仕事は出来ますが、寄り添うことは出来ない。何をしたいのか聞いていますが、それに対処出来ない。利用者が何を今望んで話しているのかを理解出来ない。ゆえに、こうしましょう、、と押し付けのケアになってしまうので、そう言った利用者さんの気持ちに対する研修や講習など母国語で取り組んでほしい。（介護職員）
- ケアマネの人数が足りないと思います。現在マックス担当を職員全員が業務として行っています。有給消化等考えられません。「ありがとう」の言葉に支えられて頑張っています。使命感を感じながら。三鷹のケアマネは素晴らしいと思います。どうして応募が無いのでしょうか。仕方ないと思いつつ日々送っております。（介護支援専門員）
- 喀痰吸引をできる人は極わずか。実務者研修で研修はあるのに、実際許可をいただけるようになるには更に研修が必要なのに、ご家族の許可をとる必要など、資格取得にハードルが高い。何とか間口を広く、喀痰吸引できるように研修があるといいと思います。（介護職員）
- 三鷹市が市内に職員や派遣の人達を紹介するシステムを作って貰い、人手不足の施設から連絡があればその施設を紹介するシステムを作って欲しいです。そうすればどの施設でも人手不足が無くなるのではないかと思います。（介護職員）
- 市全体で介護人材を育成すると考えるならば、研修の機会を増やしたり、自分の施設だけではなく、市内施設間の職員交流を盛んにして、経験年数別、年齢別のさまざまな交流などが増えるとよいと思う（その他）
- 認知症の介護と精神疾患の介護の違い。介護に於ける、ファンタジーとリアリティーのバランスについて。管理者の育成と研修。介護業界人の一般社会人としての形成の取り組み。（介護職員）
- 大学など、学生へのアルバイトや短時間業務の体験などを行って、従事者を増やせるようにして欲しい。そこから人員確保に繋がれるような取り組みをして欲しい。（介護職員）
- 人材の定着化として、職場の各管理職の方々には部下への指導、助言、育成には心ある温かい姿勢で臨んで頂けるよう管理職への教育にも注力いただきたいと思う。（介護支援専門員）
- 研修がたくさんあるのは良いことですが、逆にありすぎて困ることがあります。もう少し少なくとも良いのかとも思います。（介護支援専門員）
- 自由に自分の考えや意見をグループセッション出来る研修してほしい。ストレスをためないことが虐待防止に繋がる。（介護職員）
- 最低限の介護への意識と技術をもてるように育成してほしい。海外職員への介護技術と介護の知識の育成。（介護職員）
- 地域性が原因なのか募集をしてもなかなか人材の確保は困難状況があります。いい方法を模索しています（介護支援専門員）
- 事業者とのマッチングの機会ハローワークのものには参加の経験がありますが…イマイチ。（介護職員）
- 認知症の理解と対応の仕方を現場での関わりの方法を具体的に教えて欲しい。（看護職員）
- 更新研修自体には疑問があるが、行われる以上は、助成は助かります。（介護支援専門員）
- いかにして離職者スタッフをふやさないか？人材確保など（介護職員）
- 喀痰吸引の研修が出来るところが増えてほしいです。（介護職員）
- 外国人の人財を受け入れるための事業（介護職員）
- ユマニチュードの介護技術（介護職員）
- 相談援助技術向上の研修（介護支援専門員）

4. 就労環境の周知・改善（13件）

- 国の基準を満たして居ると言う施設長ですが、ではなぜ現場は人手不足で疲弊してるのですか？三鷹市としてちゃんと監査してほしい。（看護職員）
- 勤めている事業所はとにかく人集めに苦労しています。上から下まで皆ケアを必死にこなし事業所を存続させています。また介護事務の煩雑さ難解さをどうにかして欲しいです。ケアの合間に皆でなんとか取り組むようにはしていますが限界です。資金請求一つとっても誰もができるわけではなく、できなかつたら支払われない今の現状はおかしいと思います。（訪問介護員）
- 介護士の負担は大きい問題です。悩みや不安を聞いてくれる場があるといい。また施設に対して、助言や現場の声を届けてほしいです。また、武蔵野市はむつみ会があり、福利厚生が充実していて、お得感がありますが、三鷹市は福利厚生がない気がします。（介護職員）
- 働きやすい環境。中学生以上の子供の放課後デイサービスや、フリースクールが少なく、どこもキャンセル待ちとの事なので対策をして欲しいです。（訪問介護員）
- 働きやすい環境、条件などははっきりと提示できる、提示してくれること。高齢者との集いなど、介護職のハードルを下げる取り組みなど（訪問介護員）
- 介護支援専門員の一部有料化に伴う、仕事範囲の明確化と概ねの範囲。一般的な仕事の範囲。（利用者説明に関して）（介護支援専門員）
- 介護の仕事に対する強いマイナスイメージの払拭（汚い、キツイ、給料が安いなど）（介護職員）
- 施設を回って勤務体制、人員確保など違反はないのか？チェックして欲しいです。（介護職員）
- 介護職員へのメンタル面ケアがもっと充実すると良いと思います。（介護職員）
- 介護のイメージを変えたい若い人にも興味を持ってもらいたい（介護職員）
- 労働環境、実態の把握を厳しくした方が良い。（介護支援専門員）
- ひとを抱えるための介護ロボット（訪問介護員）
- 医療従事者にワクチンとかの優遇（看護職員）

5. 介護保険・介護予防、施策（5件）

- ケアマネ業務の無理無駄を省くように、自治体主導で行ってほしい。書類作成が多すぎて、利用者向き合う時間が削られる。重箱の隅をつつくようなことではなく、ケアマネ業務の主幹となる大切なことをご教示いただきたい。何でもケアマネにお尋ねください、とするのは止めてほしい。（マイナンバーカードのことなど）身寄りのない人の担当になるといざというときに大変であり、具体的支援を自治体主導でやってほしい。（介護支援専門員）
- 認定調査、認定審査のときにしっかり見てほしい。認知症の症状があっても医療機関から診断を受けていないかたもたくさんいます。調査のときのそのかたの言葉だけでなく、日々支援にあたっているケアマネやヘルパーの声にも耳を傾けてほしいです。現場は疲弊しています。（その他）
- 質問の趣旨とちがうかもしれませんが、介護事務（資金請求、各種届など）の煩雑さ、難解さはどうにかならないでしょうか。一生懸命ケアにかけずりまわるだけで手一杯です！（訪問介護員）
- 認定調査情報の開示について居宅支援事業所の郵送料金の負担が必要です、窓口で申請時に交付していただけると助かります。（介護支援専門員）
- ケアマネジメント業務の簡素化（介護支援専門員）

6. ハラスメント・虐待（1件）

- 先日、勤務先介護施設で高齢者虐待に抵触する不適切ケアを目撃し、該当部署に実名で告発。検討対象他行政介入の可否は、秘匿義務のため教えられないという。（介護職員）

7. 結果の概要と今後の課題

(1) 介護・看護職員、ケアマネジャーの労働環境

①労働条件や仕事内容

調査結果では、労働条件や仕事の負担に関して「人手が足りない」と回答した割合が 73.8%と最も高く、慢性的な人員不足が課題であることが示されている（問 12③）。また「仕事の内容のわりに賃金が低い」と回答した割合は 63.8%、「業務に対する社会的評価が低い」は 61.9%に上り、業務負担と処遇・評価の乖離が顕著である（問 12④⑥）。一方で、「労働時間が長い」と回答した割合は 22.2%と相対的に低く（問 12⑥）、負担感は時間よりも業務内容や人員体制に起因していることがうかがえる。介護現場の業務改善及び生産性の向上等、業務負担の適正化と処遇改善を両立させる取組が必要である。

②勤務先に関する希望

勤務先については、「今の勤務先で働き続けたい」と回答した職員が 63.6%を占めており、一定の定着意向が確認できる（問 4）。一方で、「分からない」とする層も 17.1%存在し、将来の見通しが立たない職員が少なくない（問 4）。仕事（職種）についても「今の仕事を続けたい」が 67.8%である一方、他職種への関心を示す回答が 7.5%、「分からない」とする層も 16.6%存在し、キャリア展望の不透明さが影響している可能性がある（問 5）。今後は、勤務先内でのキャリアパスの明確化や、働き続けることのメリットを可視化する取組が、定着促進の鍵となる。

③悩み・不安・不満を解消する上で役立っている職場の取組

職場で行われている取組としては、「定期的な健康診断の実施」が 79.2%と最も高く、「介護能力の向上に向けた研修」が 66.8%、「採用時の賃金・勤務時間の説明」が 63.8%と続く（問 16①）。その中で、「役に立っている」と評価された取組は、「定期的な健康診断の実施」が 41.4%、「介護能力の向上に向けた研修」が 38.6%であり、一定の効果が認識されている（問 16②）。一方、利用者や家族からのハラスメント対策は実施率 41.4%に対して「役に立っている」は 16.6%、資格の維持・更新に対する研修派遣は実施率 35.3%に対して「役に立っている」は 15.7%であり、実効性向上が課題である（問 16①）。今後は、職員が「相談しやすい」「使える」と感じる運用面の改善が重要である。

④介護職員にかかる負荷の軽減

身体的負担については、「身体的な負担が大きい」と回答した割合が「非常にあてはまる」「少しあてはまる」を合わせて 51.9%に上り、腰痛や体力面の不安が顕著である（問 12③）。精神的負担についても、「精神的にきつい」と回答した割合は 57.0%と高く、メンタル面の支援の重要性が示されている（問 12④）。ICT や介護ロボット等の導入は 29.9%にとどまり、負荷軽減策としては十分とは言えない（問 16①）。今後は、機器等の活用と併せて業務の明確化と役割分担の見直し等を進め、総合的な負荷軽減策を講じる必要がある。

⑤ケアマネジャーにかかる負荷の軽減

ケアマネジャーからの回答によると、「資格の維持・更新に係る負担が大きい」が「非常にあてはまる」「少しあてはまる」を合わせて 87.4%と高い割合を占めており（問 12⑦）、5年ごとの更新研修の受講等が業務の大きな負担となっている現状が明らかになった。また、約半数の

49.3%が「法定外業務がある」と回答している（問 12②）。独居高齢者の緊急対応、身寄りのいない方の対応、その他複雑な事務手続きなど、法定外業務（いわゆるシャドウワーク）として実施せざるを得ないケースも増加しており、ケアマネジャーの業務と役割の明確化など市においても対策を推進していく必要がある。

（２）介護人財確保・定着・育成のための事業に対する意見・要望

①利用してみたい・関心のある市の事業

市の事業に対しては、介護ロボット等導入支援に次いで、研修や資格取得支援に対する関心が高く、専門性向上を後押しする施策への期待がうかがえる（問 20）。一方で、「利用したいものや関心のあるものはない」と回答した割合も 34.8%と高く、市の事業内容が十分に認知されていない可能性もあり、利用意向を高めるには情報発信の工夫が求められる（問 20）。今後は、現場のニーズに即した事業設計と、周知が行き届くようアプローチの工夫等が求められる。

②三鷹市に取り組んで欲しい事業

人手不足を感じている職員が 73.8%に上ることから、市に対しても人財確保を後押しする施策への期待が背景にあると考えられる（問 12③）。また、「賃金が低い」と感じている割合が 63.8%であることから、処遇改善に資する間接的支援も重要である（問 12④）。加えて、利用者からの暴言や暴力を経験した職員が 62.9%存在するため、事業所におけるハラスメント防止の体制整備の強化が求められる（問 13）。今後は、事業所の体制整備に資する支援事業を展開することが課題である。

③福祉 Labo どんぐり山での研修希望

三鷹市福祉 Labo どんぐり山における研修受講の希望として「認知症の対応」が 45.8%で最も高く、次いで、「メンタルヘルス」が 29.7%、「医療的ケア」が 29.4%となっている（問 28）。今の仕事や職場の満足度について「満足」と「やや満足」を合わせた割合は、「キャリアアップの機会」が 17.7%、「教育・能力開発のあり方」が 16.1%と低い割合であるところ（問 17）、事業所横断的な介護専門職の能力向上の機会を積極的に提供していくことが求められる。

④介護人財の確保と質の向上

職種経験年数では「10～20年」が 33.7%、「20年以上」が 24.8%と経験豊富な層が多い一方、現法人での勤続年数は「3年未満」が 31.8%と高く、定着の課題が見られる（問 6、問 7）。研修は 66.8%の職場で実施されているが、キャリアアップや評価制度が「役に立っている」と感じる割合は 2割前後にとどまる（問 16）。今後は、研修と評価、処遇を連動させた仕組みを整備し、「成長が実感できる職場」を形成することで、介護人財の定着と専門性向上の好循環が期待される。

資料編

アンケート調査票

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 令和7年10月 三鷹市

問1	あなたのご家族や生活状況について
(1) あなたの年齢をお教えください	1. 65～69歳 2. 70～74歳 3. 75～79歳 4. 80～89歳 5. 90歳以上
(2) あなたの性別をお教えください	1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 回答しない
(3) あなたの居住地区を町名と丁目それぞれお教えください	1. 井の頭、2. 牟礼、3. 北野、4. 新川、5. 中原、6. 井口、 7. 上連雀、8. 下連雀、9. 野崎、10. 大沢、11. 深大寺
(4) 家族構成をお教えください	1. 一丁目、2. 二丁目、3. 三丁目、4. 四丁目、5. 五丁目、 6. 六丁目、7. 七丁目、8. 八丁目、9. 九丁目 4. 息子・娘との2世帯(孫は含まない) 5. その他
(5) あなたは、普段の生活でとなたかの介護・介助が必要ですか	1. 介護・介助は必要ない 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない 3. 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)
(6) あなたの現在の状態は、次のうちどれですか	1. 要介護認定を受けていない(非認定) 3. 要介護1・2 2. 要支援1・2 4. 要介護3～5

(7) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか	1. 大変苦しい 3. ふつう 5. 大変ゆとりがある 2. やや苦しい 4. ややゆとりがある
(8) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか	1. 持家(一戸建て) 6. 借家 2. 持家(集合住宅) 7. その他() →(8)△
(9) 【(8)で1.～2.の「持家」の方のみ】	3. 公営賃貸住宅 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) →(9)△ 5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
① 修理等のメンテナンスはできますか	1. はい 2. いいえ
② 故障や段差などの不具合はありますか	1. はい 2. いいえ
③ 引き継いでくれる人はいますか	1. はい 2. いいえ
④ リフォームを考えていますか	1. はい 2. いいえ
→(10)【(8)で3.～5.の「賃貸」の方のみ】	
⑤ 今の家に住み続けること(契約更新)に不安はありますか	1. はい 2. いいえ
⑥ 保証人はいますか	1. はい 2. いいえ

問2 からだを動かすことについて	
(1) 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3) 15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない
(6) 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない
(8) 仕事や家事、散歩、体操などで身体を動かす時間が1日の合計で40分以上という日が、週に何日くらいありますか。	1. ほぼ毎日 2. 週4～5日 3. 週2～3日 4. 週1日 5. 週1日より少ない

問3 食べることについて	
(1) 身長・体重	身長 <input type="text"/> <input type="text"/> cm 体重 <input type="text"/> <input type="text"/> kg
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)	1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
(4) どなたかと食事をともにする機会はありますか	1. 毎日ある 3. 月に何度かある 5. ほとんどない 2. 週に何度かある 4. 年に何度かある

問4 毎日の生活について	
(1) 物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ
(2) 今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい 2. いいえ
(3) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(5) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(6) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(7) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(8) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい 2. いいえ

(9) 趣味はありますか	1. 趣味あり (具体的には:) 2. 思いつかない
(10) 生きがいがありますか	1. 生きがいあり (具体的には:) 2. 思いつかない
(11) スマートフォン (スマホ)、タブレット、パソコンを用いてインターネットを利用していますか	1. 自分一人で、ある程度利用している 3. 利用していないが、興味や必要性を感じている 2. 利用しているが、誰かの手助けが必要 4. 利用していないし、不要である
(12) 【(11)で1. 2. の「利用している」の方のみ】 → スマートフォン (スマホ) やパソコンをどのように利用していますか (いくつでも)	1. 電子メール (Eメール) 5. ネットショッピング・フリマサイト 2. インターネットの閲覧 6. キャッシュレス決済 3. LINE、X、InstagramなどのSNS 7. その他 () 4. YouTubeなどの動画視聴
(13) 生活の中で、人の話が聞き取りづらいことがありますか	1. 特に問題ない 4. ほとんど聞こえない 2. 普通の声やずっと聞き取れる 5. 補聴器等を利用している 3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる

問5 地域での活動について						
(1) 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか ※① - ⑧それぞれに回答してください						
	週4回 以上	週2 ~3回	週1回 ~3回	月に 1回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 体力の維持向上のための運動グループなど介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人(シニア)クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6
(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか						
1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している						
(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか						
1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している						
(4) 介護予防や健康維持のために、どのような「通いの場」があればよいと思いますか(いくつでも)						
*e スポーツ: エレクトロニック・スポーツの略。コンピュータゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。						
1. 体操(運動)	3. 茶話会	5. 趣味活動	7. その他()			
2. 会食	4. 認知症予防	6. e スポーツ*	8. 特にない			

(5) 「通いの場」にどのような条件があれば参加したいですか(いくつでも)					
1. 身近で活動している	3. どこでどのような活動をしているかの情報提供	5. 仕事や家事が忙しくて参加できない			
2. きっかけ(知人からの声かけなど)	4. 活動場所への移動手段がある	6. その他()			
問6 就労について					
(1) 現在のあなたの就労状態はどれですか(いくつでも)					
1. 職に就いたことがない	4. 非常勤(パート・アルバイト等)	7. その他()			
2. 引退した	5. 自営業				
3. 常勤(フルタイム)	6. 求職中				
問7 たすけあいについて あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお答えをお願いします					
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)					
1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他()			
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない			
3. 別居の子ども	6. 友人				
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげてくれる人(いくつでも)					
1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他()			
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない			
3. 別居の子ども	6. 友人				
(3) あなたが病気で数日間入院したときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)					
1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他()			
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない			
3. 別居の子ども	6. 友人				

(4) 反対に、看病や世話をしあける人 (いくつでも)	
1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 7. その他 ()
2. 同居の子ども	5. 近隣 8. そのような人はいない
3. 別居の子ども	6. 友人
(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (いくつでも)	
1. 自治会・町内会・老人(シニア)クラブ	5. 地域包括支援センター・役所
2. 社会福祉協議会・民生委員	6. その他 ()
3. ケアマネジャー	7. そのような人はいない
4. 医師・歯科医師・看護師	
(6) ふだん、「誰とも話をしない」という日がありますか	
1. ほとんどない	2. 週に1～2日くらいある
3. 週に3日以上ある	
(7) ご家族・ご親族の中に、ひきこもり(学校や仕事、人との交遊などの社会参加を避けて半年以上、家にとどまり続けている状態)の方はいらっしゃいますか	
1. いる	2. いない
(8) 三鷹市内または近隣市区で、ひきこもりに関する相談や支援を行っている機関を知っていますか。それは、どの機関ですか (いくつでも)	
1. 市役所	4. 病院、診療所
2. 地域包括支援センター	5. その他 ()
3. 保健所	6. 知らない

問8 健康について												
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか												
1. とてもよい	2. まあよい	3. あまりよくない	4. よくない									
(2) あなたは、現在のどの程度幸せですか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、○を付けてください)												
とても不幸	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	とても幸せ
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか												
1. はい	2. いいえ											
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか												
1. はい	2. いいえ											
(5) タバコは吸っていますか												
1. まぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている	3. 吸っていたがやめた	4. もともと吸っていない									
(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)												
1. ない	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	15. 認知症(アルツハイマー病等)										
2. 高血圧	9. 腎臓・前立腺の病気	16. パーキンソン病										
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	10. 筋骨格の病気(骨粗しよう症、関節症等)	17. 目の病気										
4. 心臓病	11. 外傷(転倒・骨折等)	18. 耳の病気										
5. 糖尿病	12. がん(悪性新生物)	19. その他 ()										
6. 高脂血症(脂質異常)	13. 血液・免疫の病気											
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	14. うつ病											

(7) かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか

① 医師	1. いる	2. いない
② 歯科医師	1. いる	2. いない
③ 薬剤師	1. いる	2. いない

(8) 必要な時に十分な医療を受けられるか不安はありますか

1. 非常に不安	2. やや不安	3. あまり不安はない	4. まったく不安はない
----------	---------	-------------	--------------

(9) 必要な時に十分な介護を受けられるか不安はありますか

1. 非常に不安	2. やや不安	3. あまり不安はない	4. まったく不安はない
----------	---------	-------------	--------------

(10) 人生の最終段階で受けたい医療やケアについて、自分自身で前もって考え、信頼する人と話し合い、共有しておく取組を「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼んでいます。あなたは将来の医療やケアについて決めていきますか。

1. 決めており周りの人と共有している	3. 決めていない
2. 決めているが周りの人と共有していない	4. わからない

問9 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(3) 認知症についての知識や接し方などを学ぶ講座を受講したことがありますか。受講したことがない方は、受講してみたいですか

1. 受講したことがある	3. 受講したくない、受講できない
2. 受講したい	4. わからない

(4) 認知症に対して、どのように思われますか

	そう思う	やや思う	でもちらない	思わない	思わないう
① 認知症になっても、その人の意思を尊重できる	1	2	3	4	5
② 身近に認知症の人がいたら、お世話できる	1	2	3	4	5
③ 家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしい	1	2	3	4	5
④ 自分が認知症になったら、まわりの人の手を借りながら自宅での生活を続けたい	1	2	3	4	5
⑤ 自分が認知症かもしれないと感じたとしても、すぐに病院に行くことには抵抗感がある	1	2	3	4	5
⑥ 認知症または認知機能の低下は早期に発見したい	1	2	3	4	5
⑦ 認知症の発症や認知機能の低下を抑制できる可能性があるなら取り組みたい	1	2	3	4	5

問10 高齢者施策と介護保険制度について

(1) 高齢者に対する政策や支援のうち、今後、特に力を入れてほしい政策や支援はありますか（いくつでも）

1. 往診などの在宅医療支援	10. 高齢者の「通いの場」づくりの支援
2. ヘルパーなどの在宅介護支援	11. 高齢者に配慮した道路や公共施設の整備
3. 老人ホームなどの施設介護支援	12. 高齢者に配慮した交通手段の整備
4. 認知症施策	13. 事故や犯罪防止（財産目当ての犯罪など）
5. 家族介護者への支援	14. 防災・災害対策
6. 介護予防のための教室や相談	15. 終活 <small>人生の最期に向けて、医療・介護、財産管理、葬儀など様々な準備をすること。</small>
7. 高齢者向け住居の整備やあせせん	16. ACP <small>アドバンス・ケア・プランニング：将来の医療やケアを、本人・家族・医療者で話し合い、意思決定を共有すること。</small>
8. 近隣住民による見守り活動や生活支援	17. その他（ ）
9. 働く場の確保	

(2) 介護保険料の支払いについて、どのように感じていますか	
1. 負担に感じている	3. あまり負担には感じていない
2. 多少負担に感じている	4. 負担には感じていない
(3) 介護保険の利用にかかわらず、介護保険料を納付しなければいけない事をご存知ですか	
1. 知っている	3. あまり知らない
2. 知りたい知っている	4. まったく知らない
(4) 介護保険制度は、あなたが納めている保険料に見合うだけの制度だと思えますか	
1. 非常にそう思う	3. あまりそう思わない
2. まあそう思う	4. まったくそう思わない
(5) 高齢者数が増えると、介護サービスの水準を維持するために、どうしても介護保険料が高くなってしまいます。あなたのご意見は、次のどれに近いですか	
1. 介護サービスの水準を大幅に引き下げて、介護保険料を安くするべき	
2. 介護サービスの水準のある程度下げても、介護保険料は従来どおりとすべき	
3. 介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない	
4. 介護サービスの水準を引き上げるために、大幅な介護保険料の増加もやむを得ない	
(6) 仮に、あなたが選んできたような状態になった時には、どのようにしたいですか。ご希望に最も近いものを選んでください	
1. 現在の住まいで介護を受けたい	4. 特別介護老人ホームなどの施設に入所して介護を受けたい
2. 子どもや親族の家で介護を受けたい	5. 病院に入院したい
3. 有料老人ホームや高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい	6. その他 ()

(7) 三鷹市の高齢者向けパンフレットやサービス等をご存知ですか			
	知っている	聞いたことはある	知らない
① 高齢者のためのしおり	1	2	3
② いつまでもこのまちで 介護保険のしおり	1	2	3
③ 三鷹市介護保険 介護サービス事業者ガイドブック	1	2	3
④ わか家・三鷹で暮らし続けるために	1	2	3
⑤ 三鷹版 わたしの覚え書きノート	1	2	3
⑥ 認知症にやさしいまち三鷹ガイドブック	1	2	3
⑦ 三鷹みんなで地域体操 うごっこ	1	2	3
⑧ 介護・医療・地域資源情報検索サイト「三鷹かよっと」	1	2	3
⑨ 救急医療情報キット	1	2	3
⑩ あんしんキーンホルダー	1	2	3
⑪ ひとり歩き高齢者等見守りシール	1	2	3
⑫ 地域包括支援センター	1	2	3
⑬ 権利擁護センターみたか	1	2	3
⑭ 福祉 Labo どんぐり山	1	2	3

■■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■■

皆様から頂いた内容がどれも住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるようするために活用させていただきます。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**11月10日（月）まで**にお近くのポストに投函してください。

インターネットにより回答された方は本アンケート用紙を投函しないようにお気をつけてください。

2. 要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査

要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査

A票 調査対象者本人（あて名の方）について聞く調査です。

回答していただく方は、どなたですか（複数選択可）

1. 調査対象者本人
 2. 主な介護者となっている家族・親族
 3. 主な介護者以外の家族・親族
 4. 調査対象者のケアマネジャー
 5. その他（ ）

問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

1. 単身世帯
 2. 夫婦のみ世帯
 3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

1. ない
 2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
 3. 週に1～2日ある
 4. 週に3～4日ある
 5. ほぼ毎日ある

問3～7は、問2で2.～5. を選択した「家族・親族の介護がある」方にお伺いします。

問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

1. 配偶者
 2. 子
 3. 子の配偶者
 4. 孫
 5. 兄弟・姉妹
 6. その他

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

1. 男性
 2. 女性
 3. その他
 4. 回答しない

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

1. 20歳未満
 2. 20代
 3. 30代
 4. 40代
 5. 50代
 6. 60代
 7. 70代
 8. 80歳以上
 9. わからない

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）
 （身体介護）

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、スーマ等）
12. 食事の準備（調理等）
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）
14. 金銭管理や生活面に必要な申請手続き
15. その他（ ）
16. わからない

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）
 （複数選択可） ※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護で仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

【ここからは全員の方がお答えください】

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）※総合事業に基づくサービス等は「介護保険サービス」に含めます。

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物（宅配は含まない）
5. ゴミ出し
6. 外出同行（通院、買い物など）
7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等）
8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. 住宅改修（介護保険以外）
11. 福祉用具・福祉機器（見守りセンサー等）
12. お泊りサービス（自費ショートステイ等）
13. その他（ ）
14. 利用していない

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物（宅配は含まない）
5. ゴミ出し
6. 外出同行（通院、買い物など）
7. 移送サービス（介護・福祉カー等）
8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. 住宅改修（介護保険以外）
11. 福祉用具・福祉機器（見守りセンサー等）
12. お泊りサービス（自費ショートステイ等）
13. その他（ ）
14. 特になし

問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）を指します。

1. 入所・入居を検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

問11 ご本人（調査対象者）が、現在抱えている傷病等について、ご回答ください（複数選択可）

1. 脳血管疾患（脳卒中）
2. 心疾患（心臓病）
3. 悪性新生物（がん）
4. 呼吸器疾患
5. 腎疾患（透析）
6. 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）
7. 膠原病（関節リウマチ含む）
8. 変形性関節疾患
9. 認知症
10. パーキンソン病
11. 難病（パーキンソン病を除く）
12. 糖尿病
13. 眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）
14. その他
15. なし
16. わからない

問12 ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれません。

1. 利用している
 2. 利用していない
- 問13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）
1. 利用している → 問15～17へ
 2. 利用していない → 問14へ

問14は、問13で「2. 利用していない」方のお答えください。

問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
2. 本人にサービス利用の希望がない
3. 家族が介護をするため必要ない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった
5. 利用料を支払うのが難しい
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない
9. その他（ ）

問15～17は、問13で「1. 利用している」方のお答えください。

問15 要介護認定の結果に満足していますか（1つを選択）

1. 非常に満足している
2. わりと満足している
3. あまり満足していない
4. 全然満足していない

問16 現在の担当ケアマネジャーにどのようなことをお願いしていますか（いくつでも）

1. ケアプランの作成
2. 介護サービス事業者との連絡・調整
3. 受診の付き添い、救急搬送時の同乗
4. 部屋掃除など家事支援全般
5. 金融機関（銀行・保険）の手続き
6. （介護保険外の）書類作成、代筆代読
7. 郵便の発送・受取
8. その他（ ）

問17 全体的にみて、現在の担当ケアマネジャーの対応に、どの程度満足していますか（1つを選択）

1. 非常に満足している
2. わりと満足している
3. あまり満足していない
4. 全然満足していない
5. その他（ ）

問 20 65 歳になるまでに、障がい福祉サービスを利用したことがありますか(1つを選択)

1. ある → 問 21へ 2. ない → 問 22へ 3. わからない → 問 22へ

問 21は、問 20で「1. ある」方のお答えください。

問 21 65 歳以降、サービス利用に関して、次のような問題がありましたか (複数選択可)

1. 介護保険を利用することになって急に利用者負担が増えた
2. 使い慣れた障がい福祉サービス事業所を利用できなくなった
3. 訪問回数など利用できるサービス量が減った
4. 相談支援専門員とケアマネジャーの連携が上手くいっていない
5. サービス提供者の変更により、これまでのつながりがなくなった
6. 障がいを理由にサービスを断られたことがある
7. 特になし

【ここからは再び全員の方がお答えください】

問 22 あなたは、友人や知人、親戚の方と会ったり、一緒に出かけることが、どのくらいありますか (1つを選択)

1. 1 週間に2回以上 3. 1 カ月に2～3回 5. 1 カ月に1 回より少ない
2. 1 週間に1 回くらい 4. 1 カ月に1 回くらい 6. まったくない

問 23 あなたは、自治会、町内会、趣味やグループ活動、その他のクラブ活動などに何回くらい出かけていますか (1つを選択)

1. 1 週間に2回以上 3. 1 カ月に2～3回 5. 1 カ月に1 回より少ない
2. 1 週間に1 回くらい 4. 1 カ月に1 回くらい 6. まったくない

問 24 災害時の避難を手助けしてくれる人はいませんか。それは誰ですか (複数選択可)

1. いない 3. 同居していない身近な人 5. 介護サービス提供者
2. 同居の家族 4. 町会など地域の協力者 6. わからない

問 18 日常生活での心配ごとはありますか (複数選択可)

1. ご自身や家族の健康 7. 収入・生活費に関すること
2. 家族の介護 8. 近隣との関係
3. 地震・台風等の自然災害 9. 趣味がないこと
4. 独居・孤独への不安 10. 詐欺・悪質商法の被害にあうこと
5. 住まいのこと 11. その他 ()
6. 日常の家事・仕事 12. 特になし

問 19 次のサービスを今後利用したいと思いますか (それぞれから1つを選択)

利用したい	よく利用しない	わからない	
利用料などの制限事項は考えず、単に利用したいか否かをお答え下さい。	1	2	3
(1) 訪問入浴介護 寝たまままで入浴できる特殊な浴槽をご自宅に運んで、入浴介助を行います。	1	2	3
(2) 訪問リハビリテーション 理学療法士や作業療法士が、ご自宅でリハビリテーションを行います。	1	2	3
(3) 認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護) 認知症の人が、介護スタッフの援助を受けながら共同で生活します。	1	2	3
(4) 小規模多機能型居宅介護 小規模な施設で通い「訪問」「泊まり」の介護を同じスタッフがを行います。	1	2	3
(5) 看護小規模多機能型居宅介護 小規模多機能型居宅介護と訪問看護を組合せ、介護や看護のケアを行います。	1	2	3
(6) 夜間対応型訪問介護 巡回や通報システムによる夜間専用の訪問介護を行います。	1	2	3
(7) 定期巡回・随時対応型訪問看護 定期巡回と随時対応により訪問介護と訪問看護を24時間行います。	1	2	3
(8) 短期入所生活介護 (ショートステイ) 介護者が病気などで不在の時に、施設へ短期間宿泊できるサービスです。	1	2	3
(9) 訪問診療、往診 自宅で療養している方を、かかりつけの医師が定期的に訪問し診療します。	1	2	3
(10) 権利擁護事業 金銭管理や各種手続きを支援します。	1	2	3
(11) 配食サービス 栄養バランスに配慮した食事をお届けします。	1	2	3
(12) リフト付きタクシー 寝たままの状態や車いすのまま、安価で利用できるタクシーです。	1	2	3

問 25 生きがいがありますか (1つを選択)。また、それは何ですか (「A.ある」と回答した場合)

A. ある	B. ない・思いつかない
↓	
それはどんなことですか。(複数選択可)	
1. 趣味やスポーツ、レジャー	5. 友人との交流
2. 家族やペットとの交流	6. 健康づくり、介護予防
3. 仕事、軽作業	7. ボランティア活動、社会貢献
4. 勉強、生涯学習、パソコン教室	8. その他 ()

問 26 生きがいとしてやってみたいことはありますか (1つを選択)。
また、それは何ですか (「A.ある」と回答した場合)

A. ある	B. ない・思いつかない
↓	
それはどんなことですか。(複数選択可)	
1. 趣味やスポーツ、レジャー	5. 友人との交流
2. 家族やペットとの交流	6. 健康づくり、介護予防
3. 仕事、軽作業	7. ボランティア活動、社会貢献
4. 勉強、生涯学習、パソコン教室	8. その他 ()

問 27 あなたは、今後、要介護度が高くなった場合、どこで生活したいとお考えですか (1つを選択)

1. 現在の住宅に住み続けたい
2. 子どもや親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい
3. 高齢者向け住宅 (サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなど) に入居したい
4. 介護保険で入居できる施設 (特別介護老人ホームなど) に入居したい
5. 2～4以外の一般の住宅に移りたい (自然環境のよいところ、育ったところなど)
6. その他 ()
7. わからない

問 28 災害時に自宅以外で避難できる場所を知っていますか? (複数選択可)

1. 一般避難所	3. 介護保険施設	5. その他 ()
2. 福祉避難所	4. 医療機関 (病院等)	6. 知らない

一般避難所:災害により、自宅の倒壊などのため、自宅での生活が困難になってしまった場合、またはこれから被害にあう可能性が大きい場合などに、一定期間、避難生活を送るための屋内施設です。あわせて食料や生活物資の配給などを行う拠点にもなります。
福祉避難所:災害時に、通常の避難所での避難生活が困難な医療や介護を要する高齢者、障がい者などの要配慮者のかたがたを受入れるための施設です。

A票の問2で2.～5.を選択した「家族・親族の介護がある」方にお伺いします。

B票 主な介護者の方について聞く調査です。

※ 主な介護者様のご回答が難しい場合は、ご本人様 (調査対象者様) にご回答をお願いします。
(ご本人様のご回答が難しい場合は、無回答で結構です)。

問 1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください (1つを選択)

※ 「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

1. フルタイムで働いている	→ 問2～4へ
2. パートタイムで働いている	
3. 働いていない	
4. 主な介護者に確認しないと、わからない	

問2～4は、問1で1.～2.を選択した「働いている」方のみお答えください。
問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか (複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整 (残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇 (年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問 3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか (3つまで選択可)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先は	6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実	7. 介護に関する相談窓口・担当者の設置
3. 制度を利用しやすい職場づくり	8. 介護をしている従業員への経済的な支援
4. 労働時間の柔軟な選択 (フレックスタイム 制など)	9. その他
5. 働く場所の多様化 (在宅勤務・テレワーク など)	10. 特にない
	11. 主な介護者に確認しないと、わからない

問 4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか (1つを選択)

1. 問題なく、続けていける	4. 続けていくのは、かなり難しい
2. 問題はあるが、何とか続けていける	5. 主な介護者に確認しないと、わからない
3. 続けていくのは、やや難しい	

【ここからは家族・親族の介護がある全員の方がお答えください】

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

【身体介護】	
1. 日中の排泄	7. 屋内の移乗・移動
2. 夜間の排泄	8. 外出の付き添い、送迎等
3. 食事の介助（食べる時）	9. 服薬
4. 入浴・洗身	10. 認知症への対応
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	11. 医療面での対応（経管栄養、ストマ等）
6. 衣服の着脱（生活援助）	
12. 食事の準備（調理等）	14. 金銭管理や生活面に必要な請求
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	
【その他】	
15. その他（ ）	17. 主な介護者に確認しないと、わからない
16. 不安に感じていることは、特になし	い

問6 介護をしている中で、主な介護者の方に該当することがありますか（複数選択可）

1. 介護で疲れて、体の調子が良くない
2. 介護で、精神的にまいってしまっている
3. 介護のために、よい仕事につけない/仕事に思うようにやれない
4. 介護のために、育児や他の家族の介護などに思うように手がまわらない
5. ご本人様のことが気になって、日中、思うように外出できない
6. 介護のために日中趣味や学習活動などをする自由な時間を思うようにとれない
7. 介護のことで、家族・親戚と意見が合わない
8. 介護のために経済的負担が大きい
9. 上記のようなことはない
10. 主な介護者に確認しないと、わからない

問7 主な介護者の方は、ご本人様と一緒に住んでいますか。離れて住んでいる場合は、ふだん使っている交通手段で、どのくらいの時間がかかりますか（1つを選択）

※「一緒に住んでいる」とは、同じ敷地内に住んでいることを指します。生計や住民票上の世帯を同じくしているかは問いません。団地などで同じ棟の異なる部屋に居住している人は、別居とします。

1. 一緒に住んでいる
2. 片道15分未満の場所に住んでいる
3. 片道15分以上1時間未満の場所に住んでいる
4. 片道1時間以上2時間未満の場所に住んでいる
5. 片道2時間以上かかる場所に住んでいる

問8 もし主な介護者の方が、急病や外出などで介護ができないうような状況になった場合、一週程度、代わりに介護を頼める人はいませんか（1つを選択）

1. いる
2. いない
3. 主な介護者に確認しないと、わからない

問9 主な介護者の方が今後働きながら介護を続けるためには、地域や行政からどのような支援が必要と思われますか（複数選択可）

1. 仕事と介護の両立に関する相談先の充実
2. (認知症) 家族の会などの相談会
3. 介護保険サービスの回数・時間の増加
4. 夜間を含む定期的な訪問介護サービス
5. 高齢者ホームなど施設の充実
6. 近隣や町会の見守り、声かけ
7. 介護者のレスパイトケア（ショートステイの利用など）
8. 介護者向け研修（ケア方法など）
9. その他（ ）
10. 主な介護者に確認しないと、わからない

■■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■■

皆様から頂いた内容は

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるまちづくりのために活用させていただきます。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、11月10日（月）までにお近くのポストに投函してください。

インターネットにより回答されたい方は本アンケート用紙を投函しないようお願いしてください。

3. 介護サービス事業所調査

三鷹市 介護人財の確保・定着等に関するアンケート調査 — 事業所調査票 —

令和7年10月 三鷹市

《ご記入にあたってのお願い》

1. 管理者様など事業所の状況をよくご存じの方が、ご記入ください。
2. 同一敷地内で複数の介護保険サービス事業を行っている場合は、それら全てを合わせて1つの事業所として回答してください。
3. 各設問の説明に従って、あてはまる番号に○印をつけるか、具体的な内容・数字などをご記入ください。回答に迷う場合は、できるだけ近いものを選びようにしてください。

◆◆◆ 三鷹市へのご意見・ご要望等について伺います。 ◆◆◆
三鷹市では介護人財確保・定着・育成のための事業を行っています。

事業名	概要
①介護職員初任者研修補助事業	1人当たり70,000円を上限に、介護職員初任者研修課程の受講料を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所の常勤職員(勤務時間数の要件を満たす非常勤職員含む。)又はみたくあいかれあい支援員が対象です。)
②介護福祉士実務者研修補助事業	1人当たり100,000円を上限に、介護福祉士実務者研修の受講料を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所の常勤職員(勤務時間数の要件を満たす非常勤職員含む。)又はみたくあいかれあい支援員が対象です。)
③介護福祉士資格取得補助事業	1人当たり100,000円を上限に、介護福祉士資格の取得のために要した経費を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所の常勤職員(勤務時間数の要件を満たす非常勤職員含む。)が対象です。)
④居宅介護支援事業所等入財確保・定着支援事業	介護支援専門員の資格取得・更新のために要する受講料等を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの職員が対象です。)
⑤居宅介護支援事業所等入財育成支援事業	主任介護支援専門員の資格取得・更新のために要する受講料等を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの職員が対象です。)
⑥介護事業者地域連携推進事業	市内の小規模介護事業者の事業運営を支援するために三鷹市と地域の中核となる介護事業者が協働して行っている事業です。
⑦介護職員等永年勤続表彰事業	三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所に、通算して5年、10年、20年勤務した介護職員等で事業所より推薦をされた方を表彰します。
⑧夏休み介護施設等体験事業	市内在住・在学の小学4年生から6年生までの希望者を対象に、夏休みに介護施設(介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム)等で1日(2時間程度)、介護の仕事を実験してもらいます。修了した児童には、「子ども介護士証」と記念品を差し上げます。
⑨保育園優先入所	保育園の入所選考の際、介護福祉士等の資格を持つ市内事業所の介護職員は、同一選考点数で世帯間の優先順位の第4段階として選考します。
⑩介護職員向け研修事業	市内の事業所の職員を対象に、管理者向けマネジメント力向上研修、中堅職員向けリーダー研修、若手職員向け交流・研修会、外国人職員向け交流・日本語能力向上研修を行っています。
⑪介護ロボット等導入支援事業	介護ロボット等の導入に係る経費を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所が対象です。)

問1 介護人財の確保・定着・育成のためのこれらの事業をご存知でしたか。貴事業所の介護人財確保・定着・育成に役に立つと思いますか。また、「3 あまり役に立たない」「4 まったく役に立たない」を選択された方はその理由は何か

事業名	当該事業をご存知ですか (○は1つ)	介護人財の確保・定着・育成に役に立つと思いますか (○は1つ)	役に立たない理由は何ですか (○はいくつでも)
①介護職員初任者研修補助事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 対象者の範囲が狭い 2. 要件を満たさない職員が多い 3. 資格補助があっても定着しない 4. 対象外の事業所である 5. その他()
②介護福祉士実務者研修補助事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 対象者の範囲が狭い 2. 要件を満たさない職員が多い 3. 資格補助があっても定着しない 4. 対象外の事業所である 5. その他()
③介護福祉士資格取得補助事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 対象者の範囲が狭い 2. 要件を満たさない職員が多い 3. 資格補助があっても定着しない 4. 対象外の事業所である 5. その他()
④居宅介護支援事業所等入財確保・定着支援事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 対象者の範囲が狭い 2. 要件を満たさない職員が多い 3. 資格補助があっても定着しない 4. 対象外の事業所である 5. その他()
⑤居宅介護支援事業所等入財育成支援事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 対象者の範囲が狭い 2. 要件を満たさない職員が多い 3. 資格補助があっても定着しない 4. 対象外の事業所である 5. その他()
⑥介護事業者地域連携推進事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 内容がよくわからない 2. すぐには効果がわからない 3. 対象事業者の範囲が狭い 4. その他()
⑦介護職員等永年勤続表彰事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 内容がよくわからない 2. 対象者の範囲が狭い 3. 表彰があっても定着しない 4. 対象外の事業所である 5. その他()
⑧夏休み介護施設等体験事業	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 内容がよくわからない 2. すぐには効果がわからない 3. 対象事業者の範囲が狭い 4. その他()
⑨保育園優先入所	1. 知っていた 2. 知らなかった	1. 非常に役に立つ 2. 多少役に立つ 3. あまり役に立たない 4. まったく役に立たない	1. 保育園児の親がいない 2. 制度があっても定着しない 3. 対象外の事業所である 4. その他()

2 サービス提供責任者	人	人	人	人	人	人	人
3 介護職員(注3)	人	人	人	人	人	人	人
4 看護職員	人	人	人	人	人	人	人
5 生活相談員	人	人	人	人	人	人	人
6 PT・OT・ST等(注4)	人	人	人	人	人	人	人
7 介護支援専門員	人	人	人	人	人	人	人
合計(1~7)	人	人	人	人	人	人	人

問8 貴事業所が属する法人全体(全ての指定介護サービス事業所)の全従業員数は、おおよそ何人くらいですか。(派遣労働者、委託従事者は含みません。)(○は1つ)

1. 19人以下
2. 20~49人
3. 50~99人
4. 100~299人
5. 300~499人
6. 500人以上

問9は、訪問介護員と介護職員について伺います。
これらの職種を雇用していない事業所は、問10へお進みください。

問9 ①貴事業所の介護保険の指定介護サービス事業に従事する「訪問介護員」と「介護職員」について、過去1年間(令和6年10月1日~令和7年9月30日)の採用者数と離職者数をそれぞれ記入してください。

②離職者については、勤続年数別の人数もご記入ください。
※ 離職者とは、調査対象期間中に事業所を退職したり、解雇された者をいい、他企業への出向者、出向復帰者を含みますが、同一企業内での転出入者は除きます。
※ 該当者がいない欄は、0(ゼロ)を記入してください。

①年間(令和6年10月1日~令和7年9月30日)の採用者数と離職者数		②離職者の勤続年数別の人数				
		採用者数	離職者数	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上
訪問介護員 (サービス提供責任者は含めない。)	訪問介護員・計	人	人	人	人	人
	正規職員	人	人	人	人	人
	非正規職員	人	人	人	人	人
介護職員 (看護職員等は含めない。)	介護職員・計	人	人	人	人	人
	正規職員	人	人	人	人	人
	非正規職員	人	人	人	人	人

ここからは全員お答えください。

問10 貴事業所では、従業員の職種別過不足の状況はどうですか。(それぞれの職種で○は1つずつ)

	大いに不足	不足	やや不足	適当	過剰	当該職種はない
1 訪問介護員	1	2	3	4	5	6
2 サービス提供責任者	1	2	3	4	5	6
3 介護職員	1	2	3	4	5	6
4 看護職員	1	2	3	4	5	6
5 生活相談員	1	2	3	4	5	6
6 PT・OT・ST等	1	2	3	4	5	6
7 介護支援専門員	1	2	3	4	5	6
全体でみた場合(上記1~7について)	1	2	3	4	5	6

問11 貴事業所では、過去3年間の職員の採用において、どのような手段・媒体を利用しましたか。(あてはまる番号全てに○)

1. ハローワーク
2. 福祉人材センター(社会福祉協議会)
3. 学校、養成機関からの紹介
4. 求人・就職情報誌、求人情報サイト
5. 折込チラシ、新聞・雑誌の広告
6. 就職セミナー(就職説明会)
7. 民間機関による職業紹介
8. 人材派遣・仲介会社
9. 職員、知人からの紹介
10. ホームヘルパー等養成講座修了者を勧誘
11. 自社のホームページ
12. SNS(LINE、X、Instagramなど)
13. その他()

問12 職員の採用に最も効果のあった手段・媒体は、どれですか。問11の選択肢の中から1つ選び、番号を記入してください。

最も効果のあった手段・媒体

問13 貴事業所では職員の採用のために行ったことではないが、活用したい手段・媒体はありますか。
(〇は1つ)

1. ハローワーク	8. 人材派遣・仲介会社
2. 福祉人材センター(社会福祉協議会)	9. 職員、知人からの紹介
3. 学校、養成機関からの紹介	10. ホームヘルパー等養成講座修了者を勧誘
4. 求人・就職情報誌、求人情報サイト	11. 自社のホームページ
5. 折込チラシ、新聞・雑誌の広告	12. SNS (LINE, X, Instagram など)
6. 就職セミナー (就職説明会)	13. その他 ()
7. 民間機関による職業紹介	

問14 問13で選択した手段・媒体を行ったことのない理由は次のどれですか。
(あてはまる番号全てに〇)

1. 効果が明確でない	4. やりかたがわからない
2. かかる費用が高い	5. 活用できる機会が少ない
3. 手間がかかる	6. その他 ()

問15 早期離職防止や定着促進に効果のあった方策はありますか。(あてはまる番号3つまで〇)

1. 残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる
2. 本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる
3. 賃金水準を向上させている
4. 能力や仕事ぶりを評価し、賞金などの処遇に反映している
5. 非正規職員から正規職員への転換の機会を設けている
6. 新人の指導担当・アドバイザーを置いている
7. 能力開発を充実させている (社内研修実施、社外講習等の受講・支援等)
8. 悩み、不満、不安などの相談窓口を設けている (メンタルヘルス対策を含む。)
9. 職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図っている (意見交換会、チームケア等)
10. 業務改善や効率化等による働きやすい職場作りを力を入れている
11. 身体的負担 (腰痛や体力に不安) の解消に力を入れている
12. その他 ()
13. 特に方策はとっていない

問16 貴事業所では、人材育成のための取組に当たって、どのような方策をとっていますか。
(あてはまる番号全てに〇)

1. 教育・研修計画を立てている
2. 教育・研修の責任者 (兼任を含む。) 又は担当部署を決めている
3. 採用時の教育・研修を充実させている
4. 職員に後輩の育成経験を持たせている
5. 能力の向上が認められた者は、配置や処遇に反映している
6. 法人全体 (関係会社を含む。) で連携して育成に取り組んでいる
7. 自治体や業界団体が主催する教育・研修に積極的に参加させている
8. 地域の同業他社と協力、ノウハウを共有して育成に取り組んでいる
9. 資格の取得などのために手当 (補助) を出している
10. その他 ()
11. 特に方策はとっていない

問17 貴事業所で、サービスの質の向上のために力を入れている取組は何ですか。
(あてはまる番号全てに〇)

1. ケアカンファレンスの定期的な開催
2. 職員・スタッフの継続的な研修・OJTの実施
3. 事業者間での情報交換・交流への参加
4. 利用者からの相談窓口の設置
5. サービス利用者の満足度調査の実施
6. サービス提供マニュアルの作成
7. 介護相談員の受け入れ
8. 情報開示、第三者評価
9. サービス自己評価基準による定期的な検証
10. その他 ()
11. 特に取組は行っていない

問18 貴事業所では、介護保険の指定介護サービス事業を運営する上での問題点は何ですか。
(あてはまる番号3つまで○)

1. 今の介護報酬では、人財の確保・定着のために十分な賃金を払えない
2. 経営（収支）が苦しく、労働条件や労働環境改善をたくてもできない
3. 良質な人財の確保が難しい
4. 新規利用者の確保が難しい
5. 介護従事者の介護業務に関する知識や技術が不足している
6. 教育・研修の時間が十分に取れない
7. 指定介護サービス提供等に関する書類作成やデータ管理で、時間に追われている
8. その他（ ）
9. 特に問題はない

問19 貴事業所では、介護助手の活用について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

1. 既に活用している	2. 活用を検討している	3. 活用を予定している	4. 分らない
-------------	--------------	--------------	---------

※「介護助手」とは、

掃除や食事の配膳・片づけ、ベッドメイク、利用者の会話の相手、移動の付き添い、レクリエーションの実施や補助、送迎等、専門的な業務（身体介護等）以外の補助的業務を担う人材を指します。

問20 貴事業所では、外国人介護人材の活用について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

1. 既に活用している	2. 活用を検討している	3. 活用を予定している	4. 分らない
-------------	--------------	--------------	---------

問21 外国人労働者の活用の有無にかかわらず、全ての方にお伺いします。

外国人労働者の活用について、どのような課題がありますか。（あてはまる番号全てに○）

1. 日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある
2. 利用者等との会話等における意志疎通に支障がある
3. 日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある
4. 生活、習慣等の違いにより、日常業務に支障がある
5. 人件費以外にさまざまなコストがかかる
6. 受入方法や活用方法がわからない
7. 日本語能力向上研修等を法人・事業所単位で行うには限界がある。
8. その他（ ）
9. 特に問題はない

問22 介護の仕事のイメージアップのためには、どのような方策が必要だと考えていますか。（重要だと思うこと3つまで○）

1. 賃金条件等基本的な事項の改善	6. 職能団体としての組織化
2. 保養施設など福利厚生の改善	7. 愛称的な名称の変更
3. 職場の業務環境の改善	8. ケアコンテストなどの開催
4. 能力に応じた賃金体系や昇進	9. 小学生～高校生の体験学習
5. キャリアパスなど能力開発の機会確保	10. その他（ ）

問23 貴事業所で活用している、ICTや介護ロボット等を教えてください。

（あてはまる番号全てに○）

1. 利用者請求システム
2. 介護・業務記録（バイタルチェック等）
3. 勤怠管理システム
4. 移乗介護機器（パワーアシスト装着型機器等）
5. 移動支援機器（歩行支援機器等）
6. 排泄支援機器（移動可能トイレ等）
7. 見守り機器（カメラ、センサー等）
8. 入浴支援機器（出入り用リフト等）
9. 事業所内グルーブウェア
10. 事業所内グルーブウェア
11. その他（ ）
12. 導入しているものはない

問24 ICTや介護ロボット等の導入に関して課題となったこと、あるいは課題と感じることについて教えてください。（あてはまる番号全てに○）

1. 導入・運用に関するコスト負担が大きい
2. 機器の使用に必要な環境を整えることが難しい
3. 使い勝手が悪い、扱いづらい
4. 操作の習熟に時間や手間がかかる
5. 機器の導入に対し、現場の抵抗感がある
6. 職員から機器の準備が面倒との不満が出る
7. 職員から機器の導入効果を実感しにくいとの不満が出る
8. 導入前よりも結果として作業量が増加する
9. 既存の業務のやり方やシステムとの馴染が生じる
10. 既存の業務のやり方を変えることが面倒
11. ケアプランデータ連携システム
12. その他（ ）
13. 特にない

問25 利用者やその家族等からのハラスメントに対する、貴事業所（組織）の対策の整備状況について教えてください。（あてはまる番号全てに○）

【事業所内・法人内の体制の整備】

1. ハラスメント対策マニュアルの作成・共有
2. ハラスメント対応の勉強会・研修等の実施
3. 事業所内での情報共有
4. 事業所内に相談窓口を設置
5. 運営法人内での情報共有
6. 運営法人本部に相談窓口を設置
7. 同性介助の実施
8. 職員の状態確認・安全確保の仕組みの構築
9. 契約時におけるハラスメントの防止に関する説明
10. ハラスメントがあった場合の利用契約の解除及び他事業所の紹介等

【外部機関との相談、連携体制の構築】

11. 専門職・専門家への相談体制の構築
12. 地域包括支援センター等への相談体制の構築
13. 困難事例への対応のための連携体制の構築

【ハラスメントを受けた職員へのケア】

14. 当該利用者の担当から外す
15. サービス提供時、他の職員が同席・サポート

【その他】

16. その他（ ）
17. 特に行っていない

問26 利用者やその家族等からのハラスメントへの対策において、課題となっているのはどのようなことですか。（あてはまる番号全てに○）

1. 取組の進め方がわからない
2. 取組を進めるための費用が捻出できない
3. 業務が忙しく、改善に取り組む余裕がない
4. 取組に対し職員等の理解や協力が得られない
5. その他（ ）
6. 特にならない

問27 貴事業所で虐待の対応策として、具体的に取組んでいることは何ですか。（あてはまる番号全てに○）

1. 虐待に対する事業者としての基本方針の決定
2. 基本方針の職員、利用者及び家族等への周知
3. マニュアル等の作成
4. 虐待防止のための職員研修の充実
5. 報告・相談しやすい窓口の設置
6. 介護保険サービスの業務範囲等へのしつかりとした理解と統一に向けた取組
7. 対応策の策定とPDCAによる更新
8. その他（ ）
9. 特にならない

問28 三鷹市では、「高齢者一人ひとりが尊厳を保持しつつ、住み慣れた地域で、安心して年齢を重ねることができるよう、地域の住民や多様な主体が参画し、互いに支え合い、助け合い、頼りあえるまち」を高齢者計画・第九期介護保険事業計画の基本目標としています。この基本目標を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまる番号全てに○）

1. 地域の支え合いのしくみづくり
2. 地域の趣味やスポーツの会の情報提供
3. 地域のサロンや健康教室の情報提供
4. PC教室や生涯学習の開催
5. 就労や軽作業の仲介・あっせん
6. 地域の福祉団体等での就労機会の提供
7. 空き店舗等を活用した活動拠点の支援
8. 市の施設の夜間・休日の開放
9. その他（ ）
10. 特にならない

問29 今後、高齢者や障がい者、子どもをはじめとするすべての市民が住み慣れた地域（住宅）での生活を続けるために、地域において特に必要だと思う生活支援（インフォーマルサービス ※）はどのようなものですか。（必要だと思うこと3つまで○）

※インフォーマルサービスとは

ここでは、公的機関や専門職による制度に基づくサービスや支援（フォーマルサービス）以外の支援をインフォーマルサービスと呼びます。具体的には、家族、近隣、友人、民生委員、ボランティア、非営利団体（NPO）などの制度に基づかない援助などが挙げられます。

1. 日常的な掃除、洗濯、炊事等の家事
2. ごみ出し
3. 食材や日用品等の買い物代行
4. 草取りや水やり等の庭の手入れ
5. 声かけ、見守り等による安否確認
6. 移送ドライバー、通院等の外出支援
7. 市役所や銀行、郵便局への付き添い
8. 認知症予防の脳トレ・運動・食事・睡眠 など
9. 健康体操や筋力維持の運動指導
10. サロンや地域カフェなど交流の場
11. 弁当や食材配達等の配食
12. 生活に関する相談・話し相手
13. 利用者家族等への助言、支援
14. その他（ ）

ご多用のところ、調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

その他、ご意見等ございましたら、ご記入ください。

お手数をおかけして申し訳ございませんが、回答漏れがないかご確認いただき、別添の返信用封筒（切手不要）に入れて **令和7年11月17日（月）までに** 投函していただきますよう、お願い申し上げます。

4. 介護・看護職員、ケアマネジャー調査

三鷹市 介護人材の確保・定着等に関するアンケート調査 — 介護・看護職員、ケアマネジャー調査票 —

◆◆◆ 調査へのご協力をお願い ◆◆◆

日頃から三鷹市の福祉行政にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。
この調査は、三鷹市内で介護の仕事にご尽力いただいている皆様の現状やご要望等を伺い、介護人材の確保・定着等に向けた施策を検討するためのものです。三鷹市にとって重要な課題と考えられておりますので、ご多用のところ恐縮ですが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年10月 三鷹市

《ご記入にあたってのお願い》

- この調査票は、介護職・看護職に従事されている方、ケアマネジャーの方にご記入をお願いいたします。
(正規職員・非正規職員の就業形態は問いませんが、管理・事務業務のみに従事している方は除きます。)
- 複数事業所で勤務されている方は、本調査票を渡された事業所での状況についてご記入ください。
- ご回答は、鉛筆又は黒や青のボールペンやペンで、この調査票に直接ご記入ください。
- 各設問の説明に従って、あてはまる番号に○印をつけるか、具体的な内容・数字などをご記入ください。回答に迷う場合は、できるだけ近いものを選ぶようにしてください。

《個人情報の保護について》

- 調査票や返信用封筒に皆様の氏名や施設名をご記入いただく必要はありません。
- 皆様の回答内容が事業所や他の方に知られることも一切ありません。
- ご回答いただいた内容を、統計調査以外の目的に使用することはありません。
- 調査票の番号シールは、事業種別・法人種別を整理するためのもので、回答者を特定するものではありません。

《ご記入が終わりましたら》

- ご記入いただいた調査票は、調査票とともに配布された返信用封筒（切手不要）に入れて、**令和7年11月17日(月)まで**にご投函ください。よろしくお願いいたします。
- 事業所や管理者等に提出するのではなく、皆様が直接ご投函ください。

《この調査に関する問い合わせ先》

三鷹市健康福祉部介護保険課介護給付係
電話 0422-29-9274
午前9時～午後5時まで(土・日・祝日を除く)

三鷹市では、「人材」ではなく、「人材」と表記しております。

問1 あなたは今日のサービスの事業所で働いていますか。兼務の場合は、主なものを選んでください。
(○は1つ)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 訪問介護 (高齢者住宅併設を除く) | 12. 訪問入浴介護 |
| 2. 訪問看護 (高齢者住宅併設を除く) | 13. 訪問リハビリテーション |
| 3. 通所介護 | 14. 通所リハビリテーション |
| 4. 短期入所生活介護 | 15. 特定施設入居者生活介護 |
| 5. 地域密着型通所介護 | 16. 認知症対応型通所介護 |
| 6. 小規模多機能型居宅介護 | 17. 看護小規模多機能型居宅介護 |
| 7. 認知症対応型共同生活介護 | 18. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 |
| 8. 地域密着型特定施設入居者生活介護 | 19. 介護老人福祉施設 |
| 9. 介護老人保健施設 | 20. 介護医療院 |
| 10. 居宅介護支援 | 21. サービス付き高齢者住宅(サ高住) |
| 11. 住宅型有料老人ホーム | |

問2 あなたは、今働いている事業所で、どのような仕事をしていますか。
資格ではなく、従事している**主な仕事(職種)**について、ご記入ください。(○は1つ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 訪問介護員 | 4. サービス提供責任者 |
| 2. 看護職員 | 5. (主任)介護支援専門員 |
| 3. 介護職員(注) | 6. その他() |

(注) ここでいう介護職員とは、訪問介護以外の介護保険の指定介護事業所で働き、直接介護を行う方とします。

問3 あなたの職位は何ですか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 管理職 (注) ここでいう管理職とは、「2」の主任(サブ)リーダーなどを統括している方とします。 |
| 2. 主任(サブ)リーダーなど職場のまとめ役 |
| 3. 一般職・担当職 |

問4 あなたの勤務先に関する希望について、お伺いします。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 今の勤務先で働き続けたい | 6. 分らない |
| 2. 介護関係の別の勤務先で働きたい | 7. 働きたくない |
| 3. 介護以外の福祉関係の別の勤務先で働きたい | |
| 4. 医療関係の別の勤務先で働きたい | |
| 5. 介護・医療・福祉関係以外の別の勤務先で働きたい | |

問12 労働条件や仕事の負担について、次のことが、どの程度あてはまりますか。
(各項目について○は1つずつ)

	非常にあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
雇用が不安定である	1	2	3	4	5
正規職員になれない	1	2	3	4	5
人手が足りない	1	2	3	4	5
仕事の内容のわりに賃金が低い	1	2	3	4	5
労働時間が不規則である	1	2	3	4	5
労働時間が長い	1	2	3	4	5
夜勤が多い	1	2	3	4	5
休憩を取りにくい	1	2	3	4	5
有給休暇を取りにくい	1	2	3	4	5
夜間や深夜時間帯に何か起きるのではないかと不安がある	1	2	3	4	5
職務として行う医療的な行為に不安がある	1	2	3	4	5
利用者・入居者に適切なケアができていないか不安がある	1	2	3	4	5
身体的な負担が大きい(腰痛や体力に不安がある。)	1	2	3	4	5
精神的にきつい	1	2	3	4	5
健康面(感染症、ケガ)の不安がある	1	2	3	4	5
業務に対する社会的評価が低い	1	2	3	4	5
福祉機器の不足、機器操作の不慣れ、施設の構造に不安がある	1	2	3	4	5
仕事中のケガなどへの補償がない	1	2	3	4	5
利用者・入居者は何をやらせても当然と思っている	1	2	3	4	5
法定外業務の対応がある	1	2	3	4	5
資格の維持・更新にかかる負担が大きい	1	2	3	4	5

その他に労働条件や仕事についての悩み、不安、不満等がありましたら、ご記入ください。

問13 あなたは、過去1年間に、仕事中に利用者やその家族から、次のようなことをされた経験がありますか。(あてはまる番号全てに○)

1. セクハラ(性的嫌がらせ)	4. 介護保険以外のサービスを求められた
2. 暴力	5. その他()
3. 暴言(直接的な言葉の暴力)	6. そのような経験はない

問14 高齢者虐待が疑われる場合、通報・相談先(上司・市役所など)を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問15 仕事で心配事や悩み事があった時に、次の人たちはどのくらい相談ののってくれますか。

(各項目について○は1つずつ)	非常に	まあまあ	あまりない	まったくない	相談したことがない
勤務先の上司	1	2	3	4	5
勤務先の間僚	1	2	3	4	5
家族、勤務先以外の友人・知人	1	2	3	4	5

問16 ①あなたの職場では、次のような取組が行われていますか。
②その取組は、働く上での悩み、不安、不満等を解消する上で、あなたの役に立っていますか。

(①②ともに、あてはまる番号全てに○)

	①行われていないもの	②役立っているもの
介護能力の向上に向けた研修	1	1
介護に関する事例検討会の開催	2	2
介護能力に見合った仕事への配置	3	3
介護能力を適切に評価する仕組み	4	4
能力や資格取得に応じて賃金が上がる仕組み	5	5
キャリアアップの仕組みの整備	6	6
働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会の設定	7	7
勤務体制を決める際に職員の要望を聞く機会の設定	8	8
実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受けられる機会の設定	9	9
仕事や職務における悩みや問題を相談できる窓口や担当者の設定	10	10
採用時における賃金・勤務時間の説明	11	11
定期的な健康診断の実施	12	12
ICTや介護ロボット等の導入	13	13
事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり	14	14
利用者や家族からのハラスメント対策	15	15
資格の維持・更新に対する研修への派遣	16	16
その他()	17	17
①行われているものはない/②役立っているものはない	18	18

問17 今の仕事や職場の満足度について、お考えにもっとも近い番号に○をつけてください。
(各項目について○は1つずつ)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
仕事の内容・やりがい	1	2	3	4	5
キャリアアップの機会	1	2	3	4	5
賃金	1	2	3	4	5
労働時間・休日等の労働条件	1	2	3	4	5
勤務体制	1	2	3	4	5
人事評価・処遇のあり方	1	2	3	4	5
職場の環境	1	2	3	4	5
職場の人間関係、コミュニケーション	1	2	3	4	5
雇用の安定性	1	2	3	4	5
福利厚生	1	2	3	4	5
教育訓練・能力開発のあり方	1	2	3	4	5
職業生活全体	1	2	3	4	5

問18 現在の法人に就職した理由は何か。(あてはまる番号全てに○)

1. やりたい職種・仕事内容だから
2. 働きがいのある仕事と思っただから
3. 人や社会の役に立ちたいから
4. 資格・技能が活かせるから
5. 法人の方針や理念に共感したから
6. 経営が健全で将来的に安定しているから
7. 通勤が便利だから
8. 労働日、労働時間が希望と合っているから
9. 賃金等の水準が良いから
10. 教育研修等が充実しているから
11. 福利厚生が充実しているから
12. 子育て支援が充実しているから
13. その他 ()
14. 理由は特にならない

問19 現在の法人に就職等したきっかけは何ですか。(○は1つ)

1. ハローワーク
2. 福祉人材センター (webも含む)
3. 学校・養成施設等での進路指導
4. 求人・就職情報誌、求人情報サイト
5. 折込チラシ、新聞・雑誌の広告
6. 法人又は施設・事業所のホームページ
7. SNS (LINE、X、Instagram など)
8. 就職セミナー (就職説明会)
9. 友人・知人からの紹介
10. ホームヘルパー等養成講座を通じて施設・事業所を知った
11. 施設・事業所からの就職の働きかけ
12. 民間の職業紹介
13. 行政広報誌 (広報みたか等)
14. 人材派遣・件介会社
15. その他 ()

問20 三鷹市が実施している次の事業で、利用してみたい事業や関心のある事業はありますか。対象者が限定されている事業もありますが、対象者等の制限は考えずに、利用してみたい事業や関心のある事業を選んでください。(あてはまる番号全てに○)

事業名	概要
1 介護職員初任者研修補助事業	1人当たり70,000円を上限に、介護職員初任者研修課程の受講料を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所の常勤職員(勤務時間数の要件を満たす非常勤職員含む。)又はみたか心れあい支援員が対象です。)
2 介護福祉士実務者研修補助事業	1人当たり100,000円を上限に、介護福祉士実務者研修の受講料を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所の常勤職員(勤務時間数の要件を満たす非常勤職員含む。)又はみたか心れあい支援員が対象です。)
3 介護福祉士資格取得費補助事業	1人当たり100,000円を上限に、介護福祉士資格の取得のために要した経費を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所の常勤職員(勤務時間数の要件を満たす非常勤職員含む。)が対象です。)
4 居宅介護支援事業所等 人材確保・定着支援事業	介護支援専門員の資格取得・更新のために要する受講料等を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの職員が対象です。)
5 居宅介護支援事業所等 人材育成支援事業	主任介護支援専門員の資格取得・更新のために要する受講料等を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの職員が対象です。)
6 介護事業者地域連携推進事業	市内の小規模介護事業者の事業運営を支援するために三鷹市と地域の中核となる介護事業者が協働して行っている事業です。
7 介護職員等永年勤続表彰事業	三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所に、通算して5年、10年、20年勤務した介護職員等で、事業所より推薦をされた方を表彰します。
8 夏休み介護施設等体験事業	市内在住・在学の小学4年生から6年生までの希望者を対象に、夏休みに介護施設(介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム等)で1日(2時間程度)、介護の仕事体験してもらいます。修了した児童には、「子ども介護士証」と記念品を差し上げます。
9 保育園優先入所	保育園の入所選考の際、介護福祉士等の資格を持つ市内事業所の介護職員は、同一選考点数帯間での優先順位の第4段階として選考します。
10 介護職員向け研修事業	市内の事業所の職員を対象に、管理者向けマネジメント力向上研修、中堅職員向けリーダー研修、若手職員向け交流・研修会、外国人職員向け交流・日本語能力向上研修を行っています。
11 介護ロボット等導入支援事業	介護ロボット等の導入に係る経費を補助します。(三鷹市介護保険事業者連絡協議会に加入する市内事業所が対象です。)
12 上記1～11の事業のうち、利用したいものや関心のあるものはない	

問21 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別 (○は1つ)	1. 男性 2. 女性	3. その他 4. 回答しない	年齢 (令和7年 10月1日現在)	歳
-----------	----------------	--------------------	----------------------	---

問22 あなたの自宅は、どちらですか。(○は1つ)

1. 三鷹市内	2. 杉並区、世田谷区、武蔵野市、小金井市、調布市、府中市	3. 1、2以外の市区町村
---------	-------------------------------	---------------

問23 あなたの家庭で、主たる生計の維持者(世帯で最も生活費を負担している方)は誰ですか。(○は1つ)

1. あなた	2. あなた以外	3. 生計費は折半等
--------	----------	------------

問24 あなたは現在、小学生以下の子どもの育児をしていますか。(○は1つ)

1. 小学校入学前の子どもの育児をしている	2. 小学生の子どもの育児をしている	3. 小学生以下の子どもの育児はしていない
-----------------------	--------------------	-----------------------

問25 あなたは現在、あなたご自身のご家族・ご親族の介護をしていますか。(○は1つ)

1. している	2. していない
---------	----------

問26 将来、あなたご自身のご家族・ご親族の介護に直面した場合に、現在の仕事を続けることができると思えますか。現在、ご家族・ご親族の介護をしている方は、今後も仕事とご家族の介護を両立できると思えますか。(○は1つ)

1. 続けることができると思う	2. 続けられないと思う	3. 分からない
-----------------	--------------	----------

問27 あなたはこの仕事をしてよかつたと思うことはありますか。ある方については、具体的にどこなところですか。(あてはまる番号全てに○)

1. 利用者から感謝と笑顔がもたらえる	5. 人の最期のケアに関わることで、生きる意味を考えられることができる
2. 利用者が前向きな気持ちになる	6. 誰かの役にたっている実感がある
3. 利用者の自立支援・重度化防止に貢献できている	7. よいケアの追求により成長を感じる
4. 様々な人と関わることで学びになる	8. その他 ()
	9. 特にない

問28 三鷹市福祉 Labo どんぐり山では専門的な研修を実施しています。研修の受講を希望される講座はありますか。(あてはまる番号全てに○)

1. ADLの介護技術	6. 口腔ケア
2. IAOLの介護技術	7. 認知症の対応
3. 医療的ケア	8. キャリアアップ
4. 栄養・嚥下	9. メンタルヘルス
5. 疾患	10. その他 ()
	11. 特にない

問29 介護人材の確保・定着・育成のために、三鷹市に取り組んで欲しい事業やご意見等がございましたら、是非ご記入ください。

ご多用のところ、調査にご協力いただき、ありがとうございます。

お手数をおかけして申し訳ありませんが、回答漏れがないかご確認いただき、調査票とともに配布された返信用封筒(切手不要)に入れて、**令和7年11月17日(月)まで**にご返信いただきますよう、お願い申し上げます。
事業所や管理者等に提出するのではなく、**皆様が直接ご投函ください。**

令和7年度 三鷹市高齢者の生活と福祉実態調査報告書
令和8年3月発行

発行：三鷹市

編集：三鷹市健康福祉部高齢者支援課・介護保険課

〒181-8555 東京都三鷹市野崎一丁目1番1号

電話 高齢者支援課：0422-29-9271（直通）

介護保険課：0422-29-9274（直通）

